

**令和7年度
国東市人権・部落差別問題
に関する意識調査報告書**

令和8年3月

国 東 市

はじめに

近年、部落差別問題をはじめ、女性、子ども、高齢者、障がいのある人などに対する様々な人権課題は、情報化の進展に伴うインターネット上での誹謗中傷や差別的な書き込みなど、複雑・多様化しています。こうした情勢の中で、人権教育・啓発活動が果たすべき役割は、非常に大きくなっていると言えます。

市では、平成 31 年 3 月に改正した「国東市における部落差別等あらゆる差別をなくし人権を擁護する条例」に基づき、平和で明るい地域社会の実現をめざし、あらゆる差別の解消に向けた施策の推進に努めてまいりました。

しかしながら、令和 5 年 5 月、国東市隣保館において部落差別落書きが発見されました。このような行為は、直接的に人の心を傷つけるだけでなく、それを見た人々に新たな差別意識を植え付け、偏見を助長・拡大させる恐れがあるものであり、決して見過ごすことはできません。

市といたしましても「差別は絶対に許さない」という姿勢を改めて鮮明にし、部落差別問題をはじめとする様々な人権課題の解決に向けて、取組を強化していく必要があります。

このような状況の中、市では本年度、「国東市人権・部落差別問題に関する意識調査」を実施いたしました。本報告書では、調査結果を分析・研究し、前回調査（令和 2 年度）との対比を通じて、今後のより効果的な人権教育・啓発活動の諸施策へつなげていきたいと考えております。

結びに、本調査にご協力いただきました市民の皆様、並びに関係者の方々に深く感謝申し上げますとともに、引き続き「誰もが安心して暮らせる差別のないまちづくり」に向け、本市の人権行政へのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和 8 年 3 月

国東市長 松 井 督 治

- 目次 -

第1章 人権・部落差別問題に関する意識調査の概要

1. 調査概要.....	1
(1) 調査の目的.....	1
(2) 調査の設計.....	1
(3) 回収結果.....	1
(4) 調査集計にあたっての留意事項.....	1
2. 回答者の属性.....	2
F 1 あなたの性別について.....	2
F 2 あなたの年齢について（令和7年4月1日現在の満年齢）.....	3

第2章 人権・部落差別問題に関する意識調査の結果

I. 人権全般（問1～問7）.....	4
問1 あなたは人権問題に関心を持っていますか。.....	4
問2 あなたは、国東市では人権が尊重されていると思いますか。.....	6
問3 あなたは、今までに自分が差別されたり、自分の人権が侵害されたと思ったことはありますか。.....	8
問3-（1） 【問3で「ある」と答えた方に伺います。】それはどのような性質のものですか。.....	10
問3-（2） 【問3で「ある」と答えた方に伺います。】そのときどのように対応しましたか。.....	13
問4 あなたは、差別や人権侵害を受けた場合に相談できる機関（場所）があることを知っていますか。.....	15
問5 あなたは、これまでの生活の中で次のア～オの方と一緒に生活したり、働いたり、活動したりするなど、何らかの交流がありましたか。.....	18
問6 あなたは、普段の生活の中で、次のア～ケの考え方について、どう思いますか。.....	28
問7 あなたが、住宅を購入したり、借りたりするなど、住まいを選ぶ際に、価格や立地条件が希望にあっても、次のア～カの条件の場合、避けることがあると思いますか。.....	46
II. 部落差別の問題（同和問題）（問8～問16）.....	58
問8 あなたは、学校や職場、地域で、部落差別の問題（同和問題）について、学習したことがありますか。.....	58
問9 部落差別の問題（同和問題）について、あなたがはじめて知ったのはどのようなきっかけですか。.....	61
問10 部落差別の問題（同和問題）に関する次のような人権問題について、あなたが見たり聞いたりしたことがあるものを選んでください。.....	65
問11 現在もなお部落差別の問題（同和問題）がなくなるのは、なぜだと思いますか。.....	68
問12 あなたは、「被差別部落（同和地区）出身の人と関わらない方がよい」という内容を見たり聞いたりしたことがありますか。.....	72
問12-（1） 【問12で「ある」と答えた方に伺います。】それは誰から、または何によって知りましたか。.....	74

問12-(2) 【問12で「ある」と答えた方に伺います。】それを見たり聞いたりした時、どう感じましたか。	77
問12-(3) 【問12で「ない」と答えた方に伺います。】あなたは、「被差別部落(同和地区)出身の人と関わらない方がよい」という内容についてどう思いますか。	79
問13 あなたの子供、あるいは孫が被差別部落(同和地区)出身の人と恋愛をし、その人と結婚したいと言ったらあなたはどうされますか。	81
問14 学校や職場、日常生活の中で、誰かが被差別部落(同和地区)出身の人に対する差別的な発言をした時、あなたはどのような態度を取ると思いますか。	83
問15 被差別部落(同和地区)の人に対する差別意識は、近い将来(5~10年後位に)なくすことができると思いますか。	85
問16 あなたは、部落差別の問題(同和問題)を解消するためには、今後どうすればよいと思いますか。	87
Ⅲ. 個別の人権課題(問17~問19)	91
問17 あなたは、男女平等が実現していると思いますか。	91
問18 インターネットに関する次のような人権問題について、あなたが見たり聞いたりしたことのあるものを選んでください。	97
問19 あなたは、友人などからLGBTなどの性的少数者であると打ち明けられた場合、次のア~ウについて、あなたの気持ちに近いのはどれですか。	101
Ⅳ. 啓発活動(問20~問24)	107
問20 あなたは、この5年間で、市の広報誌(市報くにさき)に掲載されている啓発記事(「こころをつなぐまちづくり」)や、人権についてのチラシや冊子などを読んだことがありますか。	107
問21 人権に関する研修会について、あなたがこの5年間で参加したことがあるものを次の中から選んでください。	109
問22 あなたは、この5年間で人権に関する講演会や研修・学習会等に何回くらい参加しましたか。	112
問23 人権の大切さを多くの人に知ってもらうには、どんな方法が効果的だと思いますか。	114
問24 あなたは、次にあげる憲法や法律などを、どの程度ご存知ですか。	117
Ⅴ. その他について(問25~問27)	129
問25 あなたは、事前登録型本人通知制度を知っていますか。	129
問26 結婚・就職についての身元調査をどう考えますか。	131
問27 あなたは、自分のことをどのように思っていますか。次のア~イについてあなたの考えに近いのはどれですか。	134
資 料 編	138
調査で使用した調査票	138

第 1 章

人権・部落差別問題に関する意識調査の概要

1. 調査概要

(1) 調査の目的

近年、部落差別をはじめとする女性・子ども・高齢者・外国人・性的少数者などの様々な人権問題は、情報化の進展に伴いインターネット上での誹謗中傷や差別的な書き込みが行われるなど、複雑・多様化しています。

このような中、国東市では「差別のない明るく住みやすいまちづくり」をめざし、様々な人権施策に取り組んでいるところであり、これまで取り組んできた人権施策の成果と課題を把握し、より実効性の高い施策へとつなげるため、5年に1度、人権に関するアンケート調査を実施しています。

本年度当該調査を実施し、前回調査(2020(令和2)年度)との対比を含め、その結果をより効果的な人権施策につなげるための基礎データとします。

(2) 調査の設計

調査対象者	国東市在住の満 18 歳以上の男女
対象者数	2,000 人(住民基本台帳から層化無作為抽出)
配布・回収方法	郵送による配布、郵送及び WEB による回収を実施
調査の期間	令和7年9月

(3) 回収結果

本調査の回収数・回収率は以下のとおりです。

配布数 (人)	WEB 回収数 (人)	郵送回収数 (人)	合計回収数 (人)	回収率 (%)
2,000	151	736	887	44.4

(4) 調査集計にあたっての留意事項

○回答結果は小数点第2位を四捨五入しているため、単回答(複数の選択肢からひとつだけを選ぶ形式)の割合の合計が 100%にならない場合があります。

複数回答(「MA」2つ以上の回答を選ぶことのできる形式)の項目は、有効標本数全体もしくは各属性の合計に対して各々の割合を示しますので、各選択肢の回答の割合を合計しても 100%とはなりません。

○本報告書における「n」「SA」「MA」の意味は次のとおりです。

「n」 : サンプル数

「SA」 : 単回答(Single Answer の略)

「MA」 : 複数回答(Multiple Answer の略)

○本文中、表、グラフにおいて、国東市の2020調査との比較とあるものは、2020(令和2)年度調査との比較です。大分県は、2023(令和5)年度「人権に関する県民意識調査」との比較になります。

○本文中、表、グラフにおいて、設問の選択肢が長い文の場合、簡略化して表示している場合があります。

2. 回答者の属性

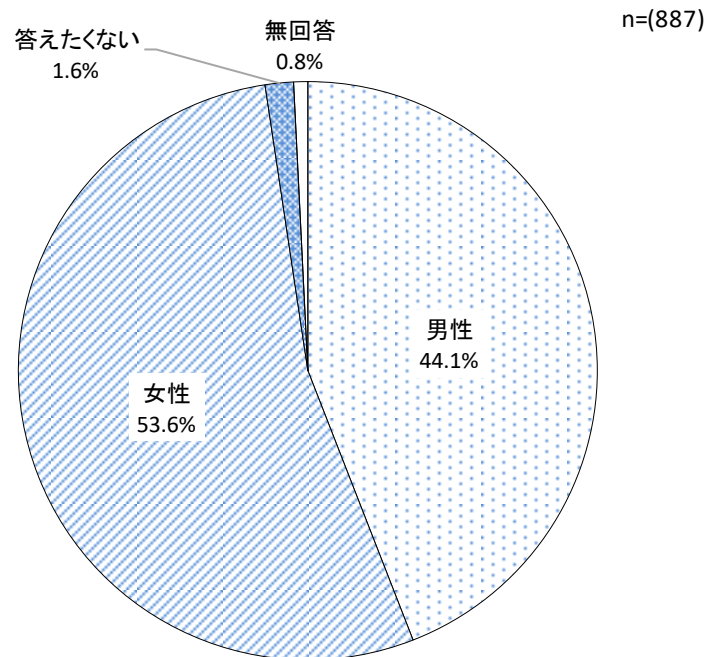
[SA]

F1 あなたの性別について。

SA

上段：構成比 下段：人数

男性	女性	答えたくない	無回答	合計
44.1	53.6	1.6	0.8	100
391	475	14	7	887



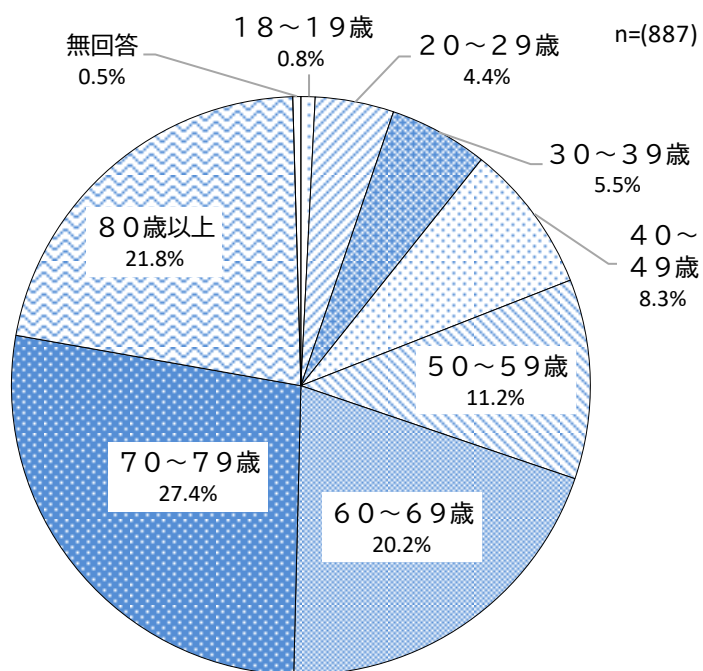
■年代ごとの比例分配により無作為抽出し回収した結果、市全体では、「女性」が 53.6%、「男性」(44.1%)、「答えたくない」(1.6%)となっています。

F2 あなたの年齢について(令和7年4月1日現在の満年齢)。

SA

上段：構成比 下段：人数

18～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	無回答	合計
0.8	4.4	5.5	8.3	11.2	20.2	27.4	21.8	0.5	100
7	39	49	74	99	179	243	193	4	887



■年代ごとの比例分配により無作為抽出し回収した結果、市全体では、「70歳～79歳」が 27.4%と最も高く、次いで「80歳以上」(21.8%)、「60歳～69歳」(20.2%)となっています。

第2章

人権・部落差別問題に関する意識調査の結果

I. 人権全般(問1～問7)

[SA]

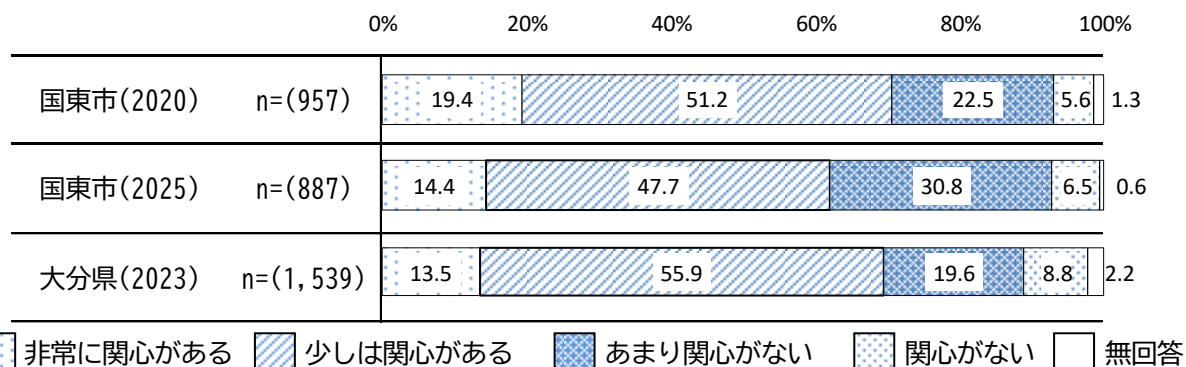
問1 あなたは人権問題に関心を持っていますか。

SA

上段：構成比 下段：人数

2025 調査結果	非常に 関心がある	少しは 関心がある	あまり 関心がない	関心がない	無回答	合計
18～19歳	42.9 3	28.6 2	28.6 2	0.0 0	0.0 0	100.0 7
20～29歳	5.1 2	64.1 25	20.5 8	10.3 4	0.0 0	100.0 39
30～39歳	18.4 9	46.9 23	32.7 16	2.0 1	0.0 0	100.0 49
40～49歳	13.5 10	51.4 38	31.1 23	4.1 3	0.0 0	100.0 74
50～59歳	12.1 12	55.6 55	22.2 22	9.1 9	1.0 1	100.0 99
60～69歳	11.2 20	51.4 92	31.8 57	5.6 10	0.0 0	100.0 179
70～79歳	15.2 37	44.9 109	35.4 86	4.5 11	0.0 0	100.0 243
80歳以上	18.1 35	40.9 79	30.1 58	10.4 20	0.5 1	100.0 193
無回答	0.0 0	0.0 0	25.0 1	0.0 0	75.0 3	100.0 4
全体	14.4 128	47.7 423	30.8 273	6.5 58	0.6 5	100.0 887

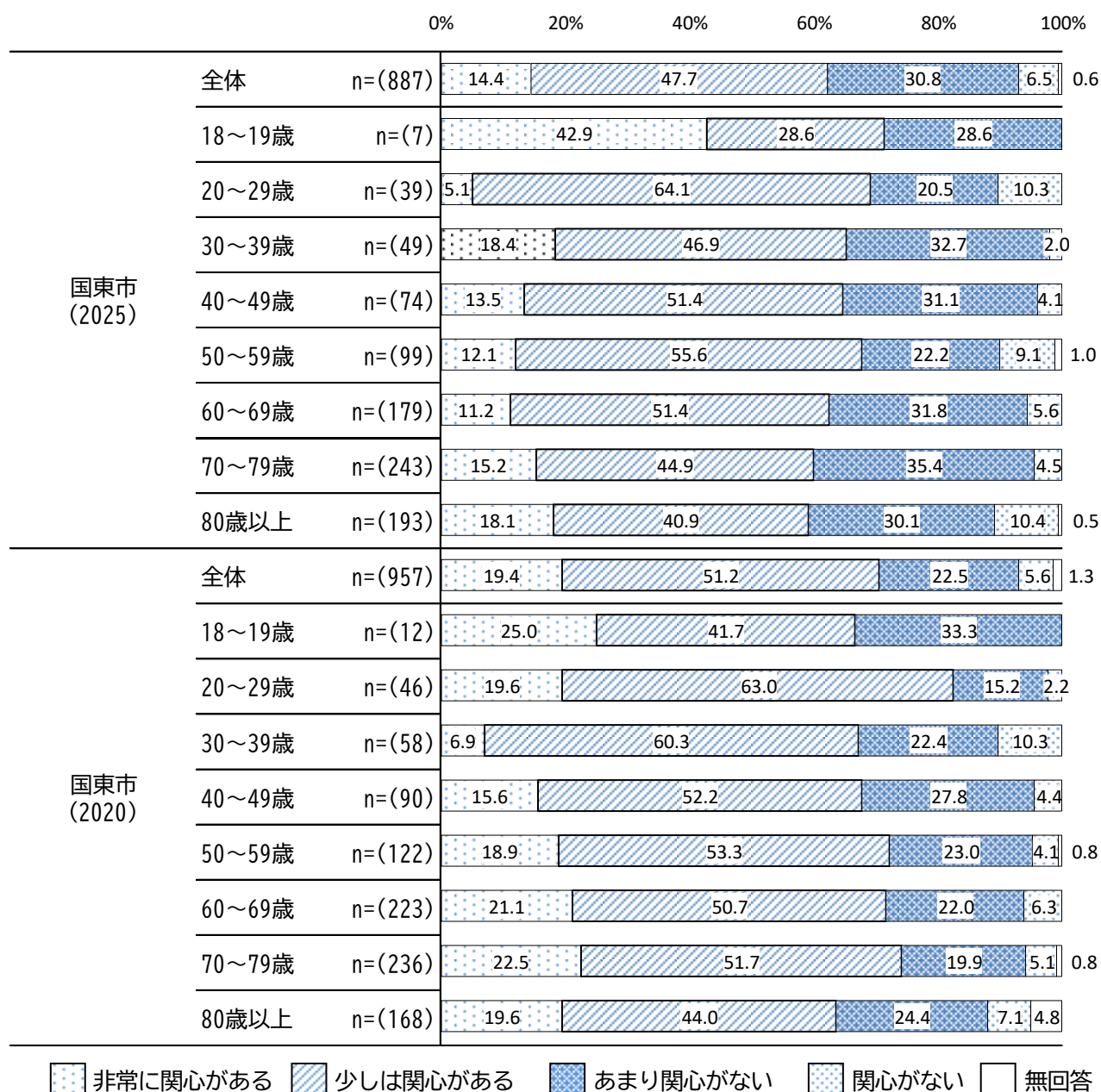
【全体】



※2025調査では「少しは関心がある」、「あまり関心がない」という回答項目に対して、大分県調査では「どちらかと言えば関心がある」、「どちらかと言えば関心がない」という回答項目になっています。

- 市全体では、「少しは関心がある」が 47.7%と最も高く、次いで「あまり関心がない」(30.8%)、「非常に関心がある」(14.4%)となっており、約6割の人が関心(非常に関心がある＋少しは関心がある)を持っています。
- 2020調査と比較すると市全体では、「あまり関心がない」の割合が 8.3 ㊦増加しています。大分県2023調査との比較では、「あまり関心がない」の割合が大分県よりも 11.2 ㊦上回っています。

【年代別】



- ◆年代別では、「非常に関心がある＋少しは関心がある」の割合が最も高いのは18～19歳で 71.5%、次いで 20～29歳(69.2%)、50～59歳(67.7%)となっています。
- ◆2020調査と比較すると年代別では、18～19歳で「非常に関心がある＋少しは関心がある」の割合が4.8 ㊦増加し、50～59歳では4.5 ㊦減少しています。

◎考察

「非常に関心がある＋少しは関心がある」の割合が2020調査よりも8.5 ㊦減少し、大分県との比較でも同割合が7.3 ㊦下回っており、「人権問題」に対する関心は大分県よりも低い状況となっています。年代別では70～79歳で「非常に関心がある＋少しは関心がある」の割合が2020調査よりも14.1 ㊦減少し、人権意識の希薄化が進む傾向が見られます。市ではこれまでも学校での人権教育や、地域での地区人権学習会、人権フェスティバル等の講演会を開催し、市民への教育・啓発に取り組んできましたが、調査結果を踏まえると、より一層の工夫と強化が求められます。

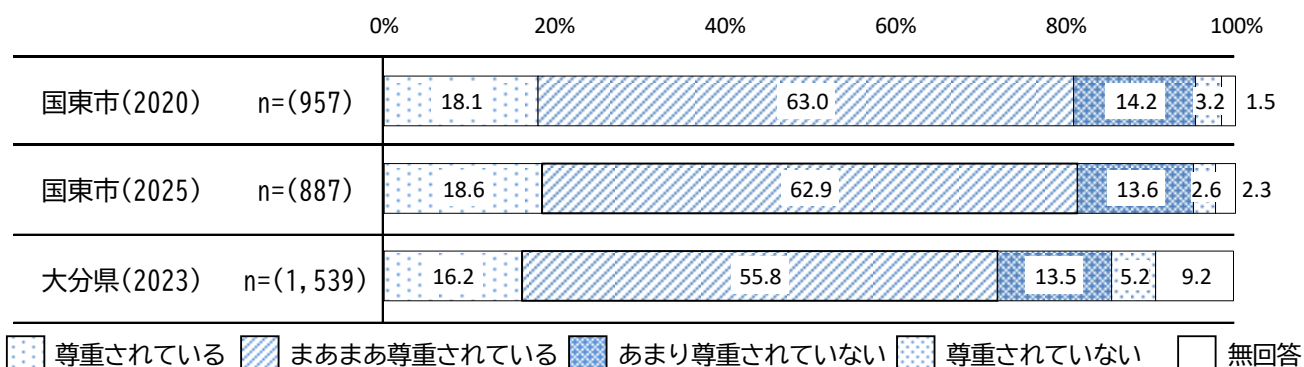
問2 あなたは、国東市では人権が尊重されていると思いますか。

SA

上段：構成比 下段：人数

2025 調査結果	尊重されている	まあまあ 尊重されている	あまり尊重 されていない	尊重 されていない	無回答	合計
18～19歳	42.9 3	57.1 4	0.0 0	0.0 0	0.0 0	100.0 7
20～29歳	17.9 7	69.2 27	10.3 4	2.6 1	0.0 0	100.0 39
30～39歳	22.4 11	65.3 32	10.2 5	2.0 1	0.0 0	100.0 49
40～49歳	17.6 13	63.5 47	17.6 13	0.0 0	1.4 1	100.0 74
50～59歳	11.1 11	67.7 67	15.2 15	5.1 5	1.0 1	100.0 99
60～69歳	17.9 32	65.4 117	11.7 21	3.4 6	1.7 3	100.0 179
70～79歳	15.6 38	63.0 153	16.5 40	1.6 4	3.3 8	100.0 243
80歳以上	25.9 50	57.0 110	11.9 23	3.1 6	2.1 4	100.0 193
無回答	0.0 0	25.0 1	0.0 0	0.0 0	75.0 3	100.0 4
全体	18.6 165	62.9 558	13.6 121	2.6 23	2.3 20	100.0 887

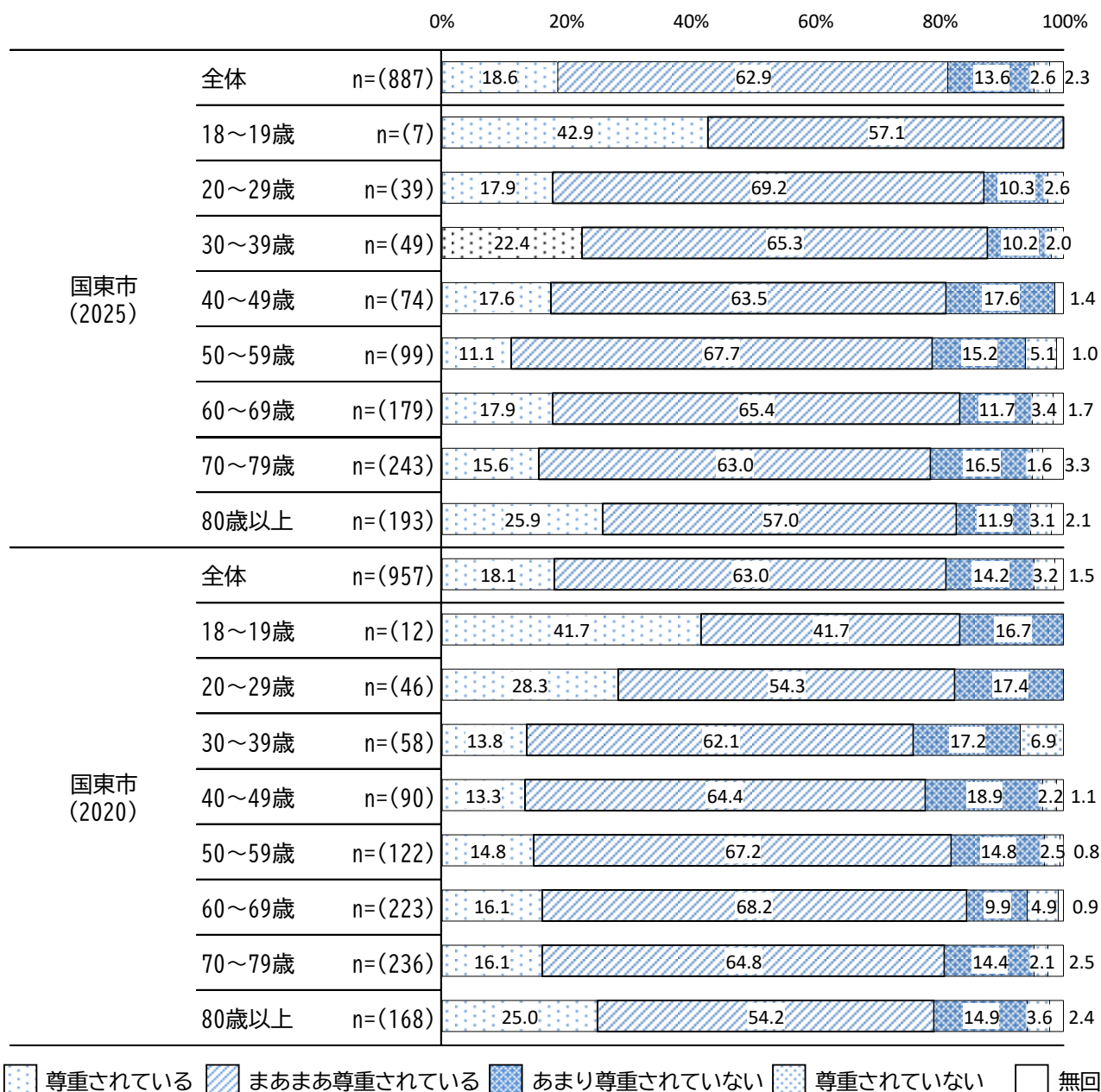
【全体】



■市全体では、「まあまあ尊重されている」が 62.9%と最も高く、次いで「尊重されている」(18.6%)、「あまり尊重されていない」(13.6%)となっており、約8割の人が尊重されている(尊重されている+まあまあ尊重されている)と思っていると答えています。

■2020調査と比較すると市全体では、大きな差はありません。大分県2023調査との比較では、「尊重されている+まあまあ尊重されている」の割合は大分県よりも 9.5 割上回っています

【年代別】



- ◆年代別では、「尊重されている＋まあまあ尊重されている」の割合が最も高いのは18～19歳で 100.0%、次いで30～39歳(87.7%)、20～29歳(87.1%)となっています。
- ◆2020調査と比較すると年代別では、「尊重されている＋まあまあ尊重されている」の割合が最も増加したのは18～19歳で 16.6 ポイント、次いで30～39歳(11.8 ポイント)、20～29歳(4.5 ポイント)となっています。

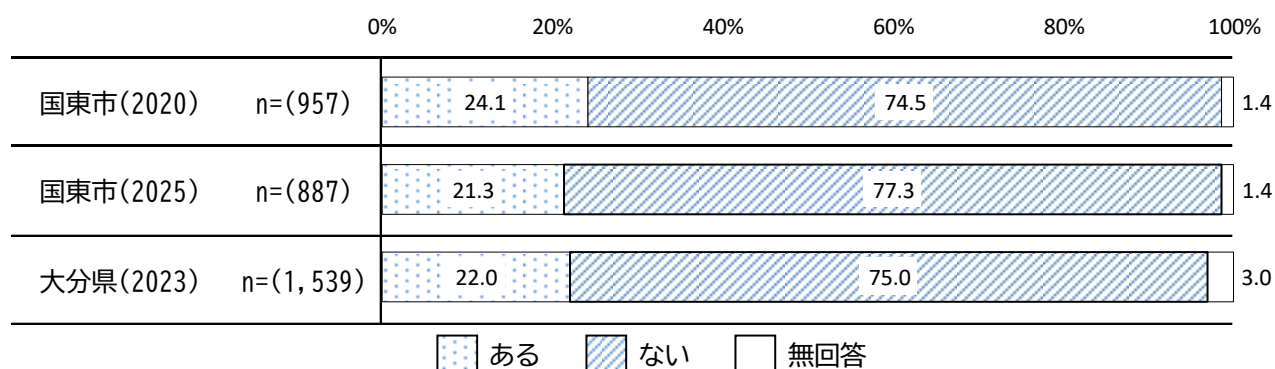
◎考察

大分県2023調査との比較では、「尊重されている＋まあまあ尊重されている」の割合は 9.5 ポイント上回っており、本市における「人権尊重」に対する意識は大分県よりも高い結果となっています。これは、これまで学校や地域における人権教育の推進や人権啓発活動などを継続的に実施してきた成果の一つと考えられます。年代別では18～19歳で同割合が2020調査より 16.6 ポイント増加しており、若年層における人権意識の高まりがうかがえます。今後も「人権尊重社会の実現」をめざして、必要な施策を着実に推進するにあたり、次世代を担う若者の人権に関する意識の現状を踏まえながら、さらなる人権施策の充実に取り組む必要があります。

問3 あなたは、今までに自分が差別されたり、自己的人権が侵害されたと思ったことはありますか。

SA		上段：構成比 下段：人数		
2025 調査結果	ある	ない	無回答	合計
18～19歳	28.6 2	71.4 5	0.0 0	100.0 7
20～29歳	10.3 4	84.6 33	5.1 2	100.0 39
30～39歳	36.7 18	63.3 31	0.0 0	100.0 49
40～49歳	33.8 25	66.2 49	0.0 0	100.0 74
50～59歳	22.2 22	77.8 77	0.0 0	100.0 99
60～69歳	24.0 43	76.0 136	0.0 0	100.0 179
70～79歳	19.3 47	79.0 192	1.6 4	100.0 243
80歳以上	14.0 27	84.5 163	1.6 3	100.0 193
無回答	25.0 1	0.0 0	75.0 3	100.0 4
全体	21.3 189	77.3 686	1.4 12	100.0 887

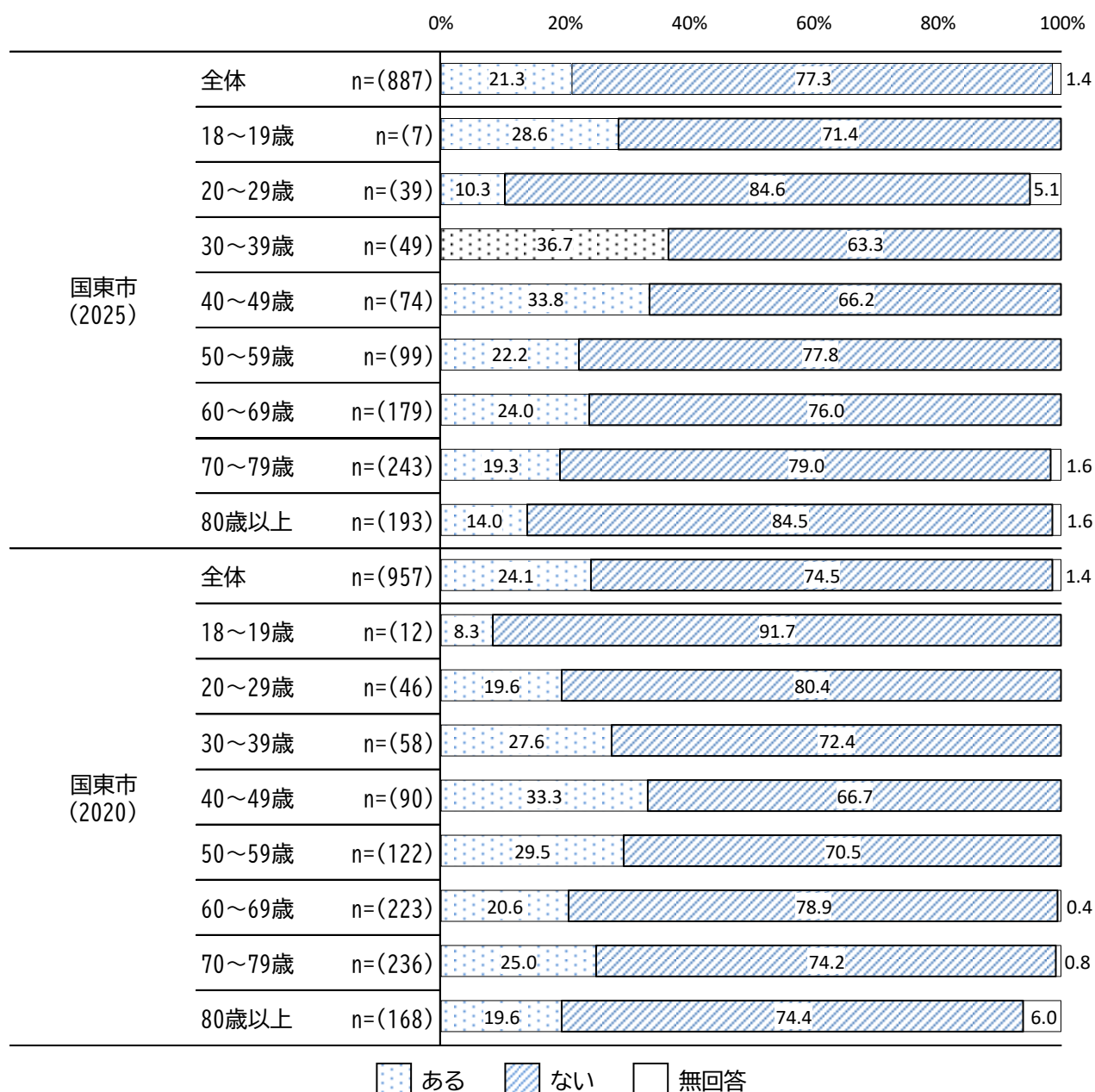
【全体】



■市全体では、「ない」が 77.3%と最も高くなっており、約8割の人が今までに自分が差別されたり、人権が侵害されたと思ったことはないと答えています。

■2020調査と比較すると市全体では、「ある」の割合が 2.8^{ポイント}減少し、「ない」の割合は 2.8^{ポイント}増加しています。大分県2023調査との比較では、「ある」の割合が 0.7^{ポイント}下回り、「ない」の割合は大分県よりも 2.3^{ポイント}上回っています。

【年代別】



- ◆年代別では、「ある」の割合が最も高いのは30～39歳で 36.7%、次いで40～49歳(33.8%)、18～19歳(28.6%)となっています。
- ◆2020調査と比較すると年代別では、「ある」の割合が最も増加したのは18～19歳で 20.3 ポイント、次いで30～39歳(9.1 ポイント)となっています。

◎考察

市全体では、8割近くの人が、これまでに自分が差別されたり人権が侵害されたと思ったことは「ない」と回答しています。その反面、年代別では2020調査と比較すると、「ある」の割合が大きく増加したのは「18～19歳(20.3 ポイント)」と「30～39歳(9.1 ポイント)」となっています。世代によって人権感覚に違いがみられるため、啓発に工夫が必要です。

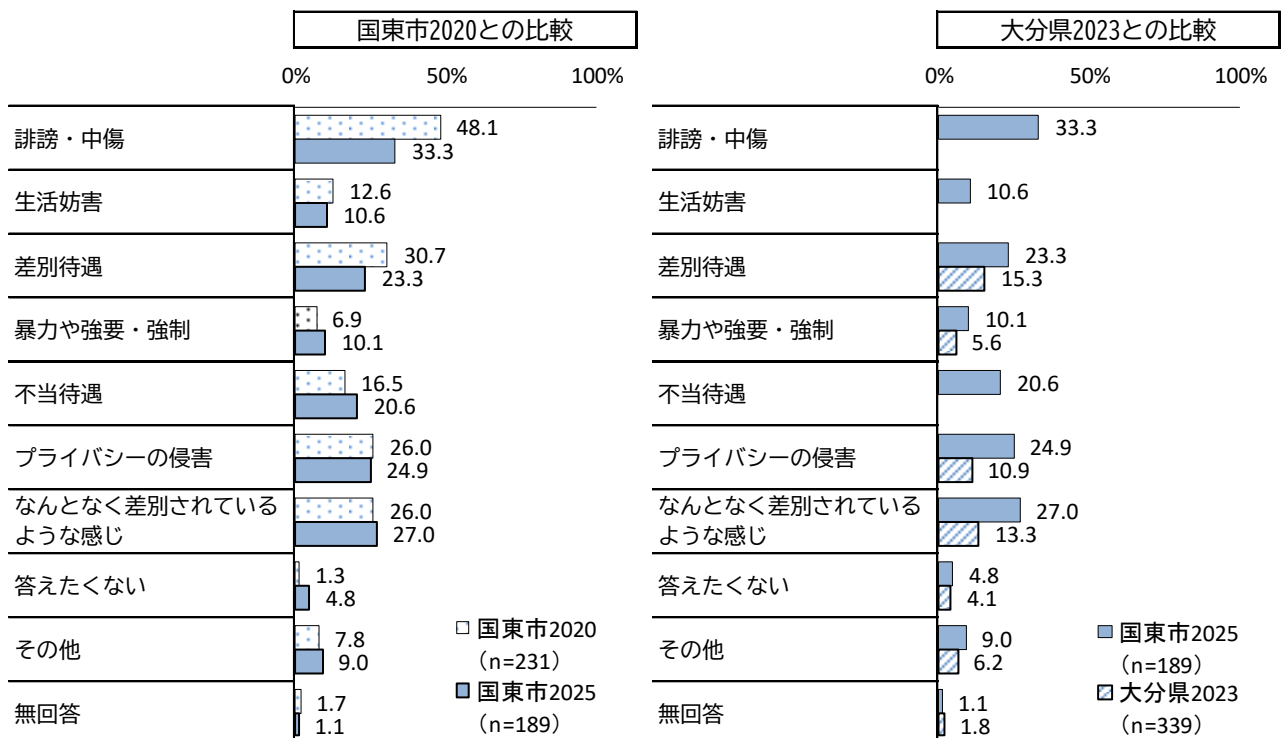
問3-(1) 【問3で「ある」と答えた方に伺います。】それはどのような性質のものですか。

MA

上段：構成比 下段：人数

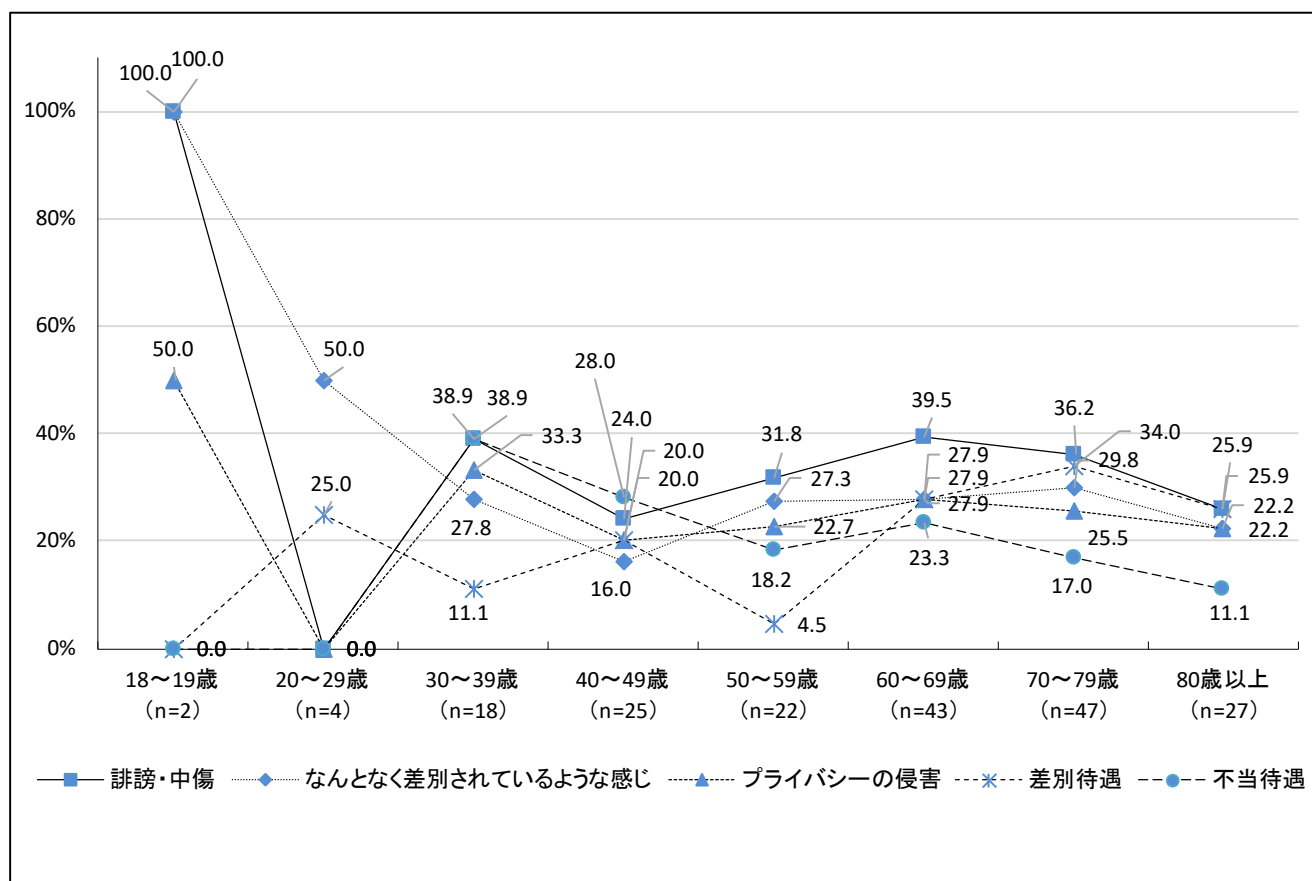
2025 調査結果	誹謗・ 中傷	生活妨害	差別待遇	暴力や強 要・強制	不当待遇	プライバ シーの侵 害	なんとなく差別さ れている ような感 じ	答えたく ない	その他	無回答	合計
18～19歳	100.0 2	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	50.0 1	100.0 2	0.0 0	0.0 0	0.0 0	100.0 2
20～29歳	0.0 0	0.0 0	25.0 1	0.0 0	0.0 0	0.0 0	50.0 2	25.0 1	0.0 0	0.0 0	100.0 4
30～39歳	38.9 7	5.6 1	11.1 2	11.1 2	38.9 7	33.3 6	27.8 5	0.0 0	5.6 1	0.0 0	100.0 18
40～49歳	24.0 6	4.0 1	20.0 5	20.0 5	28.0 7	20.0 5	16.0 4	4.0 1	8.0 2	0.0 0	100.0 25
50～59歳	31.8 7	4.5 1	4.5 1	18.2 4	18.2 4	22.7 5	27.3 6	9.1 2	9.1 2	0.0 0	100.0 22
60～69歳	39.5 17	23.3 10	27.9 12	7.0 3	23.3 10	27.9 12	27.9 12	7.0 3	14.0 6	2.3 1	100.0 43
70～79歳	36.2 17	6.4 3	34.0 16	4.3 2	17.0 8	25.5 12	29.8 14	2.1 1	6.4 3	0.0 0	100.0 47
80歳以上	25.9 7	14.8 4	25.9 7	11.1 3	11.1 3	22.2 6	22.2 6	3.7 1	7.4 2	3.7 1	100.0 27
無回答	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	100.0 1	0.0 0	100.0 1
全体	33.3 63	10.6 20	23.3 44	10.1 19	20.6 39	24.9 47	27.0 51	4.8 9	9.0 17	1.1 2	100.0 189

【全体】

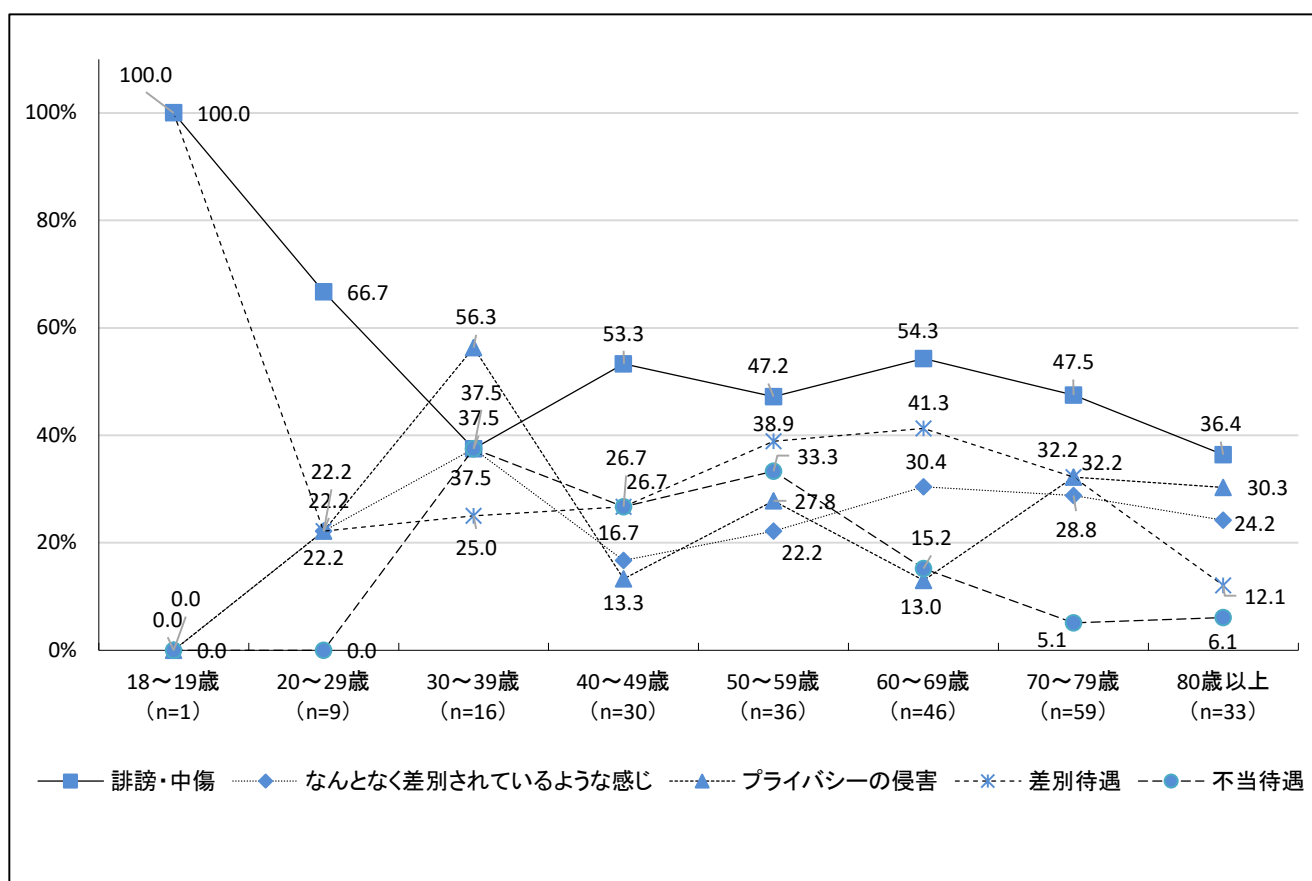


※大分県2023との比較は国東市2025調査と回答選択肢が異なるため同じ内容の選択肢のみ記入。

【年代別】＜【国東市2025】 差別・人権侵害における性質について上位5項目の年代別状況＞



【年代別】＜【国東市2020】 差別・人権侵害における性質について上位5項目の年代別状況＞



- 市全体では、今までに自分が差別されたり、自分の人権が侵害されたと思ったことがある人の中でそれはどのような性質かを聞いたところ、「誹謗・中傷」が 33.3%と最も高く、次いで「なんとなく差別されているような感じ」(27.0%)、「プライバシーの侵害」(24.9%)となっています。
- 2020調査と比較すると、市全体では、「不当待遇(会社などでの、使用者による時間外労働などの不当な労働強制や賃金格差など)」の割合が 4.1 割、次いで「暴力や強要・強制」(3.2 割)、「なんとなく差別されているような感じ」(1.0 割)が増加しています。大分県2023調査との比較では、「プライバシーの侵害」の割合が 14.0 割、次いで「なんとなく差別されているような感じ」(13.7 割)、「差別待遇(人種・信条・性別や社会的身分などにより不平等または不利益な扱いをされること)」(8.0 割)などが大分県よりも上回っています。
- ◆年代別では、「誹謗・中傷」の割合が最も高いのは18～19歳で 100.0%、次いで60～69歳(39.5%)、30～39歳(38.9%)となっています。
- ◆2020調査と比較すると、「誹謗・中傷」では30～39歳(1.4 割)で割合が増加、18～19歳では変わらず、他の年代はすべて減少しています。

◎考察

今までに自分が差別されたり、自分の人権が侵害されたと思ったことがある人に、その内容を尋ねたところ、「誹謗・中傷」が3割を超えて最も高く、次いで「なんとなく差別されているような感じ」が3割近く、「プライバシーの侵害」が2割半ばとなっています。現代社会において誹謗・中傷は、インターネット上での匿名性や軽率な発言が背景にあると考えられ、依然として深刻な人権侵害の要因であり、潜在的な差別意識やプライバシー侵害も問題となっています。市ではこれまでも地区人権学習会や人権講演会の開催など、人権教育・啓発活動を通じて差別意識の解消に取り組んできましたが、引き続き、SNS での中傷防止に関する相談体制の充実や情報モラル教育の推進など、地域全体で人権を尊重する環境づくりを進めていくことが重要です。

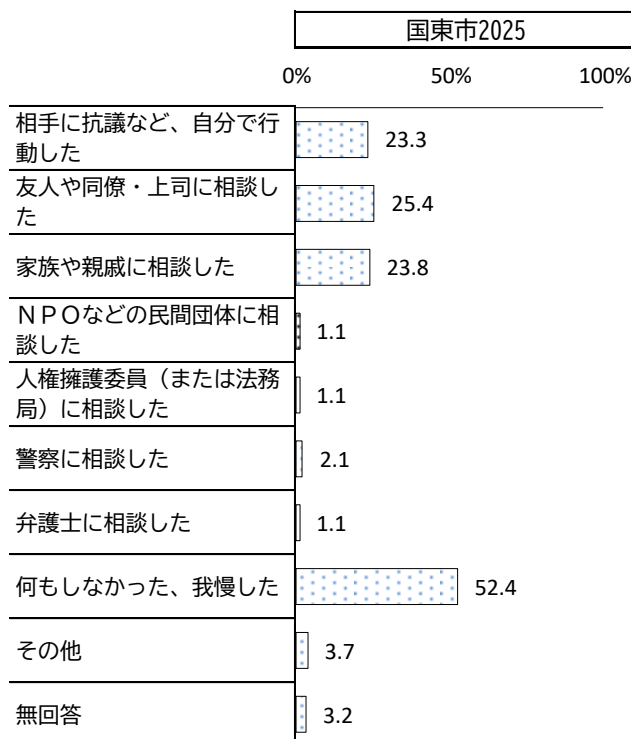
問3-(2) 【問3で「ある」と答えた方に伺います。】そのときどのように対応しましたか。

MA

上段：構成比 下段：人数

2025 調査結果	相手に抗議など、 自分で行動した	友人や同僚・上司 に相談した	家族や親戚に相談 した	NPOなどの民間 団体に相談した	人権擁護 委員（または法務 局）に相談した	警察に相 談した	弁護士に 相談した	何もしな かった、 我慢した	その他	無回答	合計
18～19歳	50.0 1	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	50.0 1	0.0 0	0.0 0	100.0 2
20～29歳	0.0 0	0.0 0	50.0 2	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	50.0 2	0.0 0	0.0 0	100.0 4
30～39歳	22.2 4	38.9 7	33.3 6	0.0 0	0.0 0	0.0 0	5.6 1	44.4 8	0.0 0	0.0 0	100.0 18
40～49歳	8.0 2	36.0 9	20.0 5	0.0 0	0.0 0	4.0 1	4.0 1	52.0 13	4.0 1	0.0 0	100.0 25
50～59歳	18.2 4	18.2 4	27.3 6	9.1 2	9.1 2	4.5 1	0.0 0	54.5 12	0.0 0	4.5 1	100.0 22
60～69歳	32.6 14	20.9 9	18.6 8	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	55.8 24	4.7 2	2.3 1	100.0 43
70～79歳	34.0 16	34.0 16	27.7 13	0.0 0	0.0 0	4.3 2	0.0 0	48.9 23	4.3 2	2.1 1	100.0 47
80歳以上	11.1 3	11.1 3	18.5 5	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	55.6 15	7.4 2	11.1 3	100.0 27
無回答	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	100.0 1	0.0 0	0.0 0	100.0 1
全体	23.3 44	25.4 48	23.8 45	1.1 2	1.1 2	2.1 4	1.1 2	52.4 99	3.7 7	3.2 6	100.0 189

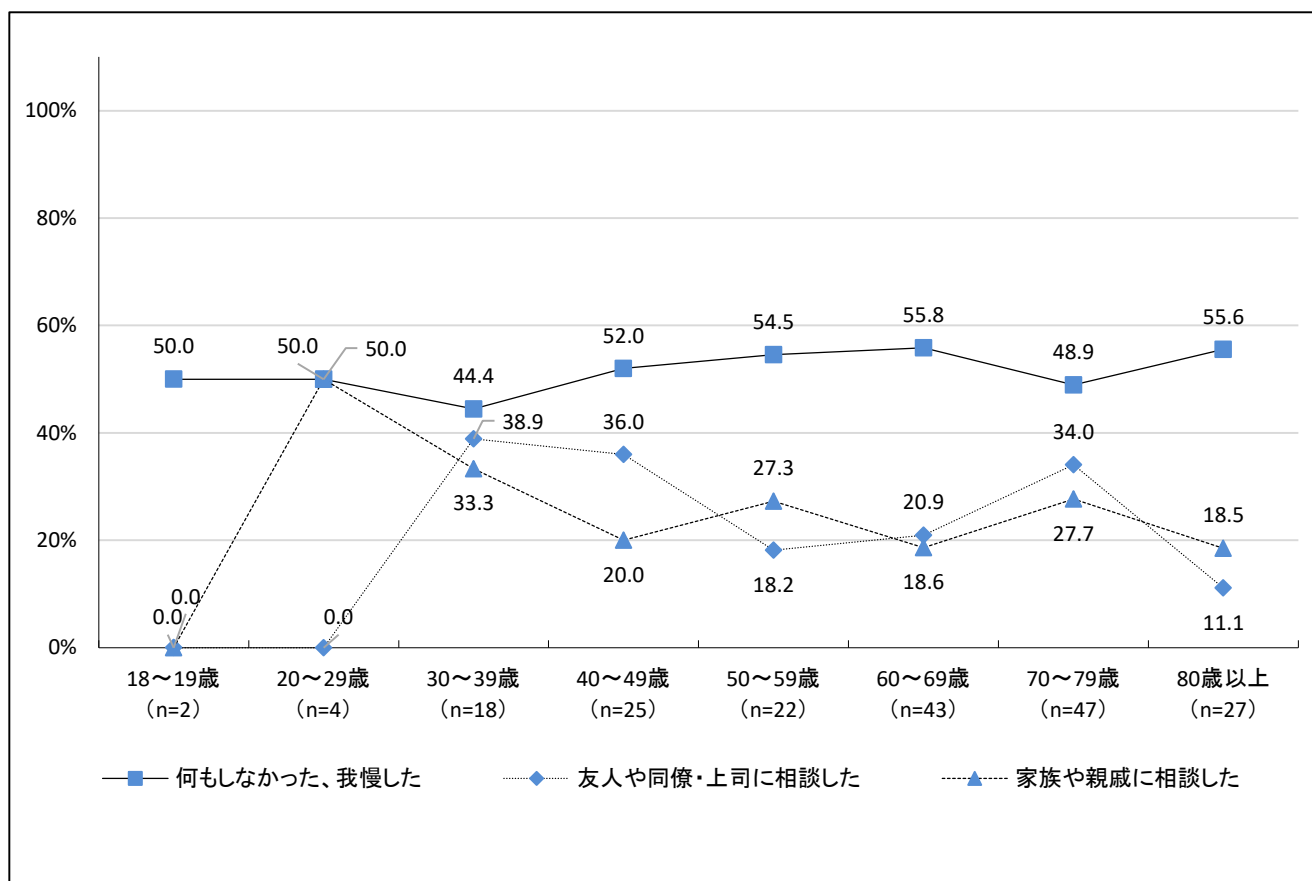
【全体】



※国東市2020調査は「単回答」のため比較不可。

※大分県2023調査と回答選択肢が異なるため比較不可。

【年代別】＜【国東市2025】 差別・人権侵害に対する対応について上位3項目の年代別状況＞



■市全体では、「何もしなかった、我慢した」が 52.4%と最も高く、次いで「友人や同僚・上司に相談した」(25.4%)、「家族や親戚に相談した」(23.8%)となっています。

■2020調査は「単回答」のため比較ができません。

◆年代別では、「何もしなかった、我慢した」の割合が最も高いのは60～69歳で 55.8%、次いで80歳以上 (55.6%)、50～59歳(54.5%)となっています。

◆年代別の2020調査は「単回答」のため比較ができません。

◎考察

今までに自分が差別されたり、自分の人権が侵害されたと思ったことがある人に、その際の対応を尋ねたところ、「何もしなかった、我慢した」が5割を超えて最も高くなっています。次いで「家族や友人に相談した」といった身近な人への相談がみられる一方、「警察」や「弁護士」など専門機関への相談は少数にとどまっています。被害を受けても声を上げずに我慢している実態がうかがえることから、今後は相談しやすい環境づくりや相談窓口の周知を一層進めていく必要があります。

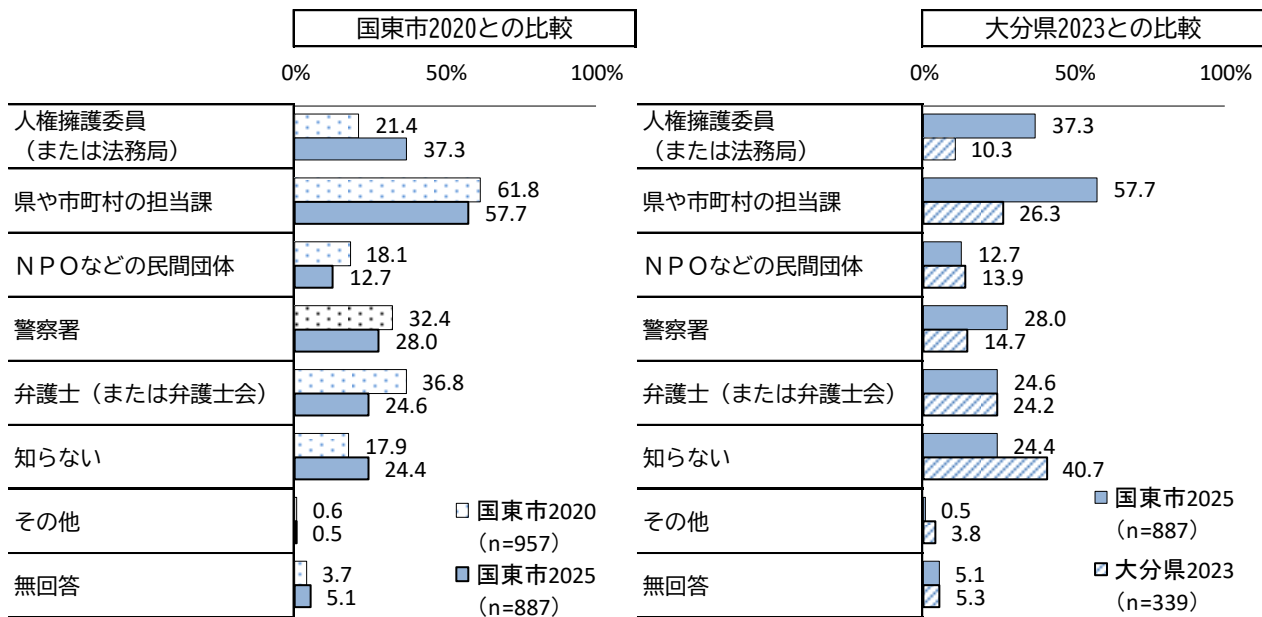
問4 あなたは、差別や人権侵害を受けた場合に相談できる機関(場所)があることを知っていますか。

MA

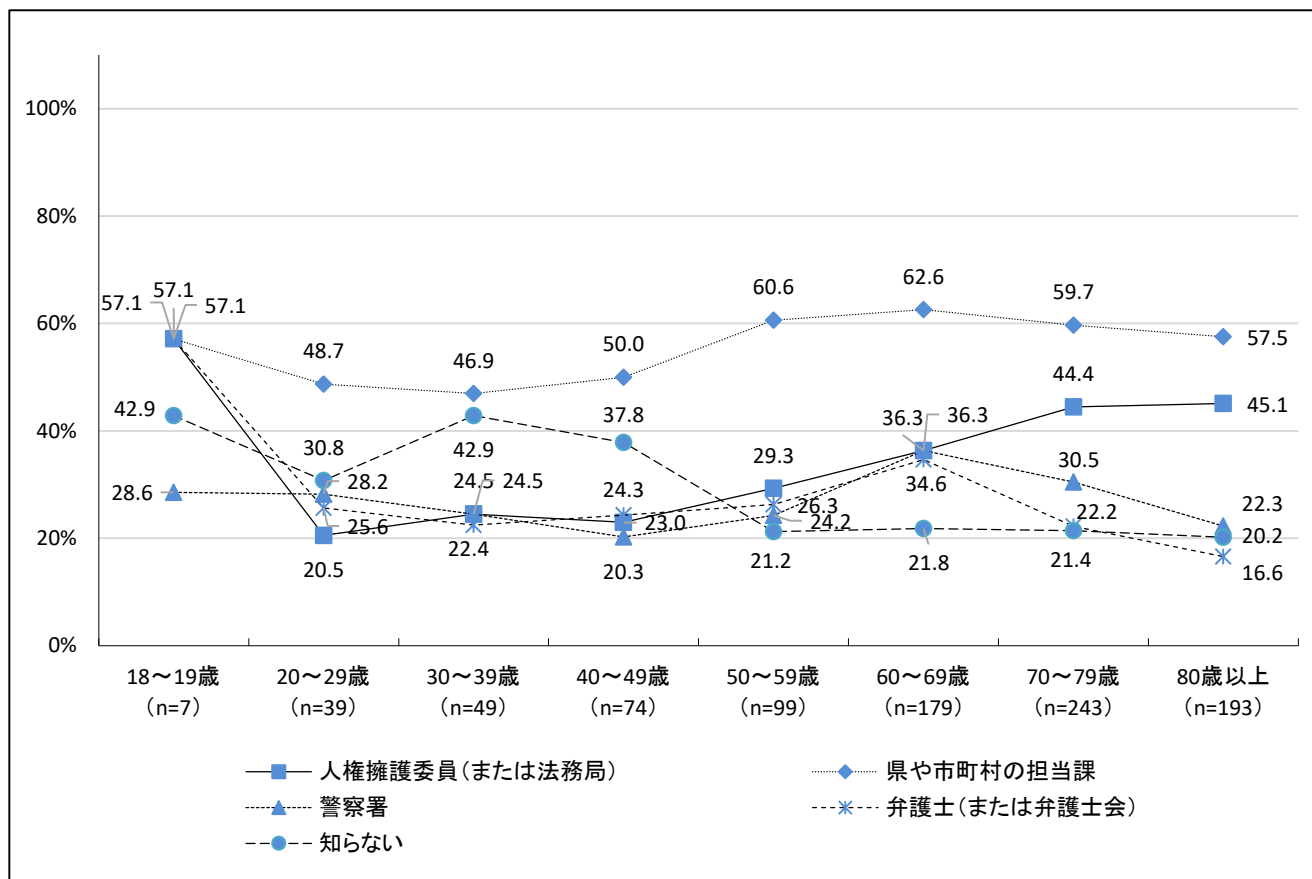
上段：構成比 下段：人数

2025 調査結果	人権擁護委員 (または 法務局)	県や市町村 の担当課	NPOなどの 民間団体	警察署	弁護士(ま たは弁護士 会)	知らない	その他	無回答	合計
18～19歳	57.1 4	57.1 4	28.6 2	28.6 2	57.1 4	42.9 3	0.0 0	0.0 0	100.0 7
20～29歳	20.5 8	48.7 19	23.1 9	28.2 11	25.6 10	30.8 12	0.0 0	0.0 0	100.0 39
30～39歳	24.5 12	46.9 23	16.3 8	24.5 12	22.4 11	42.9 21	0.0 0	0.0 0	100.0 49
40～49歳	23.0 17	50.0 37	14.9 11	20.3 15	24.3 18	37.8 28	0.0 0	0.0 0	100.0 74
50～59歳	29.3 29	60.6 60	15.2 15	24.2 24	26.3 26	21.2 21	0.0 0	6.1 6	100.0 99
60～69歳	36.3 65	62.6 112	15.1 27	36.3 65	34.6 62	21.8 39	0.6 1	2.2 4	100.0 179
70～79歳	44.4 108	59.7 145	10.7 26	30.5 74	22.2 54	21.4 52	0.8 2	5.3 13	100.0 243
80歳以上	45.1 87	57.5 111	7.8 15	22.3 43	16.6 32	20.2 39	0.5 1	10.4 20	100.0 193
無回答	25.0 1	25.0 1	0.0 0	50.0 2	25.0 1	25.0 1	0.0 0	50.0 2	100.0 4
全体	37.3 331	57.7 512	12.7 113	28.0 248	24.6 218	24.4 216	0.5 4	5.1 45	100.0 887

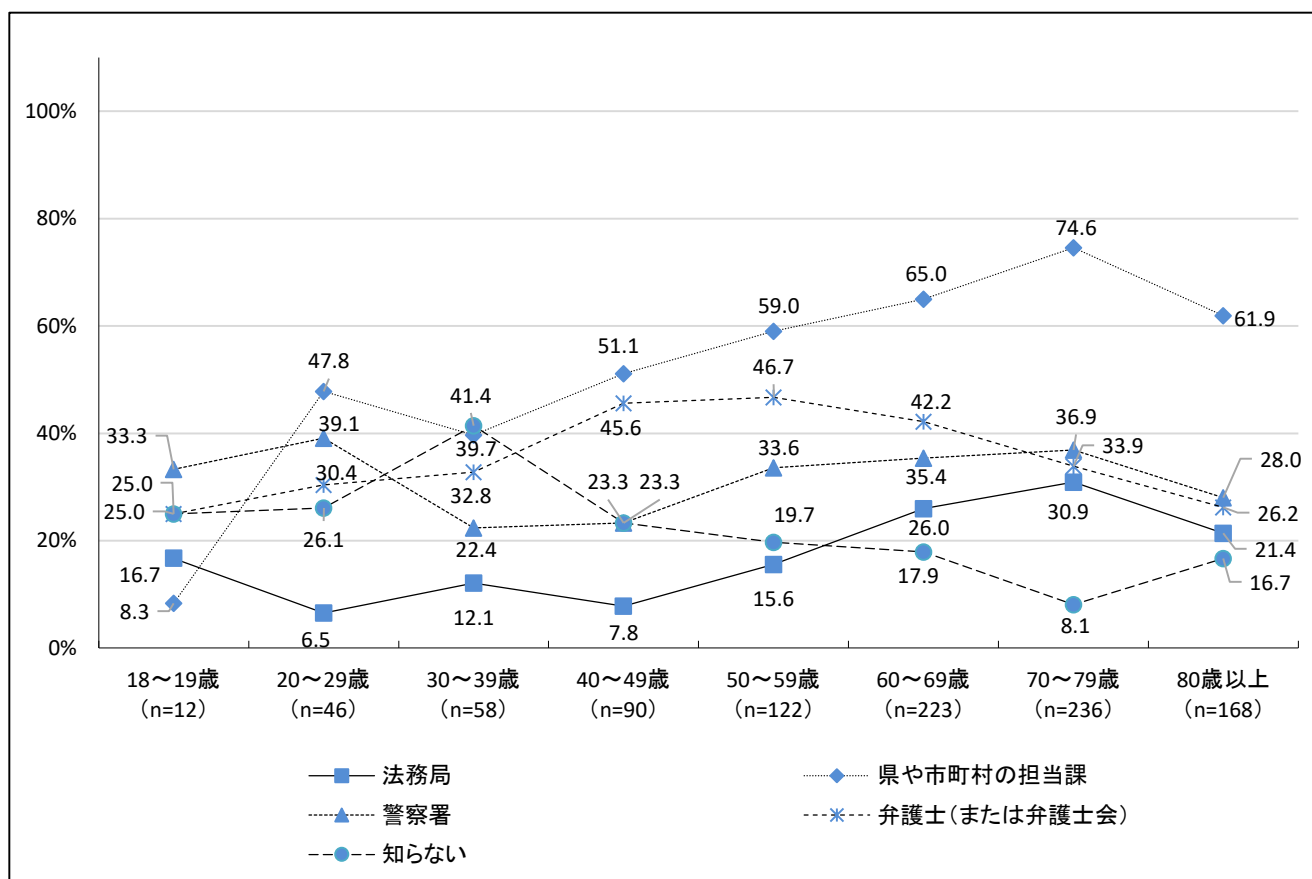
【全体】



【年代別】＜【国東市2025】差別や人権侵害を受けた場合に相談できる機関について上位5項目の年代別状況＞



【年代別】＜【国東市2020】差別や人権侵害を受けた場合に相談できる機関について上位5項目の年代別状況＞



- 市全体では、「県や市町村の担当課」が 57.7%と最も高く、次いで「人権擁護委員(または法務局)」(37.3%)、「警察署」(28.0%)と、相談先として「県や市町村の担当課」を選ぶ人が約6割となっています。
- 2020調査と比較すると、市全体では、「人権擁護委員(または法務局)」の割合が 15.9 ㊦、次いで「知らない」(6.5 ㊦)が増加しています。大分県2023調査との比較では、「県や市町村の担当課」の割合が31.4 ㊦、次いで「人権擁護委員(または法務局)」(27.0 ㊦)、「警察署」(13.3 ㊦)などが大分県よりも上回っています。
- ◆年代別では、「県や市町村の担当課」の割合が最も高いのは60～69歳で 62.6%、次いで50～59歳(60.6%)、70～79歳(59.7%)となっています。各年代とも相談先として、「県や市町村の担当課」を選ぶ人が多い傾向となっています。
- ◆2020調査と比較すると、「人権擁護委員(または法務局)」で 40.4 ㊦、「県や市町村の担当課」(48.8 ㊦)、「弁護士(または弁護士会)」(32.1 ㊦)、「知らない」(17.9 ㊦)と、いずれも18～19歳の割合が最も増加しています。

◎考察

差別や人権侵害を受けた場合に相談できる機関(場所)として、市全体では「県や市町村の担当課」を選ぶ人が6割程度と最も高くなっています。また、「人権擁護委員(または法務局)」の割合は前回より 15.9 ㊦増加していますが、「知らない」と回答した人も 6.5 ㊦増加しています。年代別にみると、18～19歳、30～39歳で「知らない」の割合が4割程度と高い傾向がみられ、若年層から中堅層にかけて相談窓口の認知が十分とはいえない状況がうかがえます。特定機関の認知は一定程度進んでいるものの、幅広い年代への一層の情報周知が課題となっています。

問5 あなたは、これまでの生活の中で次のア～オの方と一緒に生活したり、働いたり、活動したりするなど、何らかの交流がありましたか。

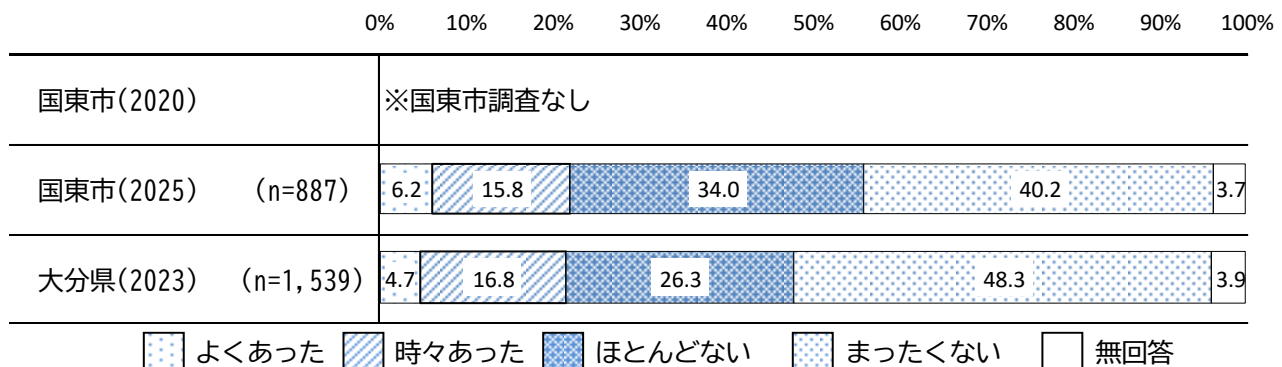
【ア. 障がい者の人権問題の解決に熱心に取り組んでいる人】

SA

上段：構成比 下段：人数

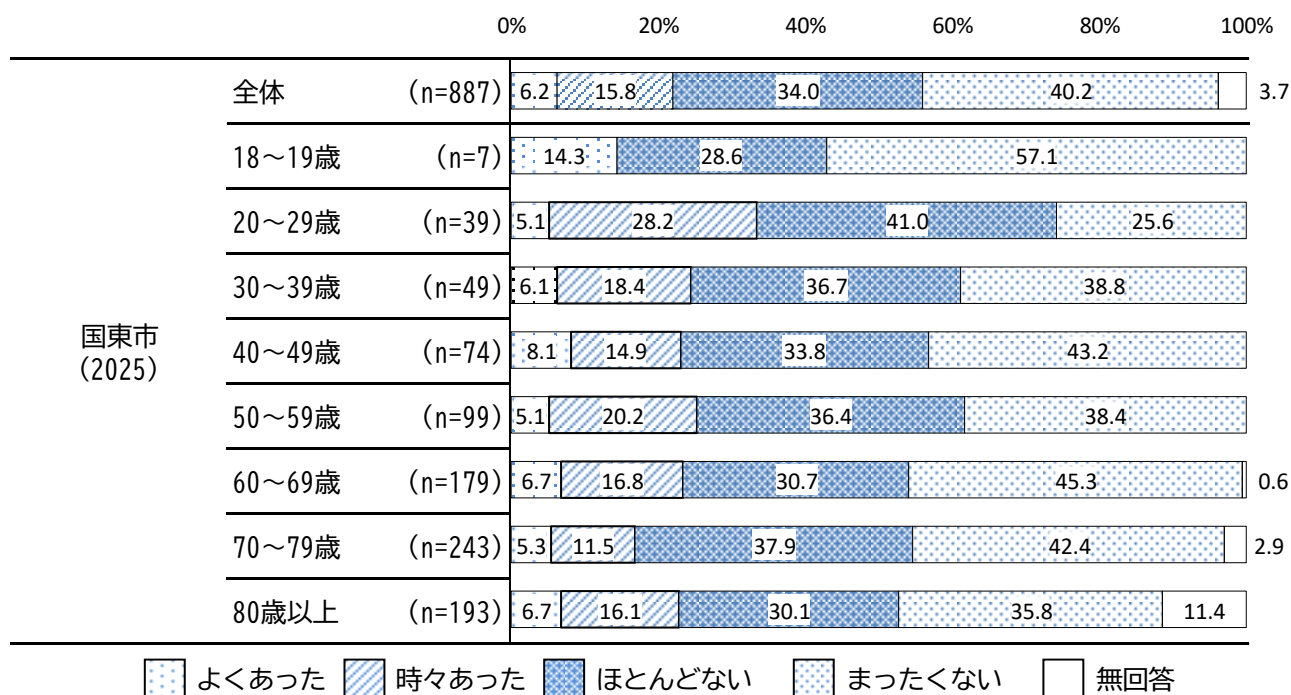
2025 調査結果	よくあった	時々あった	ほとんどない	まったくない	無回答	合計
18～19歳	14.3 1	0.0 0	28.6 2	57.1 4	0.0 0	100.0 7
20～29歳	5.1 2	28.2 11	41.0 16	25.6 10	0.0 0	100.0 39
30～39歳	6.1 3	18.4 9	36.7 18	38.8 19	0.0 0	100.0 49
40～49歳	8.1 6	14.9 11	33.8 25	43.2 32	0.0 0	100.0 74
50～59歳	5.1 5	20.2 20	36.4 36	38.4 38	0.0 0	100.0 99
60～69歳	6.7 12	16.8 30	30.7 55	45.3 81	0.6 1	100.0 179
70～79歳	5.3 13	11.5 28	37.9 92	42.4 103	2.9 7	100.0 243
80歳以上	6.7 13	16.1 31	30.1 58	35.8 69	11.4 22	100.0 193
無回答	0.0 0	0.0 0	0.0 0	25.0 1	75.0 3	100.0 4
全体	6.2 55	15.8 140	34.0 302	40.2 357	3.7 33	100.0 887

【全体】



- 市全体では、「障がい者の人権問題」について取り組んでいる人との交流が「ない(ほとんどない+まったくない)」の割合が74.2%と最も高くなっています。
- 大分県2023調査と比較すると、大きな差はありません。
- 2020調査はありません。

【年代別】



◆年代別では、「ない(ほとんどない+まったくない)」の割合が最も高いのは18～19歳で 85.7%、次いで70～79歳(80.3%)、40～49歳(77.0%)となっています。

◆年代別の2020調査はありません。

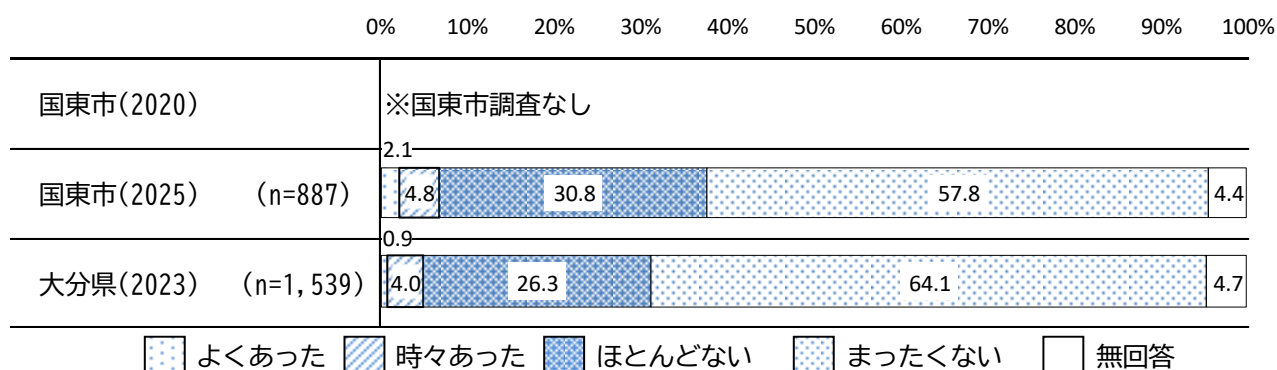
【イ. 外国人の人権問題の解決に熱心に取り組んでいる人】

SA

上段：構成比 下段：人数

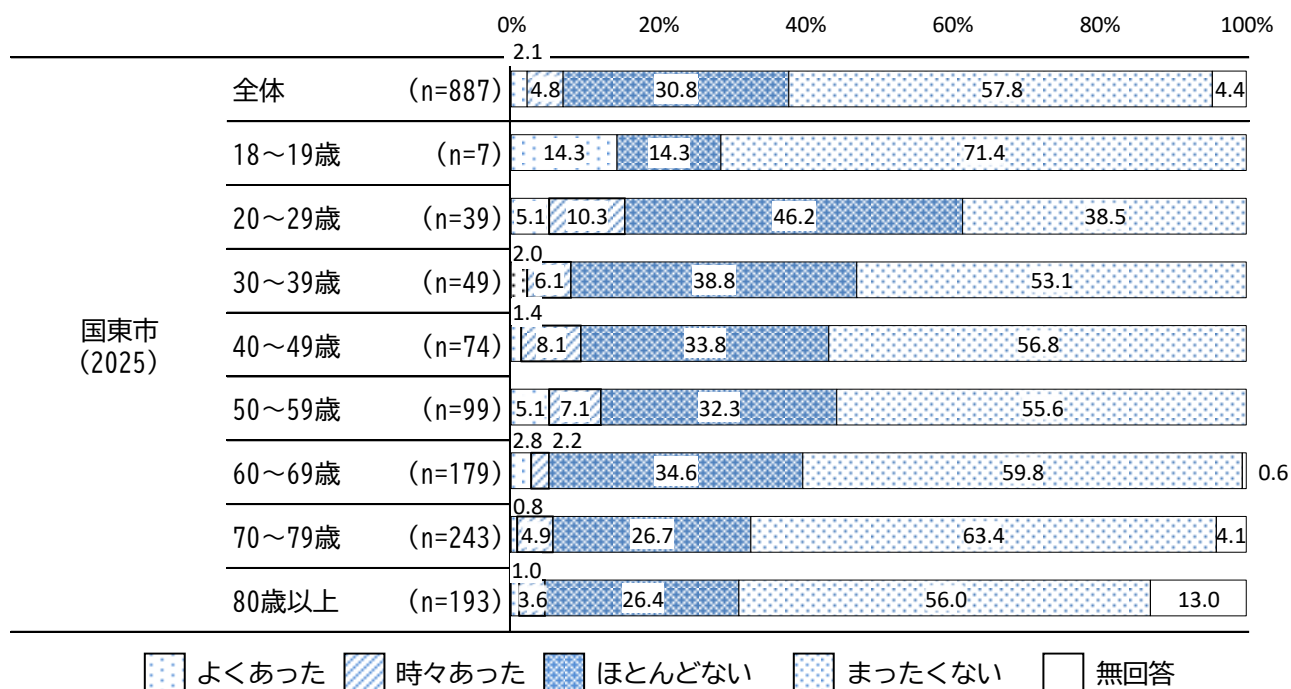
2025 調査結果	よくあった	時々あった	ほとんどない	まったくない	無回答	合計
18～19歳	14.3 1	0.0 0	14.3 1	71.4 5	0.0 0	100.0 7
20～29歳	5.1 2	10.3 4	46.2 18	38.5 15	0.0 0	100.0 39
30～39歳	2.0 1	6.1 3	38.8 19	53.1 26	0.0 0	100.0 49
40～49歳	1.4 1	8.1 6	33.8 25	56.8 42	0.0 0	100.0 74
50～59歳	5.1 5	7.1 7	32.3 32	55.6 55	0.0 0	100.0 99
60～69歳	2.8 5	2.2 4	34.6 62	59.8 107	0.6 1	100.0 179
70～79歳	0.8 2	4.9 12	26.7 65	63.4 154	4.1 10	100.0 243
80歳以上	1.0 2	3.6 7	26.4 51	56.0 108	13.0 25	100.0 193
無回答	0.0 0	0.0 0	0.0 0	25.0 1	75.0 3	100.0 4
全体	2.1 19	4.8 43	30.8 273	57.8 513	4.4 39	100.0 887

【全体】



- 市全体では、「外国人の人権問題」について取り組んでいる人との交流が「ない(ほとんどない+まったくない)」の割合が88.6%と最も高くなっています。
- 大分県2023調査と比較すると、「ない(ほとんどない+まったくない)」の割合が大分県よりも 1.8 ポイント下回っています。
- 2020調査はありません。

【年代別】



◆年代別では、「ない(ほとんどない+まったくない)」の割合が最も高いのは60～69歳で 94.4%、次いで30～39歳(91.9%)、40～49歳(90.6%)となっています。

◆年代別の2020調査はありません。

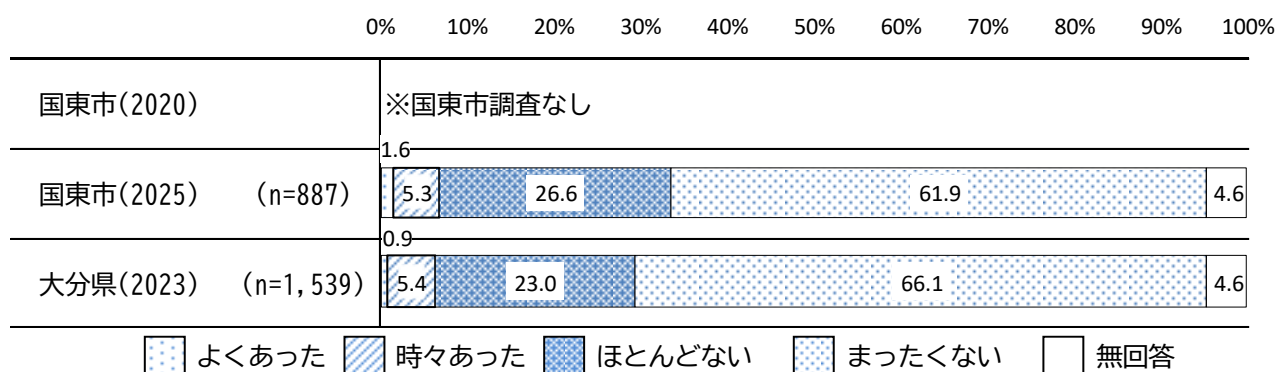
【ウ. 性的少数者(LGBT)の人権問題の解決に熱心に取り組んでいる人】

SA

上段：構成比 下段：人数

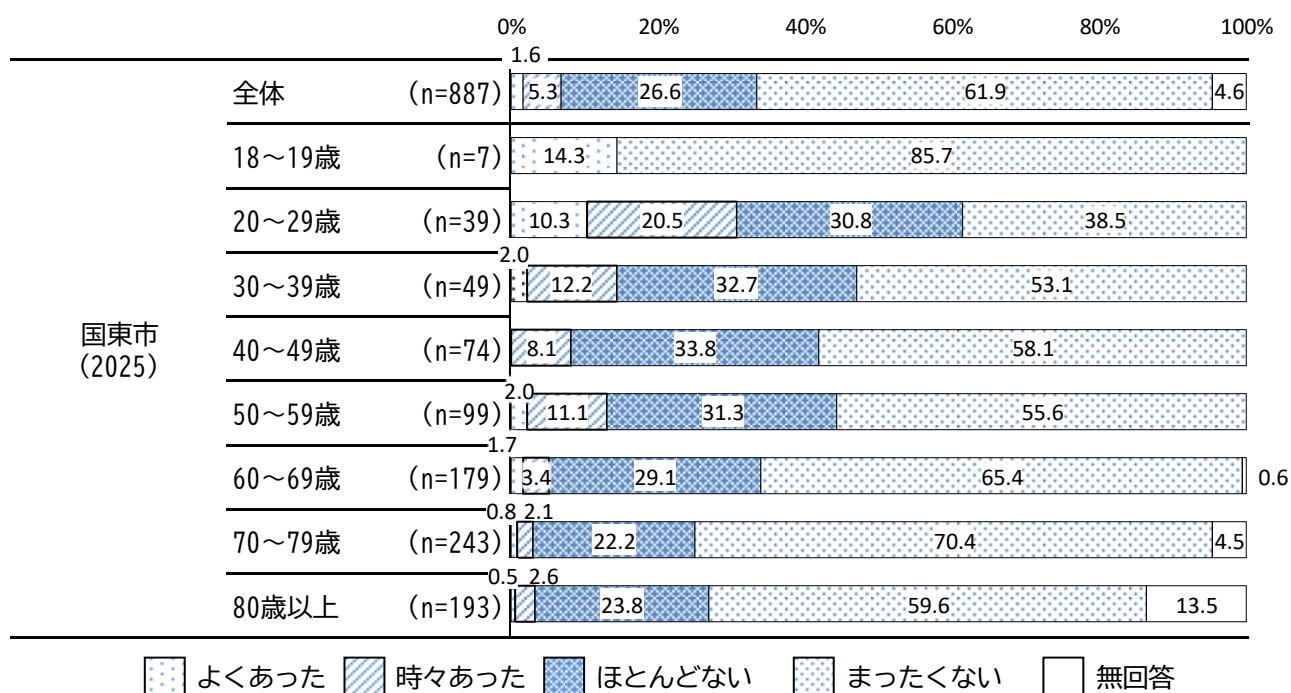
2025 調査結果	よくあった	時々あった	ほとんどない	まったくない	無回答	合計
18～19歳	14.3 1	0.0 0	0.0 0	85.7 6	0.0 0	100.0 7
20～29歳	10.3 4	20.5 8	30.8 12	38.5 15	0.0 0	100.0 39
30～39歳	2.0 1	12.2 6	32.7 16	53.1 26	0.0 0	100.0 49
40～49歳	0.0 0	8.1 6	33.8 25	58.1 43	0.0 0	100.0 74
50～59歳	2.0 2	11.1 11	31.3 31	55.6 55	0.0 0	100.0 99
60～69歳	1.7 3	3.4 6	29.1 52	65.4 117	0.6 1	100.0 179
70～79歳	0.8 2	2.1 5	22.2 54	70.4 171	4.5 11	100.0 243
80歳以上	0.5 1	2.6 5	23.8 46	59.6 115	13.5 26	100.0 193
無回答	0.0 0	0.0 0	0.0 0	25.0 1	75.0 3	100.0 4
全体	1.6 14	5.3 47	26.6 236	61.9 549	4.6 41	100.0 887

【全体】



- 市全体では、「性的少数者(LGBT)の人権問題」について取り組んでいる人との交流が「ない(ほとんどない + まったくない)」の割合が88.5%と最も高くなっています。
- 大分県2023調査と比較すると、大きな差はありません。
- 2020調査はありません。

【年代別】



◆年代別では、「ない(ほとんどない+まったくない)」の割合が最も高いのは60～69歳で 94.5%、次いで70～79歳(92.6%)、40～49歳(91.9%)となっています。

◆年代別の2020調査はありません。

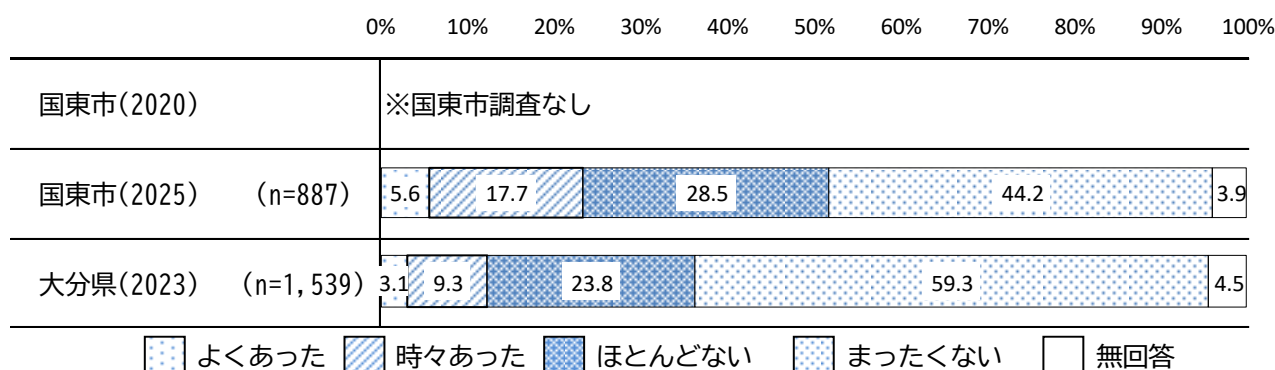
【エ. 部落差別の問題(同和問題)の解決に熱心に取り組んでいる人】

SA

上段：構成比 下段：人数

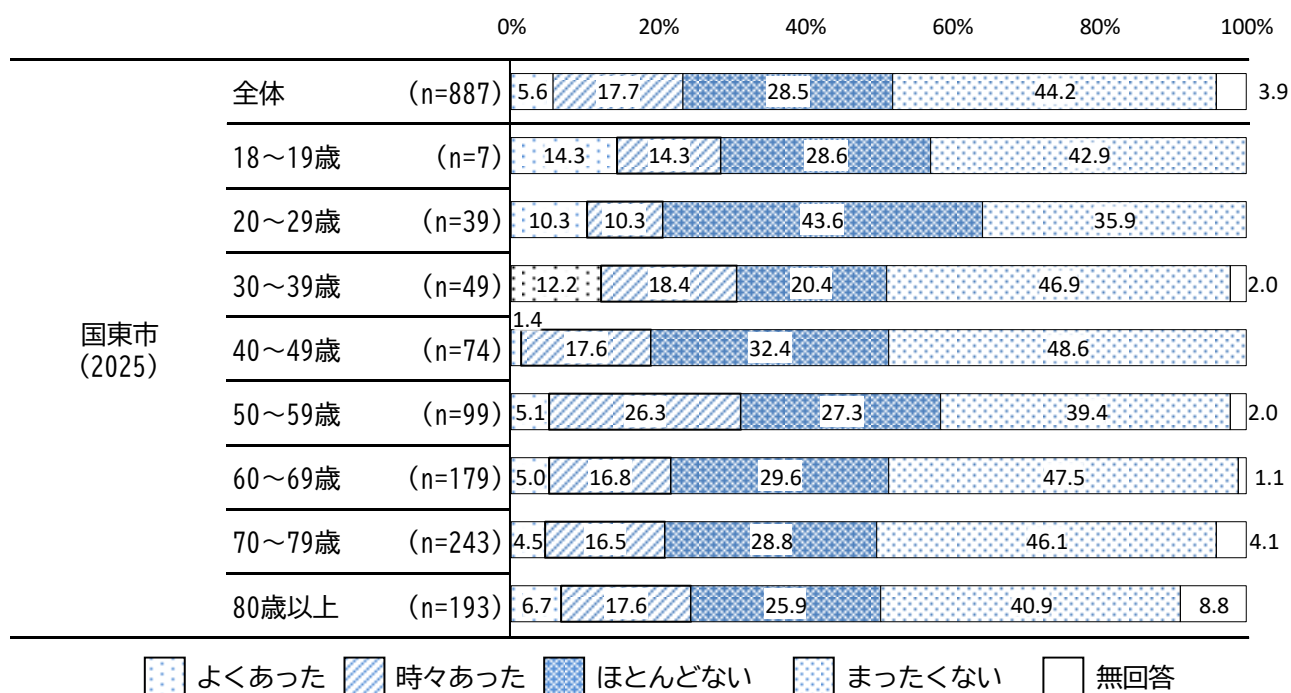
2025 調査結果	よくあった	時々あった	ほとんどない	まったくない	無回答	合計
18～19歳	14.3 1	14.3 1	28.6 2	42.9 3	0.0 0	100.0 7
20～29歳	10.3 4	10.3 4	43.6 17	35.9 14	0.0 0	100.0 39
30～39歳	12.2 6	18.4 9	20.4 10	46.9 23	2.0 1	100.0 49
40～49歳	1.4 1	17.6 13	32.4 24	48.6 36	0.0 0	100.0 74
50～59歳	5.1 5	26.3 26	27.3 27	39.4 39	2.0 2	100.0 99
60～69歳	5.0 9	16.8 30	29.6 53	47.5 85	1.1 2	100.0 179
70～79歳	4.5 11	16.5 40	28.8 70	46.1 112	4.1 10	100.0 243
80歳以上	6.7 13	17.6 34	25.9 50	40.9 79	8.8 17	100.0 193
無回答	0.0 0	0.0 0	0.0 0	25.0 1	75.0 3	100.0 4
全体	5.6 50	17.7 157	28.5 253	44.2 392	3.9 35	100.0 887

【全体】



- 市全体では、「部落差別の問題(同和問題)」について取り組んでいる人との交流が「ない(ほとんどない+まったくない)」の割合が72.7%と最も高くなっています。
- 大分県2023調査と比較すると、「ない(ほとんどない+まったくない)」の割合が大分県よりも10.4%下回っています。
- 2020調査はありません。

【年代別】



◆年代別では、「ない(ほとんどない+まったくない)」の割合が最も高いのは40～49歳で 81.0%、次いで20～29歳(79.5%)、60～69歳(77.1%)となっています。

◆年代別の2020調査はありません。

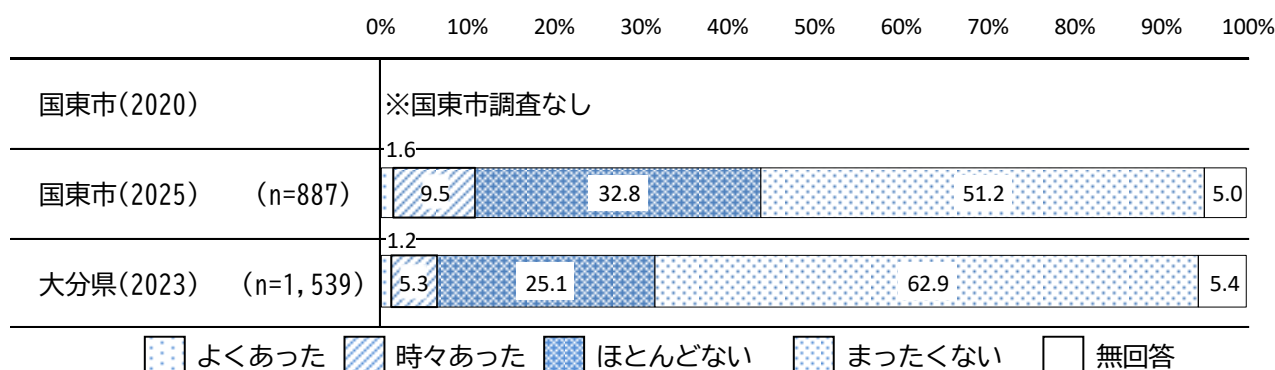
【オ. ア～エ以外の人権問題の解決に熱心に取り組んでいる人】

SA

上段：構成比 下段：人数

2025 調査結果	よくあった	時々あった	ほとんどない	まったくない	無回答	合計
18～19歳	14.3 1	0.0 0	28.6 2	57.1 4	0.0 0	100.0 7
20～29歳	2.6 1	12.8 5	38.5 15	46.2 18	0.0 0	100.0 39
30～39歳	4.1 2	10.2 5	40.8 20	44.9 22	0.0 0	100.0 49
40～49歳	1.4 1	10.8 8	39.2 29	48.6 36	0.0 0	100.0 74
50～59歳	0.0 0	13.1 13	40.4 40	45.5 45	1.0 1	100.0 99
60～69歳	1.7 3	8.9 16	33.5 60	54.7 98	1.1 2	100.0 179
70～79歳	1.2 3	9.1 22	28.0 68	56.8 138	4.9 12	100.0 243
80歳以上	1.6 3	7.8 15	29.5 57	47.7 92	13.5 26	100.0 193
無回答	0.0 0	0.0 0	0.0 0	25.0 1	75.0 3	100.0 4
全体	1.6 14	9.5 84	32.8 291	51.2 454	5.0 44	100.0 887

【全体】

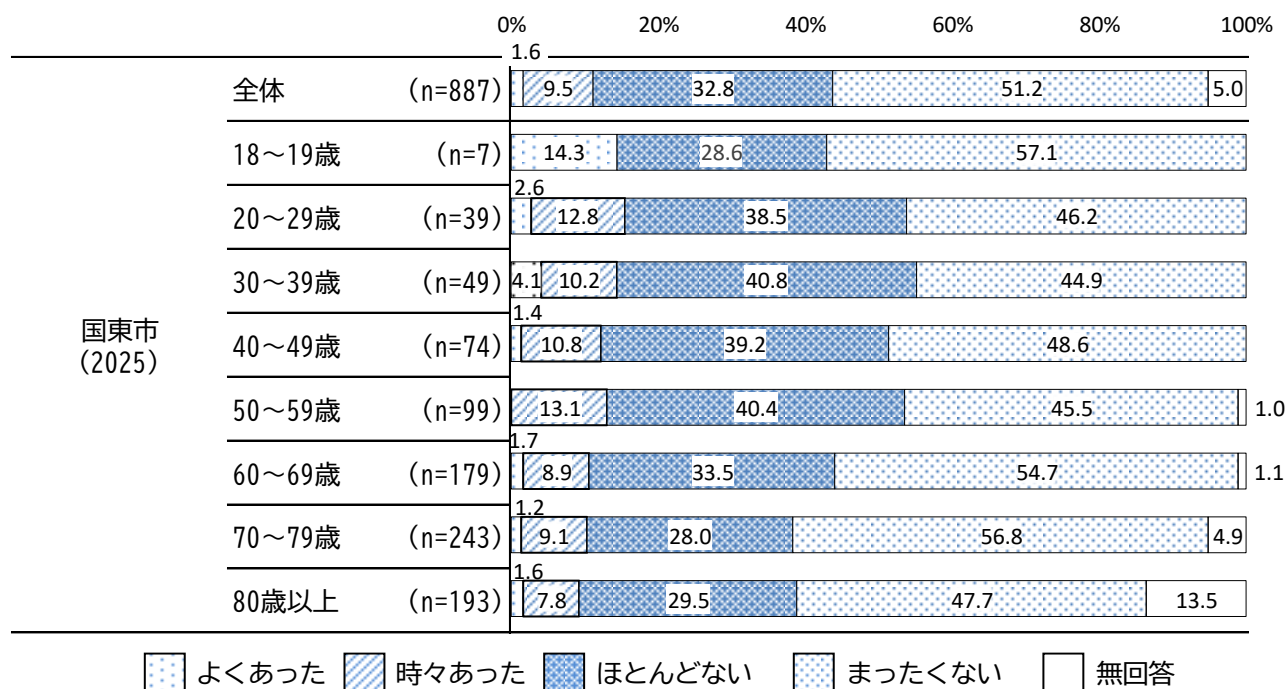


■市全体では、「その他の人権問題」について取り組んでいる人との交流が「ない(ほとんどない+まったくない)」の割合が84.0%と最も高くなっています。

■大分県2023調査と比較すると、「ない(ほとんどない+まったくない)」の割合が大分県よりも4.0ポイント下回っています。

■2020調査はありません。

【年代別】



◆年代別では、「ない(ほとんどない+まったくない)」の割合が最も高いのは60～69歳で 88.2%、次いで40～49歳(87.8%)、50～59歳(85.9%)となっています。

◆年代別の2020調査はありません。

◎考察

全項目において「ほとんどない」「まったくない」を合わせた回答が7割から8割を超えており、市民が日常生活の中で当事者や支援活動と直接関わる機会はずしも多くない状況がうかがえます。「部落差別の問題(同和問題)」と「障がい者の人権問題」については交流率が比較的高く、これらは地域社会や教育現場において継続的な教育・啓発に取り組んできた成果が背景にあると考えられます。一方で、「外国人の人権問題」や「性的少数者(LGBT)の人権問題」に関しては交流の機会が限られており、市民が接点を持つ場面が少ないことが影響している可能性があります。

問6 あなたは、普段の生活の中で、次のア～ケの考え方について、どう思いますか。

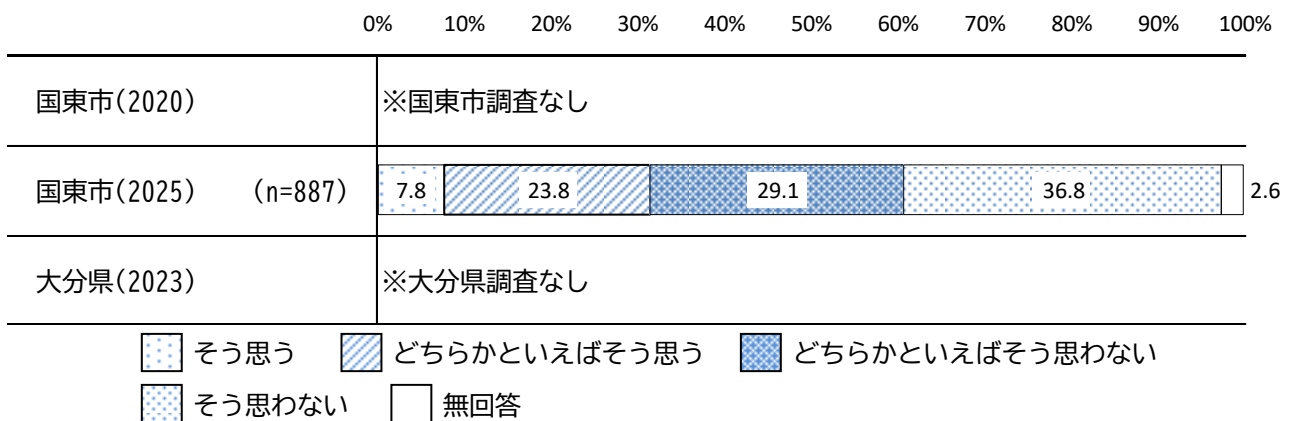
【ア. 子どもが約束を守らなかった時、しつけのために少しくらいたたいてもよい】

SA

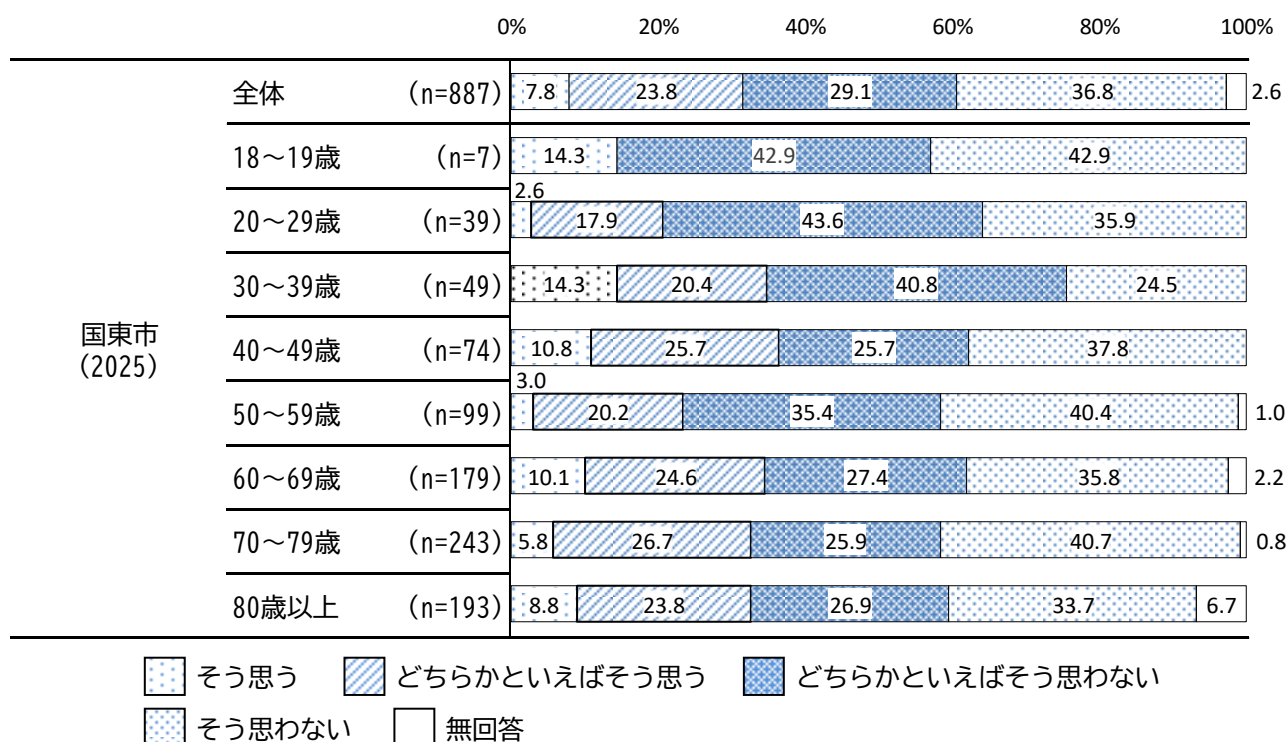
上段：構成比 下段：人数

2025 調査結果	そう思う	どちらかといえ ばそう思う	どちらかといえ ばそう思わない	そう思わない	無回答	合計
18～19歳	14.3 1	0.0 0	42.9 3	42.9 3	0.0 0	100.0 7
20～29歳	2.6 1	17.9 7	43.6 17	35.9 14	0.0 0	100.0 39
30～39歳	14.3 7	20.4 10	40.8 20	24.5 12	0.0 0	100.0 49
40～49歳	10.8 8	25.7 19	25.7 19	37.8 28	0.0 0	100.0 74
50～59歳	3.0 3	20.2 20	35.4 35	40.4 40	1.0 1	100.0 99
60～69歳	10.1 18	24.6 44	27.4 49	35.8 64	2.2 4	100.0 179
70～79歳	5.8 14	26.7 65	25.9 63	40.7 99	0.8 2	100.0 243
80歳以上	8.8 17	23.8 46	26.9 52	33.7 65	6.7 13	100.0 193
無回答	0.0 0	0.0 0	0.0 0	25.0 1	75.0 3	100.0 4
全体	7.8 69	23.8 211	29.1 258	36.8 326	2.6 23	100.0 887

【全体】



【年代別】



◆年代別では「思わない(どちらかといえばそう思わない+そう思わない)」の割合が最も高いのは18～19歳で85.8%、次いで20～29歳(79.5%)、50～59歳(75.8%)となっています。「思う(そう思う+どちらかといえば思う)」の割合が最も高いのは40～49歳で36.5%、次いで30～39歳、60～69歳(34.7%)となっています。

◆年代別の2020調査はありません。

◎考察

子どもが約束を守らなかった時、しつけのために少しくらいたたいてもよいという考え方については、市全体では、「思わない(どちらかといえばそう思わない+そう思わない)」が6割半ばを占めており、体罰をしつけとして認めない意識が広がっている状況がうかがえます。一方で、肯定的な意見も3割程度みられ、一定数が状況に応じた体罰を容認している状況もみられます。しかしながら、体罰はいかなる場合であっても子どもの人権を侵害する行為であり、法律においても禁止されています。「いかなる理由があっても体罰はいけない」という当たり前の考えを、社会全体で共有していくことが重要です。

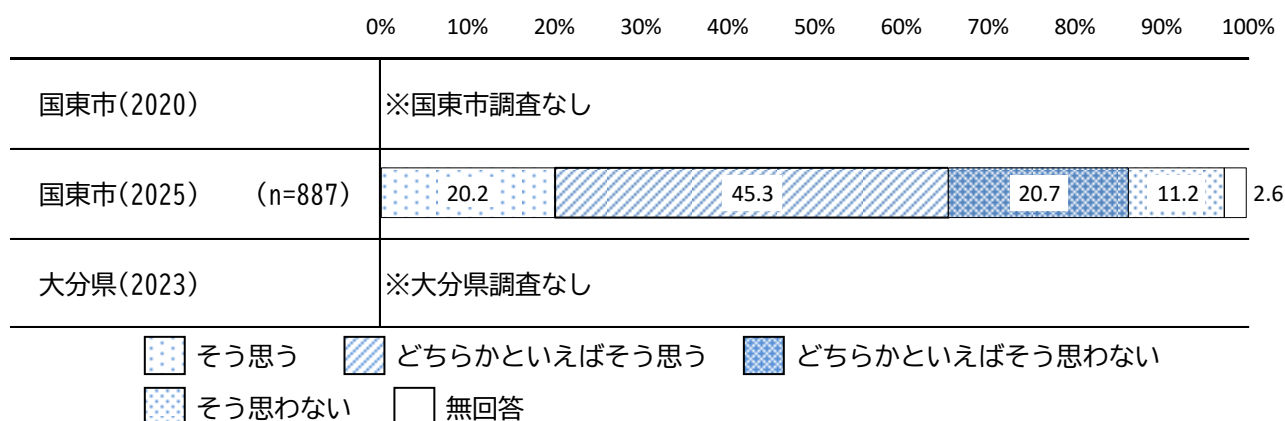
【イ. 罪を犯した少年は成人と同じように処罰すべきである】

SA

上段：構成比 下段：人数

2025 調査結果	そう思う	どちらかといえ ばそう思う	どちらかといえ ばそう思わない	そう思わない	無回答	合計
18～19歳	28.6 2	42.9 3	28.6 2	0.0 0	0.0 0	100.0 7
20～29歳	25.6 10	51.3 20	20.5 8	2.6 1	0.0 0	100.0 39
30～39歳	40.8 20	44.9 22	10.2 5	4.1 2	0.0 0	100.0 49
40～49歳	27.0 20	48.6 36	13.5 10	10.8 8	0.0 0	100.0 74
50～59歳	20.2 20	51.5 51	18.2 18	9.1 9	1.0 1	100.0 99
60～69歳	17.9 32	51.4 92	21.2 38	7.8 14	1.7 3	100.0 179
70～79歳	17.7 43	39.9 97	25.5 62	14.4 35	2.5 6	100.0 243
80歳以上	16.6 32	41.5 80	21.2 41	15.5 30	5.2 10	100.0 193
無回答	0.0 0	25.0 1	0.0 0	0.0 0	75.0 3	100.0 4
全体	20.2 179	45.3 402	20.7 184	11.2 99	2.6 23	100.0 887

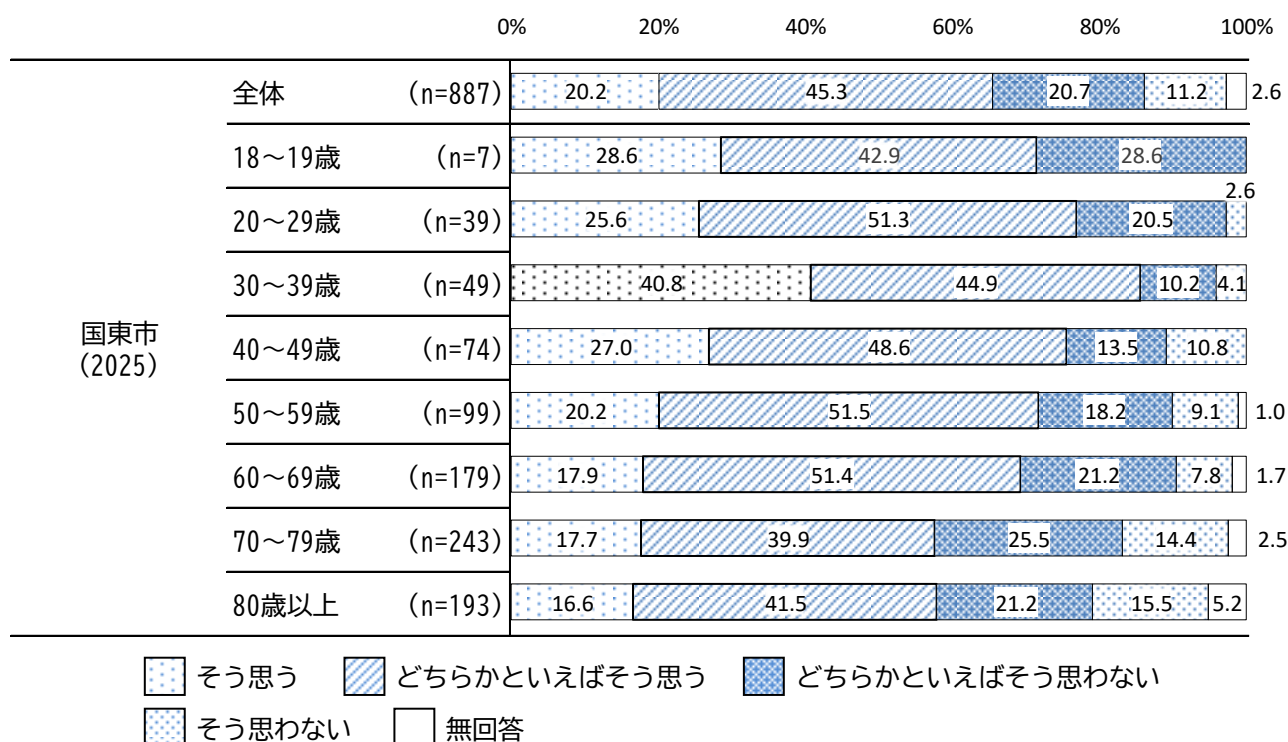
【全体】



■市全体では、罪を犯した少年は成人と同じように処罰すべきであるという考え方について「思う(そう思う+どちらかといえばそう思う)」が 65.5%、「思わない(どちらかといえばそう思わない+そう思わない)」は 31.9%となっており、「思う」が「思わない」を大きく上回っています。

■2020調査はありません。大分県2023調査との比較もありません。

【年代別】



◆年代別では「思う(そう思う+どちらかといえばそう思う)」の割合が最も高いのは30～39歳で 85.7%、次いで20～29歳(76.9%)、40～49歳(75.6%)となっています。「思わない(どちらかといえばそう思わない+そう思わない)」の割合が最も高いのは70～79歳で 39.9%、次いで80歳以上(36.7%)となっています。

◆年代別の2020調査はありません。

◎考察

市全体では、罪を犯した少年は成人と同じように処罰すべきであるという考え方について「思う(そう思う+どちらかといえばそう思う)」が 65.5%と、少年犯罪の厳罰化に肯定的な回答が6割を超えています。年代別に見ると、30～39歳では肯定的意見が 85.7%と極めて高く、厳しい処罰を求める声が突出しています。一方で、70～79歳、80歳以上では肯定派が 50%台後半から 60%台に落ち着いており、年齢によって意識の強さに一定の乖離が見られます。しかし、どの層においても「そう思わない」という否定的な回答は最大でも15.5%に留まっています。このことから、程度の差はあれ、年齢に関わらず「罪の重さに応じた成人同様の処罰」を支持する考えが、社会全体の共通認識として広く浸透していると言えます。

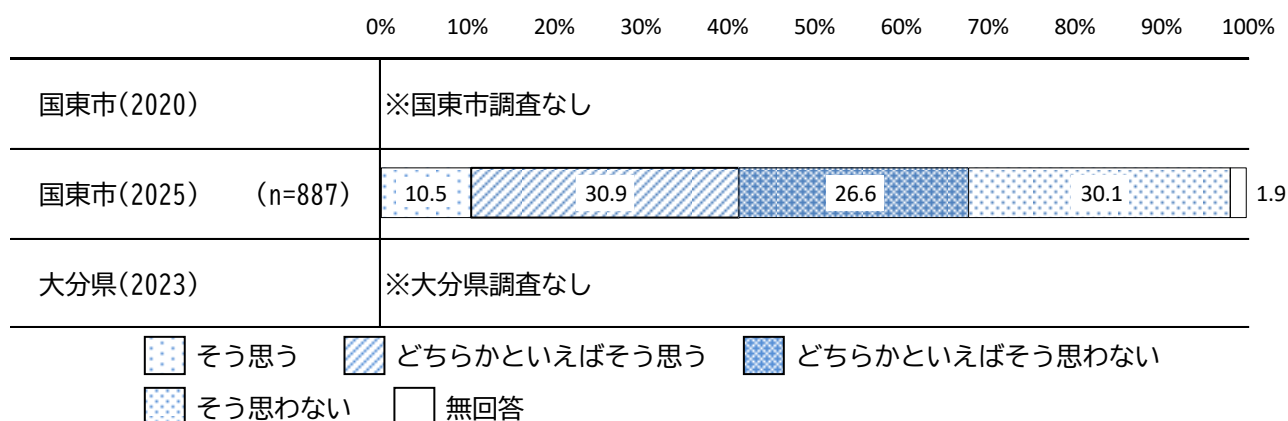
【ウ. 子育ての間は、母親は育児に専念したほうがよい】

SA

上段：構成比 下段：人数

2025 調査結果	そう思う	どちらかといえ ばそう思う	どちらかといえ ばそう思わない	そう思わない	無回答	合計
18～19歳	0.0 0	42.9 3	14.3 1	42.9 3	0.0 0	100.0 7
20～29歳	2.6 1	38.5 15	30.8 12	28.2 11	0.0 0	100.0 39
30～39歳	8.2 4	26.5 13	30.6 15	32.7 16	2.0 1	100.0 49
40～49歳	2.7 2	25.7 19	36.5 27	35.1 26	0.0 0	100.0 74
50～59歳	6.1 6	19.2 19	28.3 28	46.5 46	0.0 0	100.0 99
60～69歳	5.0 9	33.5 60	25.1 45	35.8 64	0.6 1	100.0 179
70～79歳	11.9 29	30.5 74	28.8 70	27.2 66	1.6 4	100.0 243
80歳以上	21.8 42	36.8 71	19.2 37	18.1 35	4.1 8	100.0 193
無回答	0.0 0	0.0 0	25.0 1	0.0 0	75.0 3	100.0 4
全体	10.5 93	30.9 274	26.6 236	30.1 267	1.9 17	100.0 887

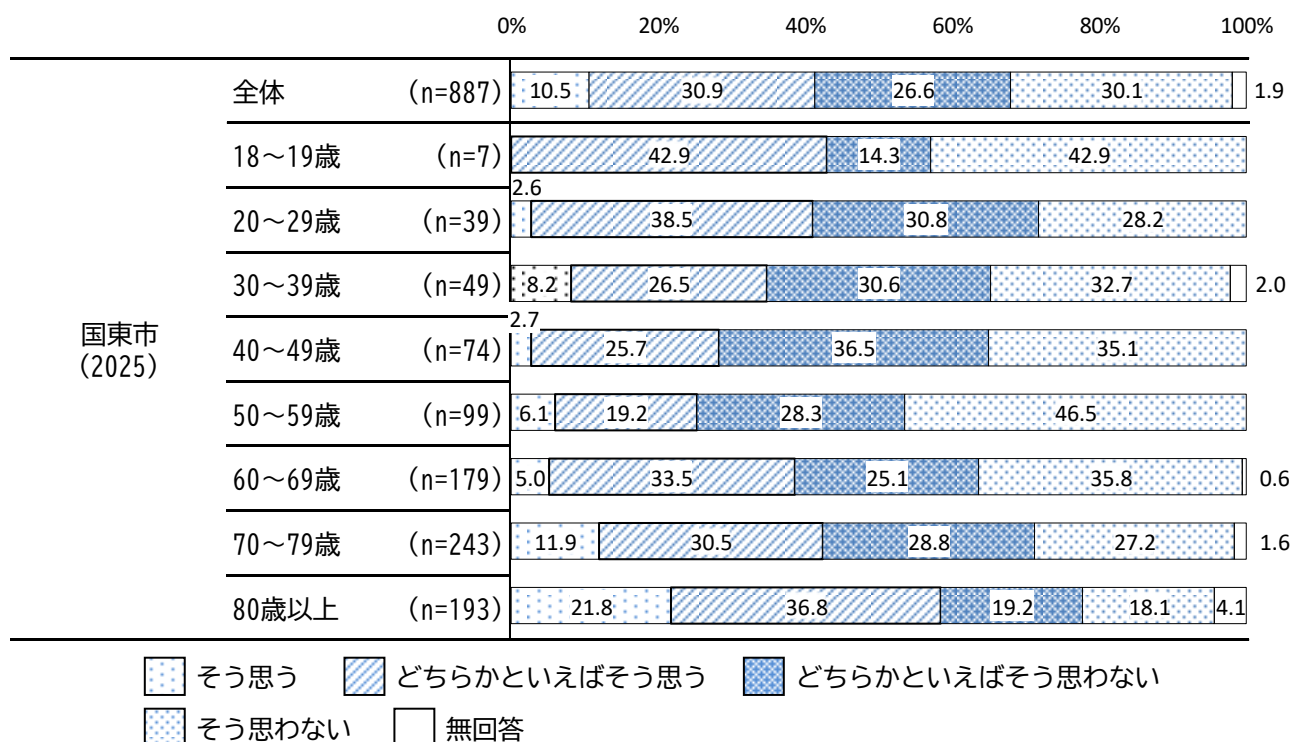
【全体】



■市全体では、子育ての間は、母親は育児に専念したほうがよいという考え方について「思わない(どちらかといえ
ばそう思わない+そう思わない)」が 56.7%、「思う(そう思う+どちらかといえ
ばそう思う)」は 41.4%とな
っており、「思わない」が「思う」を上回っています。

■2020調査はありません。大分県2023調査との比較ありません。

【年代別】



◆年代別では「思わない(どちらかといえばそう思わない+そう思わない)」の割合が最も高いのは50～59歳で74.8%、次いで40～49歳(71.6%)、30～39歳(63.3%)となっています。「思う(そう思う+どちらかといえば思う)」の割合が最も高いのは80歳以上で58.6%、次いで18～19歳(42.9%)となっています。

◆年代別の2020調査はありません。

◎考察

市全体では、「子育ての間は母親は育児に専念したほうがよい」という考え方について、「思わない(どちらかといえばそう思わない+そう思わない)」が6割近くを占めており、母親のみが育児を担うべきとする考え方に対しては否定的な意識がやや上回っています。年代別にみると、高齢層ほど「思う(そう思う+どちらかといえば思う)」の割合が高く、80歳以上では約6割に達しており、従来の性別役割分担意識が根強く残っている状況がうかがえます。一方で、50～59歳以下では否定的な見解が相対的に多く、特に50～59歳では「そう思わない」が5割近くと全世代の中で最も高い水準となっています。

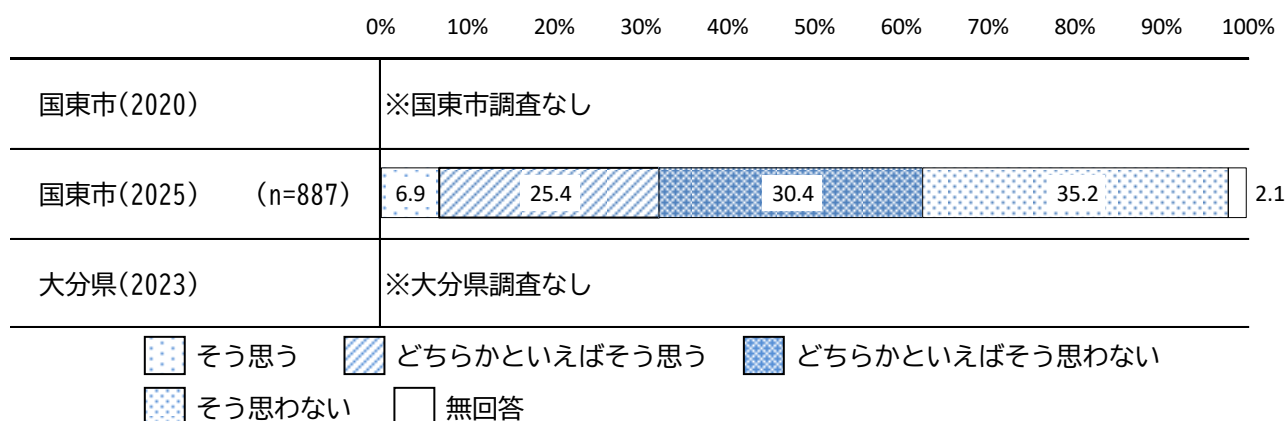
【エ. 女性は結婚したら、夫や子どもなど家庭を中心に考えて生活した方がよい】

SA

上段：構成比 下段：人数

2025 調査結果	そう思う	どちらかといえ ばそう思う	どちらかといえ ばそう思わない	そう思わない	無回答	合計
18～19歳	0.0 0	0.0 0	42.9 3	57.1 4	0.0 0	100.0 7
20～29歳	2.6 1	12.8 5	38.5 15	46.2 18	0.0 0	100.0 39
30～39歳	4.1 2	18.4 9	32.7 16	44.9 22	0.0 0	100.0 49
40～49歳	1.4 1	21.6 16	33.8 25	43.2 32	0.0 0	100.0 74
50～59歳	3.0 3	16.2 16	32.3 32	48.5 48	0.0 0	100.0 99
60～69歳	3.4 6	20.1 36	37.4 67	38.5 69	0.6 1	100.0 179
70～79歳	7.0 17	27.2 66	31.7 77	32.1 78	2.1 5	100.0 243
80歳以上	16.1 31	39.9 77	17.6 34	21.2 41	5.2 10	100.0 193
無回答	0.0 0	0.0 0	25.0 1	0.0 0	75.0 3	100.0 4
全体	6.9 61	25.4 225	30.4 270	35.2 312	2.1 19	100.0 887

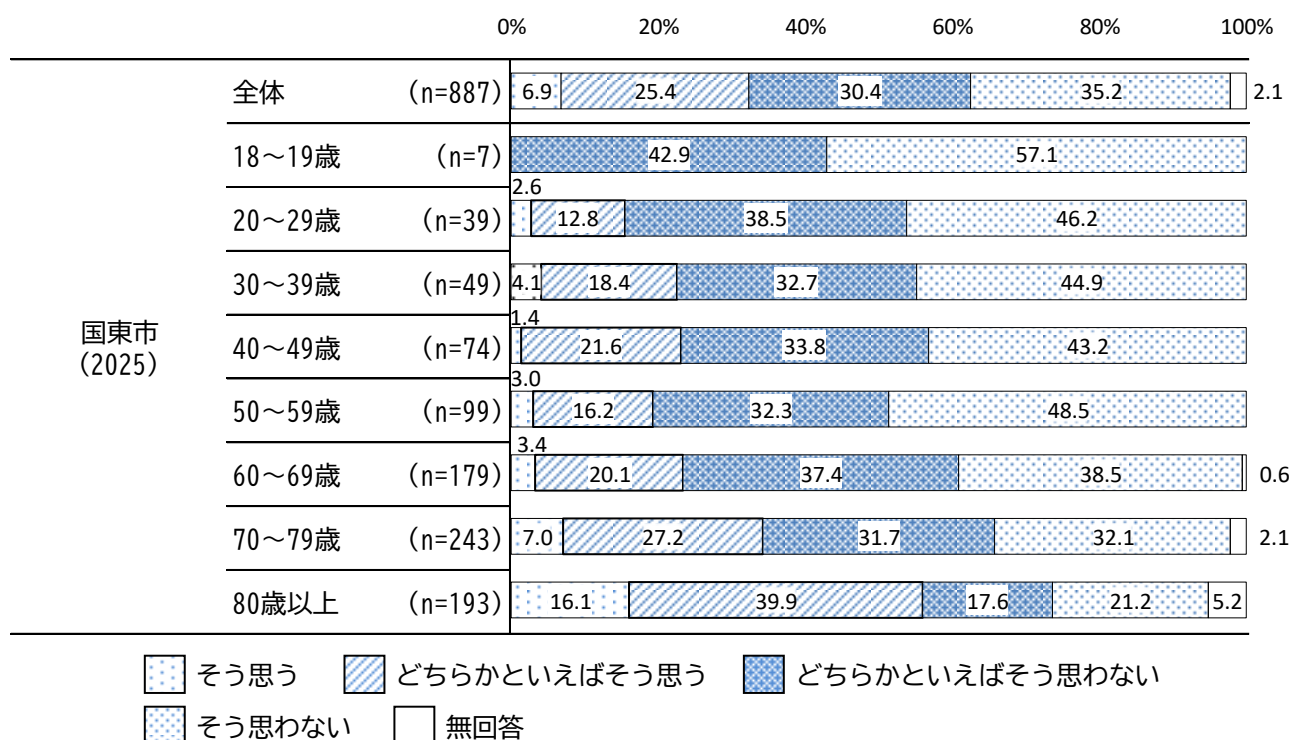
【全体】



■市全体では、女性は結婚したら、夫や子どもなど家庭を中心に考えて生活した方がよいという考え方について「思わない(どちらかといえばそう思わない+そう思わない)」が 65.6%、「思う(そう思う+どちらかといえばそう思う)」は 32.3%となっており、「思わない」が「思う」を上回っています。

■2020調査はありません。大分県2023調査との比較もありません。

【年代別】



◆年代別では「思わない(どちらかといえばそう思わない+そう思わない)」の割合が最も高いのは18～19歳で100.0%、次いで20～29歳(84.7%)、50～59歳(80.8%)となっています。「思う(そう思う+どちらかといえばそう思う)」の割合が最も高いのは80歳以上で56.0%、次いで70～79歳(34.2%)となっています。

◆年代別の2020調査はありません。

◎考察

市全体では、「女性は結婚したら、夫や子どもなど家庭を中心に考えて生活した方がよい」という考え方について、「思わない(どちらかといえばそう思わない+そう思わない)」が6割半ばを占めており、固定的な性別役割分担意識に対しては否定的な見解が主流となっています。特に若年層ほどその傾向が強くみられます。これは、共働き世帯の増加やライフスタイルの多様化により、固定的な性別役割分担意識が薄れ、個人の自己決定権を重んじる人権意識が浸透してきた証と言えます。一方で、80歳以上では肯定派が半数を超えるなど世代間の認識に大きな開きがあります。

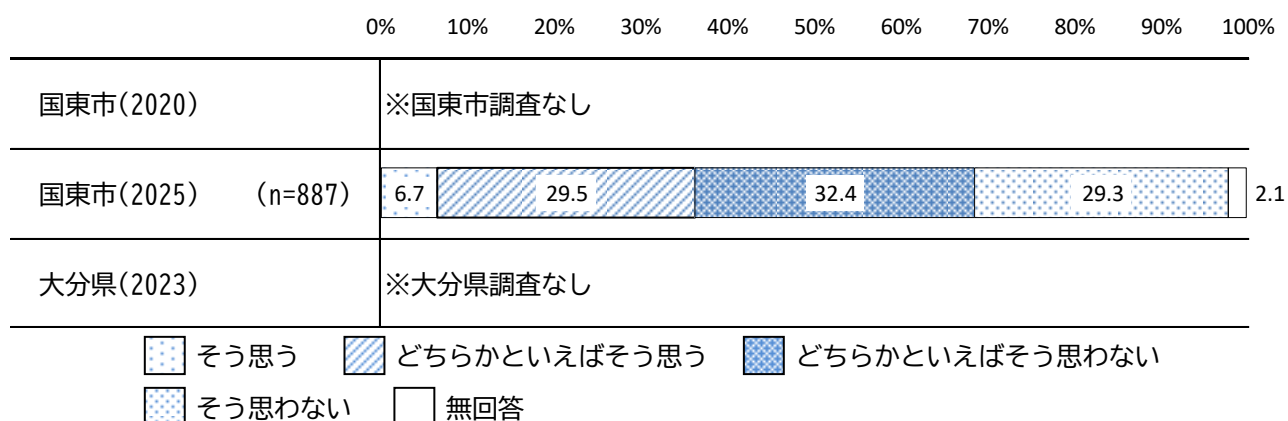
【オ. 歳をとったら、子どもの言うことに従うべきだ】

SA

上段：構成比 下段：人数

2025 調査結果	そう思う	どちらかといえ ばそう思う	どちらかといえ ばそう思わない	そう思わない	無回答	合計
18～19歳	0.0 0	28.6 2	42.9 3	28.6 2	0.0 0	100.0 7
20～29歳	2.6 1	25.6 10	35.9 14	35.9 14	0.0 0	100.0 39
30～39歳	4.1 2	32.7 16	28.6 14	34.7 17	0.0 0	100.0 49
40～49歳	6.8 5	24.3 18	33.8 25	35.1 26	0.0 0	100.0 74
50～59歳	6.1 6	23.2 23	28.3 28	42.4 42	0.0 0	100.0 99
60～69歳	3.4 6	29.6 53	35.8 64	30.2 54	1.1 2	100.0 179
70～79歳	5.8 14	30.9 75	33.3 81	28.0 68	2.1 5	100.0 243
80歳以上	13.0 25	32.6 63	30.1 58	19.2 37	5.2 10	100.0 193
無回答	0.0 0	50.0 2	0.0 0	0.0 0	50.0 2	100.0 4
全体	6.7 59	29.5 262	32.4 287	29.3 260	2.1 19	100.0 887

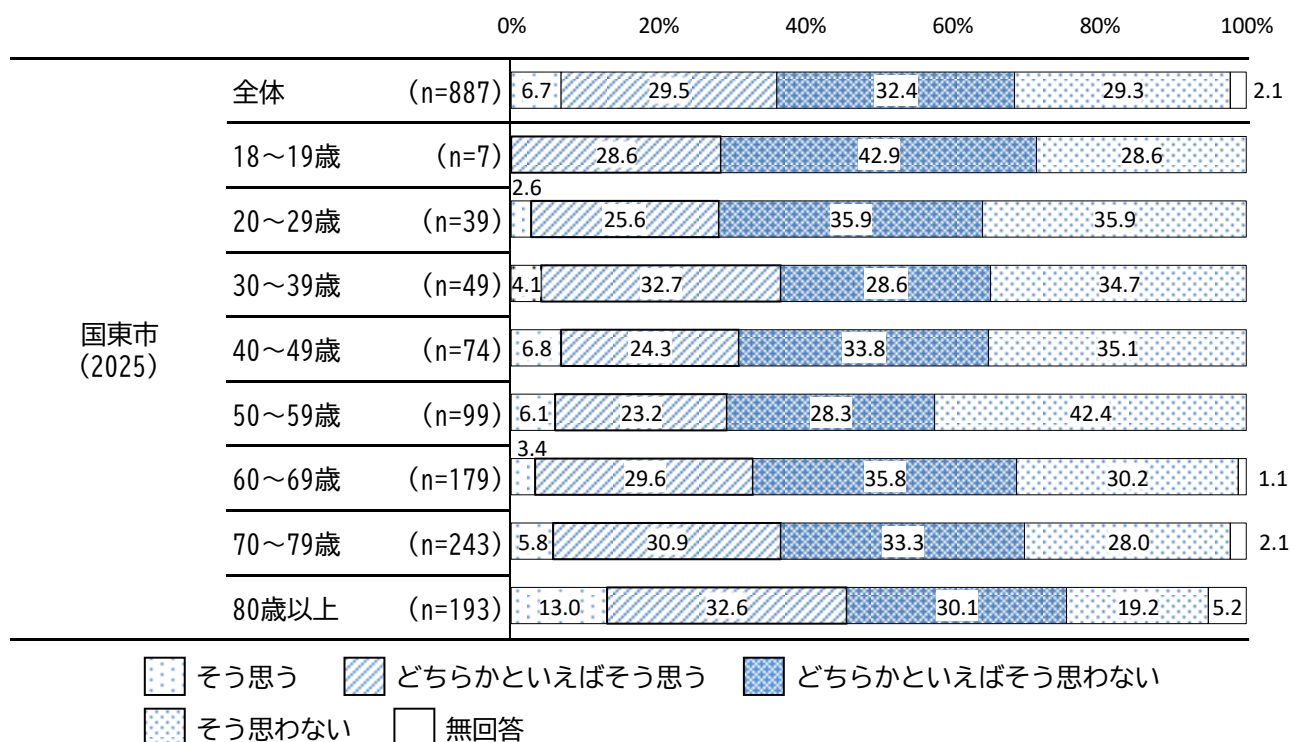
【全体】



■市全体では、歳をとったら、子どもの言うことに従うべきという考え方について「思わない(どちらかといえばそう思わない+そう思わない)」が 61.7%、「思う(そう思う+どちらかといえばそう思う)」は 36.2%となっており、「思わない」が「思う」を上回っています。

■2020調査はありません。大分県2023調査との比較もありません。

【年代別】



◆年代別では「思わない(どちらかといえばそう思わない+そう思わない)」の割合が最も高いのは20～29歳で71.8%、次いで18～19歳(71.5%)、50～59歳(70.7%)となっています。「思う(そう思う+どちらかといえば思う)」の割合が最も高いのは80歳以上で45.6%、次いで30～39歳(36.8%)となっています。

◆年代別の2020調査はありません。

◎考察

市全体では、「歳をとったら、子どもの言うことに従うべき」という考え方について、「思わない(どちらかといえばそう思わない+そう思わない)」が6割程度を占めており、高齢者の意思を大切にしたいとする意識が主流となっています。一方で、年代別にみると、80歳以上では「思う(そう思う+どちらかといえば思う)」が他の年代と比べて高い傾向にあり、家族の意向を尊重すべきとする考え方も一定程度みられます。

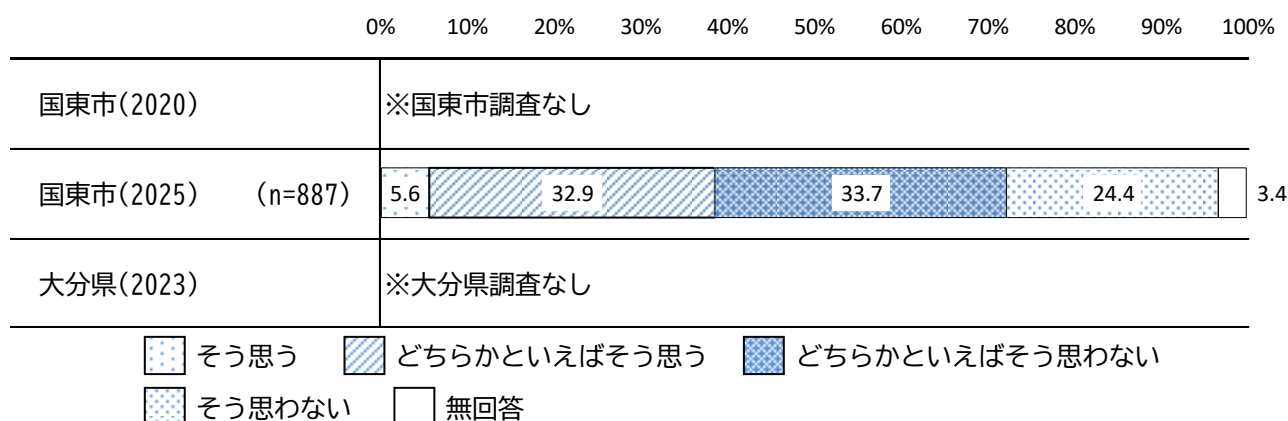
【カ. 障がい者の求人が少ないのは仕方がない】

SA

上段：構成比 下段：人数

2025 調査結果	そう思う	どちらかといえ ばそう思う	どちらかといえ ばそう思わない	そう思わない	無回答	合計
18～19歳	14.3 1	42.9 3	0.0 0	42.9 3	0.0 0	100.0 7
20～29歳	0.0 0	46.2 18	28.2 11	25.6 10	0.0 0	100.0 39
30～39歳	12.2 6	30.6 15	38.8 19	16.3 8	2.0 1	100.0 49
40～49歳	4.1 3	43.2 32	28.4 21	24.3 18	0.0 0	100.0 74
50～59歳	5.1 5	33.3 33	27.3 27	33.3 33	1.0 1	100.0 99
60～69歳	1.7 3	34.1 61	35.8 64	26.3 47	2.2 4	100.0 179
70～79歳	6.2 15	29.6 72	36.2 88	23.9 58	4.1 10	100.0 243
80歳以上	8.8 17	30.1 58	35.2 68	20.2 39	5.7 11	100.0 193
無回答	0.0 0	0.0 0	25.0 1	0.0 0	75.0 3	100.0 4
全体	5.6 50	32.9 292	33.7 299	24.4 216	3.4 30	100.0 887

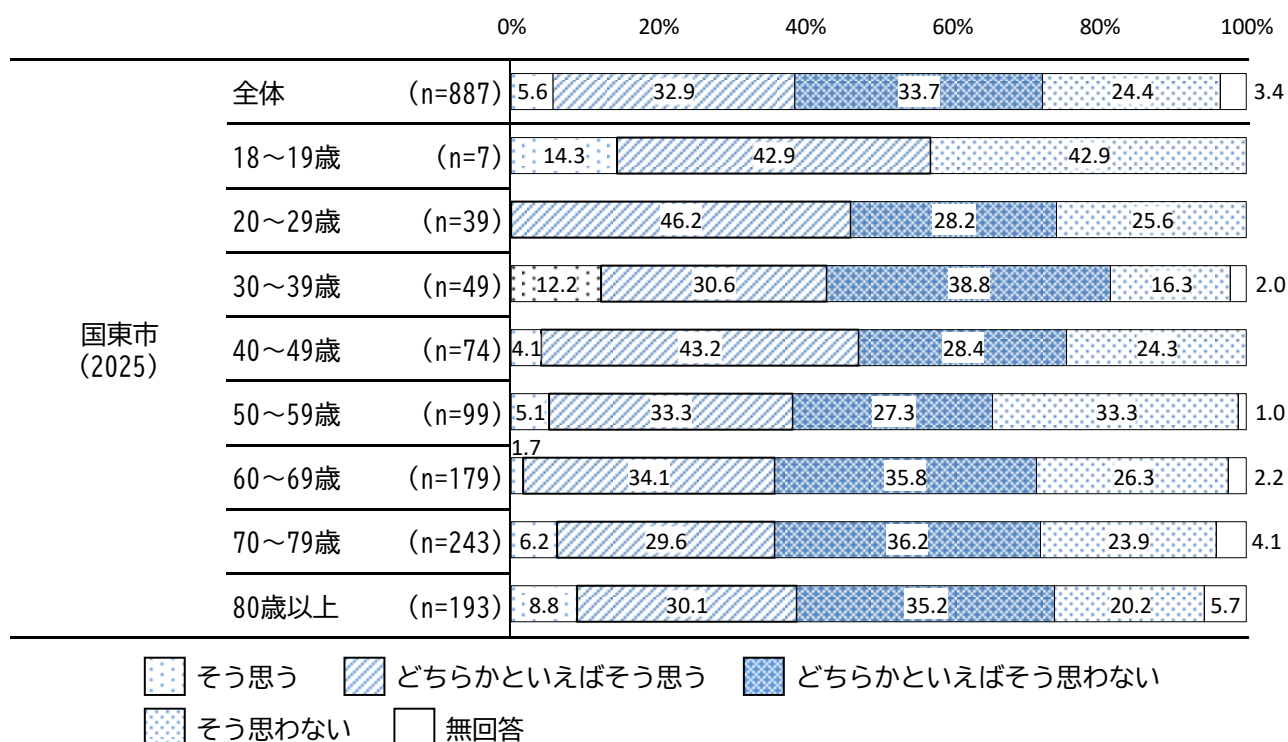
【全体】



■市全体では、障がい者の求人が少ないのは仕方がないという考え方について「思わない(どちらかといえばそう思わない+そう思わない)」が 58.1%、「思う(そう思う+どちらかといえばそう思う)」は 38.5%となっており、「思わない」が「思う」を上回っています。

■2020調査はありません。大分県2023調査との比較もありません。

【年代別】



◆年代別では「思わない(どちらかといえばそう思わない+そう思わない)」の割合が最も高いのは60～69歳で62.1%、次いで50～59歳(60.6%)、70～79歳(60.1%)となっています。「思う(そう思う+どちらかといえばそう思う)」の割合が最も高いのは18～19歳で57.2%、次いで40～49歳(47.3%)となっています。

◆年代別の2020調査はありません。

◎考察

市全体では、「障がい者の求人が少ないのは仕方がない」という考え方について、「思わない(どちらかといえばそう思わない+そう思わない)」が6割近くを占めており、障がいの有無にかかわらず雇用機会は確保されるべきであるとする意識が一定程度広がっていることがうかがえます。年代別では40～49歳以下で「思う(そう思う+どちらかといえばそう思う)」の割合が4割を超えています。

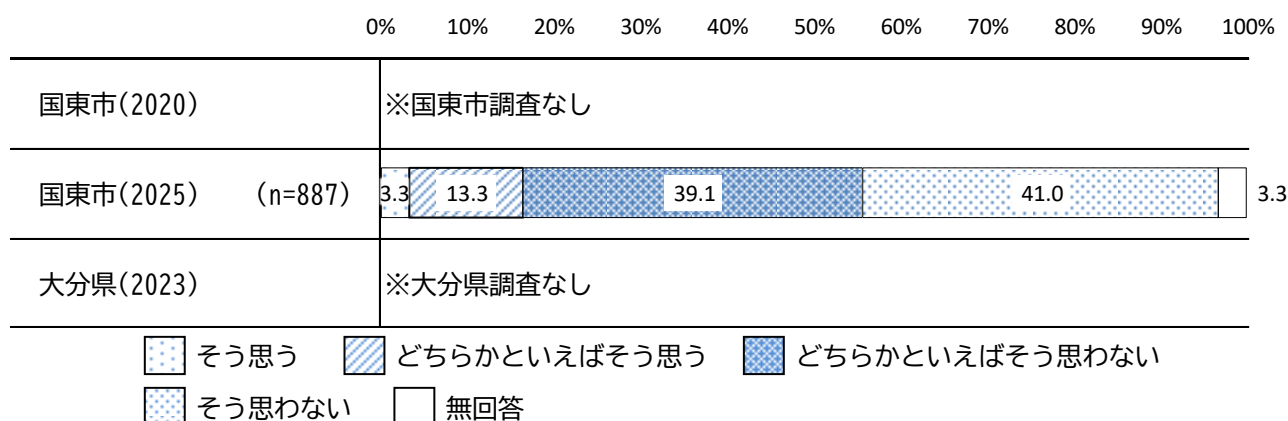
【キ. 外国人や外国籍の人は、仕事をする上で、少々待遇が悪くても仕方がない】

SA

上段：構成比 下段：人数

2025 調査結果	そう思う	どちらかといえ ばそう思う	どちらかといえ ばそう思わない	そう思わない	無回答	合計
18～19歳	0.0 0	14.3 1	28.6 2	57.1 4	0.0 0	100.0 7
20～29歳	0.0 0	12.8 5	56.4 22	30.8 12	0.0 0	100.0 39
30～39歳	12.2 6	16.3 8	34.7 17	36.7 18	0.0 0	100.0 49
40～49歳	2.7 2	17.6 13	39.2 29	40.5 30	0.0 0	100.0 74
50～59歳	2.0 2	8.1 8	39.4 39	49.5 49	1.0 1	100.0 99
60～69歳	1.1 2	14.5 26	39.1 70	43.0 77	2.2 4	100.0 179
70～79歳	4.1 10	8.2 20	40.7 99	44.0 107	2.9 7	100.0 243
80歳以上	3.6 7	19.2 37	35.8 69	34.2 66	7.3 14	100.0 193
無回答	0.0 0	0.0 0	0.0 0	25.0 1	75.0 3	100.0 4
全体	3.3 29	13.3 118	39.1 347	41.0 364	3.3 29	100.0 887

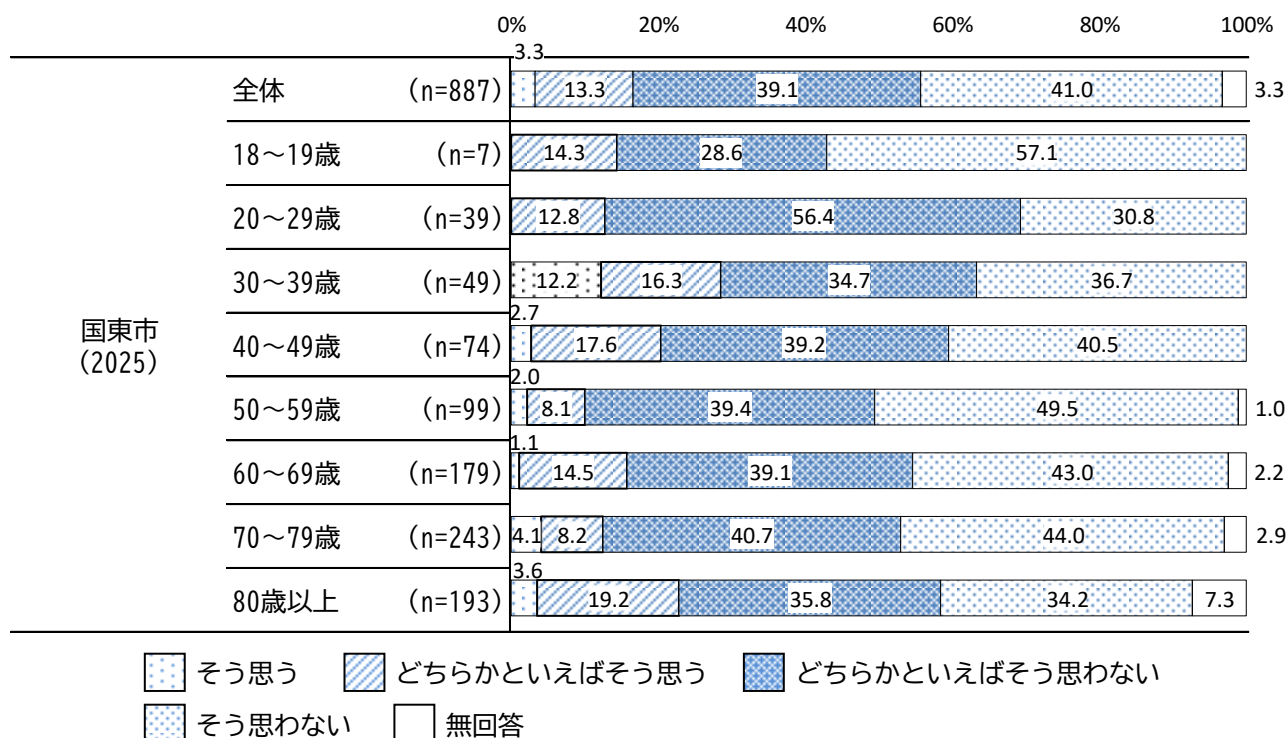
【全体】



■市全体では、外国人や外国籍の人は、仕事をする上で、少々待遇が悪くても仕方がないという考え方について「思わない(どちらかといえはそう思わない+そう思わない)」が 80.1%、「思う(そう思う+どちらかといえはそう思う)」は 16.6%となっており、約8割の人が思わないと答えています。

■2020調査はありません。大分県2023調査との比較もありません。

【年代別】



◆年代別では「思わない(どちらかといえばそう思わない+そう思わない)」の割合が最も高いのは50～59歳で88.9%、次いで20～29歳(87.2%)、18～19歳(85.7%)となっています。「思う(そう思う+どちらかといえばそう思う)」の割合が最も高いのは30～39歳で28.5%、次いで80歳以上(22.8%)となっています。

◆年代別の2020調査はありません。

◎考察

市全体では、「外国人や外国籍の人は、仕事をする上で少々待遇が悪くても仕方がない」という考え方について、「思わない(どちらかといえばそう思わない+そう思わない)」が8割程度を占めており、国籍にかかわらず公正な待遇が必要であるとする意識が広く共有されていることがうかがえます。年代別にみると、20～29歳では「そう思う」と回答した人がみられず、この年代においては否定的な意識が特に強い結果となっています。一方で、30～39歳では「そう思う」が1割を超えるなど、年代によって意識に差がみられる結果となっています。

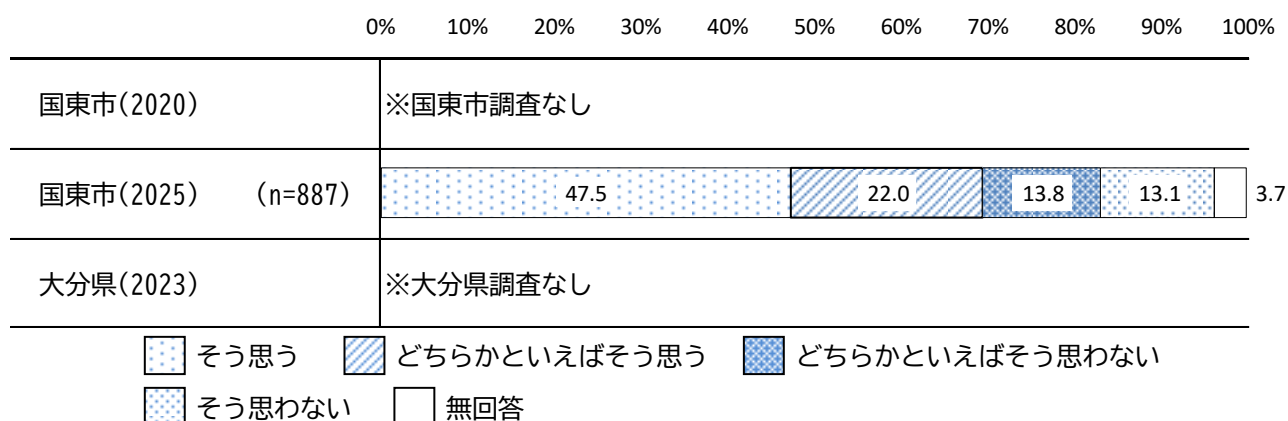
【ク. ヘイトスピーチは、どんな理由があっても許されない】

SA

上段：構成比 下段：人数

2025 調査結果	そう思う	どちらかといえ ばそう思う	どちらかといえ ばそう思わない	そう思わない	無回答	合計
18～19歳	42.9 3	42.9 3	14.3 1	0.0 0	0.0 0	100.0 7
20～29歳	51.3 20	28.2 11	7.7 3	12.8 5	0.0 0	100.0 39
30～39歳	40.8 20	28.6 14	18.4 9	12.2 6	0.0 0	100.0 49
40～49歳	58.1 43	24.3 18	9.5 7	8.1 6	0.0 0	100.0 74
50～59歳	59.6 59	25.3 25	5.1 5	10.1 10	0.0 0	100.0 99
60～69歳	48.0 86	28.5 51	15.1 27	7.3 13	1.1 2	100.0 179
70～79歳	47.7 116	14.8 36	16.5 40	18.1 44	2.9 7	100.0 243
80歳以上	37.3 72	19.2 37	15.5 30	16.6 32	11.4 22	100.0 193
無回答	50.0 2	0.0 0	0.0 0	0.0 0	50.0 2	100.0 4
全体	47.5 421	22.0 195	13.8 122	13.1 116	3.7 33	100.0 887

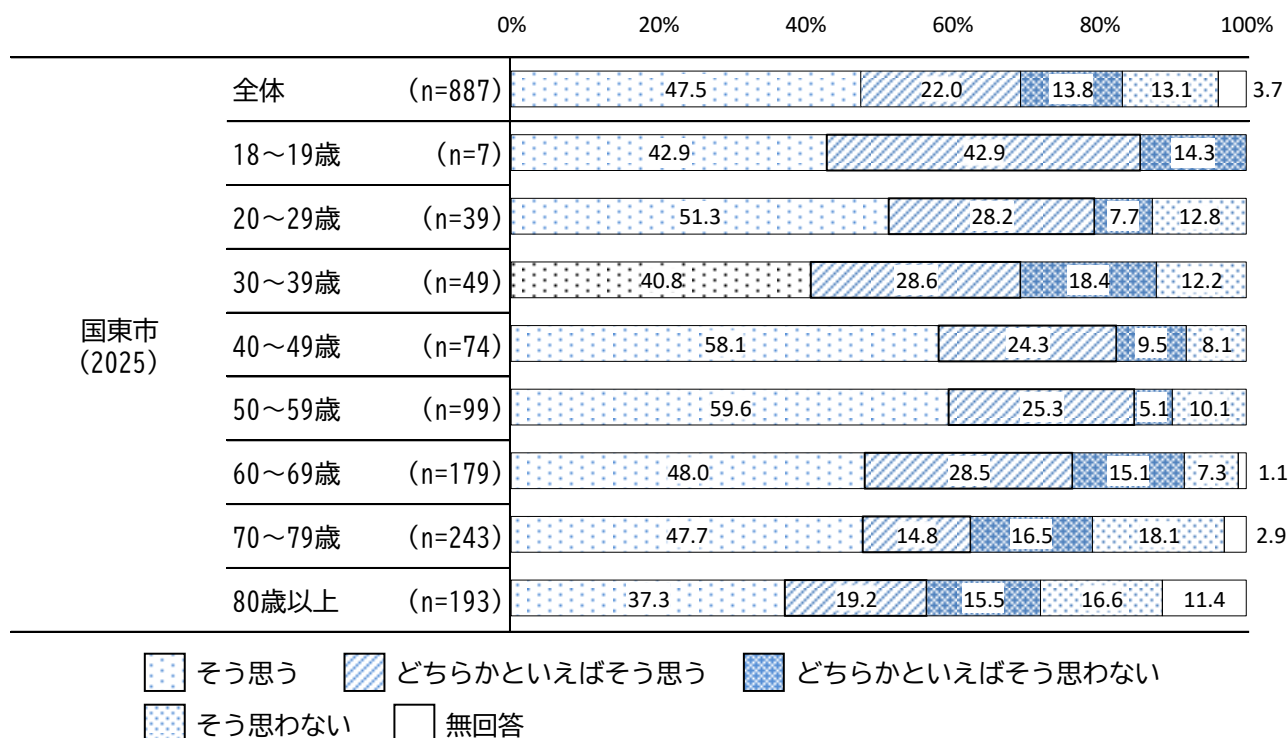
【全体】



■市全体では、ヘイトスピーチは、どんな理由があっても許されないという考え方について「思う(そう思う+どちらかといえ
ばそう思う)」が 69.5%、「思わない(どちらかといえ
ばそう思わない+そう思わない)」は 26.9%とな
っており、「思う」が「思わない」を上回っています。

■2020調査はありません。大分県2023調査との比較ありません。

【年代別】



◆年代別では「思う(思う+どちらかといえば思う)」の割合が最も高いのは18～19歳で 85.8%、次いで50～59歳(84.9%)、40～49歳(82.4%)となっています。「思わない(どちらかといえばそう思わない+そう思わない)」の割合が最も高いのは70～79歳で 34.6%、次いで80歳以上(32.1%)となっています。

◆年代別の2020調査はありません。

◎考察

市全体では、「ヘイトスピーチは、どんな理由があっても許されない」という考え方について、「思う(思う+どちらかといえば思う)」が7割程度を占めており、ヘイトスピーチを容認しない意識が広がっていることがうかがえます。年代別では18～19歳、40～49歳、50～59歳で「思う」の割合が8割以上と高くなっています。一方、80歳以上ではその割合が6割弱に留まるなど、世代間で意識の差が見られます。

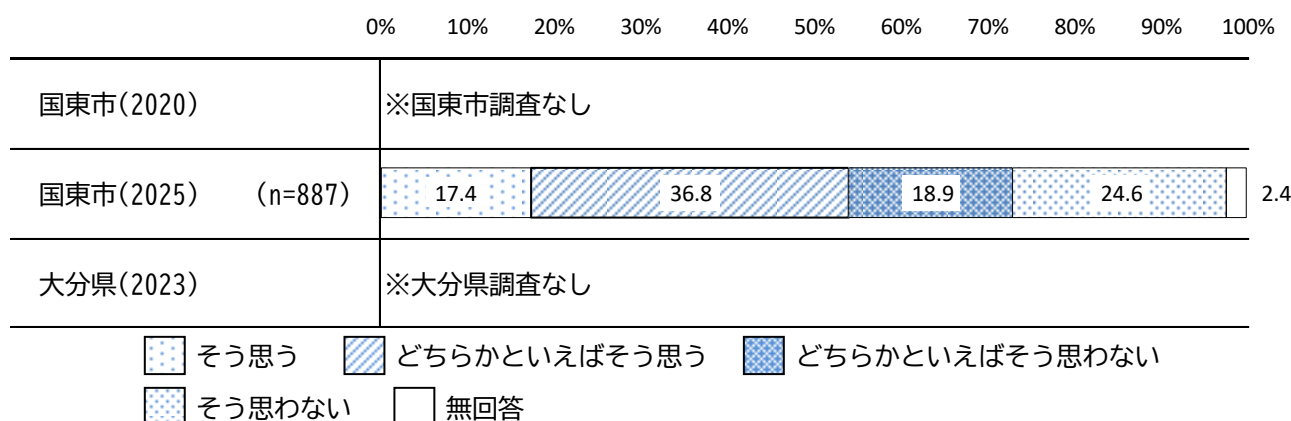
【ケ. 結婚式を行うとき、大安、仏滅などにこだわる】

SA

上段：構成比 下段：人数

2025 調査結果	そう思う	どちらかといえ ばそう思う	どちらかといえ ばそう思わない	そう思わない	無回答	合計
18～19歳	0.0 0	71.4 5	0.0 0	28.6 2	0.0 0	100.0 7
20～29歳	7.7 3	38.5 15	20.5 8	33.3 13	0.0 0	100.0 39
30～39歳	24.5 12	34.7 17	20.4 10	20.4 10	0.0 0	100.0 49
40～49歳	13.5 10	35.1 26	20.3 15	31.1 23	0.0 0	100.0 74
50～59歳	13.1 13	39.4 39	24.2 24	23.2 23	0.0 0	100.0 99
60～69歳	7.3 13	39.7 71	23.5 42	27.4 49	2.2 4	100.0 179
70～79歳	20.2 49	35.0 85	15.6 38	27.6 67	1.6 4	100.0 243
80歳以上	28.0 54	34.7 67	16.1 31	16.1 31	5.2 10	100.0 193
無回答	0.0 0	25.0 1	0.0 0	0.0 0	75.0 3	100.0 4
全体	17.4 154	36.8 326	18.9 168	24.6 218	2.4 21	100.0 887

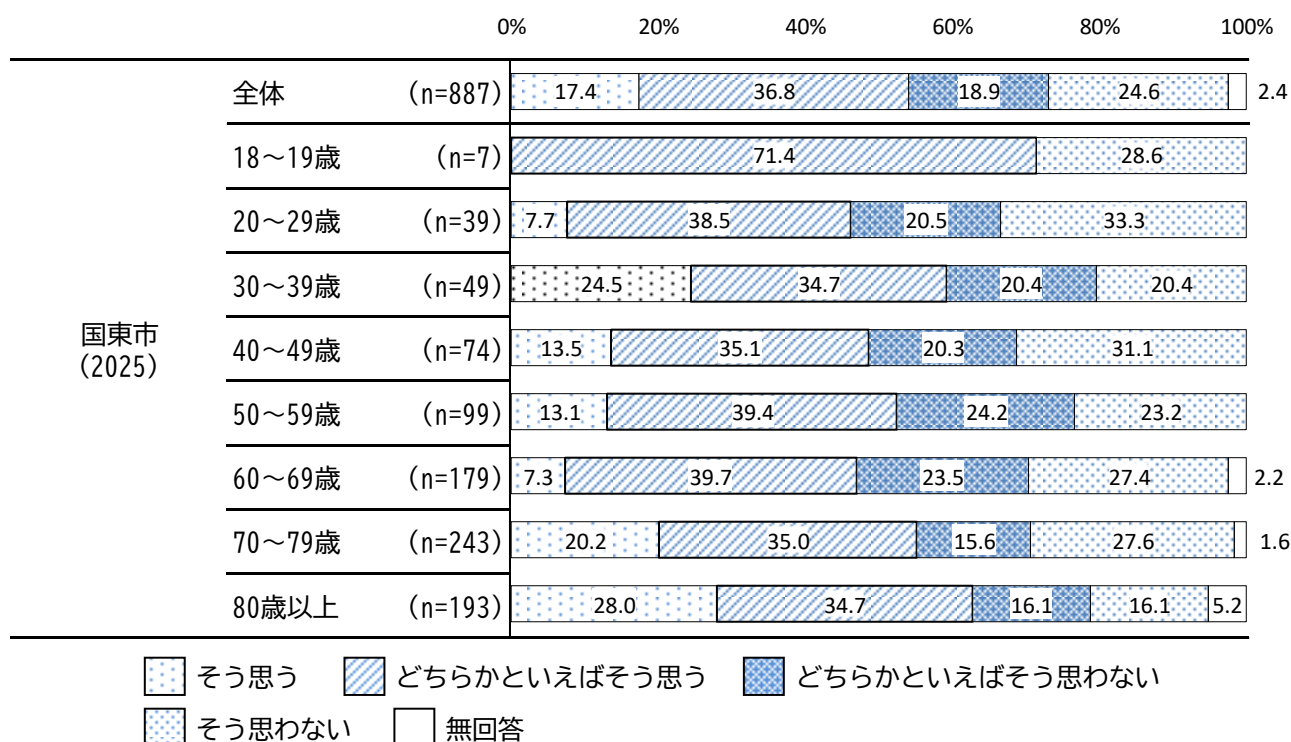
【全体】



■市全体では、結婚式を行うとき、大安、仏滅などにこだわるという考え方について「思う(そう思う+どちらかといえばそう思う)」が 54.2%、「思わない(どちらかといえばそう思わない+そう思わない)」は 43.5%となっており、「思う」が「思わない」を上回っています。

■2020調査はありません。大分県2023調査との比較もありません。

【年代別】



- ◆年代別では「思う(思う+どちらかといえば思う)」の割合が最も高いのは18～19歳で 71.4%、次いで 80歳以上(62.7%)、30～39歳(59.2%)となっています。「思わない(どちらかといえばそう思わない+そう思わない)」の割合が最も高いのは20～29歳で 53.8%、次いで40～49歳(51.4%)となっています。

- ◆年代別の2020調査はありません。

◎考察

市全体では、結婚式を行う際に大安や仏滅などにこだわるという考え方について、「思う(思う+どちらかといえば思う)」が5割半ばとなっており、暦に基づく慣習を重視する意識が一定程度みられます。年代別にみると、30～39歳では「思う」の割合が6割近くと比較的高く、こうした慣習が若年層においてもなお根強く残っている状況がうかがえます。

問7 あなたが、住宅を購入したり、借りたりするなど、住まいを選ぶ際に、価格や立地条件が希望にあっても、次のア～カの条件の場合、避けることがありますか。

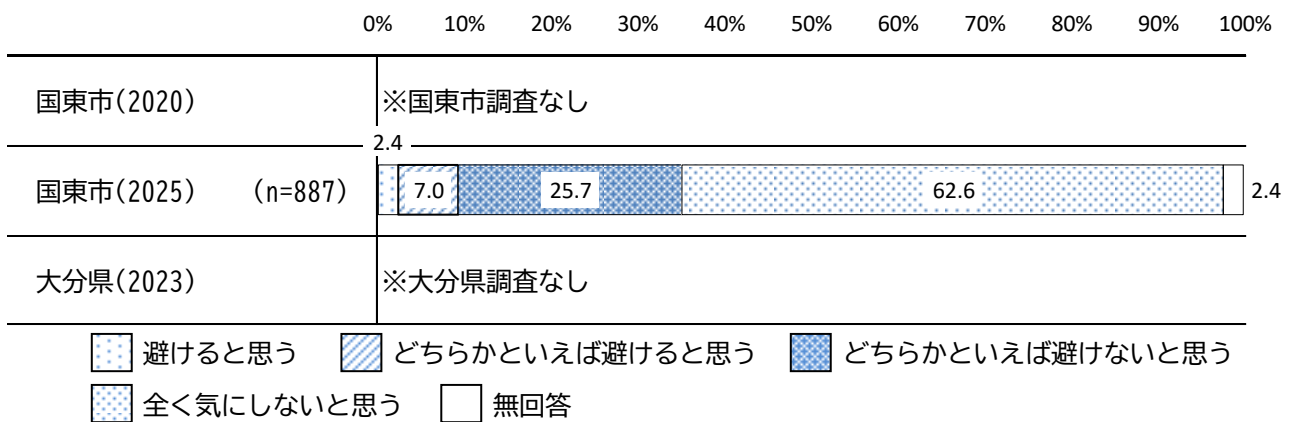
【ア. 近隣に老人ホームなどの高齢者施設がある】

SA

上段：構成比 下段：人数

2025 調査結果	避けると思う	どちらかといえ ば避けると思う	どちらかといえ ば避けないと思 う	全く気にしない と思う	無回答	合計
18～19歳	0.0 0	0.0 0	71.4 5	28.6 2	0.0 0	100.0 7
20～29歳	0.0 0	7.7 3	23.1 9	69.2 27	0.0 0	100.0 39
30～39歳	2.0 1	8.2 4	22.4 11	65.3 32	2.0 1	100.0 49
40～49歳	0.0 0	9.5 7	32.4 24	58.1 43	0.0 0	100.0 74
50～59歳	4.0 4	9.1 9	27.3 27	58.6 58	1.0 1	100.0 99
60～69歳	2.8 5	5.0 9	27.9 50	62.0 111	2.2 4	100.0 179
70～79歳	2.9 7	9.5 23	23.0 56	63.8 155	0.8 2	100.0 243
80歳以上	2.1 4	3.6 7	23.8 46	65.8 127	4.7 9	100.0 193
無回答	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	100.0 4	100.0 4
全体	2.4 21	7.0 62	25.7 228	62.6 555	2.4 21	100.0 887

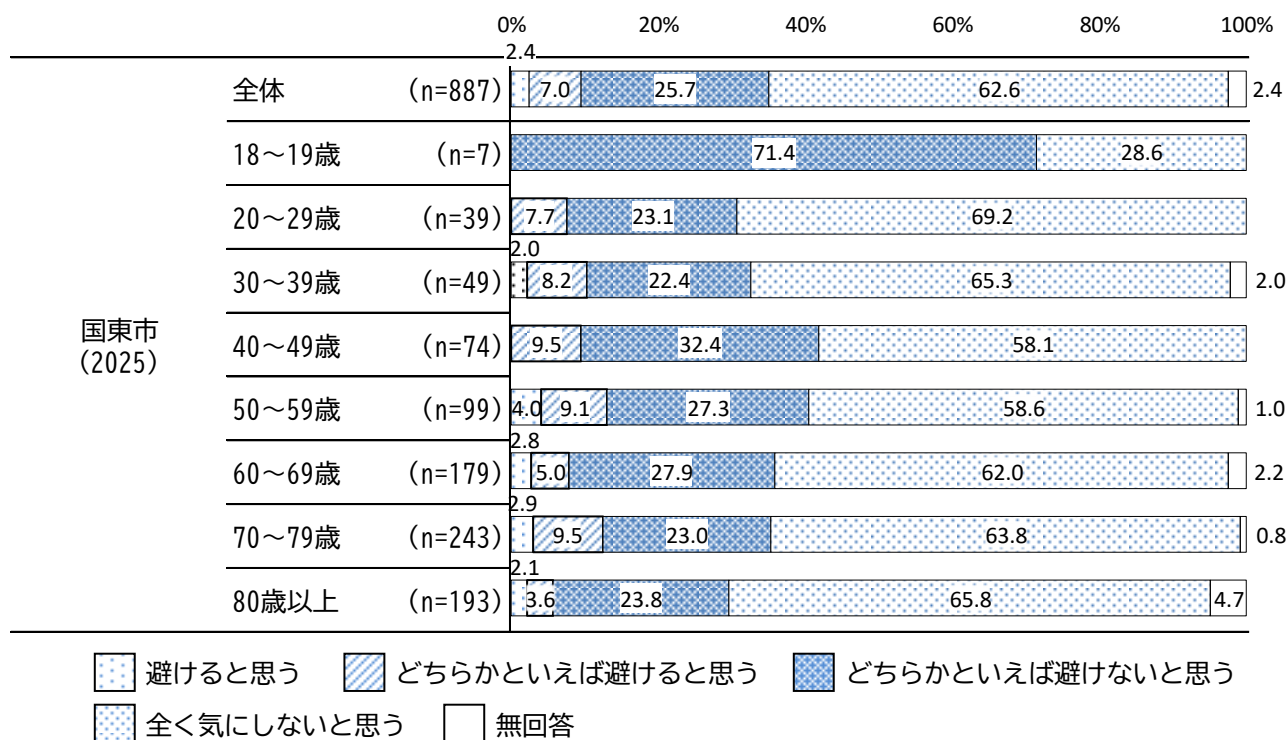
【全体】



■市全体では、近隣に老人ホームなどの高齢者施設があることで居住を避けるかについて「避けない(どちらかといえど避けないと思う+全く気にしないと思う)」が 88.3%となっており、約9割の人が避けないと答えています。

■2020調査はありません。大分県2023調査との比較ありません。

【年代別】



◆年代別では、「避けない(どちらかといえば避けないと思う+全く気にしないと思う)」の割合が最も高いのは18～19歳で 100.0%、次いで20～29歳(92.3%)、40～49歳(90.5%)となっています。割合が最も低いのは50～59歳で 85.9%、次いで70～79歳(86.8%)となっています。

◆年代別の2020調査はありません。

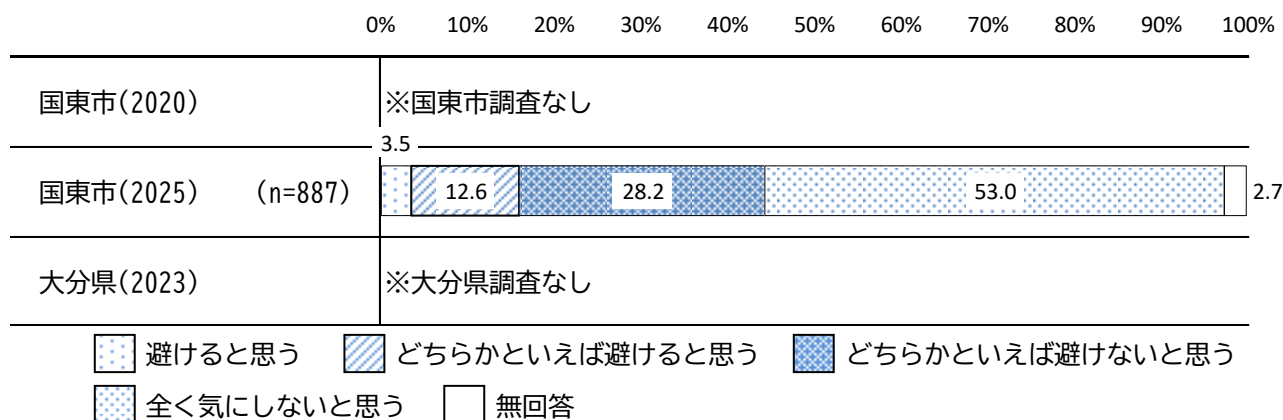
【イ. 近隣に障がい者施設がある】

SA

上段：構成比 下段：人数

2025 調査結果	避けると思う	どちらかといえ ば避けると思う	どちらかといえ ば避けないと思 う	全く気にしない と思う	無回答	合計
18～19歳	0.0 0	14.3 1	57.1 4	28.6 2	0.0 0	100.0 7
20～29歳	0.0 0	15.4 6	25.6 10	59.0 23	0.0 0	100.0 39
30～39歳	10.2 5	16.3 8	32.7 16	38.8 19	2.0 1	100.0 49
40～49歳	4.1 3	20.3 15	24.3 18	51.4 38	0.0 0	100.0 74
50～59歳	4.0 4	7.1 7	34.3 34	53.5 53	1.0 1	100.0 99
60～69歳	3.4 6	8.9 16	33.0 59	52.5 94	2.2 4	100.0 179
70～79歳	3.3 8	14.0 34	23.0 56	58.4 142	1.2 3	100.0 243
80歳以上	2.6 5	13.0 25	27.5 53	51.3 99	5.7 11	100.0 193
無回答	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	100.0 4	100.0 4
全体	3.5 31	12.6 112	28.2 250	53.0 470	2.7 24	100.0 887

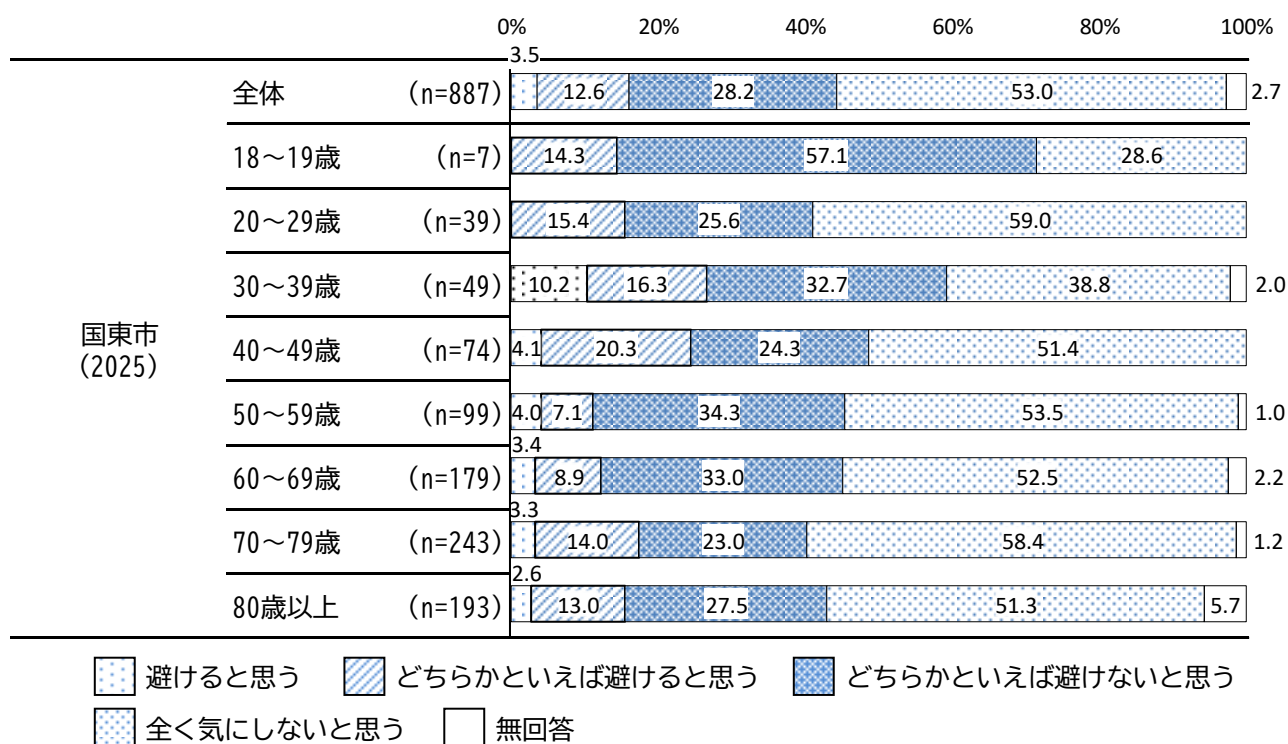
【全体】



■市全体では、近隣に障がい者施設があることで居住を避けるかについて「避けない(どちらかといえ
ば避けないと思う+全く気にしないと思う)」が81.2%となっており、約8割の人が避けないと答えています。

■2020調査はありません。大分県2023調査との比較もありません。

【年代別】



◆年代別では、「避けない(どちらかといえば避けないと思う+全く気にしないと思う)」の割合が最も高いのは50～59歳で 87.8%、次いで18～19歳(85.7%)、60～69歳(85.5%)となっています。割合が最も低いのは30～39歳で 71.5%、次いで40～49歳(75.7%)となっています。

◆年代別の2020調査はありません。

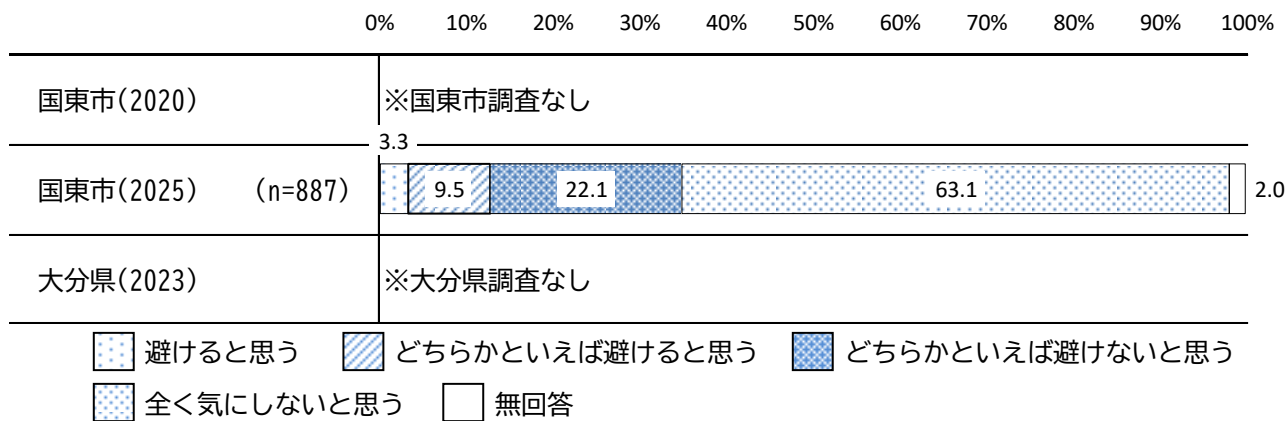
【ウ. 近隣に保育所(園)や幼稚園がある】

SA

上段：構成比 下段：人数

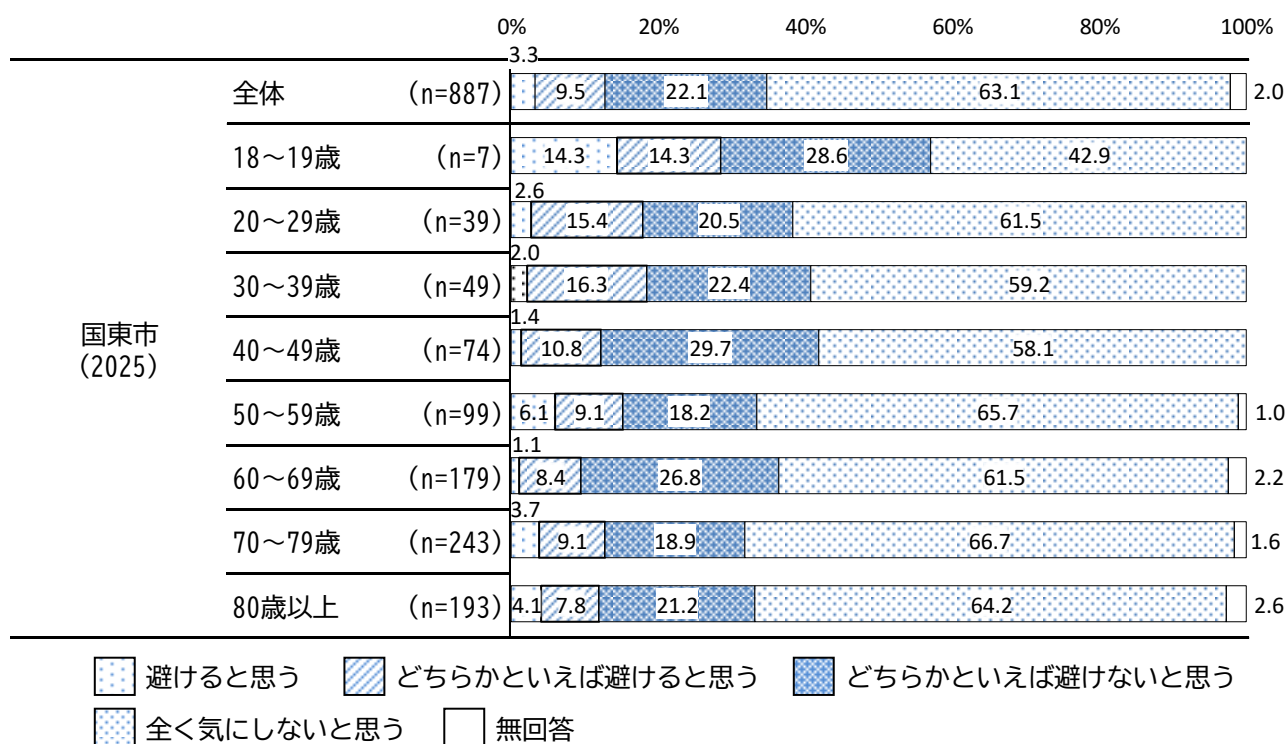
2025 調査結果	避けると思う	どちらかといえ ば避けると思う	どちらかといえ ば避けないと思 う	全く気にしない と思う	無回答	合計
18～19歳	14.3 1	14.3 1	28.6 2	42.9 3	0.0 0	100.0 7
20～29歳	2.6 1	15.4 6	20.5 8	61.5 24	0.0 0	100.0 39
30～39歳	2.0 1	16.3 8	22.4 11	59.2 29	0.0 0	100.0 49
40～49歳	1.4 1	10.8 8	29.7 22	58.1 43	0.0 0	100.0 74
50～59歳	6.1 6	9.1 9	18.2 18	65.7 65	1.0 1	100.0 99
60～69歳	1.1 2	8.4 15	26.8 48	61.5 110	2.2 4	100.0 179
70～79歳	3.7 9	9.1 22	18.9 46	66.7 162	1.6 4	100.0 243
80歳以上	4.1 8	7.8 15	21.2 41	64.2 124	2.6 5	100.0 193
無回答	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	100.0 4	100.0 4
全体	3.3 29	9.5 84	22.1 196	63.1 560	2.0 18	100.0 887

【全体】



- 市全体では、近隣に保育所(園)や幼稚園があることで居住を避けるかについて「避けない(どちらかといえば避けないと思う+全く気にしないと思う)」が85.2%となっており、約8割の人が避けないと答えています。
- 2020調査はありません。大分県2023調査との比較もありません。

【年代別】



◆年代別では、「避けない(どちらかといえば避けないと思う+全く気にしないと思う)」の割合が最も高いのは60～69歳で 88.3%、次いで40～49歳(87.8%)、70～79歳(85.6%)となっています。割合が最も低いのは18～19歳で 71.5%、次いで30～39歳(81.6%)となっています。

◆年代別の2020調査はありません。

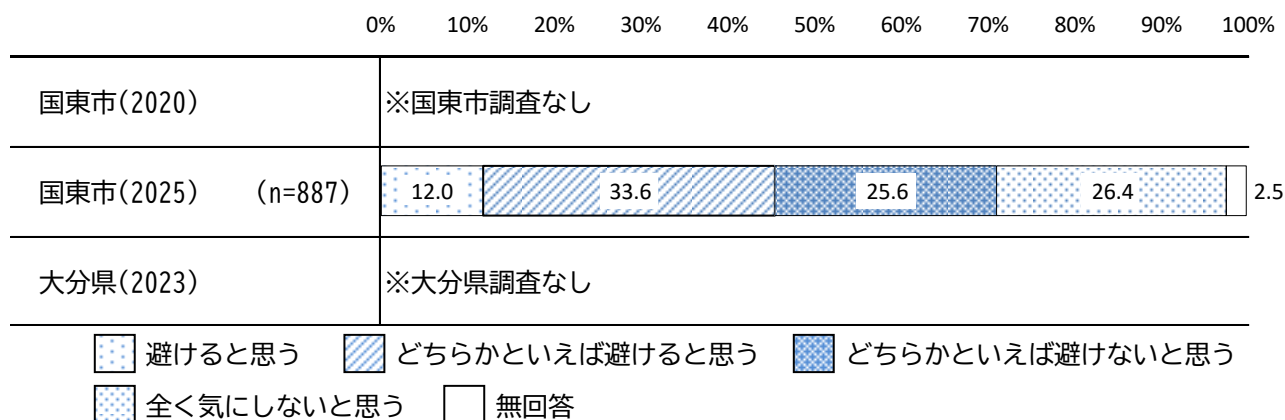
【エ. 近隣に外国籍の住民が多く住んでいる】

SA

上段：構成比 下段：人数

2025 調査結果	避けると思う	どちらかといえ ば避けると思う	どちらかといえ ば避けないと思 う	全く気にしない と思う	無回答	合計
18～19歳	0.0 0	42.9 3	42.9 3	14.3 1	0.0 0	100.0 7
20～29歳	20.5 8	38.5 15	23.1 9	17.9 7	0.0 0	100.0 39
30～39歳	28.6 14	26.5 13	22.4 11	20.4 10	2.0 1	100.0 49
40～49歳	16.2 12	41.9 31	21.6 16	20.3 15	0.0 0	100.0 74
50～59歳	12.1 12	36.4 36	20.2 20	30.3 30	1.0 1	100.0 99
60～69歳	12.3 22	37.4 67	29.6 53	17.9 32	2.8 5	100.0 179
70～79歳	9.5 23	33.7 82	23.9 58	31.3 76	1.6 4	100.0 243
80歳以上	7.8 15	26.4 51	29.5 57	32.6 63	3.6 7	100.0 193
無回答	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	100.0 4	100.0 4
全体	12.0 106	33.6 298	25.6 227	26.4 234	2.5 22	100.0 887

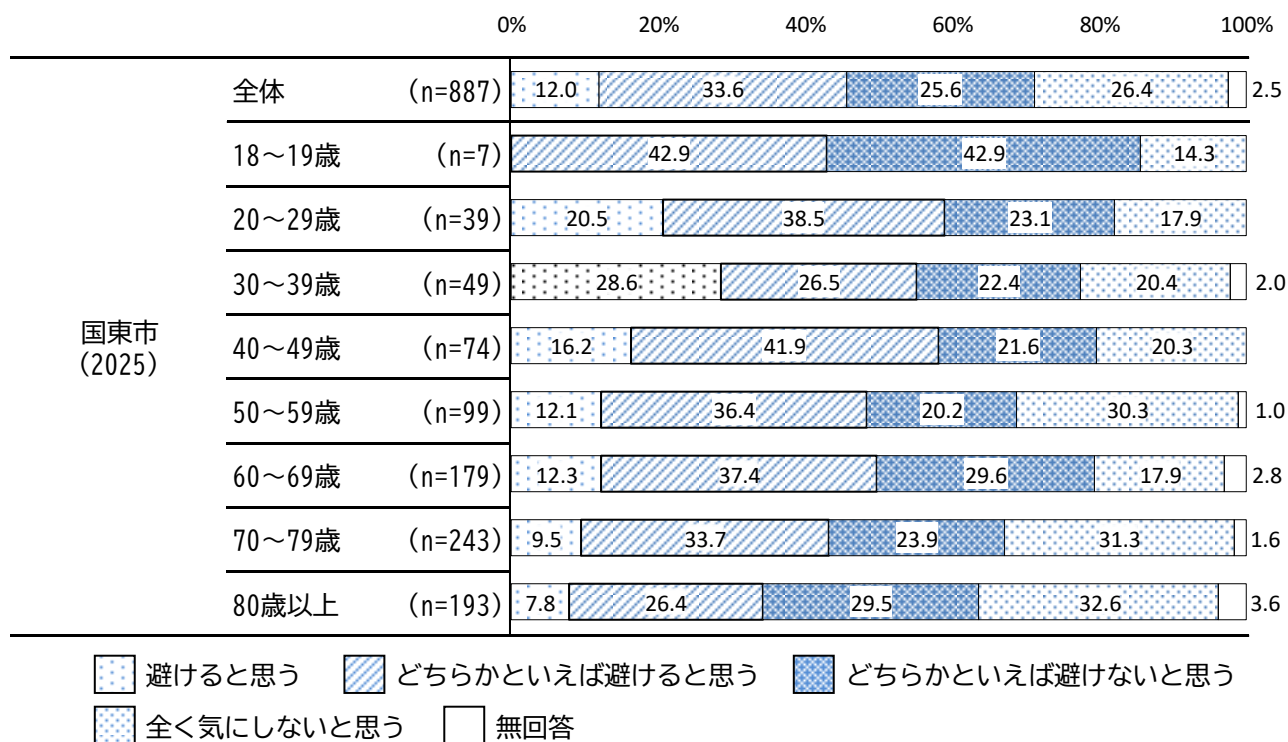
【全体】



■市全体では、近隣に外国籍の住民が多く住んでいることで居住を避けるかについて「避けない(どちらかといえ
ば避けないと思う+全く気にしないと思う)」が 52.0%となっており、約5割の人が避けないと答えています。

■2020調査はありません。大分県2023調査との比較もありません。

【年代別】



◆年代別では、「避けない(どちらかといえば避けないと思う+全く気にしないと思う)」の割合が最も高いのは80歳以上で62.1%、次いで18～19歳(57.2%)、70～79歳(55.2%)となっています。割合が最も低いのは20～29歳で41.0%、次いで40～49歳(41.9%)となっています。

◆年代別の2020調査はありません。

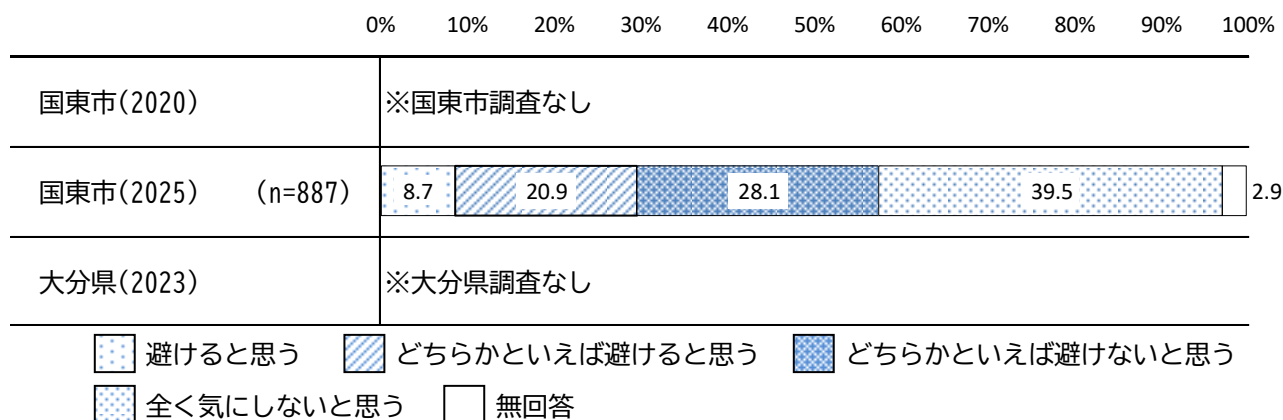
【オ. 被差別部落(同和地区)の地域内である】

SA

上段：構成比 下段：人数

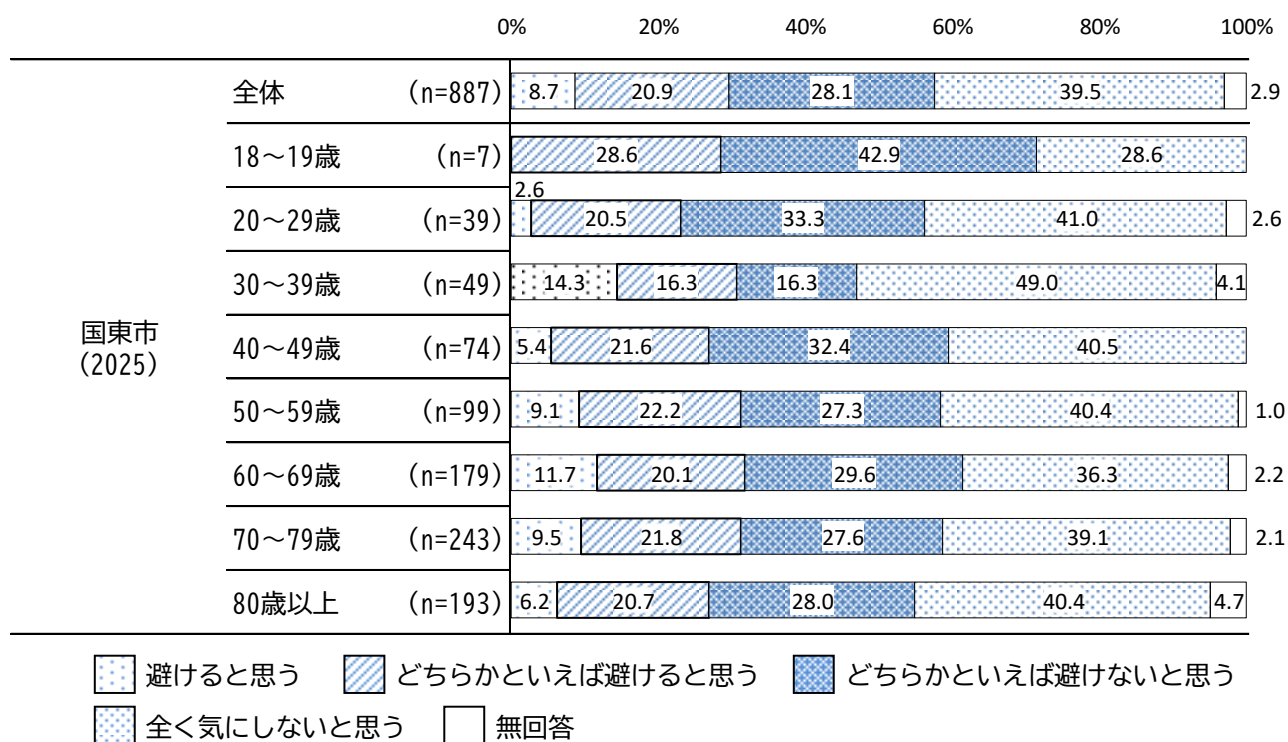
2025 調査結果	避けると思う	どちらかといえ ば避けると思う	どちらかといえ ば避けないと思 う	全く気にしない と思う	無回答	合計
18～19歳	0.0 0	28.6 2	42.9 3	28.6 2	0.0 0	100.0 7
20～29歳	2.6 1	20.5 8	33.3 13	41.0 16	2.6 1	100.0 39
30～39歳	14.3 7	16.3 8	16.3 8	49.0 24	4.1 2	100.0 49
40～49歳	5.4 4	21.6 16	32.4 24	40.5 30	0.0 0	100.0 74
50～59歳	9.1 9	22.2 22	27.3 27	40.4 40	1.0 1	100.0 99
60～69歳	11.7 21	20.1 36	29.6 53	36.3 65	2.2 4	100.0 179
70～79歳	9.5 23	21.8 53	27.6 67	39.1 95	2.1 5	100.0 243
80歳以上	6.2 12	20.7 40	28.0 54	40.4 78	4.7 9	100.0 193
無回答	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	100.0 4	100.0 4
全体	8.7 77	20.9 185	28.1 249	39.5 350	2.9 26	100.0 887

【全体】



- 市全体では、被差別部落(同和地区)の地域内であることで居住を避けるかについて「避けない(どちらかといえ
ば避けないと思う+全く気にしないと思う)」が 67.6%となっており、約7割の人が避けないと答えています。
- 2020調査はありません。大分県2023調査との比較もありません。

【年代別】



◆年代別では、「回避しない(どちらかといえば回避しないと思う+全く気にしないと思う)」の割合が最も高いのは20～29歳で 74.3%、次いで40～49歳(72.9%)、18～19歳(71.5%)となっています。割合が最も低いのは30～39歳で 65.3%、次いで60～69歳(65.9%)となっています。

◆年代別の2020調査はありません。

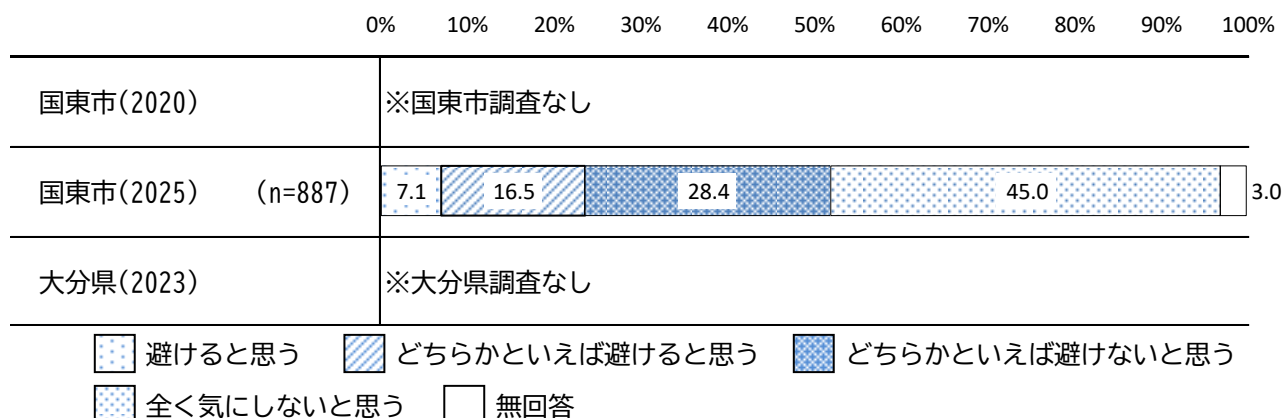
【カ. 近隣に被差別部落(同和地区)がある】

SA

上段：構成比 下段：人数

2025 調査結果	避けると思う	どちらかといえ ば避けると思う	どちらかといえ ば避けないと思 う	全く気にしない と思う	無回答	合計
18～19歳	0.0 0	14.3 1	57.1 4	28.6 2	0.0 0	100.0 7
20～29歳	5.1 2	7.7 3	25.6 10	59.0 23	2.6 1	100.0 39
30～39歳	14.3 7	8.2 4	22.4 11	51.0 25	4.1 2	100.0 49
40～49歳	4.1 3	13.5 10	36.5 27	44.6 33	1.4 1	100.0 74
50～59歳	7.1 7	20.2 20	26.3 26	45.5 45	1.0 1	100.0 99
60～69歳	9.5 17	17.9 32	28.5 51	41.9 75	2.2 4	100.0 179
70～79歳	6.2 15	19.3 47	28.8 70	43.6 106	2.1 5	100.0 243
80歳以上	6.2 12	15.0 29	27.5 53	46.6 90	4.7 9	100.0 193
無回答	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	100.0 4	100.0 4
全体	7.1 63	16.5 146	28.4 252	45.0 399	3.0 27	100.0 887

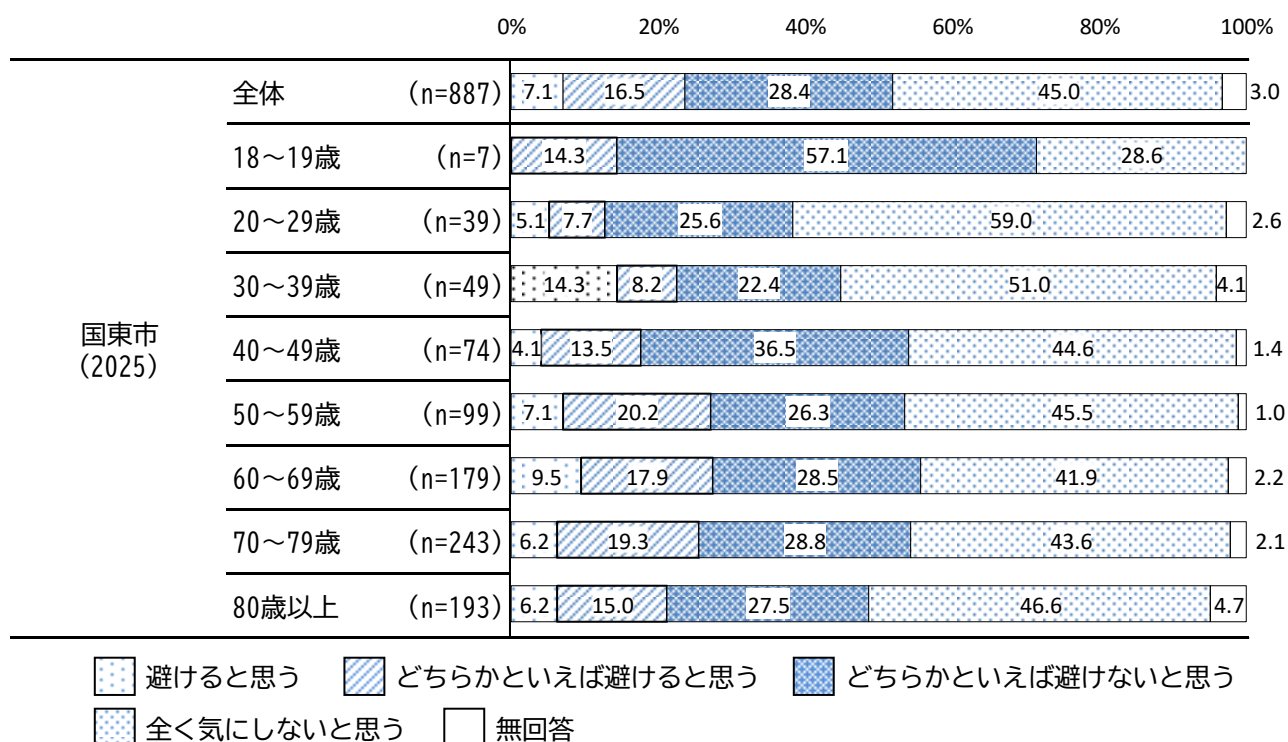
【全体】



■市全体では、近隣に被差別部落(同和地区)があることで居住を避けるかについて「避けない(どちらかといえ
ば避けないと思う+全く気にしないと思う)」が 73.4%となっており、約7割の人が避けないと答えています。

■2020調査はありません。大分県2023調査との比較ありません。

【年代別】



◆年代別では、「避けない(どちらかといえば避けないと思う+全く気にしないと思う)」の割合が最も高いのは18～19歳で 85.7%、次いで20～29歳(84.6%)、40～49歳(81.1%)となっています。割合が最も低いのは60～69歳で 70.4%、次いで50～59歳(71.8%)となっています。

◆年代別の2020調査はありません。

◎考察

市全体では、住まい選びにおける忌避意識(ア～カ)について、「避けない(どちらかといえば避けないと思う+全く気にしないと思う)」の割合が高いのは、「近隣に老人ホームなどの高齢者施設がある」「近隣に保育所(園)や幼稚園がある」「近隣に障がい者施設がある」の3項目となっています。これらの公共・福祉施設については、「全く気にしない」とする回答が6割を超えており、社会的な必要性への理解を背景に受容度が高い傾向がみられます。一方で、「避ける(避けると思う+どちらかといえば避けると思う)」との回答が比較的多いのは、「近隣に外国籍の住民が多く住んでいる」「被差別部落(同和地区)の地域内である」「近隣に被差別部落(同和地区)がある」といった項目です。これらについては、住環境として気になると感じる人も一定程度みられる状況となっています。住まい選びにおいて「物理的環境」よりも「住民の属性や地域の歴史的背景」が強く意識されていることから、正しい知識を養う教育に加え、住民同士の顔が見える交流を通じた「心理的障壁の解消」が重要です。

Ⅱ．部落差別の問題(同和問題)(問8～問16)

[MA]

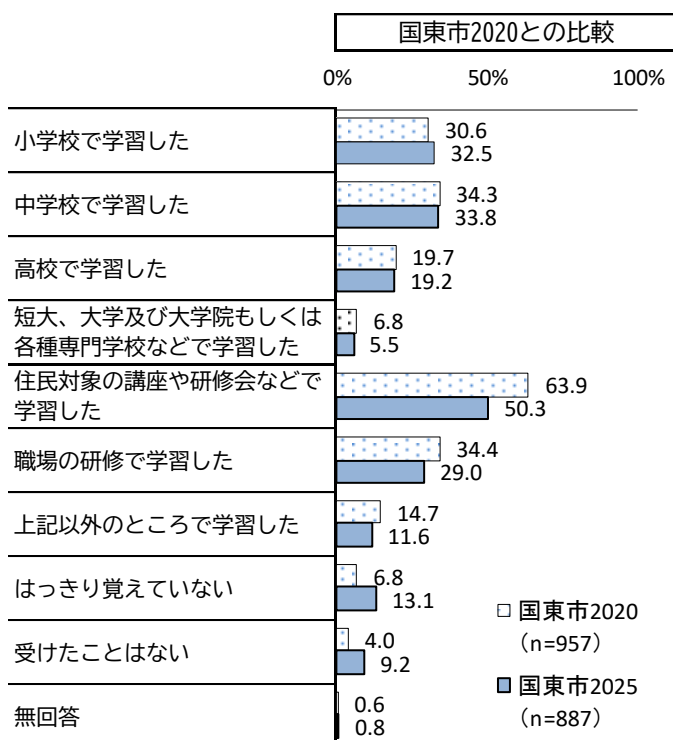
問8 あなたは、学校や職場、地域で、部落差別の問題(同和問題)について、学習したことがありますか。

MA

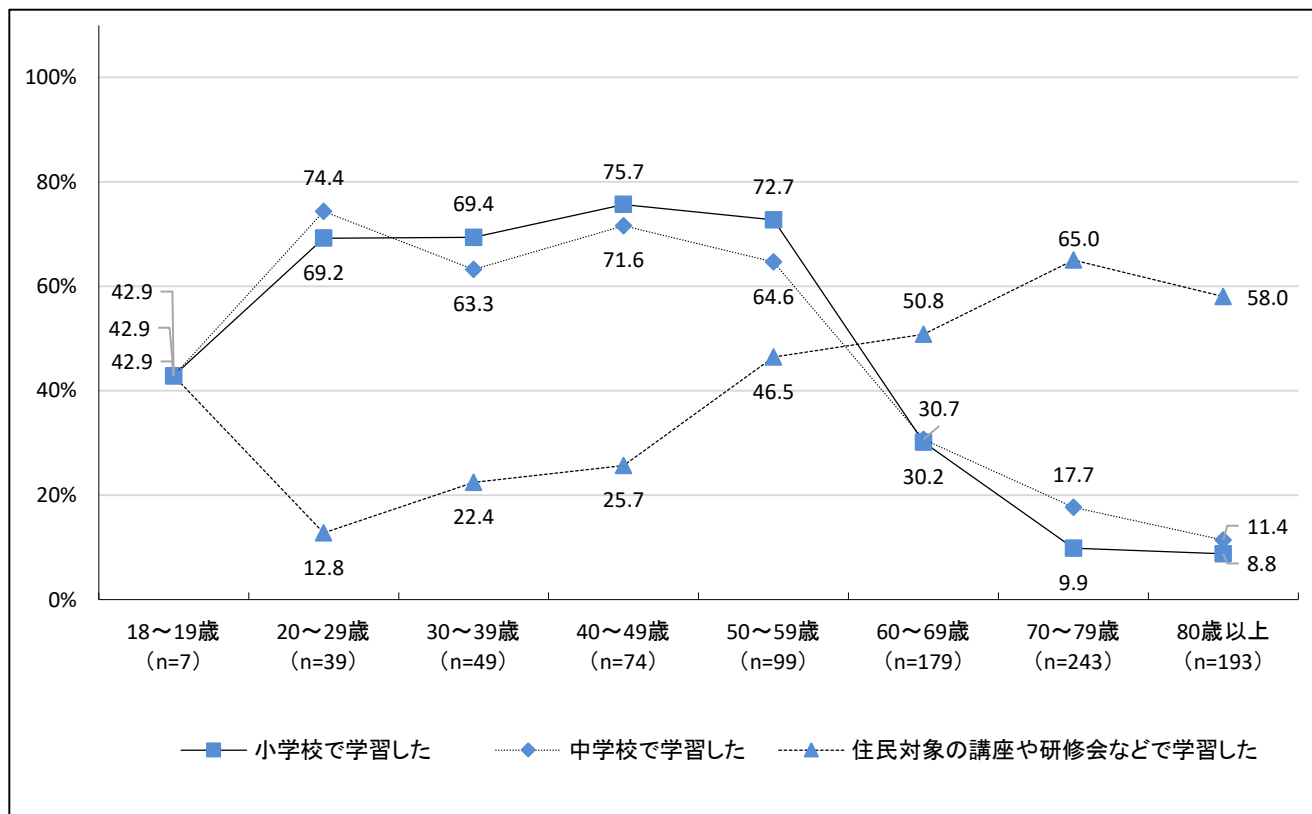
上段：構成比 下段：人数

2025 調査結果	小学校で 学習した	中学校で 学習した	高校で学 習した	短大、大 学及び大 学院もし くは各種 専門学校 などで学 習した	住民対象 の講座や 研修会な どで学習 した	職場の研 修で学習 した	上記以外 のところで 学習した	はっきり 覚えてい ない	受けたこ とはない	無回答	合計
18～19歳	42.9 3	42.9 3	57.1 4	0.0 0	42.9 3	14.3 1	42.9 3	14.3 1	0.0 0	0.0 0	100.0 7
20～29歳	69.2 27	74.4 29	46.2 18	20.5 8	12.8 5	33.3 13	5.1 2	10.3 4	0.0 0	0.0 0	100.0 39
30～39歳	69.4 34	63.3 31	34.7 17	6.1 3	22.4 11	38.8 19	0.0 0	10.2 5	4.1 2	0.0 0	100.0 49
40～49歳	75.7 56	71.6 53	36.5 27	5.4 4	25.7 19	29.7 22	8.1 6	9.5 7	0.0 0	0.0 0	100.0 74
50～59歳	72.7 72	64.6 64	31.3 31	4.0 4	46.5 46	35.4 35	7.1 7	5.1 5	1.0 1	0.0 0	100.0 99
60～69歳	30.2 54	30.7 55	16.8 30	6.7 12	50.8 91	30.2 54	7.8 14	14.5 26	11.7 21	1.1 2	100.0 179
70～79歳	9.9 24	17.7 43	10.3 25	5.8 14	65.0 158	28.4 69	17.7 43	16.0 39	10.3 25	0.4 1	100.0 243
80歳以上	8.8 17	11.4 22	9.3 18	2.1 4	58.0 112	22.3 43	14.0 27	15.0 29	17.1 33	1.0 2	100.0 193
無回答	25.0 1	0.0 0	0.0 0	0.0 0	25.0 1	25.0 1	25.0 1	0.0 0	0.0 0	50.0 2	100.0 4
全体	32.5 288	33.8 300	19.2 170	5.5 49	50.3 446	29.0 257	11.6 103	13.1 116	9.2 82	0.8 7	100.0 887

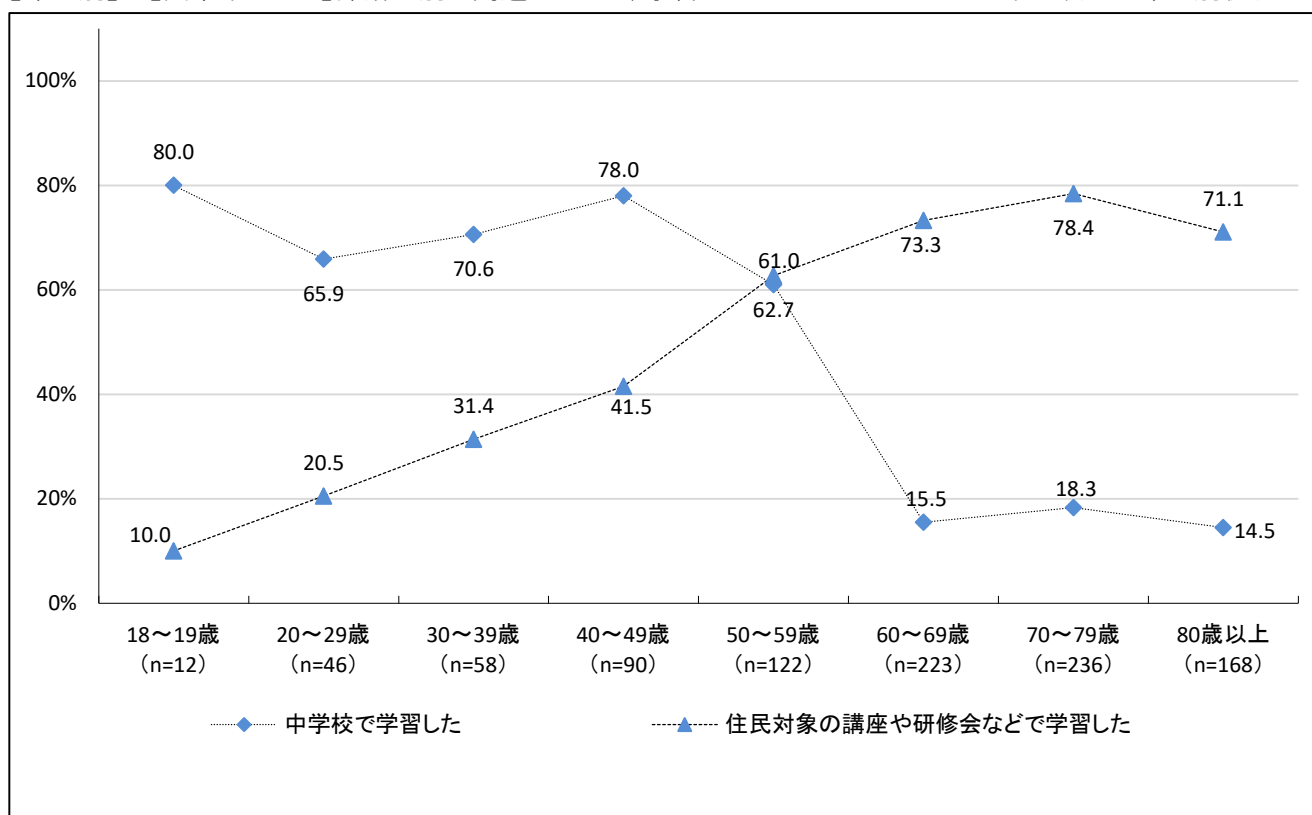
【全体】



【年代別】＜【国東市2025】部落差別の問題について、学習したことがあるかについて上位3項目の年代別状況＞



【年代別】＜【国東市2020】部落差別の問題について、学習したことがあるかについて上位3項目の年代別状況＞



※国東市2020調査の上位3項目に入っていた「職場の研修で学習した」は、国東市2025調査では上位に入っていないため比較不可。

- 市全体では、学校や職場、地域で、部落差別の問題（同和問題）について、学習したことがあるかでは、「住民対象の講座や研修会などで学習した」の割合が 50.3%と最も高く、次いで「中学校で学習した」（33.8%）、「小学校で学習した」（32.5%）となっています。
- 2020調査と比較すると、市全体では、「住民対象の講座や研修会などで学習した」の割合が 13.6 ㊦、次いで「職場の研修で学習した」（5.4 ㊦）、「上記以外のところで学習した」（3.1 ㊦）が減少しています。
- ◆年代別では、20～29歳は「中学校で学習した」、30歳代～50歳代では「小学校で学習した」、60歳代～80歳以上では「住民対象の講座や研修会などで学習した」の割合が最も高くなっています。
- ◆2020調査と比較すると、「中学校で学習した」では60～69歳（15.2 ㊦）、20～29歳（8.5 ㊦）、50～59歳（3.6 ㊦）で割合が増加しています。「住民対象の講座や研修会などで学習した」では18～19歳（32.9 ㊦）で割合が増加し、他の年代はすべて減少しています。

◎考察

本調査結果は、コロナ禍により対面での学習機会が制限されていた影響も考えられます。そうした状況下でも、市では地区人権学習会の参加人数を制限して開催を継続し、部落差別問題や性的少数者の問題、新型コロナウイルス感染症に関連する差別など、多様なテーマを取り上げながら学習機会の確保に努めてきました。コロナ禍終息後は、地区人権学習会への参加者が年を追って回復傾向にあり、隣保館じんけん講座や人権フェスティバルなども従来どおり開催しています。一方で、50歳代までは「学校での学習」が中心であり、学校以外での学習経験は相対的に少ない状況がみられます。今後は、地域や職場等における研修機会を一層充実させるとともに、周知方法を工夫し、より幅広い世代へ学習機会を拡充していくことが重要です。

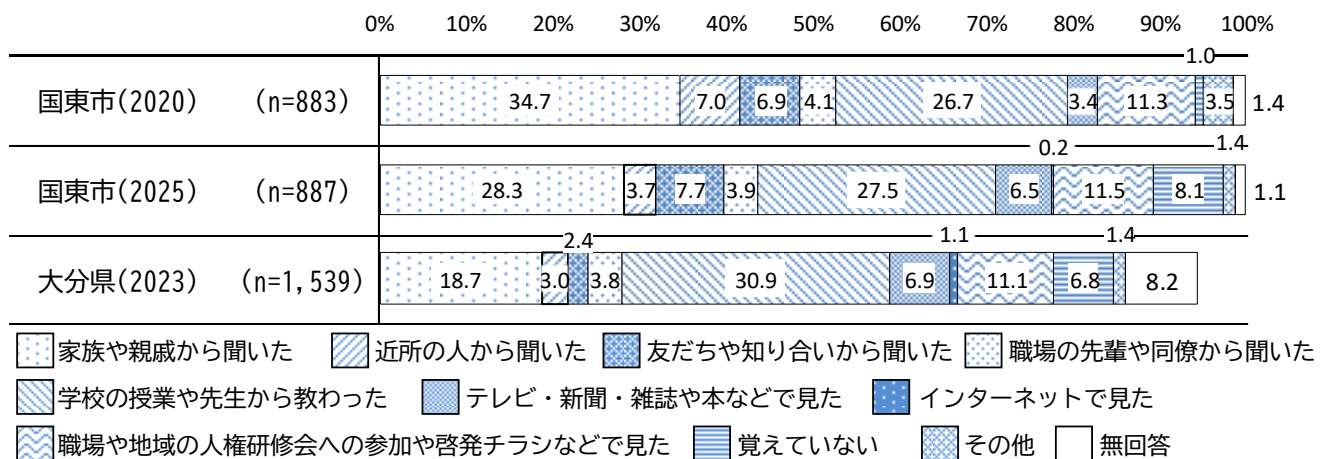
問9 部落差別の問題(同和問題)について、あなたがはじめて知ったのはどのようなきっかけですか。

SA

上段：構成比 下段：人数

2025 調査結果	家族や親戚 から聞いた	近所の人か ら聞いた	友だちや知 り合いから 聞いた	職場の先輩 や同僚から 聞いた	学校の授業 や先生から 教わった	テレビ・ 新聞・雑 誌や本な どで見た	インター ネットで 見た	職場や地域 の人権研修会 への参加や啓 発チラシなど で見た	覚えてい ない	その他	無回答	合計
18～19歳	0.0 0	0.0 0	14.3 1	14.3 1	42.9 3	14.3 1	0.0 0	0.0 0	14.3 1	0.0 0	0.0 0	100.0 7
20～29歳	10.3 4	0.0 0	0.0 0	7.7 3	66.7 26	0.0 0	0.0 0	2.6 1	12.8 5	0.0 0	0.0 0	100.0 39
30～39歳	10.2 5	0.0 0	0.0 0	2.0 1	61.2 30	2.0 1	4.1 2	12.2 6	8.2 4	0.0 0	0.0 0	100.0 49
40～49歳	10.8 8	0.0 0	2.7 2	2.7 2	62.2 46	1.4 1	0.0 0	6.8 5	13.5 10	0.0 0	0.0 0	100.0 74
50～59歳	11.1 11	0.0 0	3.0 3	1.0 1	65.7 65	4.0 4	0.0 0	8.1 8	6.1 6	0.0 0	1.0 1	100.0 99
60～69歳	37.4 67	3.9 7	8.4 15	5.0 9	22.9 41	3.9 7	0.0 0	11.7 21	3.4 6	2.2 4	1.1 2	100.0 179
70～79歳	37.9 92	4.5 11	9.9 24	4.9 12	9.1 22	8.6 21	0.0 0	14.4 35	7.8 19	2.5 6	0.4 1	100.0 243
80歳以上	32.6 63	7.8 15	11.9 23	3.1 6	5.7 11	11.9 23	0.0 0	13.5 26	10.4 20	1.0 2	2.1 4	100.0 193
無回答	25.0 1	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	25.0 1	0.0 0	50.0 2	100.0 4
全体	28.3 251	3.7 33	7.7 68	3.9 35	27.5 244	6.5 58	0.2 2	11.5 102	8.1 72	1.4 12	1.1 10	100.0 887

【全体】



※国東市2025調査と国東市2020調査では、回答対象者が異なる。

国東市2025調査：全員が対象。

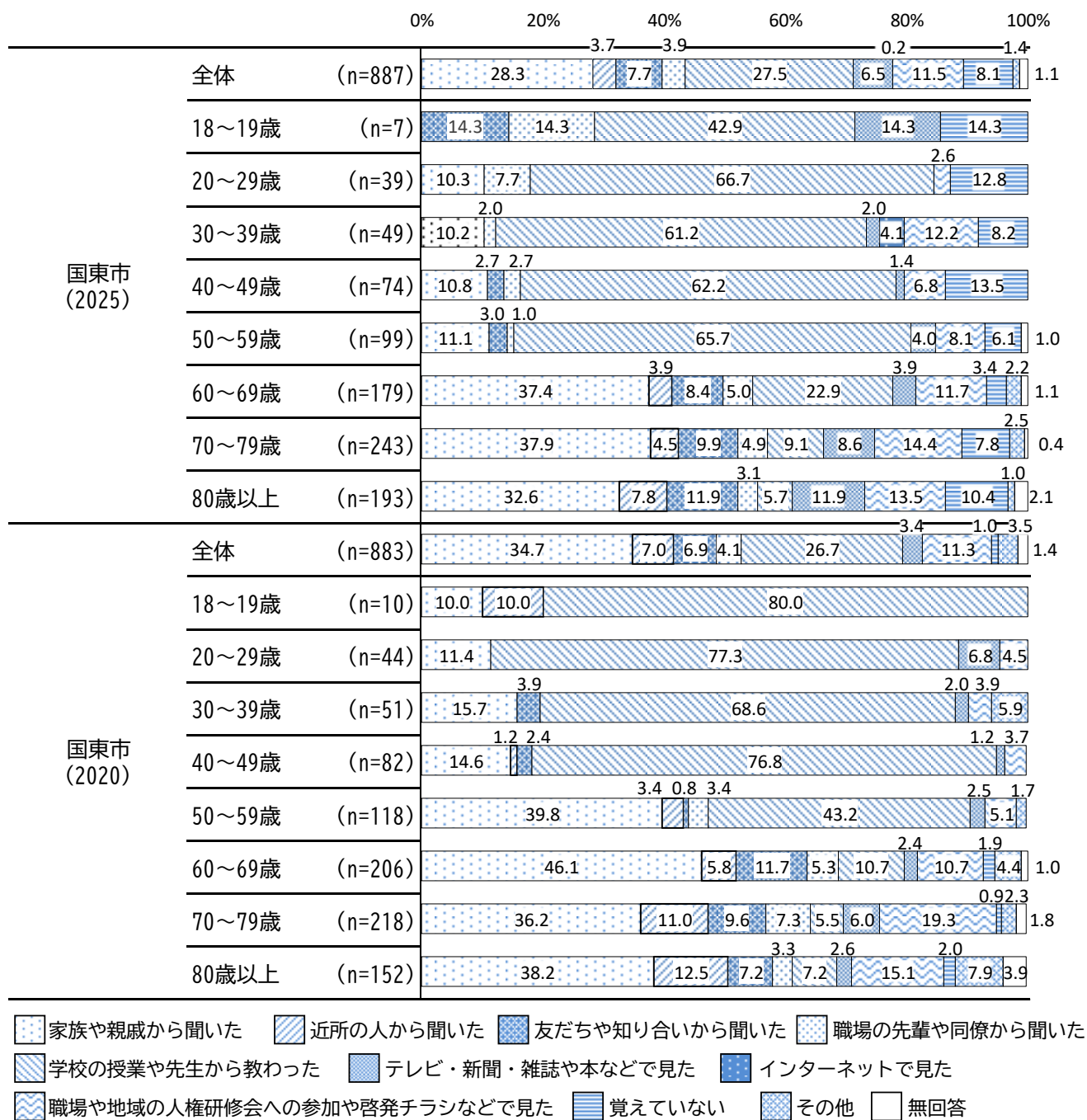
国東市2020調査：「問15あなたは部落差別の問題(同和問題)を知っていますか。」で「1.知っている」と答えた方のみ。

国東市2025調査：全員が対象。

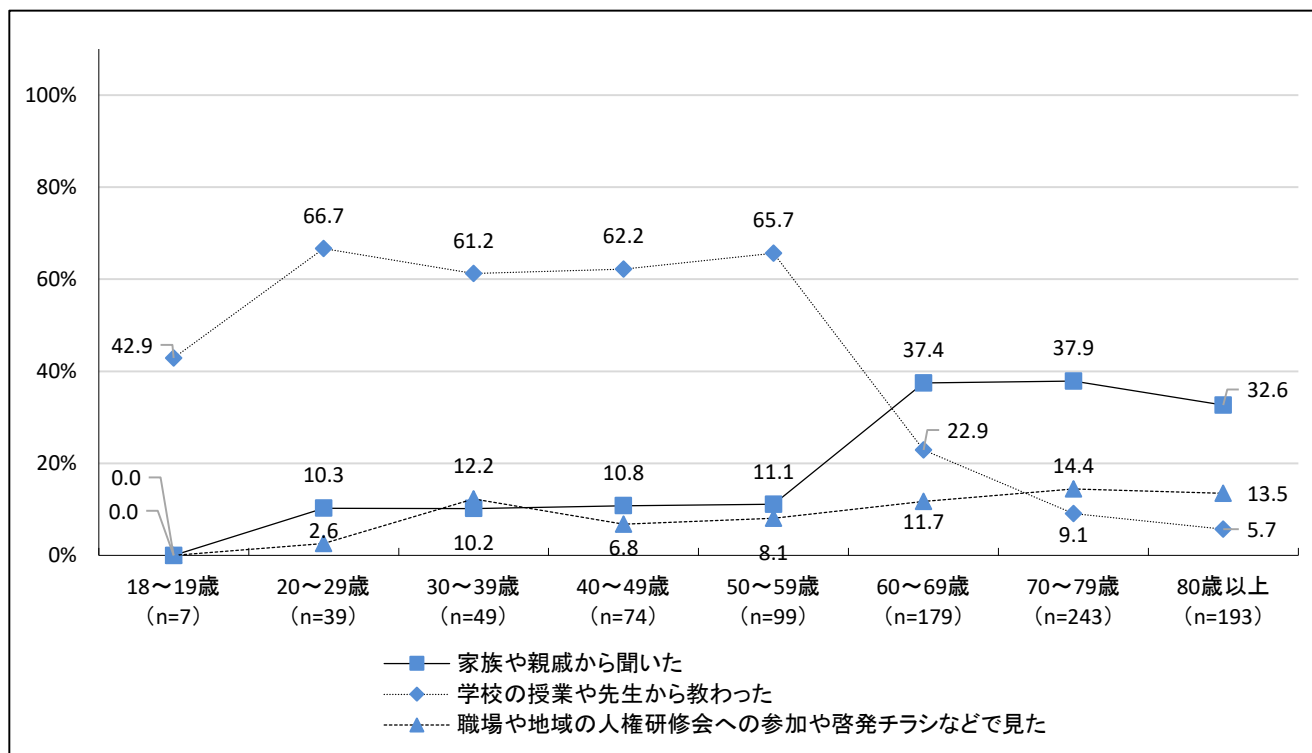
※国東市2025調査では「家族や親戚から聞いた」という回答選択肢に対して、大分県2023調査は「家族」と「親戚」を足した割合となっている。

※国東市2025調査では「テレビ・新聞・雑誌や本などで見た」と「インターネットで見たと」という回答選択肢に対して、国東市2020調査は「テレビ・新聞・雑誌や本またはインターネットなどで見た」の選択肢となっている。

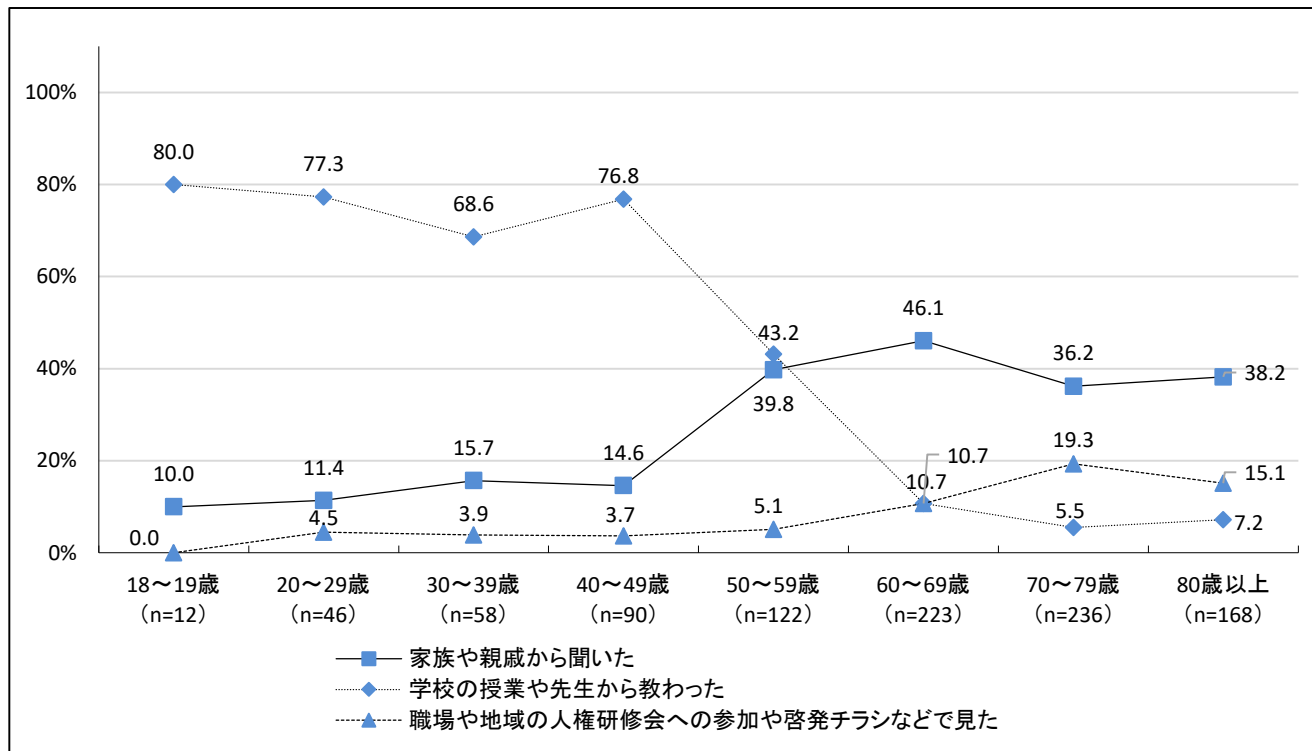
【年代別】



【年代別】＜【国東市2025】部落差別の問題（同和問題）について、はじめて知ったきっかけの上位3項目の年代別状況＞



【年代別】＜【国東市2020】部落差別の問題（同和問題）について、はじめて知ったきっかけの上位3項目の年代別状況＞



- 市全体では、部落差別の問題(同和問題)について、あなたがはじめて知ったきっかけについて「家族や親戚から聞いた」の割合が 28.3%と最も高く、次いで「学校の授業や先生から教わった」(27.5%)、「職場や地域の人権研修会への参加や啓発チラシなどで見た」(11.5%)となっています。
- 2020調査と比較すると、市全体では、「家族や親戚から聞いた」の割合が 6.4 ㊦、次いで近所の人から聞いた」(3.3 ㊦)が減少しています。大分県2023調査との比較では、「家族や親戚から聞いた」の割合が 9.6 ㊦、次いで「友だちや知り合いから聞いた」(5.3 ㊦)が大分県より上回っています。
- ◆年代別では、上位3項目について「家族や親戚から聞いた」で最も割合が高い年代は70～79歳(37.9%)、「学校の授業や先生から教わった」で最も割合が高い年代は20～29歳(66.7%)、「職場や地域の人権研修会への参加や啓発チラシなどで見た」で最も割合が高い年代は70～79歳(14.4%)となっています。
- ◆2020調査と比較すると、「家族や親戚から聞いた」では70～79歳(1.7 ㊦)で割合が増加し、他の年代はすべて減少しています。

◎考察

部落差別の問題(同和問題)について、はじめて知ったきっかけとしては、「家族や親戚から聞いた」とする回答が最も高くなっています。人から聞いたうわさなどによって初めて部落差別の問題(同和問題)を知った人が、差別的なうわさや部落に対するマイナスイメージに触れ、無自覚に吸収してしまう恐れもあることから、今後も学校教育や行政は正しい情報を発信し続ける必要があります。

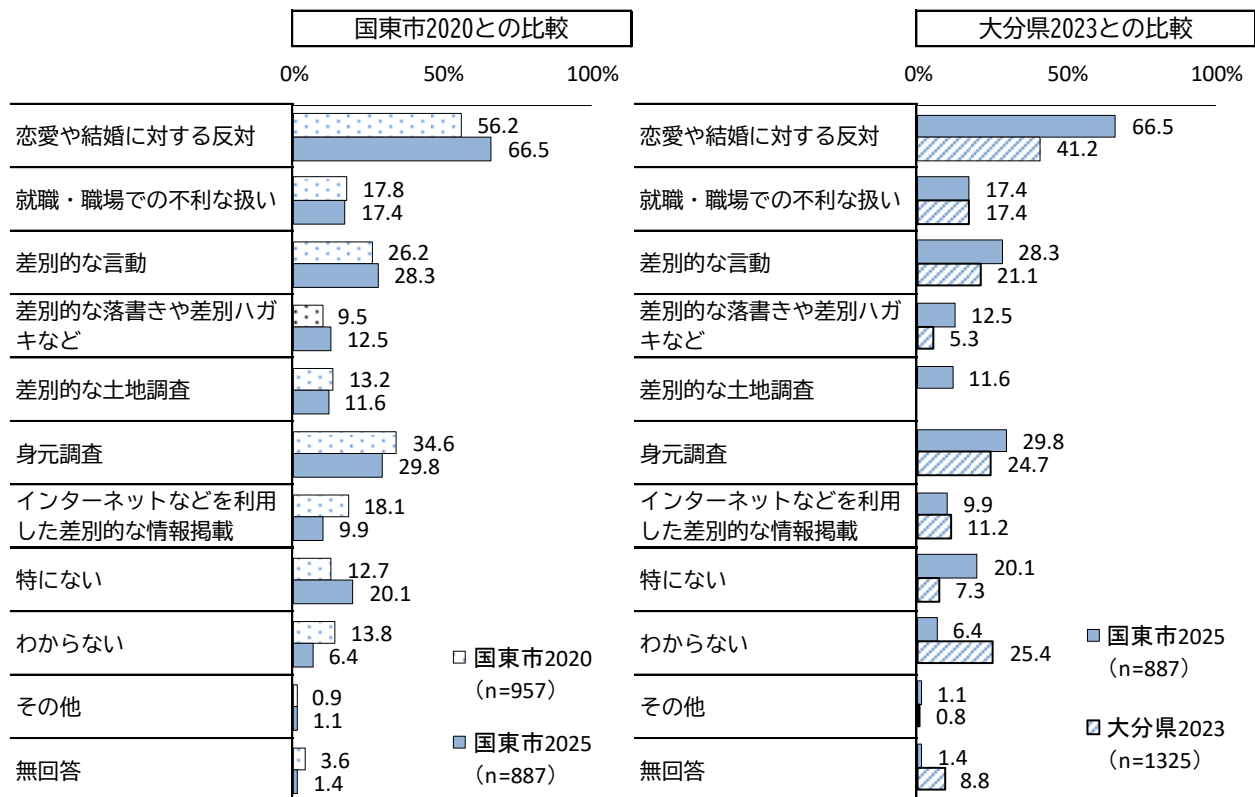
問10 部落差別の問題(同和問題)に関する次のような人権問題について、あなたが見たり聞いたりしたことのあるものを選んでください。

MA

上段：構成比 下段：人数

2025 調査結果	恋愛や結 婚に対する反対	就職・職 場での不利な扱い	差別的な 言動	差別的な 落書きや 差別ハガ キなど	差別的な 土地調査	身元調査	インター ネットな どを利用 した差別 的な情報 掲載	特にない	わから ない	その他	無回答	合計
18～19歳	71.4 5	28.6 2	42.9 3	14.3 1	0.0 0	42.9 3	0.0 0	0.0 0	14.3 1	14.3 1	0.0 0	100.0 7
20～29歳	56.4 22	33.3 13	38.5 15	23.1 9	20.5 8	25.6 10	30.8 12	20.5 8	10.3 4	0.0 0	0.0 0	100.0 39
30～39歳	49.0 24	30.6 15	44.9 22	20.4 10	20.4 10	34.7 17	16.3 8	24.5 12	6.1 3	0.0 0	0.0 0	100.0 49
40～49歳	63.5 47	29.7 22	36.5 27	20.3 15	20.3 15	33.8 25	12.2 9	20.3 15	6.8 5	0.0 0	0.0 0	100.0 74
50～59歳	62.6 62	21.2 21	36.4 36	17.2 17	17.2 17	30.3 30	16.2 16	20.2 20	7.1 7	1.0 1	0.0 0	100.0 99
60～69歳	69.8 125	19.0 34	31.8 57	15.1 27	13.4 24	31.8 57	14.0 25	19.6 35	3.9 7	1.1 2	0.6 1	100.0 179
70～79歳	75.7 184	14.0 34	21.4 52	7.8 19	7.0 17	36.6 89	5.3 13	15.6 38	2.9 7	1.2 3	1.6 4	100.0 243
80歳以上	62.7 121	6.7 13	20.2 39	6.7 13	6.2 12	17.1 33	2.6 5	25.9 50	11.4 22	1.6 3	2.1 4	100.0 193
無回答	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	25.0 1	0.0 0	75.0 3	100.0 4
全体	66.5 590	17.4 154	28.3 251	12.5 111	11.6 103	29.8 264	9.9 88	20.1 178	6.4 57	1.1 10	1.4 12	100.0 887

【全体】



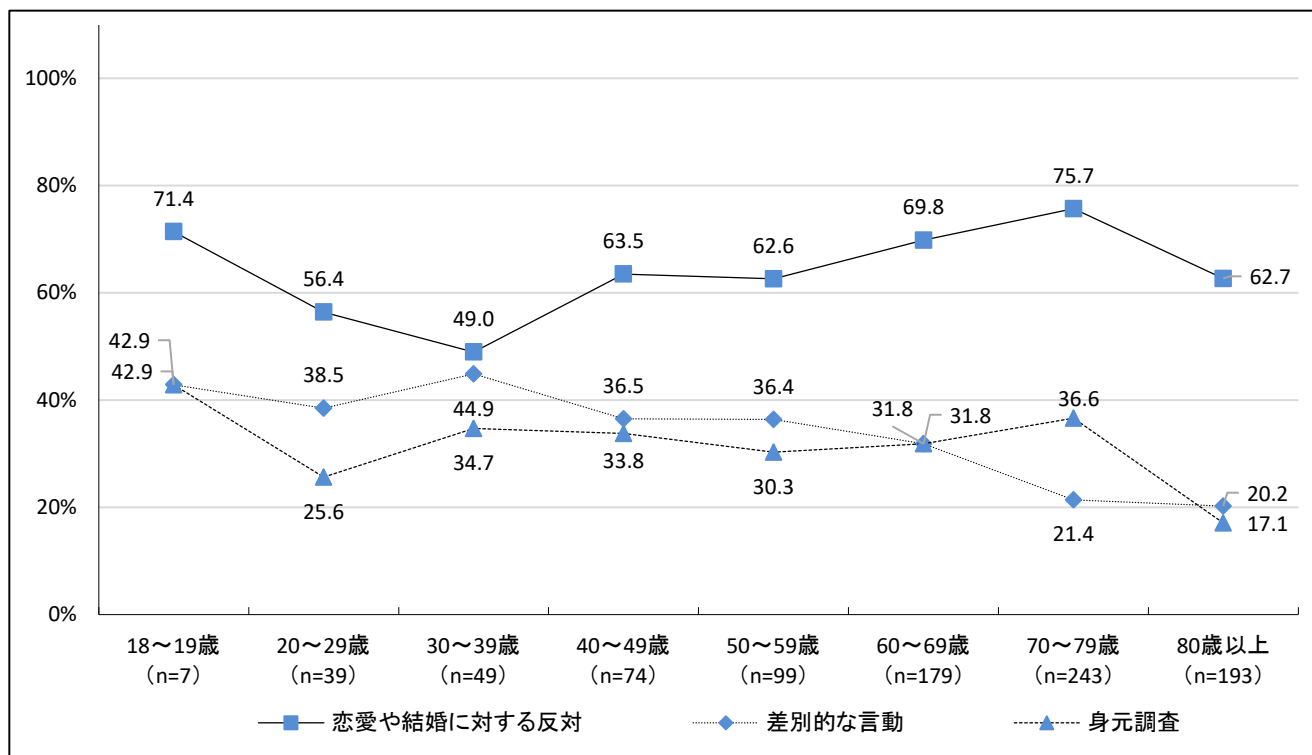
※国東市2020調査時と設問の文言がやや異なる。

国東市2025調査：「部落差別の問題に関する次のような人権問題について、あなたが見たり聞いたりしたことのあるものを選んでください。」

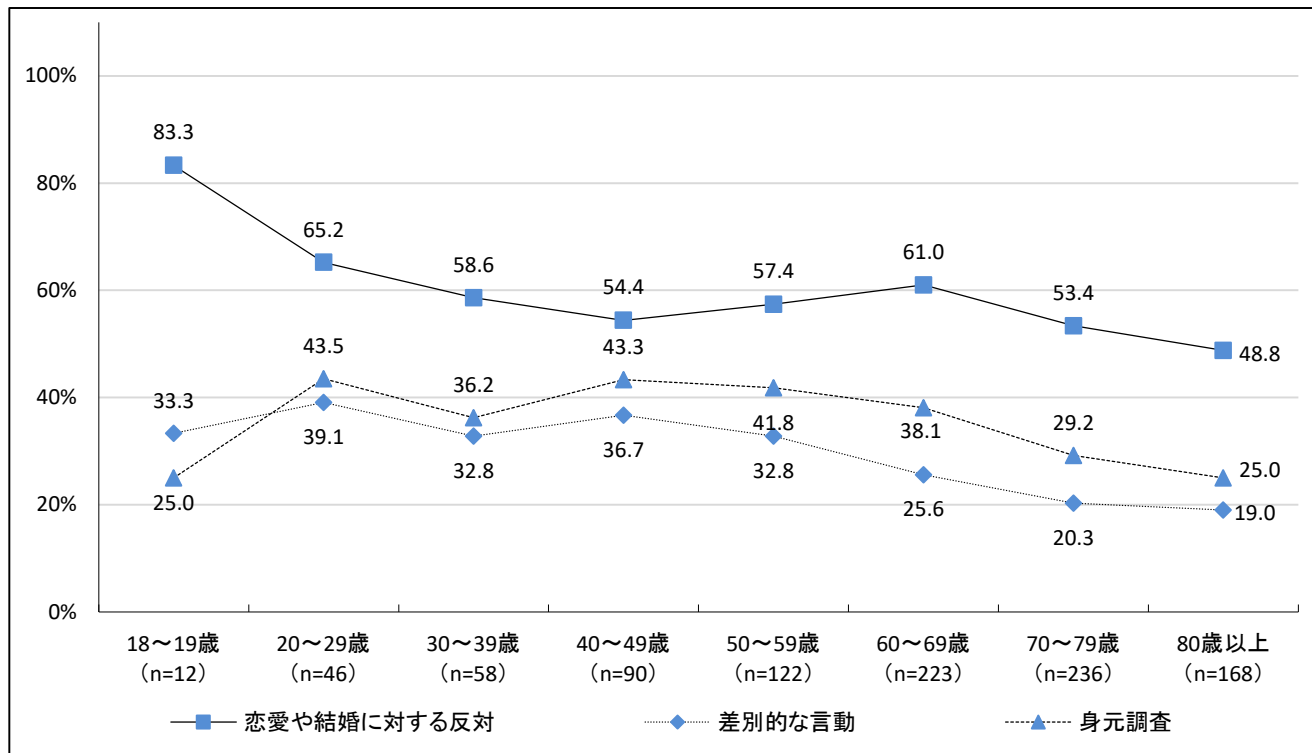
国東市2020調査：「あなたは、部落差別の問題に関することで、現在どのような人権問題があると思いますか。」

※大分県2023調査では「差別的な土地調査」の項目なし。

【年代別】＜【国東市2025】部落差別の問題(同和問題)についてどのような人権問題があるか上位3項目の年代別状況＞



【年代別】＜【国東市2020】部落差別の問題(同和問題)についてどのような人権問題があるか上位3項目の年代別状況＞



- 市全体では、部落差別の問題(同和問題)に関することで、現在どのような人権問題があるかについて「恋愛や結婚に対する反対」の割合が66.5%と最も高く、次いで「身元調査」(29.8%)、「差別的な言動」(28.3%)となっています。
- 2020調査と比較すると、市全体では「恋愛や結婚に対する反対」の割合が10.3 ㊦、次いで「差別的な落書きや差別ハガキなど」(3.0 ㊦)、「差別的な言動」(2.1 ㊦)が増加しています。大分県2023調査との比較では、「恋愛や結婚に対する反対」の割合が25.3 ㊦と最も上回り、次いで「差別的な言動」、「差別的な落書きや差別ハガキなど」(7.2 ㊦)、「身元調査」(5.1 ㊦)となっています。
- ◆年代別では、各年代ともに「恋愛や結婚に対する反対」の割合が最も高くなっています。
- ◆2020調査と比較すると、「恋愛や結婚に対する反対」の割合は18～39歳では減少し、40歳以上では増加しています。

◎考察

部落差別の問題(同和問題)に関して、見たり聞いたりしたことがある人権問題について尋ねたところ、「恋愛や結婚に対する反対」が7割近くと最も高くなっています。さらに、2020調査と比較すると同項目は10.3 ㊦増加しており、大分県2023調査との比較でも25.3 ㊦上回っています。これは、実際に令和5年度に市内で発生した「部落差別落書き」を地区人権学習会で教材として活用したことや、人権講演会における主催者あいさつで、この事象について触れていることが要因のひとつであり、部落差別問題を身近な問題として捉えることは、啓発効果の表れと考えられます。差別された人にとっては、精神面や生活面で深い傷を残します。人を生まれた場所によって差別するという行為そのものが不当であり、決して許されることではありません。今後も私たち一人ひとりが、身近な問題として部落差別の問題(同和問題)を正しく理解し、差別意識や偏見をなくすなど、自らの問題として取り組む必要があります。

問11 現在もなお部落差別の問題(同和問題)がなくなるのは、なぜだと思いますか。

MA

上段：構成比 下段：人数

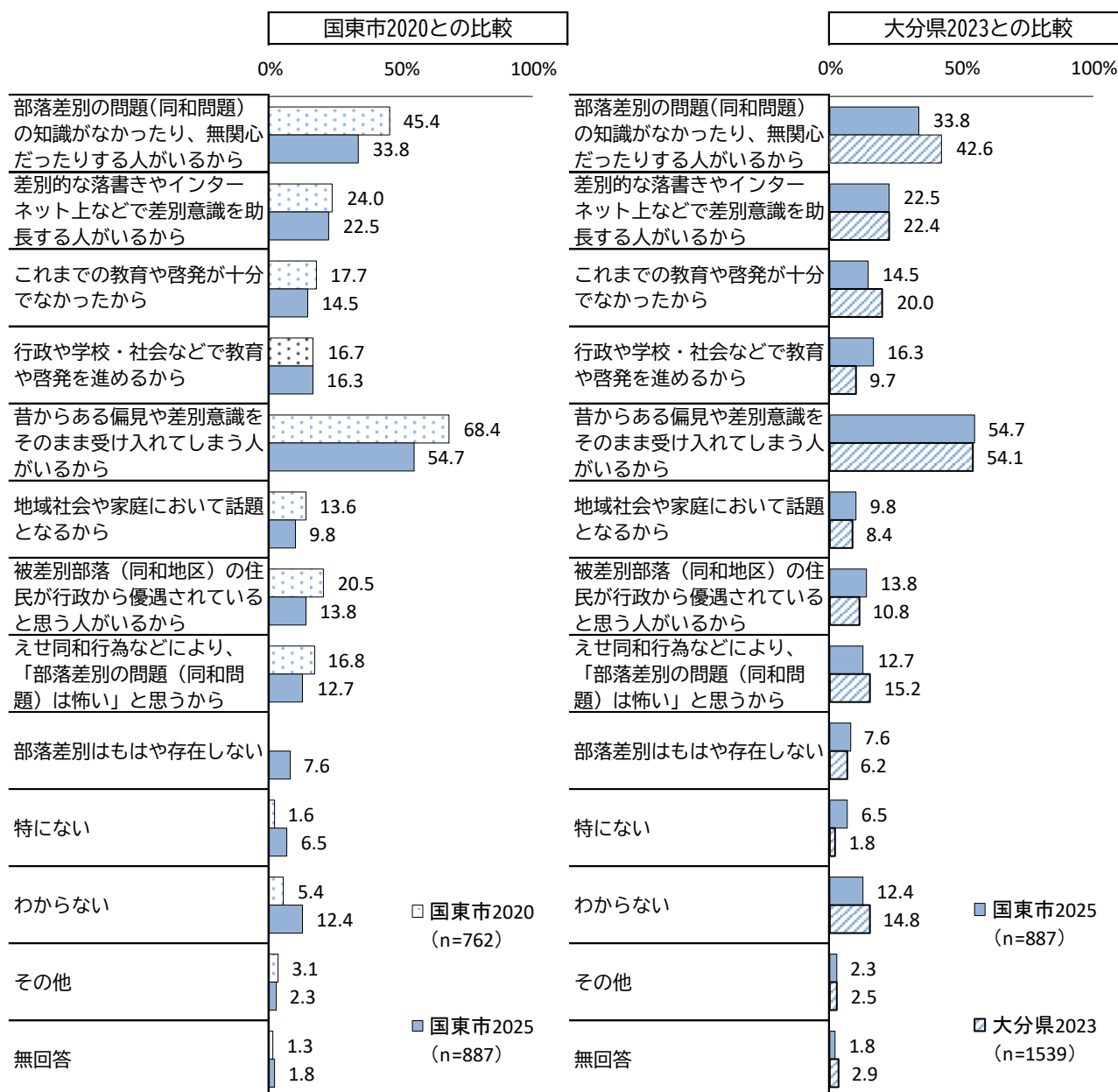
2025 調査結果	部落差別の問題(同和問題)の知識がなかったり、無関心だったりする人があるから	差別的な落書きやインターネット上で差別意識を助長する人があるから	これまでの教育や啓発が十分でなかったから	行政や学校・社会などで教育や啓発を進めるから	昔からある偏見や差別意識をそのまま受け入れてしまう人があるから	地域社会や家庭において話題となるから	被差別部落(同和地区)の住民が行政から優遇されていると思う人があるから
18～19歳	42.9 3	14.3 1	42.9 3	0.0 0	85.7 6	0.0 0	0.0 0
20～29歳	20.5 8	28.2 11	12.8 5	10.3 4	56.4 22	5.1 2	5.1 2
30～39歳	32.7 16	32.7 16	4.1 2	16.3 8	63.3 31	10.2 5	16.3 8
40～49歳	39.2 29	23.0 17	16.2 12	10.8 8	62.2 46	12.2 9	6.8 5
50～59歳	39.4 39	39.4 39	7.1 7	19.2 19	55.6 55	8.1 8	7.1 7
60～69歳	36.9 66	22.9 41	17.3 31	15.6 28	60.3 108	8.9 16	16.8 30
70～79歳	35.8 87	21.4 52	16.5 40	22.6 55	52.7 128	11.1 27	20.6 50
80歳以上	26.9 52	11.9 23	15.0 29	11.9 23	46.1 89	10.4 20	10.4 20
無回答	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0
全体	33.8 300	22.5 200	14.5 129	16.3 145	54.7 485	9.8 87	13.8 122

MA

上段：構成比 下段：人数

2025 調査結果	えせ同和行為などにより、「部落差別の問題(同和問題)は怖い」と思うから	部落差別はもはや存在しない	特にない	わからない	その他	無回答	全体
18～19歳	0.0 0	0.0 0	0.0 0	14.3 1	14.3 1	0.0 0	100.0 7
20～29歳	10.3 4	5.1 2	2.6 1	12.8 5	0.0 0	2.6 1	100.0 39
30～39歳	14.3 7	4.1 2	4.1 2	8.2 4	2.0 1	0.0 0	100.0 49
40～49歳	12.2 9	0.0 0	5.4 4	6.8 5	4.1 3	0.0 0	100.0 74
50～59歳	7.1 7	2.0 2	1.0 1	10.1 10	2.0 2	2.0 2	100.0 99
60～69歳	14.5 26	5.0 9	5.6 10	10.6 19	2.8 5	1.1 2	100.0 179
70～79歳	17.3 42	9.1 22	5.8 14	8.6 21	1.2 3	2.9 7	100.0 243
80歳以上	9.3 18	15.5 30	13.5 26	22.8 44	2.6 5	0.5 1	100.0 193
無回答	0.0 0	0.0 0	0.0 0	25.0 1	0.0 0	75.0 3	100.0 4
全体	12.7 113	7.6 67	6.5 58	12.4 110	2.3 20	1.8 16	100.0 887

【全体】



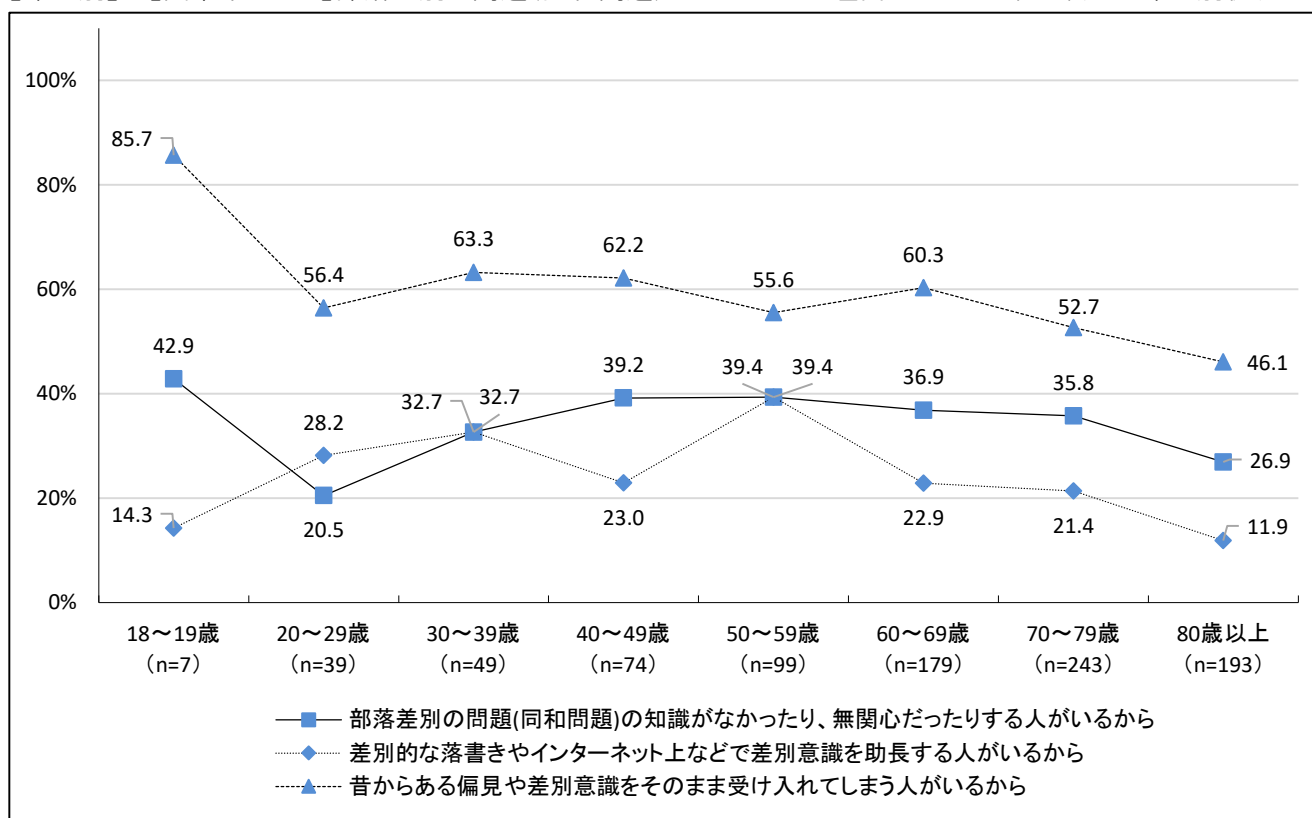
※国東市2020調査には「部落差別はもはや存在しない」の項目なし。

※国東市2020調査と回答対象者が異なる。

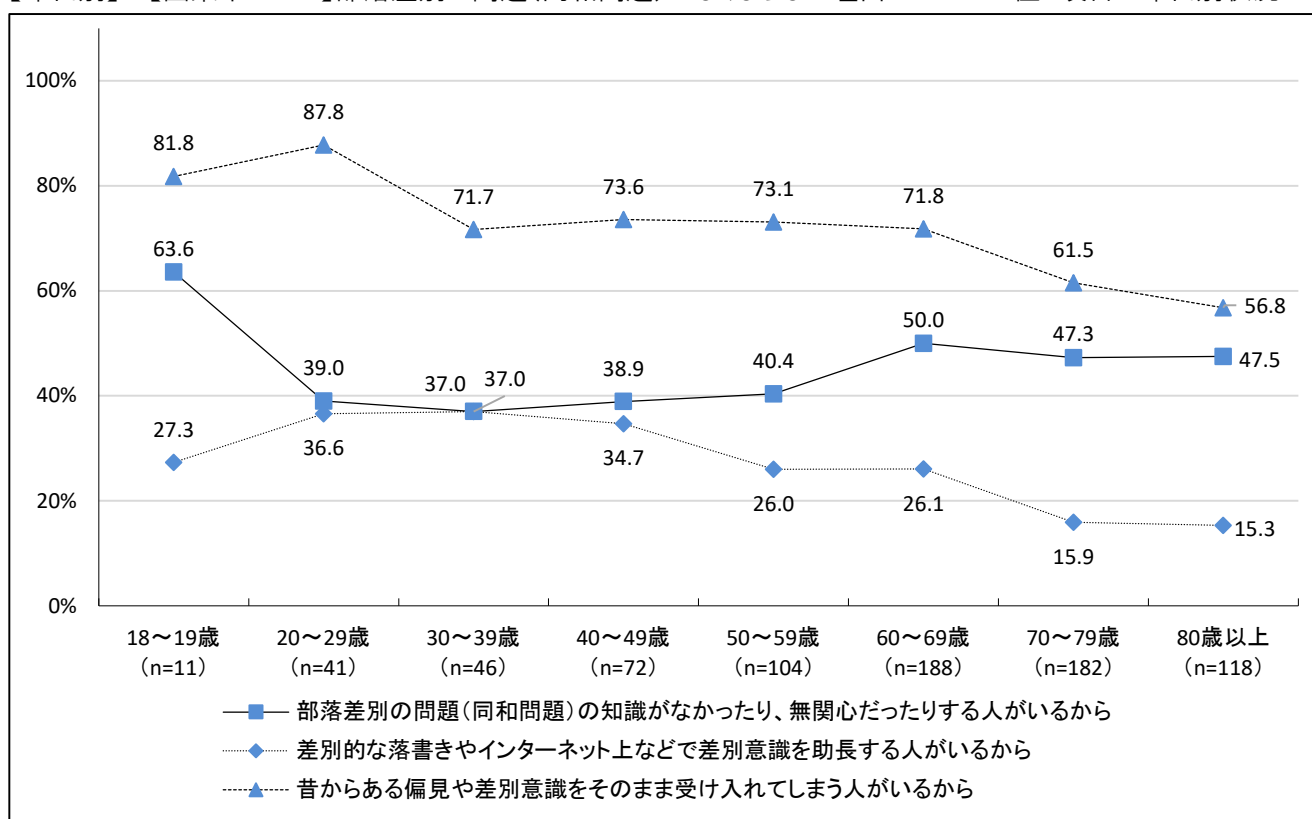
国東市2020調査:「問19 部落差別意識を持つ人はまだいると思いますか。」で差別意識を持つ人は「いる」と答えた方のみ。

国東市2025調査:全員対象。

【年代別】＜【国東市2025】部落差別の問題(同和問題)がなくなる理由について上位3項目の年代別状況＞



【年代別】＜【国東市2020】部落差別の問題(同和問題)がなくなる理由について上位3項目の年代別状況＞



■市全体では、現在もなお部落差別の問題(同和問題)がなくなる理由について、「昔からある偏見や差別意識をそのまま受け入れてしまう人がいるから」の割合が 54.7%と最も高く、次いで「部落差別の問題(同和問題)の知識がなかったり、無関心だったりする人がいるから」(33.8%)、「差別的な落書きやインターネット上などで差別意識を助長する人がいるから」(22.5%)となっています。

■2020調査と比較すると、市全体では「わからない」(7.0 ㊦)、[㊦]「特にない」(4.9 ㊦)がそれぞれ増加しています。大分県2023調査との比較では、「行政や学校・社会などで教育や啓発を進めるから」の割合が 6.6 ㊦と最も上回り、次いで「特にない」(4.7 ㊦)、「被差別部落(同和地区)の住民が行政から優遇されていると思う人がいるから」(3.0 ㊦)となっています。

◆年代別では、部落差別の問題(同和問題)がなくなる理由の上位3項目について、「部落差別の問題(同和問題)の知識がなかったり、無関心だったりする人がいるから」で最も割合が高い年代は18～19歳(42.9%)、「差別的な落書きやインターネット上などで差別意識を助長する人がいるから」で最も割合が高い年代は50～59歳(39.4%)、「昔からある偏見や差別意識をそのまま受け入れてしまう人がいるから」で最も割合が高い年代は18～19歳(85.7%)となっています。

◆2020調査と比較すると、「差別的な落書きやインターネット上などで差別意識を助長する人がいるから」で最も割合が増加してるのは、50～59歳の 13.4 ㊦、次いで70～79歳(5.5 ㊦)。「昔からある偏見や差別意識をそのまま受け入れてしまう人がいるから」で最も割合が増加してるのは、18～19歳の 3.9 ㊦となっています。

◎考察

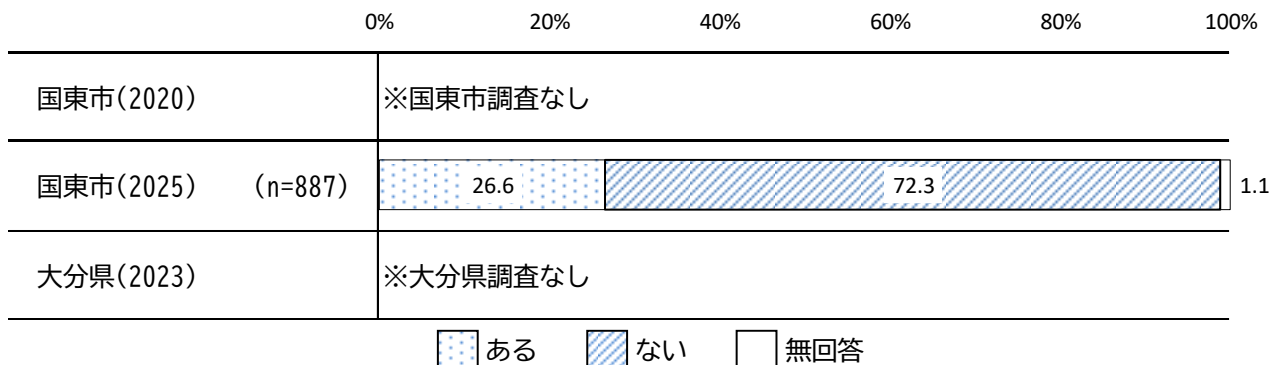
市全体では、現在もなお部落差別の問題(同和問題)がなくなる理由について、「昔からある偏見や差別意識をそのまま受け入れてしまう人がいるから」の割合が半数を超え最も高く、次いで「部落差別の問題(同和問題)の知識がなかったり、無関心だったりする人がいるから」が3割程度となっています。特に18～19歳では両項目が極めて高く、若い世代ほど教育の欠如や既存の差別意識への同調を問題視しています。偏見をなくすには、正しい知識の習得と自分事として考える姿勢が重要です。今後も、各種学習会や講演会等を通じて、部落差別の問題を「遠い昔の話」や「自分には無関係な問題」と捉えるのではなく、現在も起きている人権侵害であることを理解してもらえるよう、教育・啓発を推進していく必要があります。

問12 あなたは、「被差別部落(同和地区)出身の人と関わらない方がよい」と言う内容を見たり聞いたりしたことがありますか。

SA 上段：構成比 下段：人数

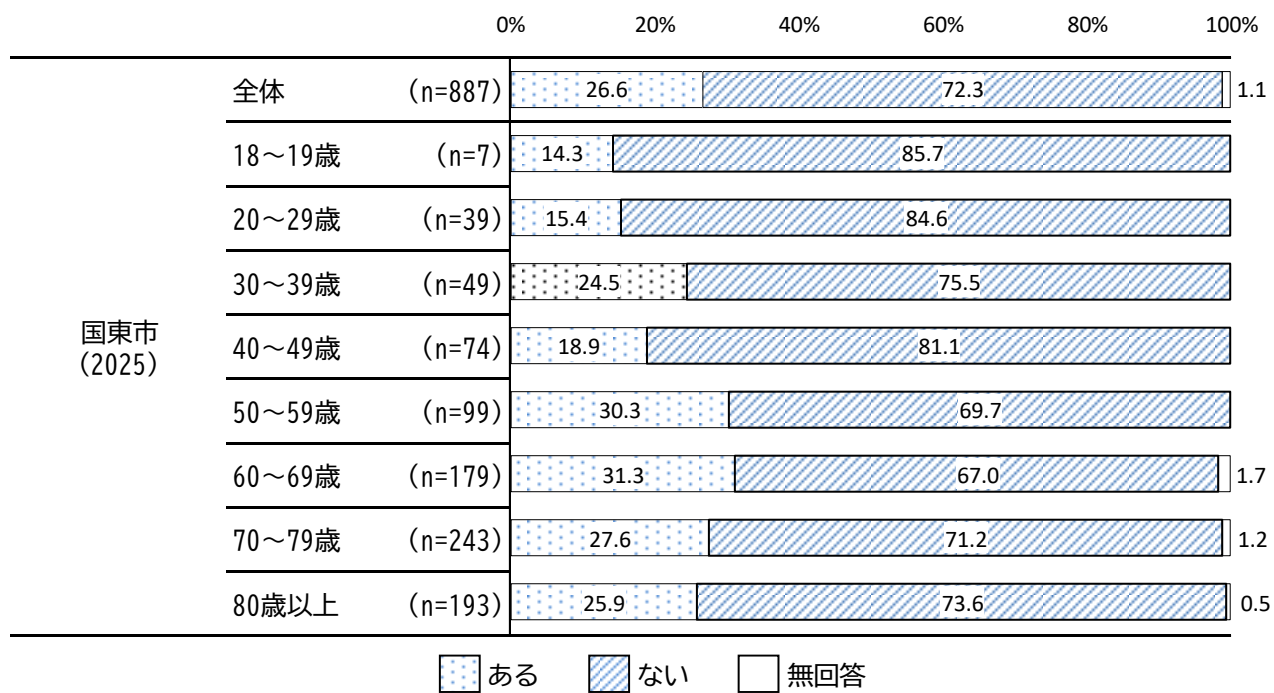
2025 調査結果	ある	ない	無回答	合計
18～19歳	14.3 1	85.7 6	0.0 0	100.0 7
20～29歳	15.4 6	84.6 33	0.0 0	100.0 39
30～39歳	24.5 12	75.5 37	0.0 0	100.0 49
40～49歳	18.2 14	81.1 60	0.0 0	100.0 74
50～59歳	30.3 30	69.7 69	0.0 0	100.0 99
60～69歳	31.3 56	67.0 120	1.7 3	100.0 179
70～79歳	27.6 67	71.2 173	1.2 3	100.0 243
80歳以上	25.9 50	73.6 142	0.5 1	100.0 193
無回答	0.0 0	25.0 1	75.0 3	100.0 4
全体	26.6 236	72.3 641	1.1 10	100.0 887

【全体】



- 市全体では、「ない」が72.3%となっており、一方で「ある」が26.6%と約3割の人が「被差別部落(同和地区)出身の人と関わらない方がよい」と言う内容を見たり聞いたりしたことがあると答えています。
- 2020調査はありません。大分県2023調査との比較ありません。

【年代別】



◆年代別では、「ある」の割合が最も高いのは60～69歳で 31.3%、次いで50～59歳(30.3%)、70～79歳 (27.6%)となっています。

◆2020調査はありません。

問12-(1) 【問12で「ある」と答えた方に伺います。】それは誰から、または何によって知りましたか。

MA

上段：構成比 下段：人数

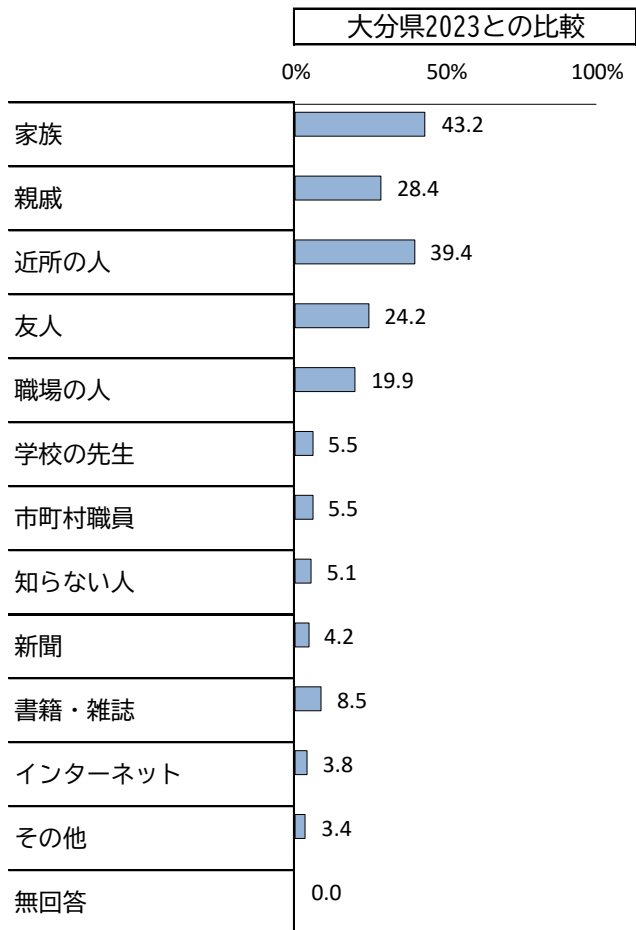
2025 調査結果	家族	親戚	近所の人	友人	職場の人	学校の 先生	市町村 職員	知らない 人	新聞	書籍・ 雑誌	インター ネット
18～19歳	0.0 0	100.0 1	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	100.0 1	0.0 0	0.0 0	0.0 0
20～29歳	33.3 2	0.0 0	16.7 1	0.0 0	16.7 1	16.7 1	16.7 1	0.0 0	0.0 0	16.7 1	16.7 1
30～39歳	41.7 5	16.7 2	25.0 3	8.3 1	16.7 2	16.7 2	0.0 0	8.3 1	0.0 0	0.0 0	0.0 0
40～49歳	42.9 6	35.7 5	21.4 3	21.4 3	21.4 3	21.4 3	14.3 2	0.0 0	0.0 0	7.1 1	0.0 0
50～59歳	33.3 10	23.3 7	23.3 7	16.7 5	13.3 4	13.3 4	6.7 2	6.7 2	3.3 1	0.0 0	10.0 3
60～69歳	51.8 29	28.6 16	35.7 20	19.6 11	23.2 13	1.8 1	3.6 2	5.4 3	1.8 1	10.7 6	3.6 2
70～79歳	46.3 31	28.4 19	43.3 29	29.9 20	25.4 17	1.5 1	6.0 4	3.0 2	4.5 3	10.4 7	1.5 1
80歳以上	38.0 19	34.0 17	60.0 30	34.0 17	14.0 7	2.0 1	4.0 2	6.0 3	10.0 5	10.0 5	4.0 2
無回答	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0
全体	43.2 102	28.4 67	39.4 93	24.2 57	19.9 47	5.5 13	5.5 13	5.1 12	4.2 10	8.5 20	3.8 9

MA

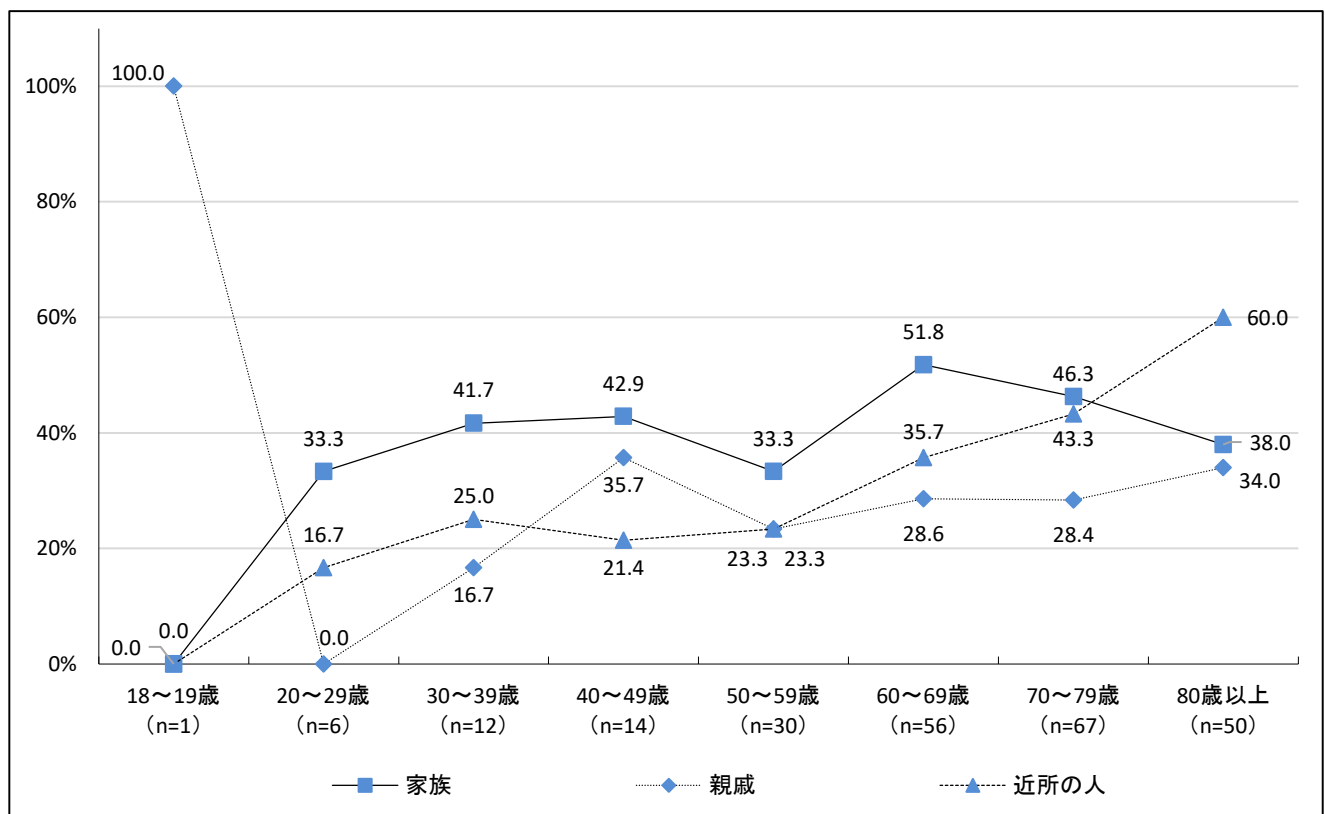
上段：構成比 下段：人数

2025 調査結果	その他	無回答	全体
18～19歳	0.0 0	0.0 0	100.0 1
20～29歳	16.7 1	0.0 0	100.0 6
30～39歳	8.3 1	0.0 0	100.0 12
40～49歳	7.1 1	0.0 0	100.0 14
50～59歳	3.3 1	0.0 0	100.0 30
60～69歳	3.6 2	0.0 0	100.0 56
70～79歳	1.5 1	0.0 0	100.0 67
80歳以上	2.0 1	0.0 0	100.0 50
無回答	0.0 0	0.0 0	100.0 0
全体	3.4 8	0.0 0	100.0 236

【全体】



【年代別】＜【国東市2025】 見たり聞いたりした相手について上位3項目の年代別状況＞



■市全体では、「被差別部落(同和地区)出身の人と関わらない方がよい」と言う内容を見たり聞いたりしたことがある人の中で、それは誰から、または何によって知ったかを聞いたところ、「家族」が43.2%と最も高く、次いで「近所の人」(39.4%)、「親戚」(28.4%)となっています。

■2020調査はありません。大分県2023調査との比較もありません。

◆年代別では、「家族」の割合が最も高いのは60～69歳で51.8%、次いで70～79歳(46.3%)、40～49歳(42.9%)となっています。

◆2020調査はありません。

◎考察

市全体では、「被差別部落(同和地区)出身の人と関わらない方がよい」と言う内容を見たり聞いたりしたことがある人の中で、それは誰から、または何によって知ったかを聞いたところ、「家族」が4割超えと最も高く、次いで「近所の人」、「親戚」となっており、身近な人間関係であることが分かります。特に高齢層では、地域コミュニティ(近所の人)からの影響が比較的強い傾向にあり、家庭や近隣社会の中で価値観が受け継がれている様子がみられます。

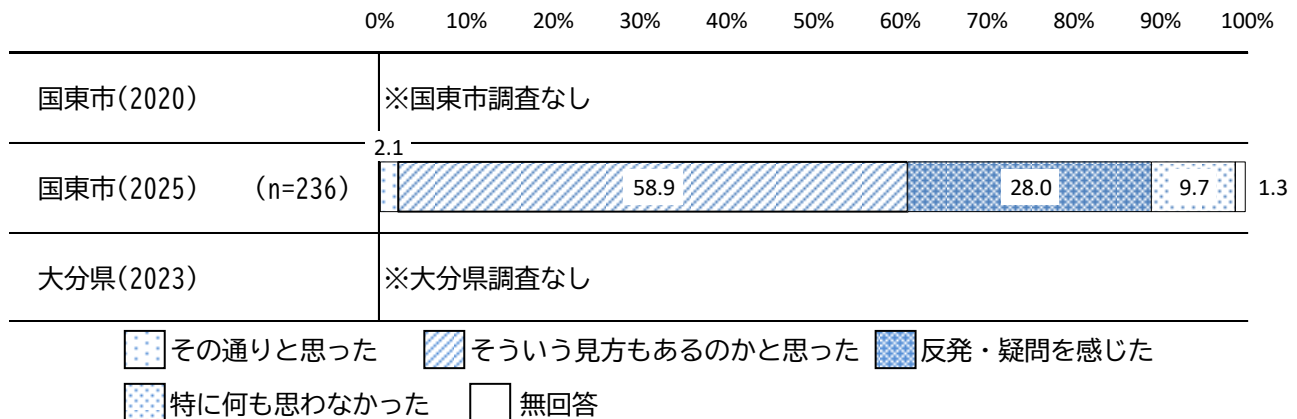
問12-(2) 【問12で「ある」と答えた方に伺います。】それを見たり聞いたりした時、どう感じましたか。

SA

上段：構成比 下段：人数

2025 調査結果	その通りと 思った	そういう見方も あるのかと 思った	反発・疑問を 感じた	特に何も思わな かった	無回答	合計
18～19歳	0.0 0	0.0 0	100.0 1	0.0 0	0.0 0	100.0 1
20～29歳	0.0 0	50.0 3	16.7 1	33.3 2	0.0 0	100.0 6
30～39歳	0.0 0	41.7 5	50.0 6	8.3 1	0.0 0	100.0 12
40～49歳	0.0 0	71.4 10	28.6 4	0.0 0	0.0 0	100.0 14
50～59歳	0.0 0	40.0 12	43.3 13	13.3 4	3.3 1	100.0 30
60～69歳	3.6 2	66.1 37	23.2 13	7.1 4	0.0 0	100.0 56
70～79歳	3.0 2	65.7 44	19.4 13	9.0 6	3.0 2	100.0 67
80歳以上	2.0 1	56.0 28	30.0 15	12.0 6	0.0 0	100.0 50
無回答	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	100.0 0
全体	2.1 5	58.9 139	28.0 66	9.7 23	1.3 3	100.0 236

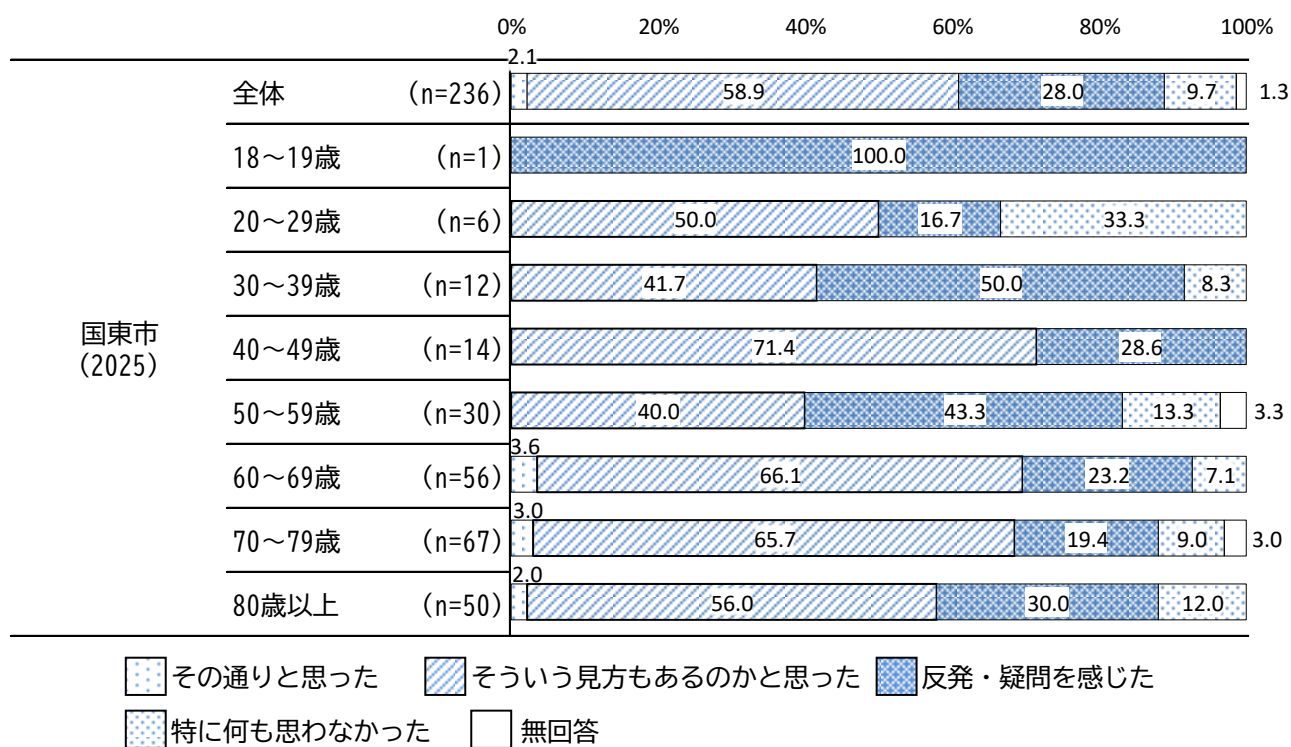
【全体】



■市全体では、「被差別部落(同和地区)出身の人と関わらない方がよい」という内容を見たり聞いたりした時、どう感じたかについて「そういう見方もあるのかと思った」が 58.9%と最も高く、次いで「反発・疑問を感じた」(28.0%)、「特に何も思わなかった」(9.7%)となっています。

■2020調査はありません。大分県2023調査との比較もありません。

【年代別】



- ◆年代別では、「そういう見方もあるのかと思った」の割合が最も高いのは40～49歳で 71.4%、次いで60～69歳(66.1%)、70～79歳(65.7%)となっています。
- ◆2020調査はありません。

◎考察

市全体では、「被差別部落(同和地区)出身の人と関わらない方がよい」と言う内容を見たり聞いたりした時、どう感じたかについて「そういう見方もあるのかと思った」が半数を超え最も高くなっています。これは、差別を「自分には関係ない問題」として捉える消極的な姿勢が、結果として偏見を温存・再生産させる土壌となっていると考えられます。差別を他人事とせず「自分の問題」と捉える意識改革が不可欠です。

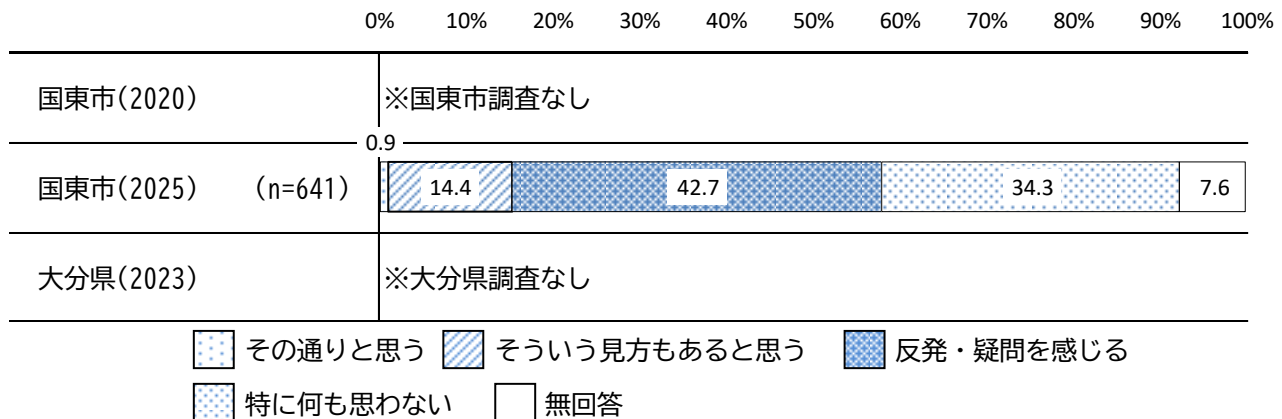
問12-(3) 【問12で「ない」と答えた方に伺います。】あなたは、「被差別部落(同和地区)出身の人と関わらない方がよい」という内容についてどう思いますか。

SA

上段：構成比 下段：人数

2025 調査結果	その通りと思う	そういう見方も あると思う	反発・疑問を 感じる	特に何も 思わない	無回答	合計
18～19歳	0.0 0	0.0 0	50.0 3	50.0 3	0.0 0	100.0 6
20～29歳	0.0 0	18.2 6	57.6 19	21.2 7	3.0 1	100.0 33
30～39歳	0.0 0	18.9 7	37.8 14	35.1 13	8.1 3	100.0 37
40～49歳	0.0 0	10.0 6	60.0 36	30.0 18	0.0 0	100.0 60
50～59歳	1.4 1	20.3 14	52.2 36	18.8 13	7.2 5	100.0 69
60～69歳	0.0 0	16.7 20	45.0 54	30.0 36	8.3 10	100.0 120
70～79歳	1.2 2	11.6 20	41.0 71	40.5 70	5.8 10	100.0 173
80歳以上	2.1 3	13.4 19	28.9 41	41.5 59	14.1 20	100.0 142
無回答	0.0 0	0.0 0	0.0 0	100.0 1	0.0 0	100.0 1
全体	0.9 6	14.4 92	42.7 274	34.3 220	7.6 49	100.0 641

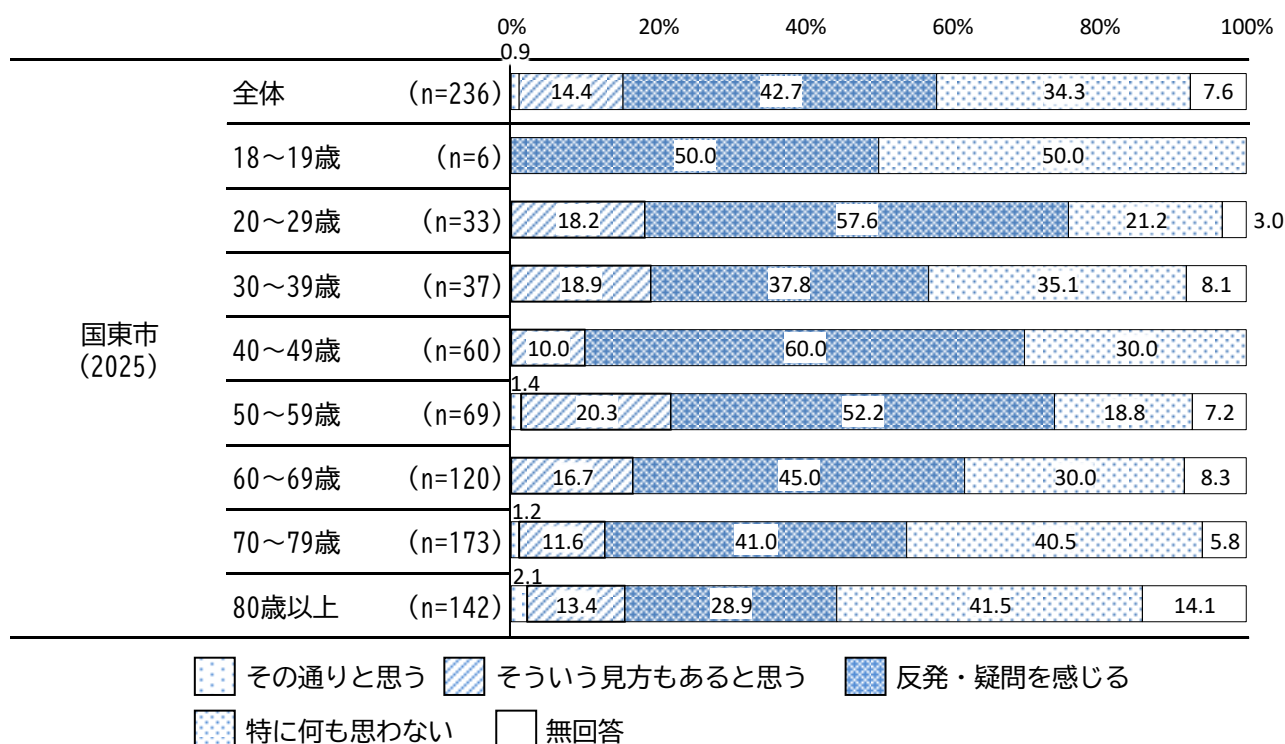
【全体】



■市全体では、「被差別部落(同和地区)出身の人と関わらない方がよい」という内容について、「反発・疑問を感じる」が42.7%と最も高く、次いで「特に何も思わない」(34.3%)、「そういふ見方もあると思う」(14.4%)となっています。

■2020調査はありません。大分県2023調査との比較ありません。

【年代別】



◆年代別では、「反発・疑問を感じる」の割合が最も高いのは40～49歳で 60.0%、次いで20～29歳 (57.6%)、50～59歳(52.2%)となっています。

◆年代別の2020調査はありません。

◎考察

市全体では、「被差別部落(同和地区)出身の人と関わらない方がよい」という内容について、「反発・疑問を感じる」が4割を超え最も高く、次いで「特に何も思わない」が3割半ばとなっています。差別的な見解に対し、最も多くの人が否定的な反応を示している点は、これまで学校や地域で継続してきた人権教育・啓発活動の成果の一つと評価できます。年代別では、40～49歳や20～29歳で差別への反発が強い一方、80歳以上では割合が低くなり、世代間での意識の差がみられます。今後は、これまでの取組を基盤としながら、無関心層や高齢層に対しても、差別を「許さない」という当事者意識を育む啓発活動を一層進めていくことが必要です。

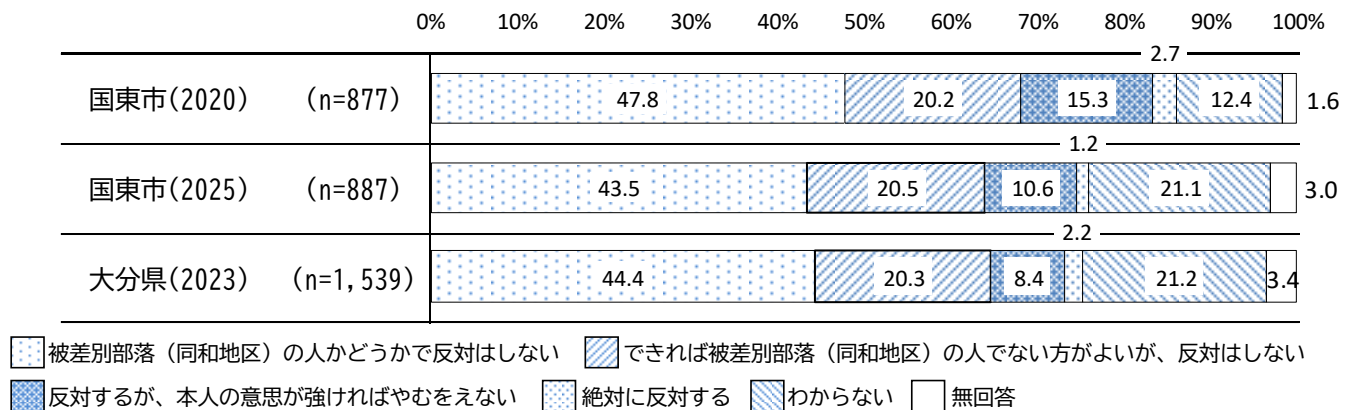
問13 あなたの子ども、あるいは孫が被差別部落(同和地区)出身の人と恋愛をし、その人と結婚したいと言ったらあなたはどうされますか。

SA

上段：構成比 下段：人数

2025 調査結果	被差別部落(同和地区)の人かどうかで反対はしない	できれば被差別部落(同和地区)の人でない方がよいが、反対はしない	反対するが、本人の意思が強ければやむをえない	絶対に反対する	わからない	無回答	合計
18～19歳	71.4 5	0.0 0	14.3 1	0.0 0	14.3 1	0.0 0	100.0 7
20～29歳	53.8 21	7.7 3	2.6 1	0.0 0	33.3 13	2.6 1	100.0 39
30～39歳	59.2 29	8.2 4	8.2 4	2.0 1	22.4 11	0.0 0	100.0 49
40～49歳	66.2 49	6.8 5	4.1 3	1.4 1	21.6 16	0.0 0	100.0 74
50～59歳	47.5 47	14.1 14	11.1 11	1.0 1	24.2 24	2.0 2	100.0 99
60～69歳	45.8 82	21.8 39	8.4 15	2.2 4	19.6 35	2.2 4	100.0 179
70～79歳	39.1 95	28.8 70	11.9 29	0.8 2	15.6 38	3.7 9	100.0 243
80歳以上	29.0 56	24.4 47	15.5 30	1.0 2	24.9 48	5.2 10	100.0 193
無回答	50.0 2	0.0 0	0.0 0	0.0 0	25.0 1	25.0 1	100.0 4
全体	43.5 386	20.5 182	10.6 94	1.2 11	21.1 187	3.0 27	100.0 887

【全体】



※国東市2020調査と2025調査では回答対象者が異なる。

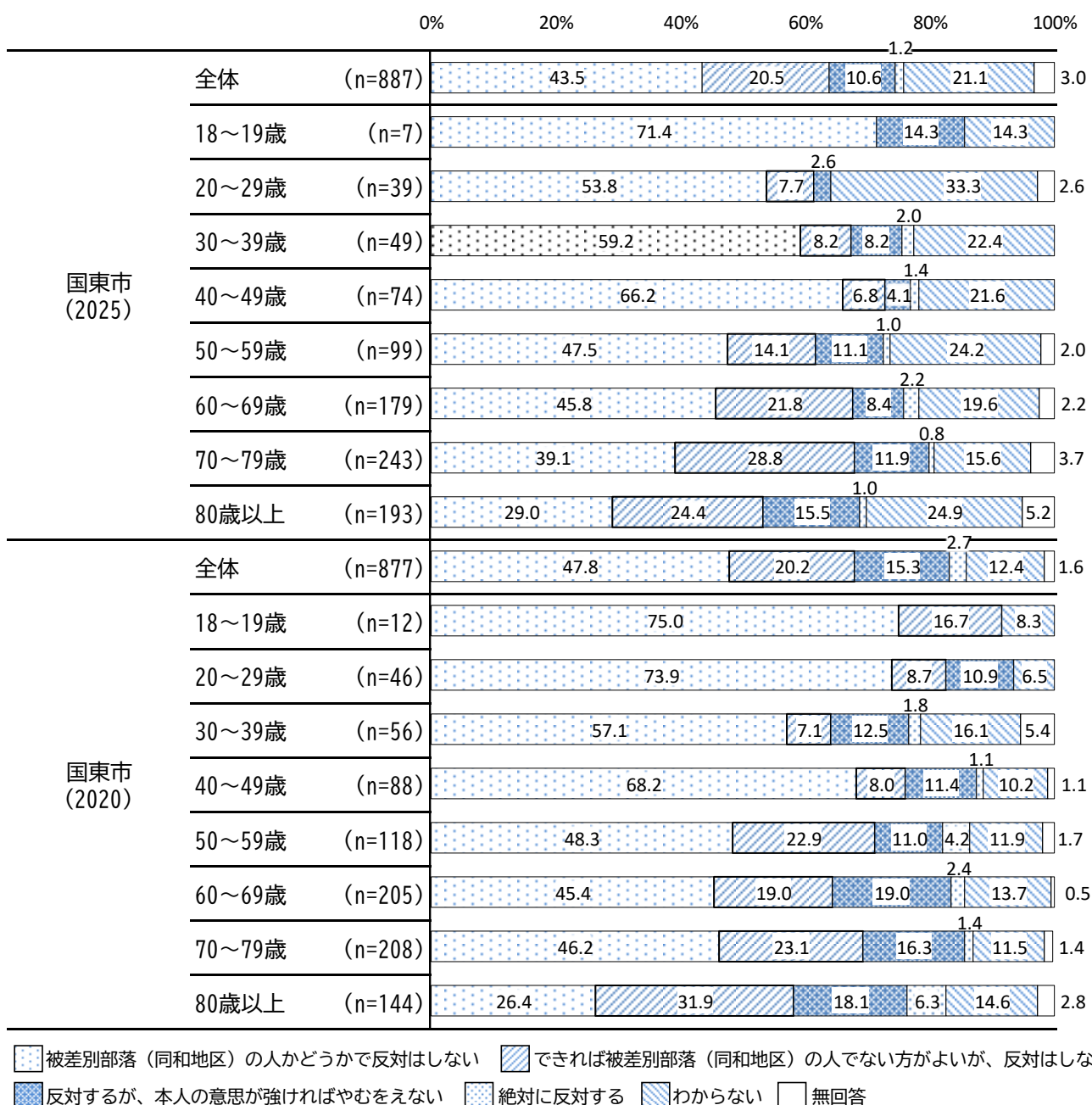
国東市2020調査:「部落差別意識を持つ人はまだいると思いますか」で「ほとんどいない」「なかにはいる」「まだ多い」「わからない」と答えた方のみ。

国東市2025調査:全員が対象。

■市全体では、子ども、あるいは孫が被差別部落(同和地区)出身の人と恋愛をし、その人と結婚したいと言ったらどうするかについて「被差別部落(同和地区)の人かどうかで反対はしない」の割合が 43.5%と最も高くなっています。

■2020調査と比較すると市全体では、「反対するが、本人の意思が強ければやむをえない」の割合が 4.7 ポイント減少しています。大分県2023調査との比較では、「反対するが、本人の意思が強ければやむをえない」の割合が大分県よりも 2.2 ポイント上回っています。

【年代別】



◆年代別では、子ども、あるいは孫が被差別部落(同和地区)出身の人と恋愛をし、その人と結婚したいと言ったらどうするかについて「被差別部落(同和地区)の人かどうかで反対はしない」の割合が最も高いのは18～19歳で71.4%、次いで40～49歳(66.2%)、30～39歳(59.2%)となっています。

◆2020調査と比較すると年代別では、「被差別部落(同和地区)の人かどうかで反対はしない」の割合が最も増加したのは80歳以上で2.6ポイント、次いで30～39歳(2.1ポイント)、60～69歳(0.4ポイント)となっています。

◎考察

市全体では、子ども、あるいは孫が被差別部落(同和地区)出身の人と恋愛をし、その人と結婚したいと言ったらどうするかについて「被差別部落(同和地区)の人かどうかで反対はしない」の割合が4割を超え最も高くなっていますが、2020調査と比較すると、その割合は4.3ポイント減少しています。今後も引き続き、部落差別問題への正しい理解と知識を深めるため、教育・啓発を推進する必要があります。

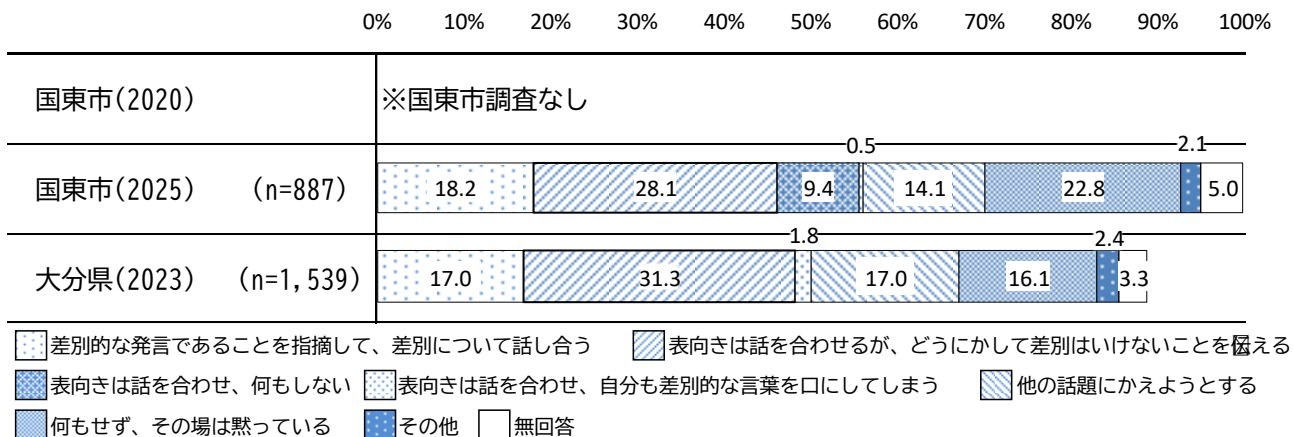
問14 学校や職場、日常生活の中で、誰かが被差別部落(同和地区)出身の人に対する差別的な発言をした時、あなたはどのような態度を取りますか。

SA

上段：構成比 下段：人数

2025 調査結果	差別的な発言であることを指摘して、差別について話し合う	表向きは話を合わせるが、どうにかして差別はいけないことを伝える	表向きは話を合わせ、何もしない	表向きは話を合わせ、自分も差別的な言葉を口にしてしまう	他の話題にかえようとする	何もせず、その場は黙っている	その他	無回答	合計
18～19歳	28.6 2	14.3 1	0.0 0	0.0 0	0.0 0	42.9 3	14.3 1	0.0 0	100.0 7
20～29歳	28.2 11	17.9 7	2.6 1	0.0 0	25.6 10	25.6 10	0.0 0	0.0 0	100.0 39
30～39歳	22.4 11	22.4 11	10.2 5	0.0 0	14.3 7	28.6 14	2.0 1	0.0 0	100.0 49
40～49歳	21.6 16	21.6 16	9.5 7	0.0 0	20.3 15	23.0 17	4.1 3	0.0 0	100.0 74
50～59歳	18.2 18	33.3 33	7.1 7	1.0 1	14.1 14	20.2 20	3.0 3	3.0 3	100.0 99
60～69歳	19.0 34	20.7 37	11.2 20	1.1 2	17.3 31	24.6 44	3.4 6	2.8 5	100.0 179
70～79歳	14.0 34	35.8 87	11.1 27	0.4 1	10.7 26	20.2 49	0.8 2	7.0 17	100.0 243
80歳以上	18.1 35	28.5 55	8.3 16	0.0 0	11.4 22	23.3 45	1.6 3	8.8 17	100.0 193
無回答	0.0 0	50.0 2	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	50.0 2	100.0 4
全体	18.2 161	28.1 249	9.4 83	0.5 4	14.1 125	22.8 202	2.1 19	5.0 44	100.0 887

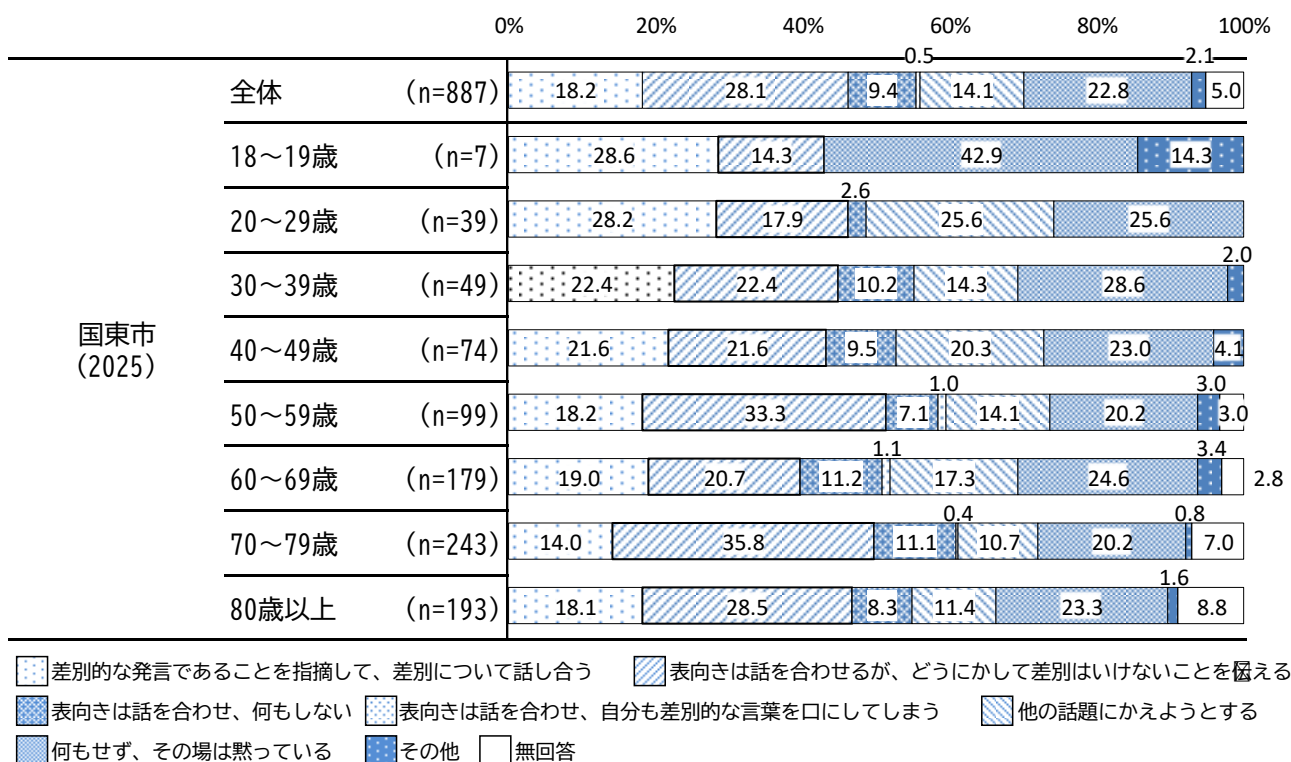
【全体】



※大分県2023調査では「表向きは話を合わせ、何もしない」の項目なし。

- 市全体では、学校や職場、日常生活の中で、誰かが被差別部落(同和地区)出身の人に対する差別的な発言をした時どのような態度を取るのかについて「表向きは話を合わせるが、どうにかして差別はいけないことを伝える」の割合が28.1%と最も高くなっています。
- 大分県2023調査と比較すると、「何もせず、その場は黙っている」の割合が大分県よりも6.7ポイント上回っています。
- 2020調査はありません。

【年代別】



◆年代別では、学校や職場、日常生活の中で、誰かが被差別部落(同和地区)出身の人に対する差別的な発言をした時どのような態度を取るかについて「差別的な発言であることを指摘して、差別について話し合う」の割合が最も高いのは18～19歳で 28.6%、次いで20～29歳(28.2%)、30～39歳(22.4%)となっています。

◆年代別の2020調査はありません。

◎考察

市全体では、学校や職場、日常生活の中で、誰かが被差別部落(同和地区)出身の人に対する差別的な発言をした時どのような態度を取るかについて「表向きは話を合わせるが、どうにかして差別はいけないことを伝える」の割合が3割近くで最も高くなっています。次いで「何もしない」が2割を超えて差別を看過する層も一定数存在します。世代別では、18～19歳、20～29歳の若年層ほど「差別を指摘し話し合う」という直接的な行動をとる割合が高く、全体平均を 10 割近く上回っています。一方、高齢層では穏便に制止を試みる傾向が顕著です。差別を許さないという考えを持つ人が半数近くに達しているものの、沈黙や回避を選ぶ人も少なくないことから、その場で見過ごさずに行動できる人が少しでも増えるよう、教育・啓発を推進する必要があります。

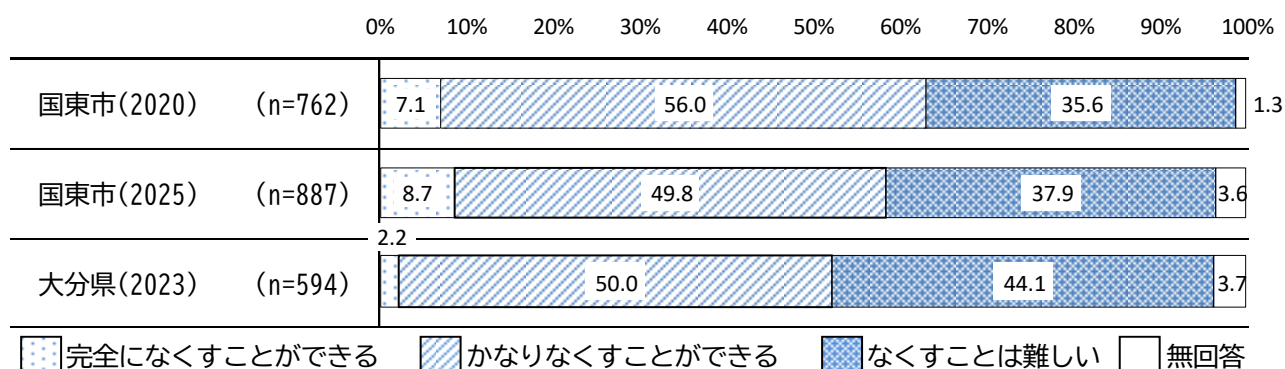
問15 被差別部落(同和地区)の人に対する差別意識は、近い将来(5～10年後位に)なくすことができますか。

SA

上段：構成比 下段：人数

2025 調査結果	完全になくす ことができる	かなりなくす ことができる	なくすことは難 しい	無回答	合計
18～19歳	0.0 0	42.9 3	57.1 4	0.0 0	100.0 7
20～29歳	7.7 3	48.7 19	43.6 17	0.0 0	100.0 39
30～39歳	4.1 2	49.0 24	46.9 23	0.0 0	100.0 49
40～49歳	5.4 4	47.3 35	47.3 35	0.0 0	100.0 74
50～59歳	11.1 11	40.4 40	47.5 47	1.0 1	100.0 99
60～69歳	7.3 13	44.1 79	45.8 82	2.8 5	100.0 179
70～79歳	7.8 19	54.3 132	33.7 82	4.1 10	100.0 243
80歳以上	13.0 25	56.5 109	23.8 46	6.7 13	100.0 193
無回答	0.0 0	25.0 1	0.0 0	75.0 3	100.0 4
全体	8.7 77	49.8 442	37.9 336	3.6 32	100.0 887

【全体】



※国東市2020調査と2025調査では回答対象者が異なる。

国東市2020調査：「部落差別意識を持つ人はまだいると思いますか」で「ほとんどいない」「なかにはいる」「まだ多い」と答えた方のみ。

国東市2025調査：全員が対象。

※国東市2025と大分県2023では回答対象者が異なる。

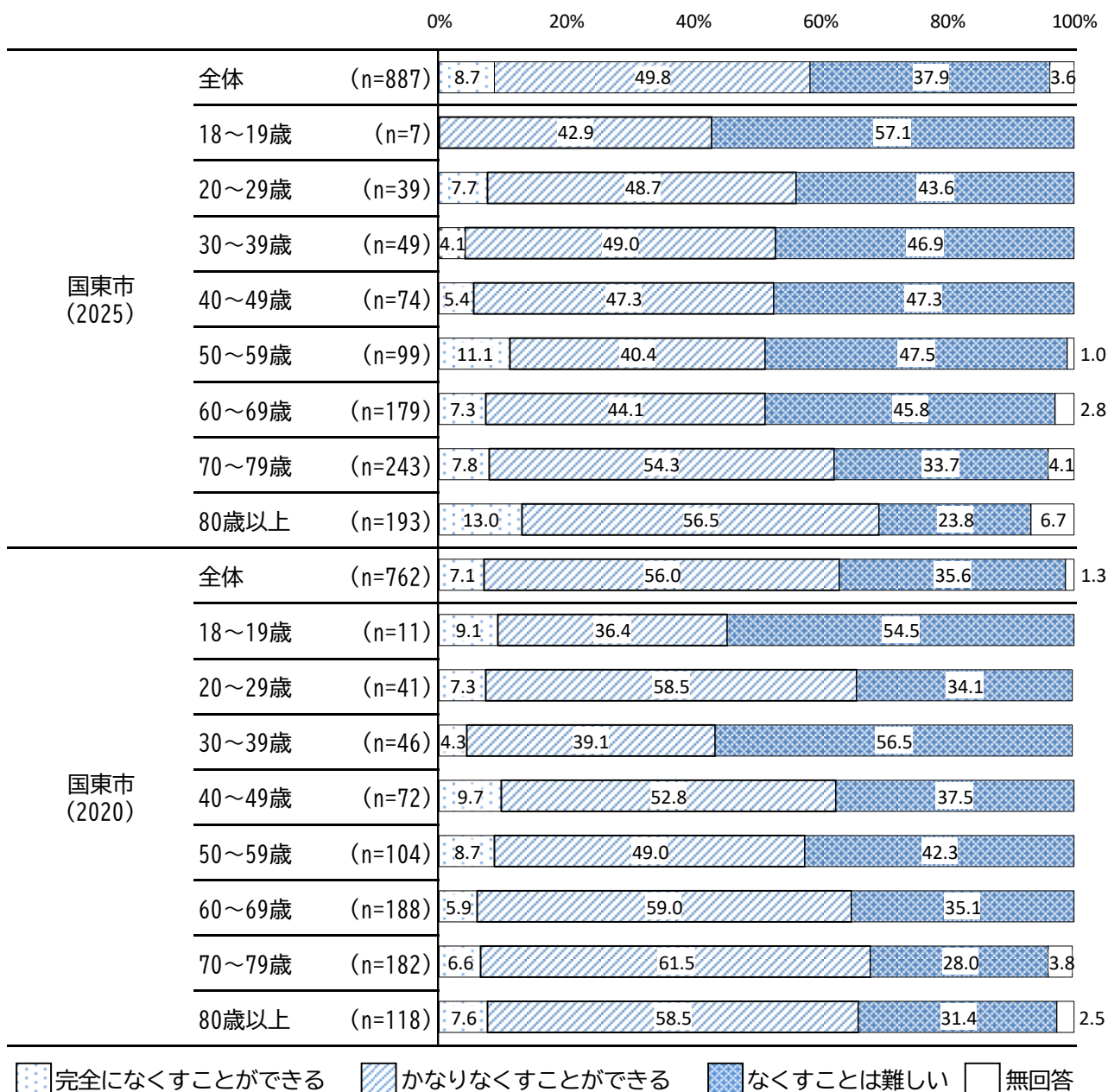
国東市2025調査：全員が対象。

大分県2023調査：「被差別部落(同和地区)の人に対して、差別意識を持った人がいると思いますか」で「なかにはいる」「まだ多い」と答えた方のみ。

■市全体では、被差別部落(同和地区)の人に対する差別意識は、近い将来(5～10年後位に)なくすことができると思うかについて「かなりなくすことができる」の割合が 49.8%と最も高く、次いで「なくすことは難しい」(37.9%)、「完全になくすことができる」(8.7%)となっています。

■2020調査と比較すると市全体では、「かなりなくすことができる」の割合が 6.2 ㊦減少し、「完全になくすことができる」の割合が 1.6 ㊦増加しています。大分県2023調査との比較では、「なくすことは難しい」の割合が大分県よりも6.2 ㊦下回っています。

【年代別】



- ◆年代別では、「なくすことは難しい」の割合が最も高いのは18～19歳で 57.1%、次いで50～59歳(47.5%)、40～49歳(47.3%)となっています。
- ◆2020調査と比較すると年代別では、「かなりなくすことができる」の割合が最も増加したのは30～39歳で9.9ポイント、次いで18～19歳(6.5ポイント)となっています。他の年代はすべて、「かなりなくすことができる」の割合が減少しています。

◎考察

被差別部落(同和地区)の人に対する差別意識を近い将来(5～10年後)になくすことができると思うかについては、約4割が「なくすことは難しい」と回答しています。この結果からは、差別の解消に対して一定の課題認識があることがうかがえます。部落差別の問題(同和問題)は決して他人事ではなく、私たち一人ひとりの暮らしとつながる課題です。市民一人ひとりが正しく知り、自ら考え、判断し、行動していくことが、差別のない社会の実現につながります。

問16 あなたは、部落差別の問題(同和問題)を解消するためには、今後どうすればよいと思いますか。

表とグラフの数字

MA

上段：構成比 下段：人数

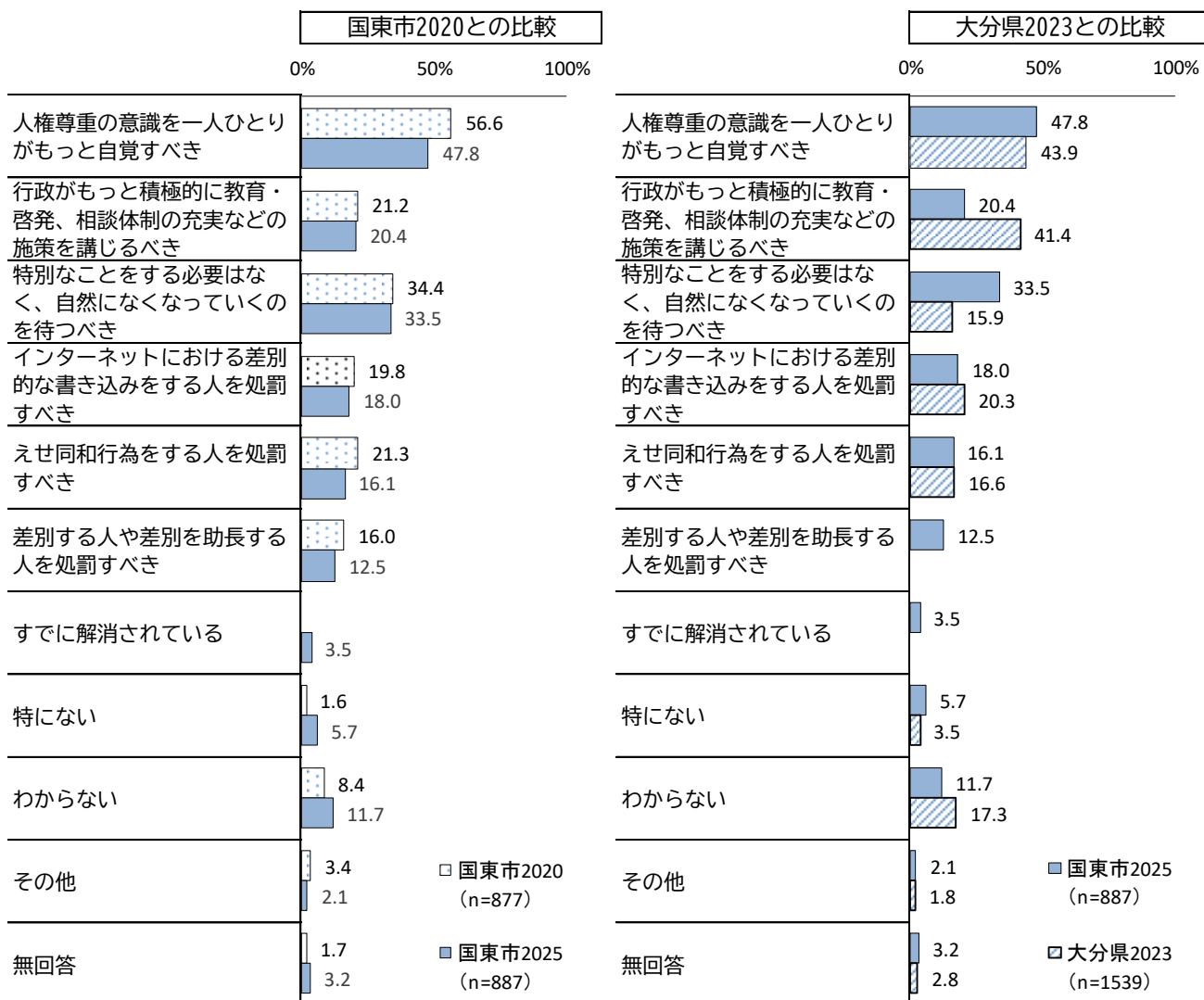
2025 調査結果	人権尊重の意識を一人ひとりがもっと自覚すべき	行政がもっと積極的に教育・啓発、相談体制の充実などの施策を講じるべき	特別なことをする必要はなく、自然になくなっていくのを待つべき	インターネットにおける差別的な書き込みをする人を処罰すべき	えせ同和行為をする人を処罰すべき	差別する人や差別を助長する人を処罰すべき	すでに解消されている
18～19歳	57.1 4	57.1 4	0.0 0	42.9 3	14.3 1	42.9 3	0.0 0
20～29歳	53.8 21	15.4 6	33.3 13	28.2 11	17.9 7	30.8 12	2.6 1
30～39歳	38.8 19	18.4 9	26.5 13	26.5 13	24.5 12	18.4 9	2.0 1
40～49歳	51.4 38	17.6 13	25.7 19	25.7 19	21.6 16	23.0 17	1.4 1
50～59歳	40.4 40	21.2 21	29.3 29	20.2 20	16.2 16	16.2 16	2.0 2
60～69歳	51.4 92	21.8 39	27.4 49	22.9 41	20.1 36	14.5 26	1.7 3
70～79歳	49.8 121	21.4 52	38.7 94	13.2 32	14.8 36	5.8 14	4.5 11
80歳以上	46.1 89	19.2 37	41.5 80	10.9 21	9.8 19	7.3 14	6.2 12
無回答	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0
全体	47.8 424	20.4 181	33.5 297	18.0 160	16.1 143	12.5 111	3.5 31

MA

上段：構成比 下段：人数

2025 調査結果	特にない	わからない	その他	無回答	全体
18～19歳	0.0 0	14.3 1	0.0 0	0.0 0	100.0 7
20～29歳	0.0 0	7.7 3	7.7 3	2.6 1	100.0 39
30～39歳	2.0 1	8.2 4	6.1 3	0.0 0	100.0 49
40～49歳	1.4 1	14.9 11	2.7 2	1.4 1	100.0 74
50～59歳	5.1 5	11.1 11	3.0 3	1.0 1	100.0 99
60～69歳	6.7 12	11.7 21	1.1 2	1.7 3	100.0 179
70～79歳	6.2 15	9.1 22	0.8 2	3.7 9	100.0 243
80歳以上	8.3 16	15.5 30	2.1 4	5.7 11	100.0 193
無回答	25.0 1	25.0 1	0.0 0	50.0 2	100.0 4
全体	5.7 51	11.7 104	2.1 19	3.2 28	100.0 887

【全体】



※国東市2025調査時と大分県2023調査では回答選択肢の文言が異なるため、やや同じ選択肢には国東市2025調査の回答選択肢に数値を記入。

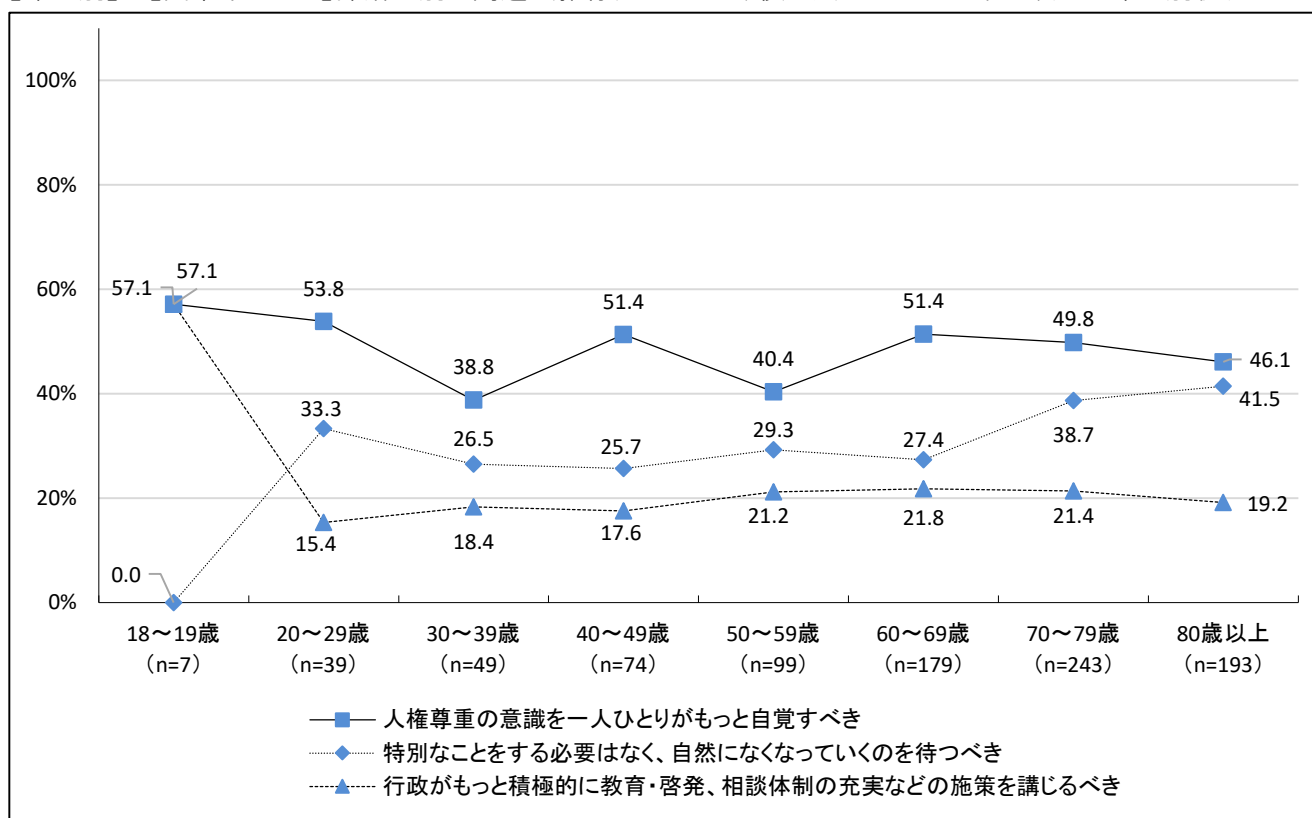
※国東市2020調査、大分県2023調査では「すでに解消されている」の項目なし。

※国東市2025調査と回答対象者が異なる。

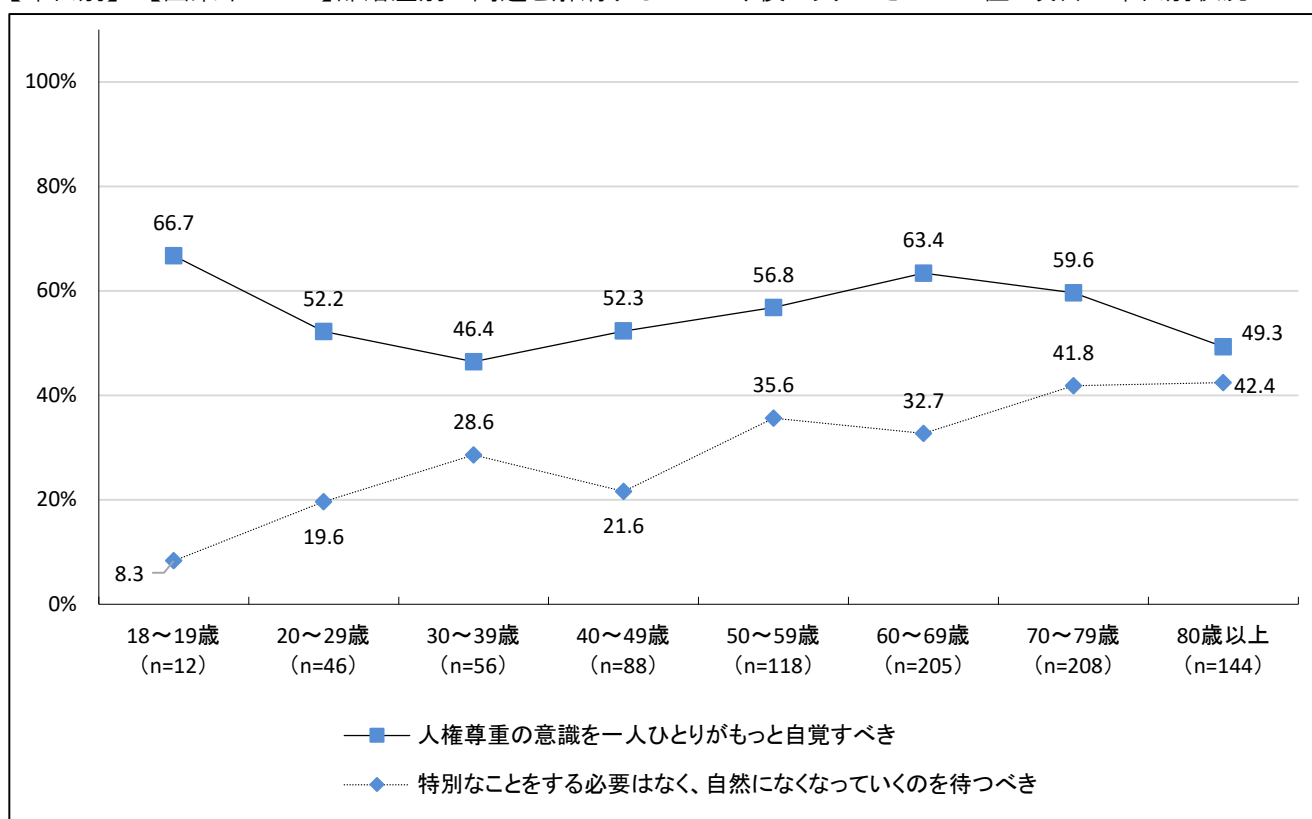
国東市2020調査：「問19 部落差別意識を持つ人はまだいると思いますか。」で「いる」「わからない」と答えた方のみ。

国東市2025調査：回答者全員。

【年代別】＜【国東市2025】部落差別の問題を解消するために今後どうすべきかの上位3項目の年代別状況＞



【年代別】＜【国東市2020】部落差別の問題を解消するために今後どうすべきかの上位3項目の年代別状況＞



※国東市2020調査の上位3項目に入っていた「えせ同和行為をする人を処罰すべき」は、国東市2025調査では上位に入っていないため比較不可。

- 市全体では、部落差別の問題(同和問題)を解消するためには、今後どうすればよいと思いますかについて「人権尊重の意識を一人ひとりがもっと自覚すべき」の割合が 47.8%と最も高く、次いで「特別なことをする必要はなく、自然になくなっていくのを待つべき」(33.5%)、「行政がもっと積極的に教育・啓発、相談体制の充実などの施策を講じるべき」(20.4%)となっています。
- 大分県2023調査との比較では、「特別なことをする必要はなく、自然になくなっていくのを待つべき」の割合が 17.6 ㊦上回っています。
- ◆年代別では、部落差別の問題(同和問題)がなくなる理由の上位3項目について、「人権尊重の意識を一人ひとりがもっと自覚すべき」で最も割合が高い年代は18～19歳(57.1%)、「特別なことをする必要はなく、自然になくなっていくのを待つべき」で最も割合が高い年代は80歳以上(41.5%)、「行政がもっと積極的に教育・啓発、相談体制の充実などの施策を講じるべき」で最も割合が高い年代は18～19歳(57.1%)となっています。
- ◆2020調査と比較すると、「人権尊重の意識を一人ひとりがもっと自覚すべき」では20～29歳(1.6 ㊦)で割合が増加し、他の年代はすべて減少しています。「特別なことをする必要はなく、自然になくなっていくのを待つべき」では20～29歳(13.7 ㊦)、40～49歳(4.1 ㊦)で割合が増加し、他の年代はすべて減少しています。

◎考察

部落差別の問題(同和問題)を解消するためには、今後どうすればよいと思いますかについて「人権尊重の意識を一人ひとりがもっと自覚すべき」と答えた人が全体の5割近くとなっています。一方で、2020調査と同じく3割以上の人が「特別なことをする必要はなく、自然になくなっていくのを待つべき」と答えており、大分県2023調査と比較しても、17.6 ㊦上回るなど、「寝た子を起こすな」論に近い考えも根強く残っています。放置しておけば、部落差別問題を差別的に知ってしまう恐れもあることから、部落差別問題について正しい知識と理解を深めて偏見に気付き、適切な行動をとれるよう、学校教育や行政による、教育・啓発が必要です。

Ⅲ. 個別の人権課題(問17～問19)

[SA]

問17 あなたは、男女平等が実現していると思いますか。

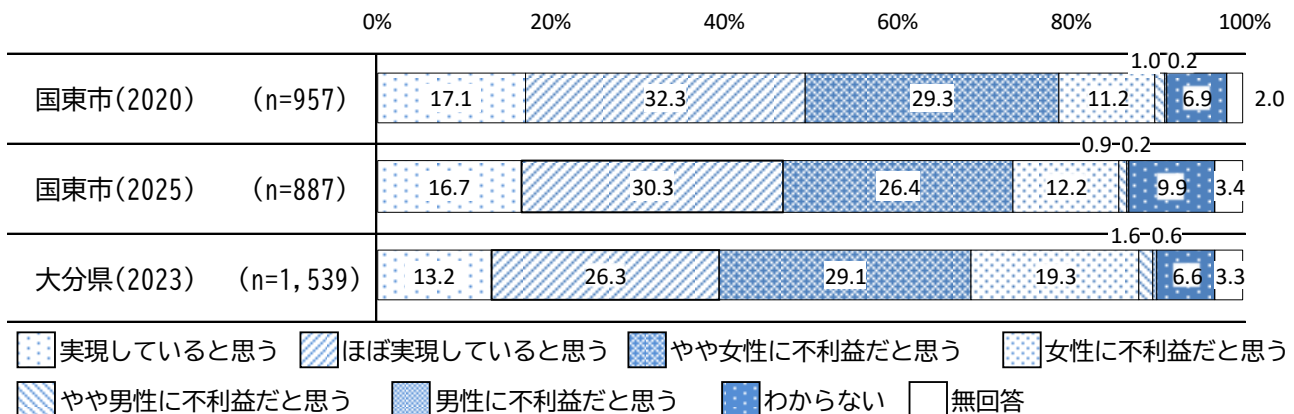
【ア. 家庭では】

SA

上段：構成比 下段：人数

2025 調査結果	実現している と思う	ほぼ実現して いると思う	やや女性に不 利益だと思う	女性に不利益 だと思う	やや男性に不 利益だと思う	男性に不利益 だと思う	わからない	無回答	合計
18～19歳	28.6 2	28.6 2	28.6 2	0.0 0	0.0 0	0.0 0	14.3 1	0.0 0	100.0 7
20～29歳	12.8 5	33.3 13	23.1 9	12.8 5	2.6 1	0.0 0	15.4 6	0.0 0	100.0 39
30～39歳	18.4 9	28.6 14	28.6 14	10.2 5	2.0 1	2.0 1	10.2 5	0.0 0	100.0 49
40～49歳	9.5 7	29.7 22	31.1 23	17.6 13	1.4 1	0.0 0	10.8 8	0.0 0	100.0 74
50～59歳	11.1 11	23.2 23	36.4 36	19.2 19	1.0 1	1.0 1	7.1 7	1.0 1	100.0 99
60～69歳	11.7 21	27.4 49	31.3 56	19.0 34	0.0 0	0.0 0	8.4 15	2.2 4	100.0 179
70～79歳	16.5 40	34.6 84	25.1 61	9.1 22	0.8 2	0.0 0	9.9 24	4.1 10	100.0 243
80歳以上	26.9 52	32.1 62	17.1 33	5.6 10	1.0 2	0.0 0	10.9 21	6.7 13	100.0 193
無回答	25.0 1	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	25.0 1	50.0 2	100.0 4
全体	16.7 148	30.3 269	26.4 234	12.2 108	0.9 8	0.2 2	9.9 88	3.4 30	100.0 887

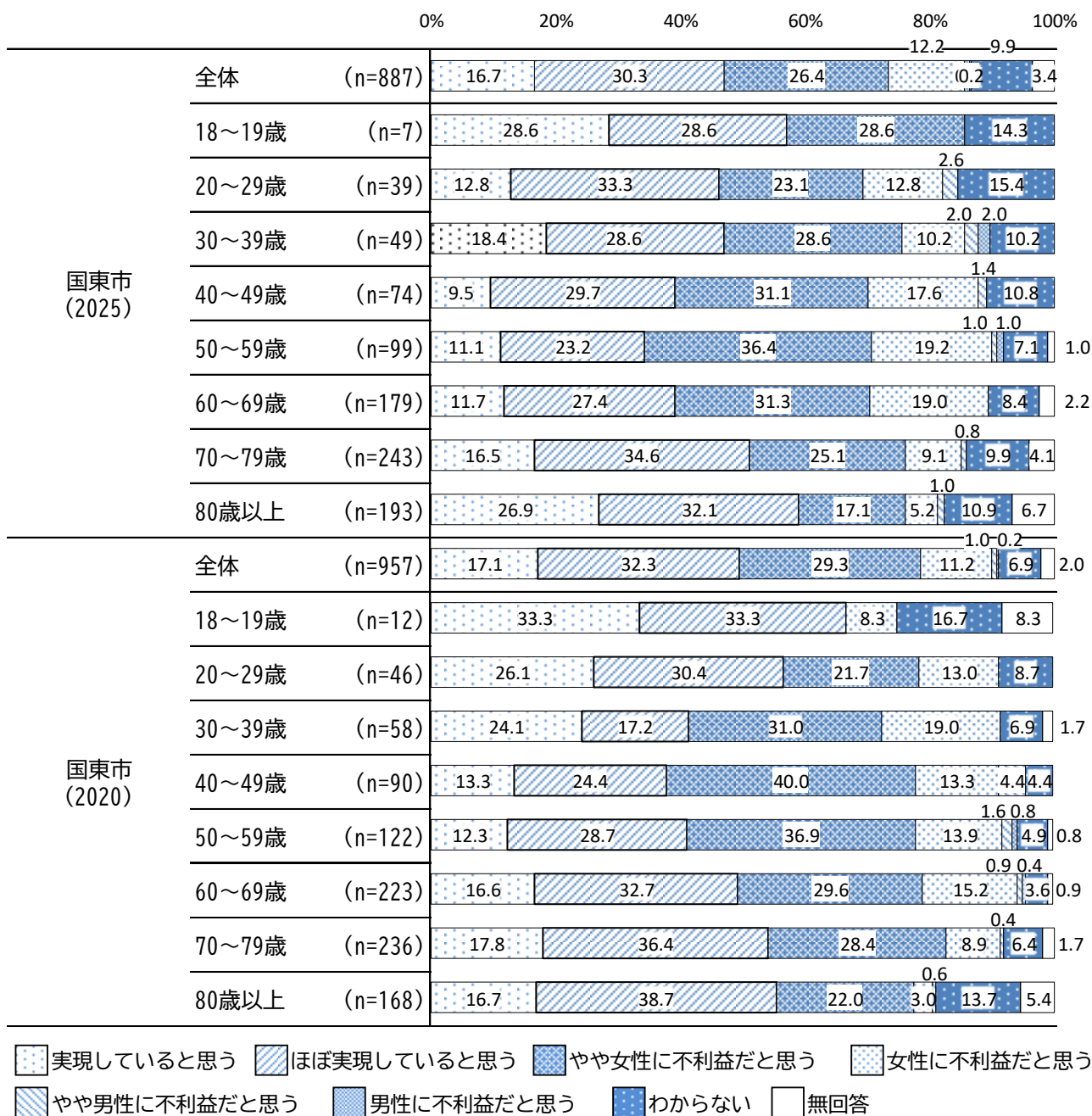
【全体】



■市全体では、「家庭」で男女平等が実現している割合について「実現している(実現していると思う+ほぼ実現していると思う)」が47.0%となっており、約5割の人が家庭での男女平等が実現していると答えています。

■2020調査と比較すると市全体では、「実現している(実現していると思う+ほぼ実現していると思う)」の割合が2.4ポイント減少しています。大分県2023調査との比較では、「実現している(実現していると思う+ほぼ実現していると思う)」の割合が7.5ポイント増加しています。

【年代別】



- ◆年代別では、「実現している(実現していると思う+ほぼ実現していると思う)」の割合が最も高いのは80歳以上で 59.0%、次いで18～19歳(57.2%)、70～79歳(51.1%)となっています。割合が最も低いのは50～59歳で 34.3%、次いで60～69歳(39.1%)となっています。
- ◆2020調査と比較すると年代別では、「実現している(実現していると思う+ほぼ実現していると思う)」の割合が最も増加したのは30～39歳で 5.7 ポイント、次いで80歳以上(3.6 ポイント)となっています。

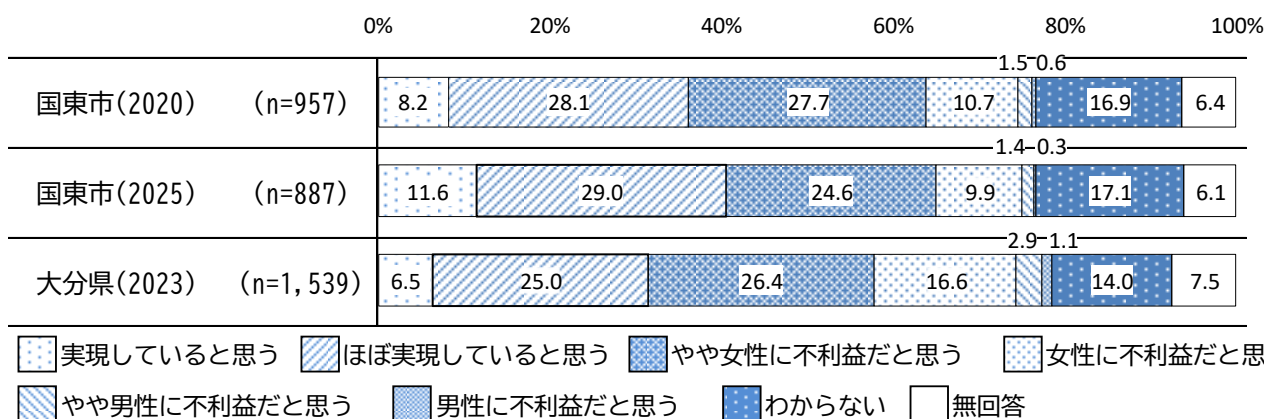
【イ. 職場では】

SA

上段：構成比 下段：人数

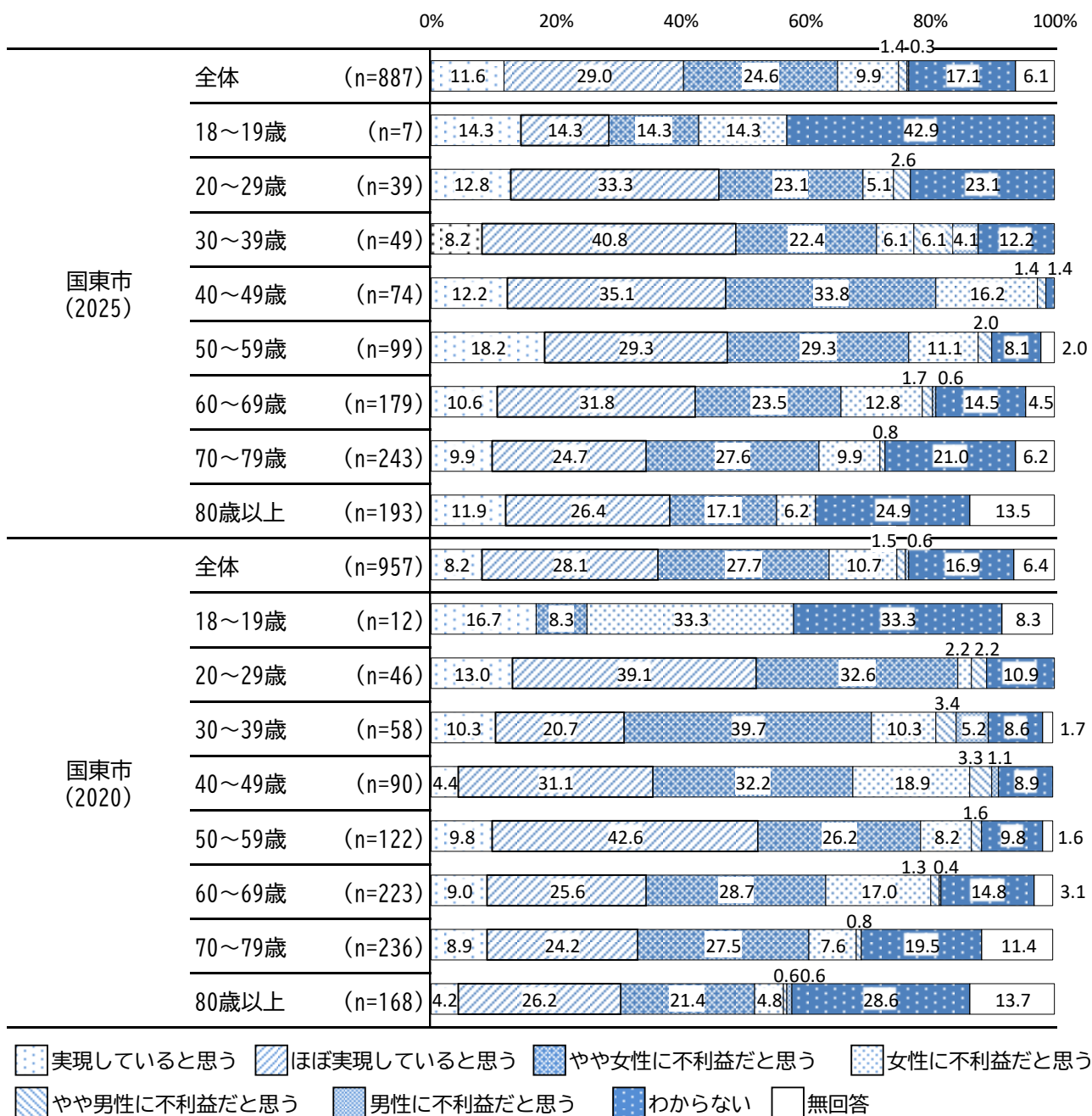
2025 調査結果	実現している と思う	ほぼ実現して いると思う	やや女性に不 利益だと思う	女性に不利益 だと思う	やや男性に不 利益だと思う	男性に不利益 だと思う	わからない	無回答	合計
18～19歳	14.3 1	14.3 1	14.3 1	14.3 1	0.0 0	0.0 0	42.9 3	0.0 0	100.0 7
20～29歳	12.8 5	33.3 13	23.1 9	5.1 2	2.6 1	0.0 0	23.1 9	0.0 0	100.0 39
30～39歳	8.2 4	40.8 20	22.4 11	6.1 3	6.1 3	4.1 2	12.2 6	0.0 0	100.0 49
40～49歳	12.2 9	35.1 26	33.8 25	16.2 12	1.4 1	0.0 0	1.4 1	0.0 0	100.0 74
50～59歳	18.2 18	29.3 29	29.3 29	11.1 11	2.0 2	0.0 0	8.1 8	2.0 2	100.0 99
60～69歳	10.6 19	31.8 57	23.5 42	12.8 23	1.7 3	0.6 1	14.5 26	4.5 8	100.0 179
70～79歳	9.9 24	24.7 60	27.6 67	9.9 24	0.8 2	0.0 0	21.0 51	6.2 15	100.0 243
80歳以上	11.9 23	26.4 51	17.1 33	6.2 12	0.0 0	0.0 0	24.9 48	13.5 26	100.0 193
無回答	0.0 0	0.0 0	25.0 1	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	75.0 3	100.0 4
全体	11.6 103	29.0 257	24.6 218	9.9 88	1.4 12	0.3 3	17.1 152	6.1 54	100.0 887

【全体】



- 市全体では、「職場」で男女平等が実現している割合について「実現している(実現していると思う+ほぼ実現していると思う)」が40.6%となっており、約4割の人が職場での男女平等が実現していると答えています。
- 2020調査と比較すると市全体では、「実現している(実現していると思う+ほぼ実現していると思う)」の割合が4.3ポイント増加しています。大分県2023調査との比較では、「実現している(実現していると思う+ほぼ実現していると思う)」の割合が大分県よりも9.1ポイント上回っています。

【年代別】



◆年代別では、「実現している(実現していると思う+ほぼ実現していると思う)」の割合が最も高いのは30～39歳で 49.0%、次いで50～59歳(47.5%)、40～49歳(47.3%)となっています。割合が最も低いのは18～19歳で 28.6%、次いで70～79歳(34.6%)となっています。

◆2020調査と比較すると年代別では、「実現している(実現していると思う+ほぼ実現していると思う)」の割合が最も増加したのは30～39歳で 18.0 ㊦、次いで18～19歳(11.9 ㊦)となっています。

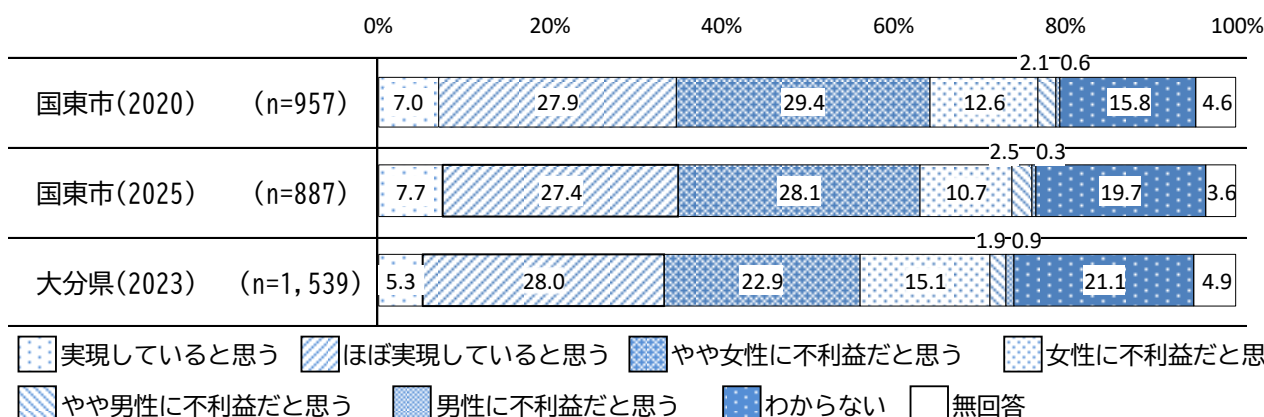
【ウ. 地域生活では】

SA

上段：構成比 下段：人数

2025 調査結果	実現している と思う	ほぼ実現して いると思う	やや女性に不 利益だと思う	女性に不利益 だと思う	やや男性に不 利益だと思う	男性に不利益 だと思う	わからない	無回答	合計
18～19歳	14.3 1	0.0 0	14.3 1	28.6 2	14.3 1	0.0 0	28.6 2	0.0 0	100.0 7
20～29歳	7.7 3	25.6 10	20.5 8	10.3 4	2.6 1	0.0 0	33.3 13	0.0 0	100.0 39
30～39歳	10.2 5	18.4 9	28.6 14	8.2 4	2.0 1	2.0 1	30.6 15	0.0 0	100.0 49
40～49歳	5.4 4	20.3 15	33.8 25	21.6 16	4.1 3	0.0 0	14.9 11	0.0 0	100.0 74
50～59歳	6.1 6	23.2 23	36.4 36	13.1 13	2.0 2	0.0 0	18.2 18	1.0 1	100.0 99
60～69歳	5.0 9	25.7 46	33.0 59	12.3 22	1.7 3	0.0 0	20.1 36	2.2 4	100.0 179
70～79歳	6.6 16	31.7 77	26.7 65	8.2 20	3.3 8	0.8 2	18.9 46	3.7 9	100.0 243
80歳以上	12.4 24	32.1 62	21.2 41	7.3 14	1.6 3	0.0 0	17.1 33	8.3 16	100.0 193
無回答	0.0 0	25.0 1	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	25.0 1	50.0 2	100.0 4
全体	7.7 68	27.4 243	28.1 249	10.7 95	2.5 22	0.3 3	19.7 175	3.6 32	100.0 887

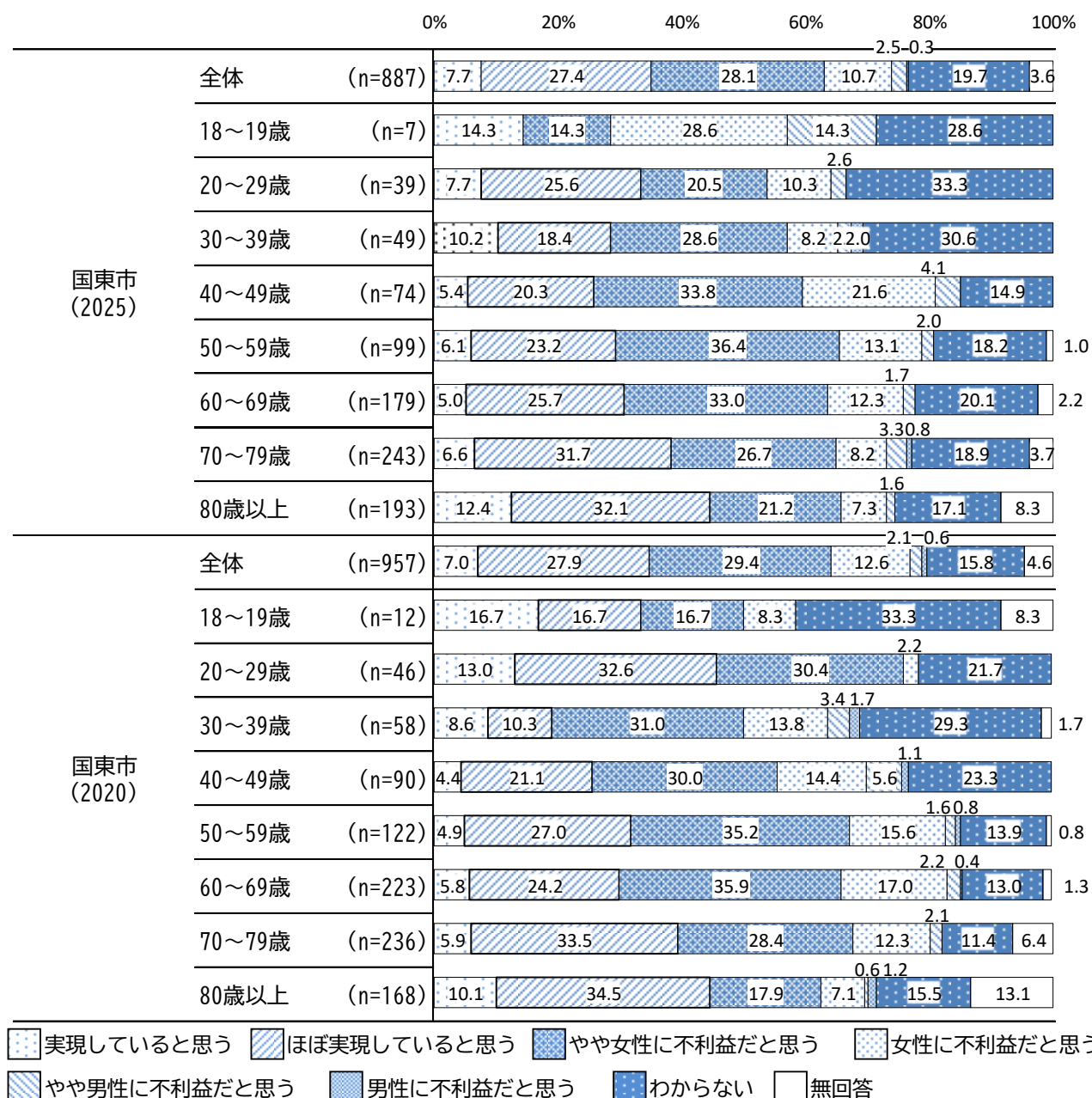
【全体】



■市全体では、「地域生活」で男女平等が実現している割合について「実現している(実現していると思う+ほぼ実現していると思う)」が 35.1%、「女性に不利益(やや女性に不利益だと思う+女性に不利益だと思う)」は 38.8%となっており、「地域生活」では女性に不利益の割合の方が高くなっています。

■2020調査と比較すると市全体では、「女性に不利益(やや女性に不利益だと思う+女性に不利益だと思う)」の割合が3.2 ㊦減少しています。大分県2023調査との比較では、「実現している(実現していると思う+ほぼ実現していると思う)」の割合が大分県よりも 1.8 ㊦上回っています。

【年代別】



- ◆年代別では、「実現している(実現していると思う+ほぼ実現していると思う)」の割合が最も高いのは80歳以上で 44.5%、次いで70～79歳(38.3%)、20～29歳(33.3%)となっています。割合が最も低いのは18～19歳で 14.3%、次いで40～49歳(25.7%)となっています。
- ◆2020調査と比較すると年代別では、「実現している(実現していると思う+ほぼ実現していると思う)」の割合が最も増加したのは30～39歳で 9.7 ポイントとなっています。

◎考察

男女平等の実現に向けては、性別による無意識の固定観念を見直し、家庭、職場、社会のあらゆる場面で性別にかかわらず、誰もが平等な権利と機会を得られるようにすることが必要です。本調査では、家庭や職場と比較して、地域において男女平等の実現度が低く、女性に不利益と感じる割合も高い傾向にあることが見受けられます。男女が社会の対等な構成員として個性と能力を十分に発揮できる、豊かで活力ある社会を構築するため、今後も、関係各課との連携・協議を継続しながら、総合的な施策を推進していく必要があります。

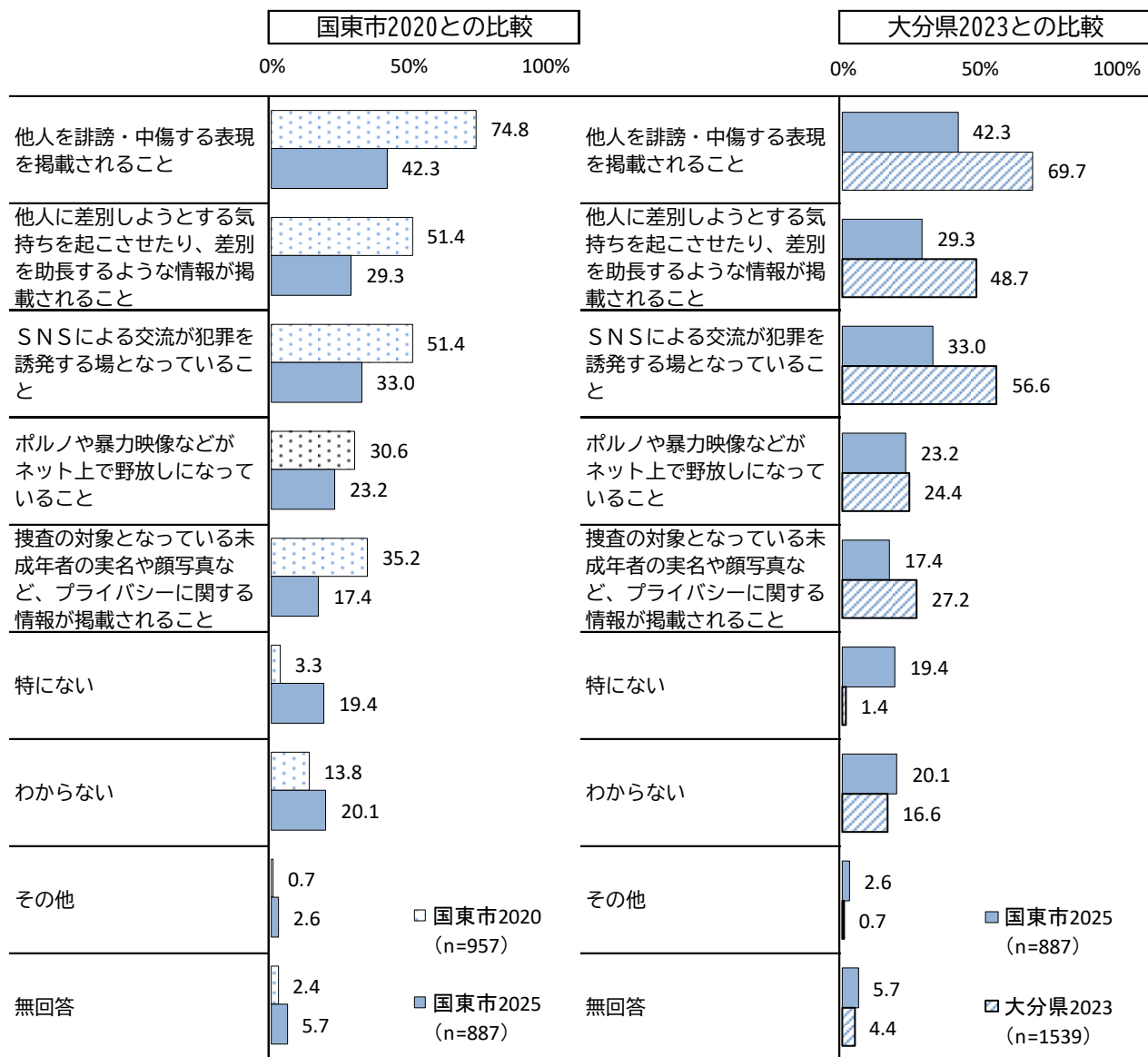
問18 インターネットに関する次のような人権問題について、あなたが見たり聞いたりしたことのあるものを選んでください。

MA

上段：構成比 下段：人数

2025 調査結果	他人を誹謗・ 中傷する表現 を掲載される こと	他人に差別し ようとする気 持ちは起こさ せたり、差別 を助長するよ うな情報が掲 載されること	SNSによる 交流が犯罪を 誘発する場と なっているこ と	ポルノや暴力 映像などが ネット上で野 放しになって いること	捜査の対象と なっている未 成年者の実名 や顔写真な ど、プライバ シーに関する 情報が掲載さ れること	特にない	わからな い	その他	無回答	全体
18～19歳	42.9 3	42.9 3	42.9 3	28.6 2	14.3 1	28.6 2	42.9 3	0.0 0	0.0 0	100.0 7
20～29歳	69.2 27	46.2 18	48.7 19	33.3 13	35.9 14	7.7 3	17.9 7	0.0 0	0.0 0	100.0 39
30～39歳	59.2 29	32.7 16	36.7 18	26.5 13	26.5 13	14.3 7	14.3 7	0.0 0	0.0 0	100.0 49
40～49歳	68.9 51	44.6 33	50.0 37	35.1 26	28.4 21	8.1 6	13.5 10	0.0 0	0.0 0	100.0 74
50～59歳	56.6 56	41.4 41	41.4 41	29.3 29	27.3 27	14.1 14	13.1 13	0.0 0	1.0 1	100.0 99
60～69歳	46.9 84	33.0 59	35.8 64	26.3 47	20.1 36	19.6 35	15.1 27	3.9 7	3.9 7	100.0 179
70～79歳	34.6 84	26.3 64	32.1 78	21.8 53	11.9 29	25.1 61	18.5 45	2.1 5	6.6 16	100.0 243
80歳以上	21.2 41	13.5 26	17.1 33	11.9 23	6.7 13	22.3 43	33.7 65	5.7 11	13.0 25	100.0 193
無回答	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	25.0 1	25.0 1	0.0 0	50.0 2	100.0 4
全体	42.3 375	29.3 260	33.0 293	23.2 206	17.4 154	19.4 172	20.1 178	2.6 23	5.7 51	100.0 887

【全体】



※国東市2020調査時と設問の文言がやや異なる。

国東市2025調査：「インターネットに関する次のような人権問題について、あなたが見たり聞いたりしたことのあるものを選んでください。」

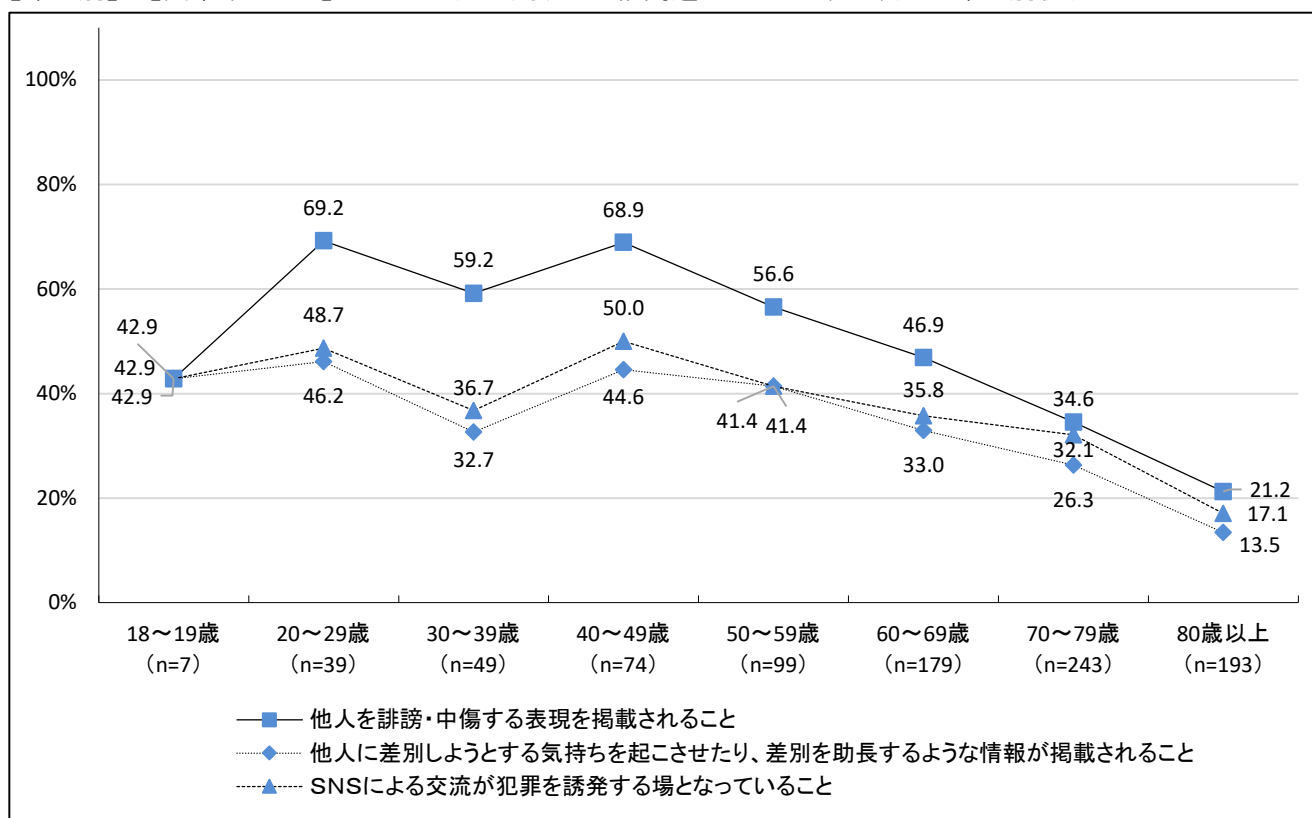
国東市2020調査：「あなたは、インターネットに関することで、現在どのような人権問題があると思いますか。」

※国東市2020調査時と言い回しがやや異なる。

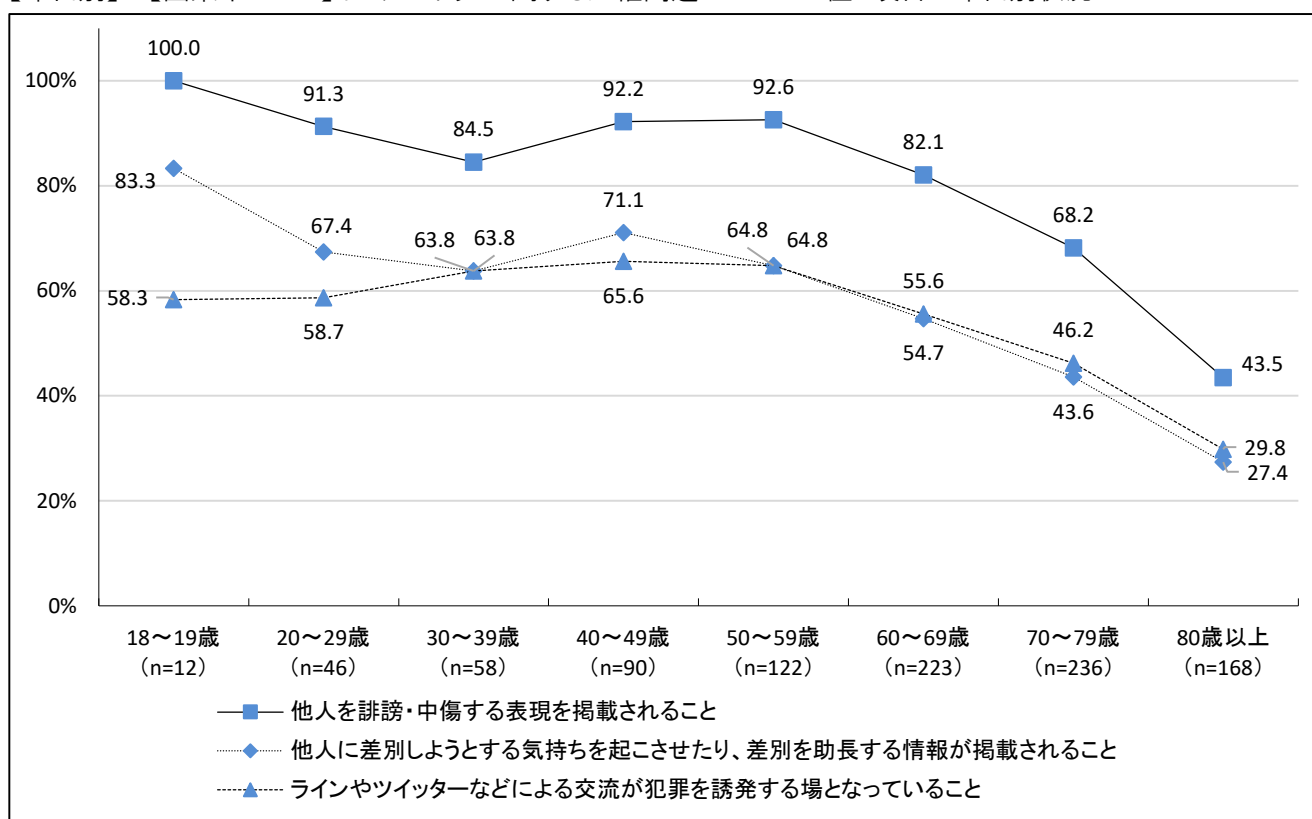
国東市2025調査：「SNSによる交流が犯罪を誘発する場となっていること」

国東市2020調査：「ラインやツイッターなどによる交流が犯罪を誘発する場となっていること」

【年代別】＜【国東市2025】インターネットに関する人権問題について上位3項目の年代別状況＞



【年代別】＜【国東市2020】インターネットに関する人権問題について上位3項目の年代別状況＞



- 市全体では、インターネットに関することで、見たり聞いたりしたことのある人権問題について「他人を誹謗・中傷する表現を掲載されること」の割合が 42.3%と最も高く、次いで「SNSによる交流が犯罪を誘発する場となっていること」(33.0%)、「他人に差別しようとする気持ちを起こさせたり、差別を助長するような情報が掲載されること」(29.3%)となっています。
- 2020調査と比較すると市全体では、「他人を誹謗・中傷する表現を掲載されること」の割合が 32.5 ㊦、次いで「他人に差別しようとする気持ちを起こさせたり、差別を助長するような情報が掲載されること」(22.1 ㊦)、「SNSによる交流が犯罪を誘発する場となっていること」(18.4 ㊦)が減少しています。大分県2023調査との比較では、「他人を誹謗・中傷する表現を掲載されること」の割合が 27.4 ㊦、次いで「SNSによる交流が犯罪を誘発する場となっていること」(23.6 ㊦)が下回っています。
- ◆年代別では、インターネットに関することで、見たり聞いたりしたことのある人権問題についての上位3項目について、「他人を誹謗・中傷する表現を掲載されること」で最も割合が高い年代は20～29歳(69.2%)、「他人に差別しようとする気持ちを起こさせたり、差別を助長する情報が掲載されること」で最も割合が高い年代は20～29歳(46.2%)、「SNSによる交流が犯罪を誘発する場となっていること」で最も割合が高い年代は40～49歳 (50.0%)となっています。

◎考察

インターネットによりコミュニケーションの輪が広がり便利になる一方で、インターネットを悪用した行為が増えており、他人への中傷や侮蔑、無責任なうわさ、特定の個人のプライバシーに関する情報の無断掲示、差別的な書込み、インターネット上でのいじめなど、人権やプライバシーの侵害につながる情報が流れています。2025調査でも「SNSによる交流が犯罪を誘発する場となっていること」の割合は約3割を超えており、特定の民族や国籍の人々を排斥する差別的言動(いわゆるヘイトスピーチ)や、部落差別の問題(同和問題)に関して差別を助長するような内容の書込みがされることもあります。さらに、インターネット上の有害情報に起因して犯罪やトラブルに巻き込まれ、被害に遭うなどの人権侵害事案も発生しています。すべての利用者が、被害者にも加害者にもならないよう、インターネットリテラシーの向上をはじめとする教育・啓発を推進していくことが重要です。

問19 あなたは、友人などから LGBT などの性的少数者であると打ち明けられた場合、次のア～ウについて、あなたの気持ちに近いのはどれですか。

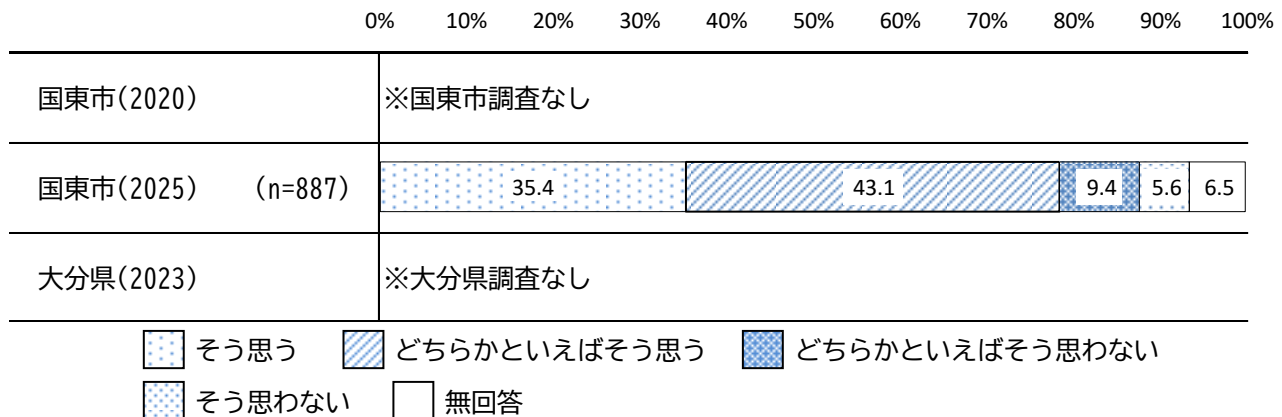
【ア. 何かあれば力になりたい】

SA

上段：構成比 下段：人数

2025 調査結果	そう思う	どちらかといえ ばそう思う	どちらかといえ ばそう思わない	そう思わない	無回答	合計
18～19歳	28.6 2	42.9 3	0.0 0	28.6 2	0.0 0	100.0 7
20～29歳	56.4 22	33.3 13	5.1 2	5.1 2	0.0 0	100.0 39
30～39歳	59.2 29	28.6 14	8.2 4	4.1 2	0.0 0	100.0 49
40～49歳	40.5 30	48.6 36	5.4 4	4.1 3	1.4 1	100.0 74
50～59歳	42.4 42	43.4 43	7.1 7	6.1 6	1.0 1	100.0 99
60～69歳	34.6 62	47.5 85	10.1 18	5.0 9	2.8 5	100.0 179
70～79歳	29.6 72	44.4 108	12.8 31	6.6 16	6.6 16	100.0 243
80歳以上	28.0 54	41.5 80	8.8 17	5.2 10	16.6 32	100.0 193
無回答	25.0 1	0.0 0	0.0 0	0.0 0	75.0 3	100.0 4
全体	35.4 314	43.1 382	9.4 83	5.6 50	6.5 58	100.0 887

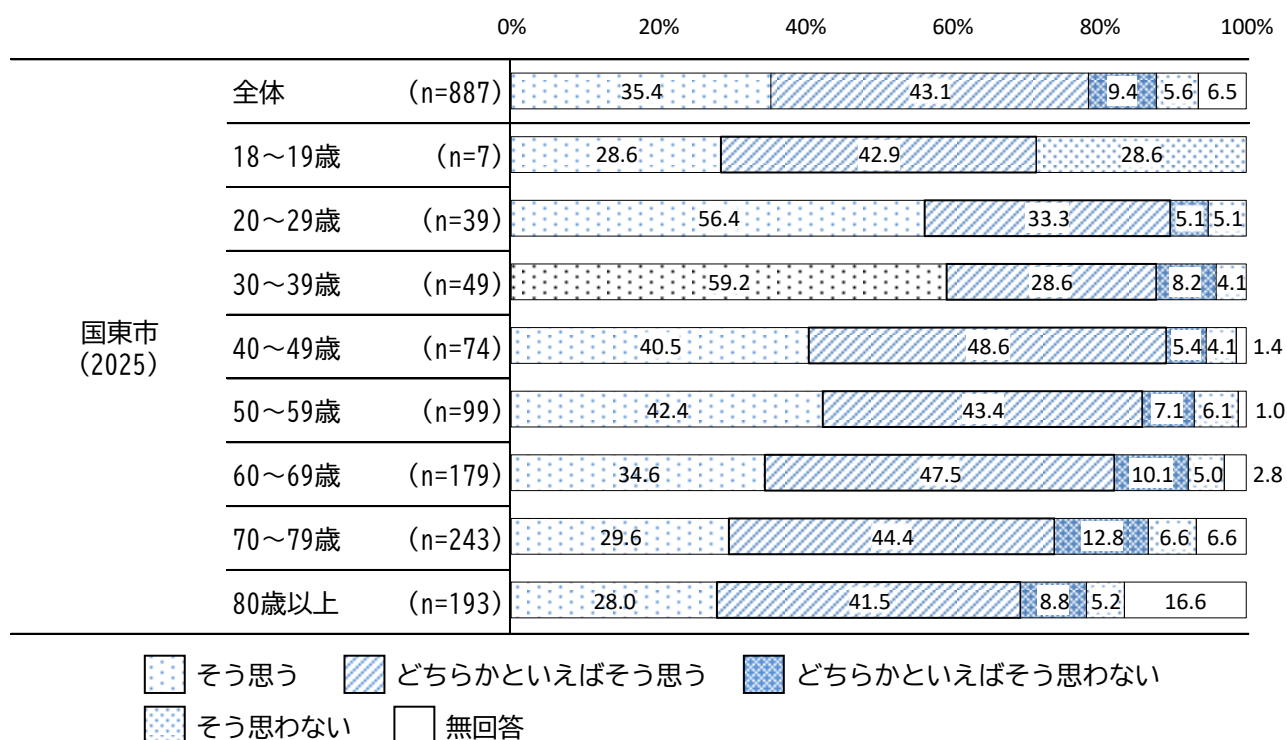
【全体】



■市全体では、友人などから LGBT などの性的少数者であると打ち明けられた場合、力になりたいと思うかについて「思う(そう思う+どちらかといえぱそう思う)」が 78.5%となっており、約8割の人が何かあれば力になりたいと答えています。

■2020調査はありません。大分県2023調査との比較ありません。

【年代別】



- ◆年代別では「思う(思う+どちらかといえば思う)」の割合が最も高いのは20～29歳で 89.7%、次いで40～49歳(89.1%)、30～39歳(87.8%)となっています。「思わない(どちらかといえばそう思わない+そう思わない)」の割合が最も高いのは18～19歳で 28.6%、次いで70～79歳(19.4%)となっています。
- ◆年代別の2020調査はありません。

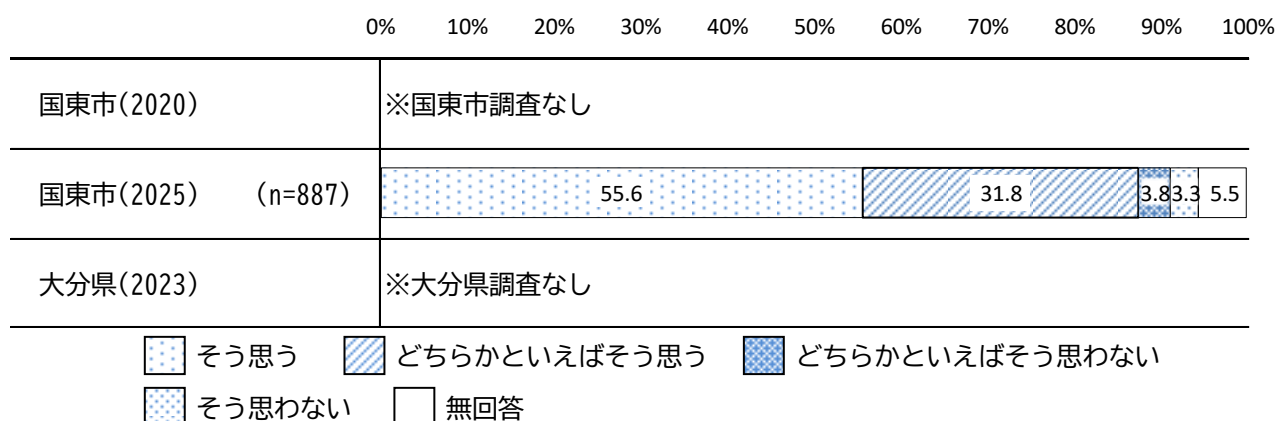
【イ. 今後もいままで通り接する】

SA

上段：構成比 下段：人数

2025 調査結果	そう思う	どちらかといえ ばそう思う	どちらかといえ ばそう思わない	そう思わない	無回答	合計
18～19歳	85.7 6	14.3 1	0.0 0	0.0 0	0.0 0	100.0 7
20～29歳	66.7 26	33.3 13	0.0 0	0.0 0	0.0 0	100.0 39
30～39歳	75.5 37	20.4 10	2.0 1	2.0 1	0.0 0	100.0 49
40～49歳	70.3 52	28.4 21	0.0 0	0.0 0	1.4 1	100.0 74
50～59歳	64.6 64	30.3 30	2.0 2	1.0 1	2.0 2	100.0 99
60～69歳	60.3 108	31.3 56	3.4 6	2.2 4	2.8 5	100.0 179
70～79歳	49.4 120	34.2 83	5.3 13	5.8 14	5.3 13	100.0 243
80歳以上	40.9 79	35.2 68	6.2 12	4.7 9	13.0 25	100.0 193
無回答	25.0 1	0.0 0	0.0 0	0.0 0	75.0 3	100.0 4
全体	55.6 493	31.8 282	3.8 34	3.3 29	5.5 49	100.0 887

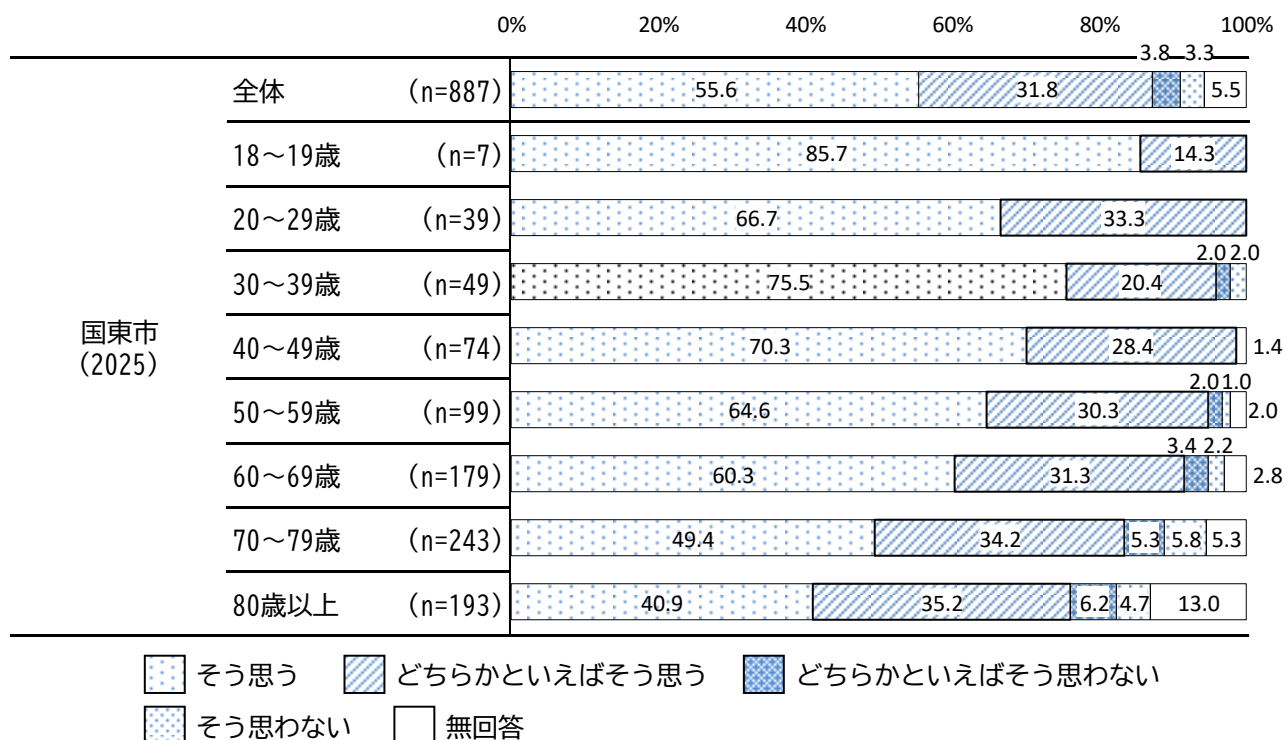
【全体】



■市全体では、友人などからLGBTなどの性的少数者であると打ち明けられた場合、いままで通り接するかについて「思う(そう思う+どちらかといえばそう思う)」が 87.4%となっており、約9割の人が今後もいままで通り接すると答えています。

■2020調査はありません。大分県2023調査との比較もありません。

【年代別】



◆年代別では「思う(思う+どちらかといえば思う)」の割合が最も高いのは18～29歳で 100.0%、次いで40～49歳(98.7%)、30～39歳(95.9%)となっています。「思わない(どちらかといえばそう思わない+そう思わない)」の割合が最も高いのは70～79歳で 11.1%、次いで80歳以上(10.9%)となっています。

◆年代別の2020調査はありません。

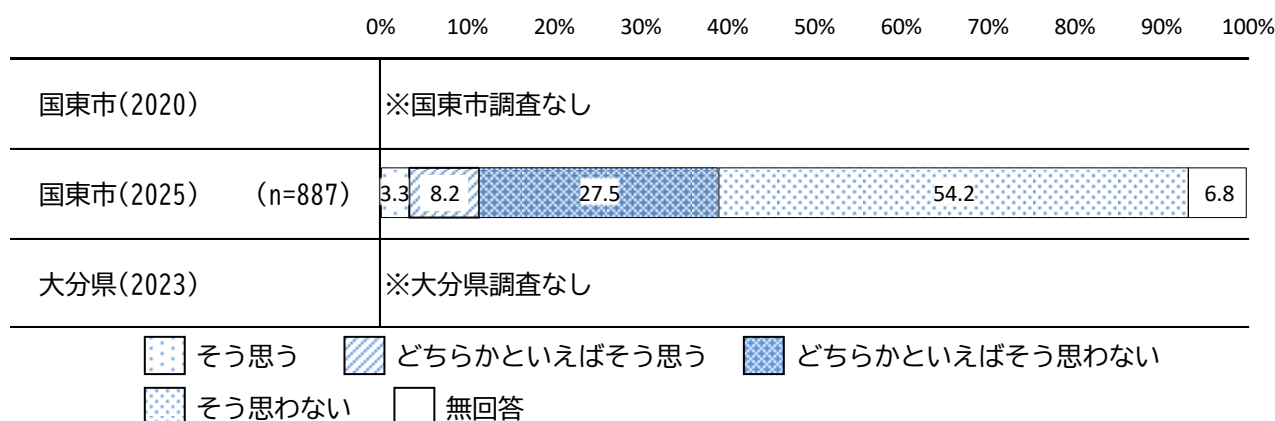
【ウ. 相手と距離を置くようにする】

SA

上段：構成比 下段：人数

2025 調査結果	そう思う	どちらかといえ ばそう思う	どちらかといえ ばそう思わない	そう思わない	無回答	合計
18～19歳	0.0 0	0.0 0	57.1 4	42.9 3	0.0 0	100.0 7
20～29歳	2.6 1	0.0 0	33.3 13	64.1 25	0.0 0	100.0 39
30～39歳	4.1 2	4.1 2	30.6 15	61.2 30	0.0 0	100.0 49
40～49歳	1.4 1	4.1 3	20.3 15	73.0 54	1.4 1	100.0 74
50～59歳	1.0 1	0.0 0	28.3 28	68.7 68	2.0 2	100.0 99
60～69歳	2.2 4	4.5 8	30.2 54	59.8 107	3.4 6	100.0 179
70～79歳	4.9 12	11.5 28	30.9 75	46.5 113	6.2 15	100.0 243
80歳以上	4.1 8	16.6 32	20.7 40	41.5 80	17.1 33	100.0 193
無回答	0.0 0	0.0 0	0.0 0	25.0 1	75.0 3	100.0 4
全体	3.3 29	8.2 73	27.5 244	54.2 481	6.8 60	100.0 887

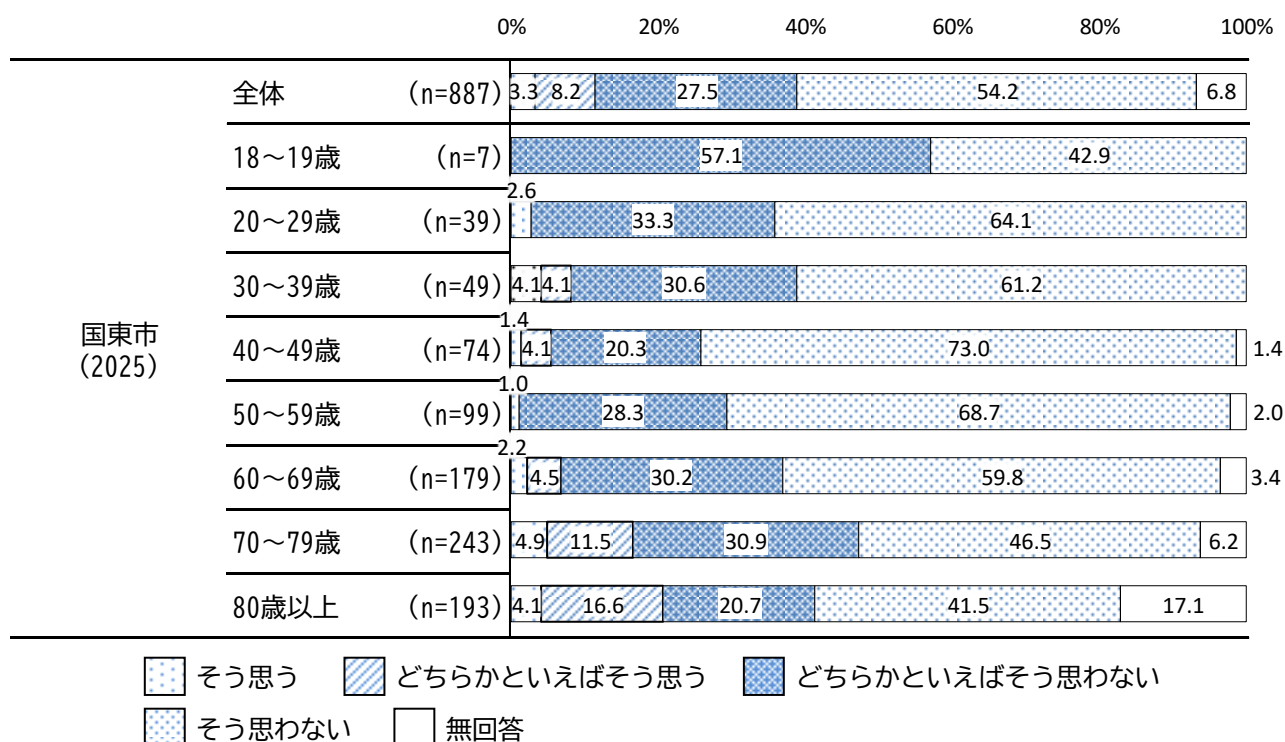
【全体】



■市全体では、友人などから LGBT などの性的少数者であると打ち明けられた場合、相手と距離を置かについて「思わない(どちらかといえ
ばそう思わない+そう思わない)」が 81.7%となっており、約8割の人が距離を置きたいとは思わないと答えています。

■2020調査はありません。大分県2023調査との比較ありません。

【年代別】



- ◆年代別では「思わない(どちらかといえばそう思わない+そう思わない)」の割合が最も高いのは18～19歳で100.0%、次いで20～29歳(97.4%)、50～59歳(97.0%)となっています。「思う(そう思う+どちらかといえば思う)」の割合が最も高いのは80歳以上で20.7%、次いで70～79歳(16.4%)となっています。
- ◆年代別の2020調査はありません。

◎考察

調査結果では、友人などからLGBTなどの性的少数者であると打ち明けられた場合、「何かあれば力になりたい」、「今まで通り接する」、「距離を置きたいとは思わない」と答えた人が概ね8割となっており、多くの市民が肯定的・受容的な姿勢を示しています。年代別では若い世代を中心に受容的な傾向が強くみられる一方、高齢層では「距離を置く」と回答する割合が比較的高いなど、世代間の差もみられます。今後も学校教育や地域における学習機会を通じて正しい知識の普及を図り、多様性を尊重する姿勢を社会全体で育んでいくことが重要です。

IV. 啓発活動(問20～問24)

[SA]

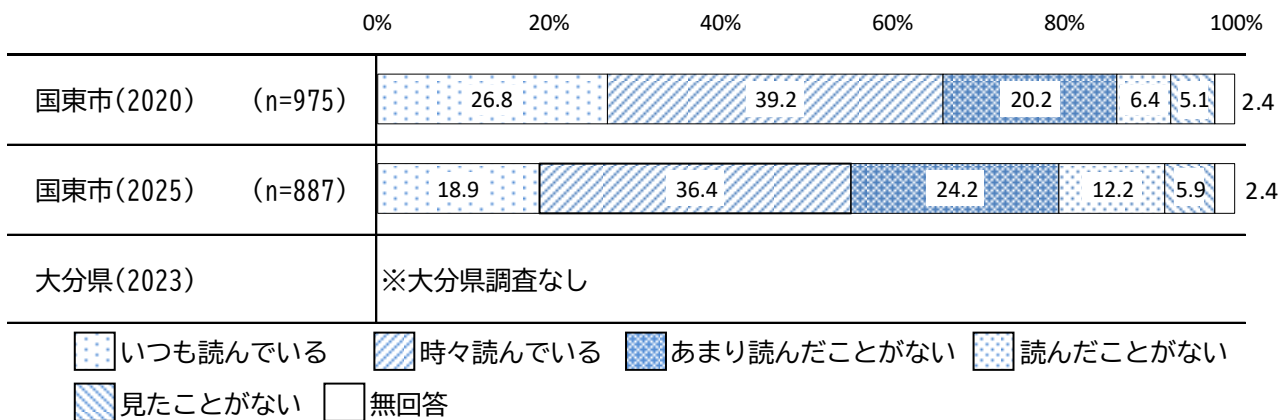
問20 あなたは、この5年間で、市の広報誌(市報くにさき)に掲載されている啓発記事(「ところをつなぐまちづくり」)や、人権についてのチラシや冊子などを読んだことがありますか。

SA

上段：構成比 下段：人数

2025 調査結果	いつも 読んでいる	時々読んでいる	あまり読んだこ とがない	読んだことが ない	見たことがない	無回答	合計
18～19歳	0.0 0	28.6 2	42.9 3	14.3 1	14.3 1	0.0 0	100.0 7
20～29歳	7.7 3	23.1 9	20.5 8	30.8 12	17.9 7	0.0 0	100.0 39
30～39歳	8.2 4	28.6 14	28.6 14	20.4 10	14.3 7	0.0 0	100.0 49
40～49歳	5.4 4	31.1 23	33.8 25	23.0 17	6.8 5	0.0 0	100.0 74
50～59歳	11.1 11	35.4 35	36.4 36	13.1 13	3.0 3	1.0 1	100.0 99
60～69歳	17.9 32	35.2 63	23.5 42	14.5 26	6.7 12	2.2 4	100.0 179
70～79歳	22.2 54	44.9 109	20.2 49	5.8 14	3.7 9	3.3 8	100.0 243
80歳以上	30.6 59	34.7 67	19.7 38	7.8 15	4.1 8	3.1 6	100.0 193
無回答	25.0 1	25.0 1	0.0 0	0.0 0	0.0 0	50.0 2	100.0 4
全体	18.9 168	36.4 323	24.2 215	12.2 108	5.9 52	2.4 21	100.0 887

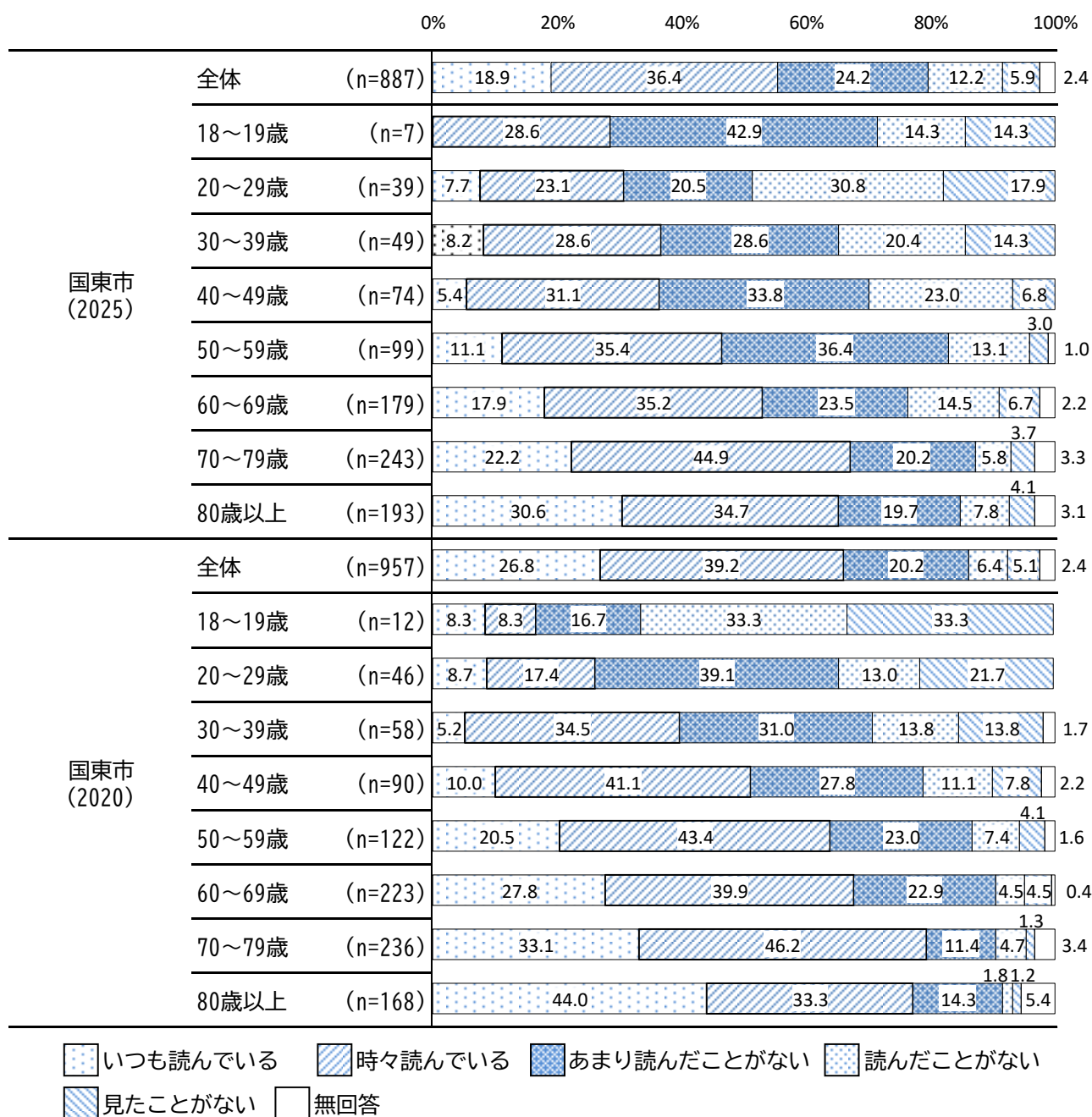
【全体】



■市全体では、市の広報誌(市報くにさき)に掲載されている啓発記事(「ところをつなぐまちづくり」)や、人権についてのチラシや冊子などを読んだことがあるかについて「読んだことがある(いつも読んでいる+時々読んでいる)」の割合が 55.3%と最も高く、次いで「読んだことがない(あまり読んだことがない+読んだことがない)」(36.4%)、「見たことがない」(5.9%)となっています。

■2020調査と比較すると市全体では、「読んだことがない(あまり読んだことがない+読んだことがない)」の割合が 9.8 ㊦増加しています。大分県2023調査との比較はありません。

【年代別】



- ◆年代別では、「読んだことがある(いつも読んでいる+時々読んでいる)」の割合が最も高いのは70～79歳で67.1%、次いで80歳以上(65.3%)、60～69歳(53.1%)となっています。
- ◆2020調査と比較すると年代別では、「読んだことがある(いつも読んでいる+時々読んでいる)」の割合が最も増加したのは18～19歳で12.0ポイント、次いで20～29歳(4.7ポイント)となっています。

◎考察

市全体では、市の広報誌に掲載されている啓発記事や、人権についてのチラシや冊子などを、「読んだことがない(あまり読んだことがない+読んだことがない)」と「見たことがない」人を合わせると全体の約4割の人が「読んでいない・見ていない」状況です。広報誌やチラシ、冊子等による情報発信を継続するとともに、特に若い世代へ向けた広報や啓発の工夫が必要です。

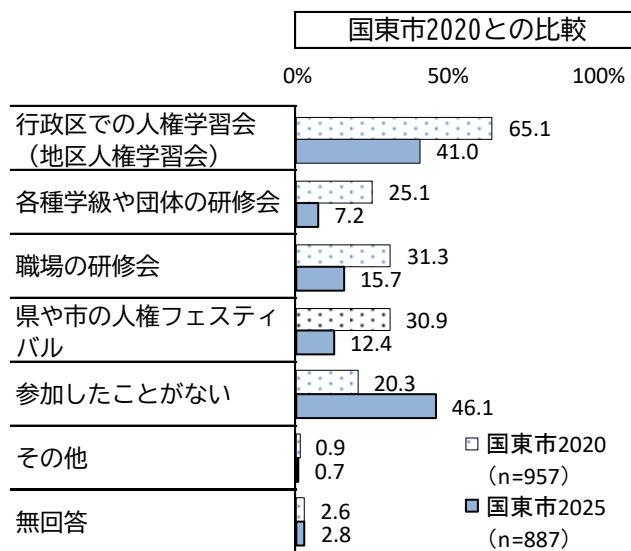
問21 人権に関する研修会について、あなたがこの5年間で参加したことがあるものを次の中から選んでください。

MA

上段：構成比 下段：人数

2025 調査結果	行政区での人 権学習会（地 区人権学習 会）	各種学級や団 体の研修会	職場の研修会	県や市の人権 フェスティバ ル	参加したことが ない	その他	無回答	合計
18～19歳	28.6 2	0.0 0	0.0 0	42.9 3	57.1 4	0.0 0	0.0 0	100.0 7
20～29歳	23.1 9	10.3 4	30.8 12	12.8 5	59.0 23	0.0 0	0.0 0	100.0 39
30～39歳	26.5 13	6.1 3	44.9 22	20.4 10	44.9 22	0.0 0	0.0 0	100.0 49
40～49歳	33.8 25	9.5 7	35.1 26	13.5 10	43.2 32	0.0 0	0.0 0	100.0 74
50～59歳	39.4 39	10.1 10	35.4 35	18.2 18	40.4 40	1.0 1	1.0 1	100.0 99
60～69歳	36.3 65	7.3 13	16.2 29	14.5 26	51.4 92	1.1 2	2.2 4	100.0 179
70～79歳	51.0 124	6.6 16	4.1 10	8.2 20	43.6 106	0.8 2	2.9 7	100.0 243
80歳以上	44.6 86	5.7 11	2.6 5	9.3 18	46.1 89	0.5 1	5.7 11	100.0 193
無回答	25.0 1	0.0 0	0.0 0	0.0 0	25.0 1	0.0 0	50.0 2	100.0 4
全体	41.0 364	7.2 64	15.7 139	12.4 110	46.1 409	0.7 6	2.8 25	100.0 887

【全体】



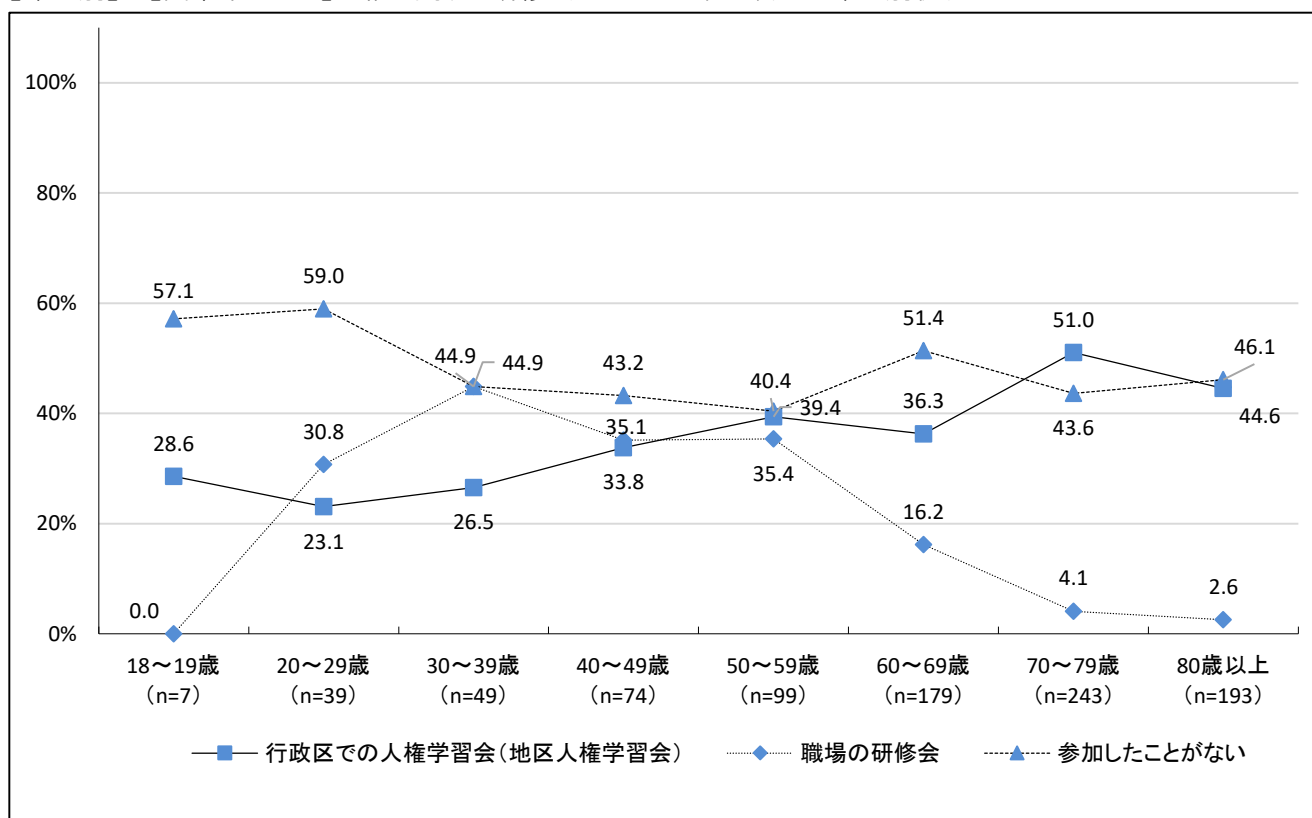
※国東市2020調査時と設問の文言がやや異なる。

国東市2025調査：「人権に関する研修会について、あなたがこの5年間で参加したことがあるものを次の中から選んでください。」

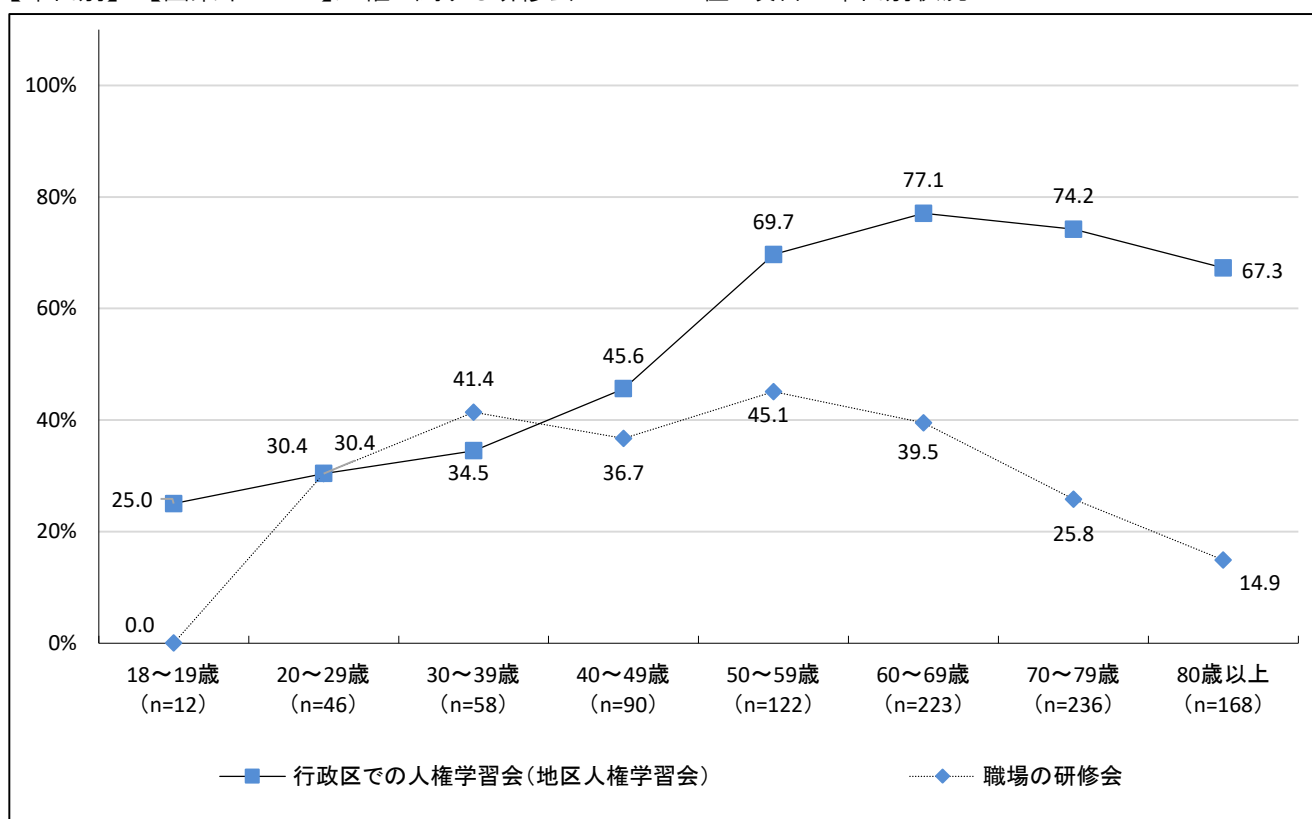
国東市2020調査：「人権に関する研修会について、あなたがこれまでに参加したことがあるものを選んでください。」

※大分県2023調査なし。

【年代別】＜【国東市2025】人権に関する研修会について上位3項目の年代別状況＞



【年代別】＜【国東市2025】人権に関する研修会について上位3項目の年代別状況＞



※国東市2020調査の上位3項目に入っていた「県や市の人権フェスティバル」は、国東市2025調査では上位に入っていないため比較不可。

※国東市2020調査時と上位3項目の順位が異なるため比較不可。

- 市全体では、人権に関する研修会について、「参加したことがない」の割合が 46.1%と最も高く、次いで「行政区での人権学習会(地区人権学習会)」(41.0%)、「職場の研修会」(15.7%)となっています。
- 2020調査と比較すると市全体では、「参加したことがない」の割合が 25.8 ポイント増加しています。大分県2023調査との比較はありません。

- ◆年代別では、人権に関する研修会について、「参加したことがない」で最も割合が高い年代は20～29歳(59.0%)、「行政区での人権学習会」で最も割合が高い年代は70～79歳(51.0%)、「職場の研修会」で最も割合が高い年代は30～39歳(44.9%)となっています。
- ◆2020調査と比較すると、「行政区での人権学習会(地区人権学習会)」では18～19歳(3.6 ポイント)で割合が増加し、他の年代はすべて減少しています。「職場の研修会」では30～39歳(3.5 ポイント)で割合が増加しています。

◎考察

参加状況を見ると、「行政区での人権学習会」、「職場の研修会」、「県や市の人権フェスティバル」の順で参加割合が高い一方、「参加したことはない」と回答した人が2020調査から倍増し、約5割となりました。本調査結果は、コロナ禍により対面での研修会やイベントが制限された影響も背景にあると考えられます。そのような状況下においても、市では開催規模の調整など、感染対策を講じながら地区人権学習会を継続して開催してきましたが、事業所等における職場の研修会は、コロナ禍という社会情勢により機会が減少し、2020調査から半減したものと考えられます。今後は、人権に関する研修会の開催内容や実施時期などについてより分かりやすく広報・周知するとともに、事業所等における職場の研修会についても、実施を呼びかけていく必要があります。

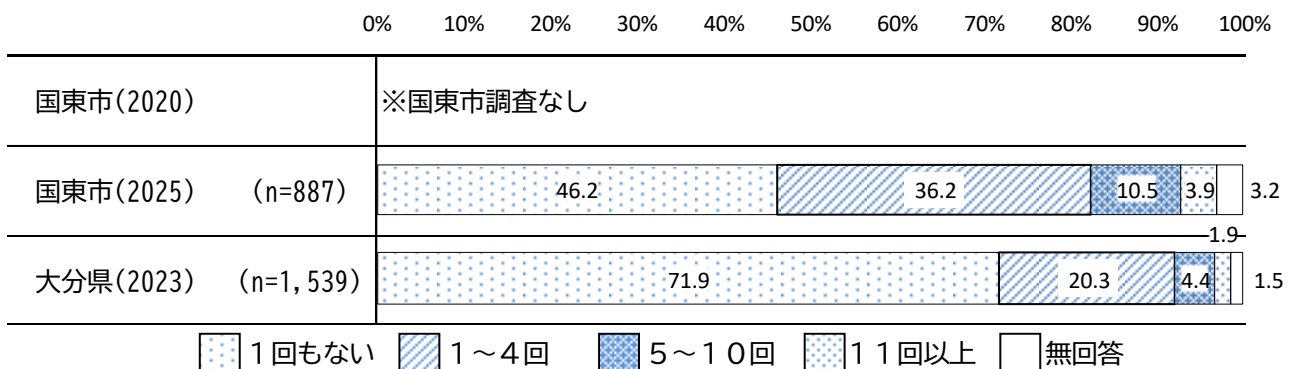
問22 あなたは、この5年間で人権に関する講演会や研修・学習会等に何回くらい参加しましたか。

SA

上段：構成比 下段：人数

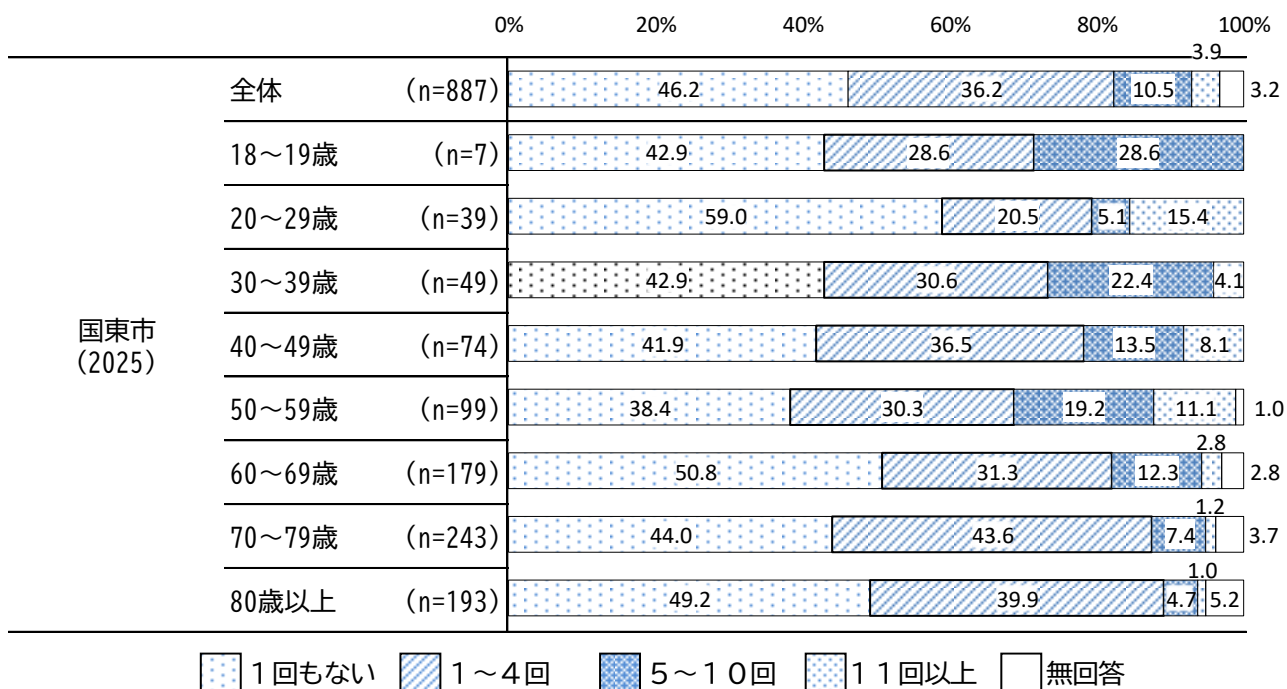
2025 調査結果	1回もない	1～4回	5～10回	11回以上	無回答	合計
18～19歳	42.9 3	28.6 2	28.6 2	0.0 0	0.0 0	100.0 7
20～29歳	59.0 23	20.5 8	5.1 2	15.4 6	0.0 0	100.0 39
30～39歳	42.9 21	30.6 15	22.4 11	4.1 2	0.0 0	100.0 49
40～49歳	41.9 31	36.5 27	13.5 10	8.1 6	0.0 0	100.0 74
50～59歳	38.4 38	30.3 30	19.2 19	11.1 11	1.0 1	100.0 99
60～69歳	50.8 91	31.3 56	12.3 22	2.8 5	2.8 5	100.0 179
70～79歳	44.0 107	43.6 106	7.4 18	1.2 3	3.7 9	100.0 243
80歳以上	49.2 95	39.9 77	4.7 9	1.0 2	5.2 10	100.0 193
無回答	25.0 1	0.0 0	0.0 0	0.0 0	75.0 3	100.0 4
全体	46.2 410	36.2 321	10.5 93	3.9 35	3.2 28	100.0 887

【全体】



- 市全体では、この5年間の人権に関する講演会や研修・学習会等への参加状況について、「1回もない」の割合が46.2%と最も高く、次いで「1～4回」(36.2%)、「5～10回」(10.5%)となっています。
- 大分県2023調査との比較では、「1回もない」の割合が大分県よりも25.7ポイント下回っています。
- 2020調査はありません。

【年代別】



◆年代別では、「1回もない」の割合が最も高いのは20～29歳で 59.0%、次いで60～69歳(50.8%)、80歳以上(49.2%)となっています。

◆年代別の2020調査はありません。

◎考察

この5年間の人権に関する講演会や研修・学習会等への参加状況について、大分県2023調査との比較では、市全体で割合がすべて上回っており、職場や地区人権学習会、各種講演会などでの継続的な学習機会の成果が推察されます。しかしながら、「1回もない」の割合が市全体で 46.2%と最も高く、特に年代別では、20～29歳が 59.0%と最も高くなっていることから、若い世代への啓発が喫緊の課題といえます。また、全体の8割以上が参加回数4回以下に留まっていることから、今後は未参加層への動機付けに加え、全世代の人が参加しやすい多様な学習形態の検討が重要です。

問23 人権の大切さを多くの人に知ってもらうには、どんな方法が効果的だと思いますか。

MA

上段：構成比 下段：人数

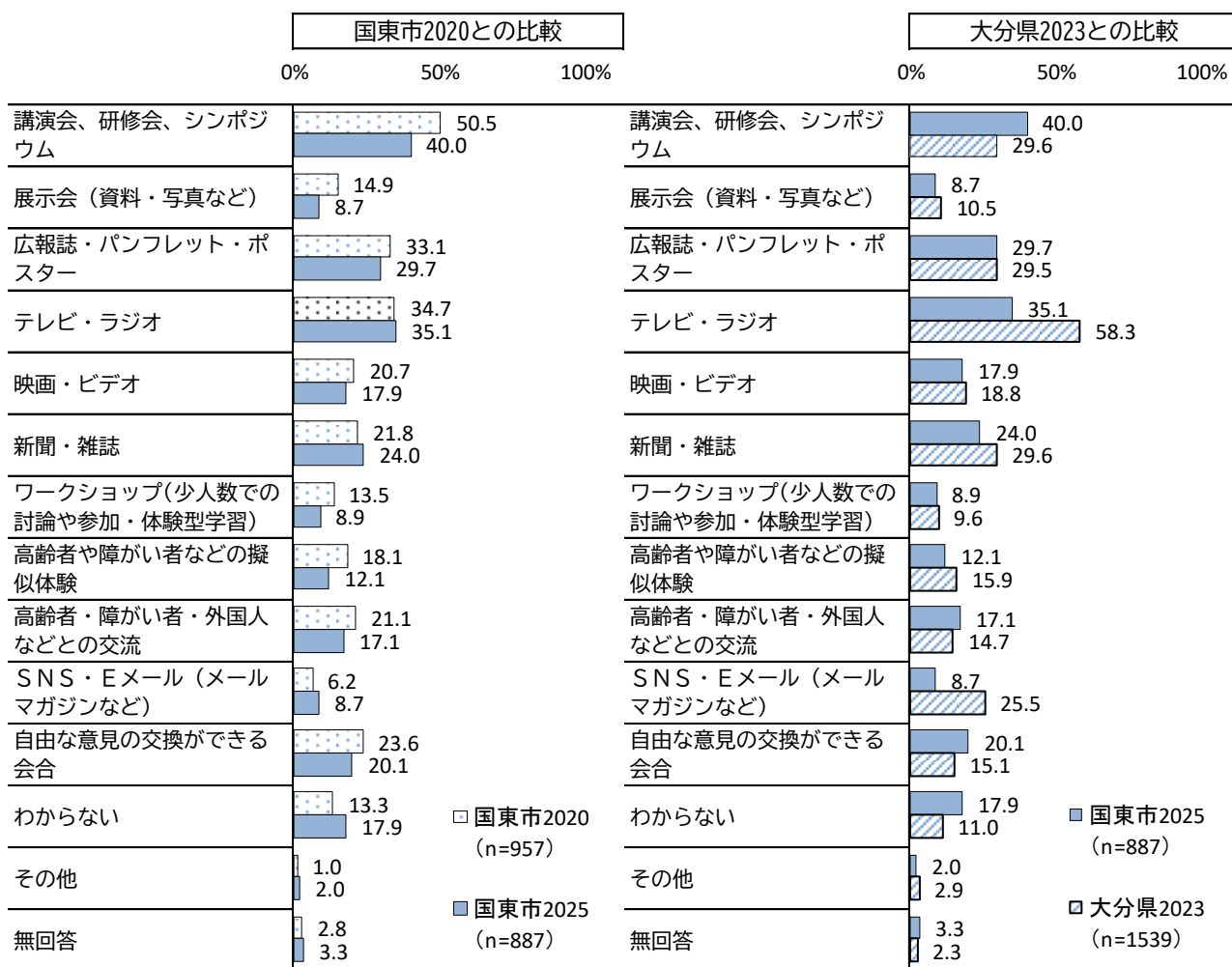
2025 調査結果	講演会、研修 会、シンポジ ウム	展示会（資 料・写真な ど）	広報誌・パン フレット・ポ スター	テレビ・ラジ オ	映画・ビデオ	新聞・雑誌	ワークショッ プ（少人数で の討論や参 加・体験型学 習）	高齢者や障が い者などの擬 似体験
18～19歳	42.9 3	28.6 2	28.6 2	57.1 4	57.1 4	42.9 3	14.3 1	14.3 1
20～29歳	28.2 11	10.3 4	15.4 6	56.4 22	43.6 17	10.3 4	10.3 4	15.4 6
30～39歳	38.8 19	14.3 7	28.6 14	36.7 18	24.5 12	26.5 13	14.3 7	14.3 7
40～49歳	35.1 26	13.5 10	35.1 26	41.9 31	24.3 18	20.3 15	9.5 7	24.3 18
50～59歳	46.5 46	7.1 7	22.2 22	34.3 34	16.2 16	17.2 17	11.1 11	14.1 14
60～69歳	43.0 77	7.8 14	33.0 59	34.6 62	18.4 33	20.1 36	8.9 16	14.0 25
70～79歳	40.3 98	9.1 22	32.5 79	33.3 81	16.9 41	25.9 63	9.1 22	8.2 20
80歳以上	38.9 75	5.7 11	28.5 55	30.6 59	9.3 18	32.1 62	5.7 11	8.3 16
無回答	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0	0.0 0
全体	40.0 355	8.7 77	29.7 263	35.1 311	17.9 159	24.0 213	8.9 79	12.1 107

MA

上段：構成比 下段：人数

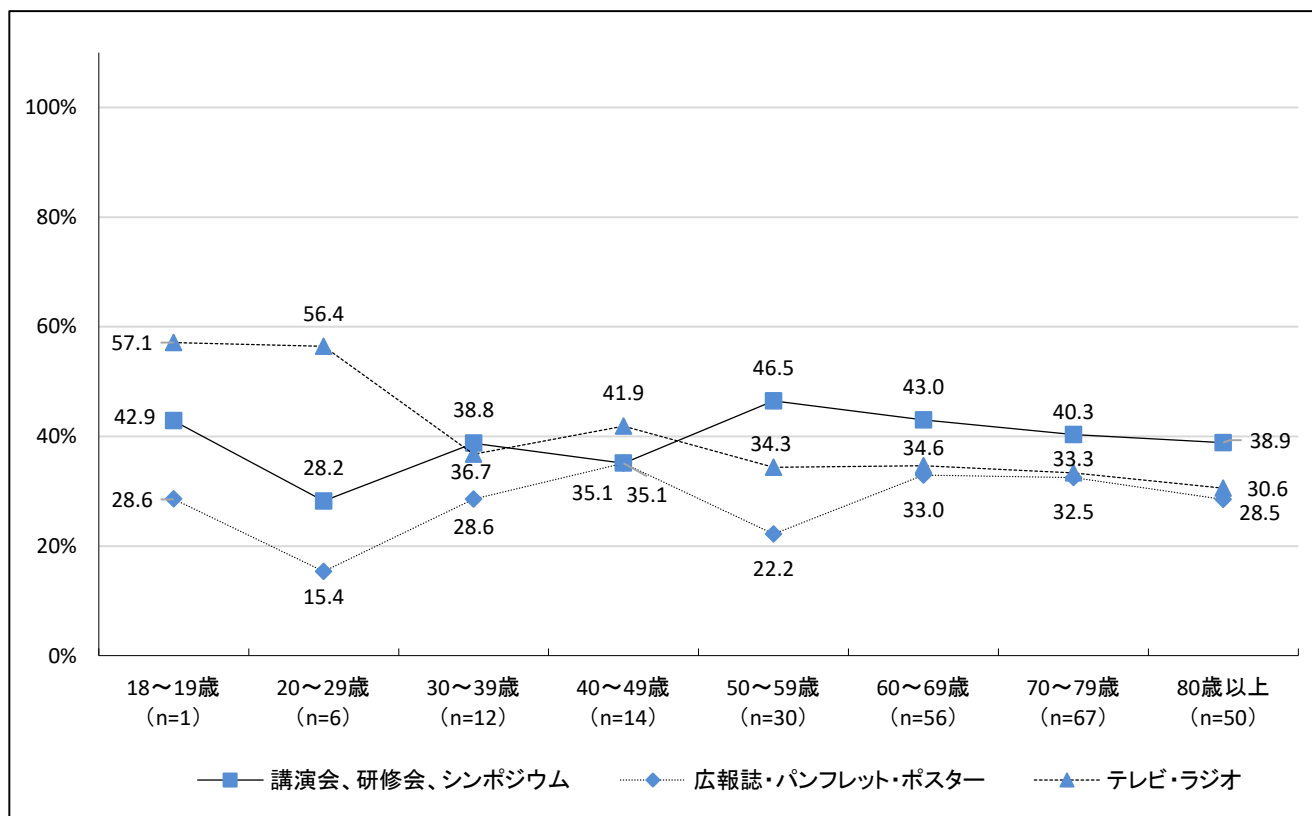
2025 調査結果	高齢者・障が い者・外国人 などとの交流	SNS・E メール（メー ルマガジンな ど）	自由な意見の 交換ができる 会合	わからない	その他	無回答	全体
18～19歳	28.6 2	42.9 3	28.6 2	28.6 2	0.0 0	0.0 0	100.0 7
20～29歳	10.3 4	30.8 12	7.7 3	7.7 3	5.1 2	0.0 0	100.0 39
30～39歳	12.2 6	16.3 8	10.2 5	12.2 6	6.1 3	0.0 0	100.0 49
40～49歳	20.3 15	24.3 18	13.5 10	12.2 9	1.4 1	0.0 0	100.0 74
50～59歳	22.2 22	9.1 9	14.1 14	11.1 11	3.0 3	1.0 1	100.0 99
60～69歳	21.8 39	8.9 16	19.6 35	21.2 38	2.2 4	1.7 3	100.0 179
70～79歳	16.5 40	3.3 8	20.6 50	22.2 54	0.8 2	4.9 12	100.0 243
80歳以上	11.9 23	1.6 3	30.1 58	18.1 35	1.6 3	5.7 11	100.0 193
無回答	25.0 1	0.0 0	25.0 1	25.0 1	0.0 0	50.0 2	100.0 4
全体	17.1 152	8.7 77	20.1 178	17.9 159	2.0 18	3.3 29	100.0 887

【全体】

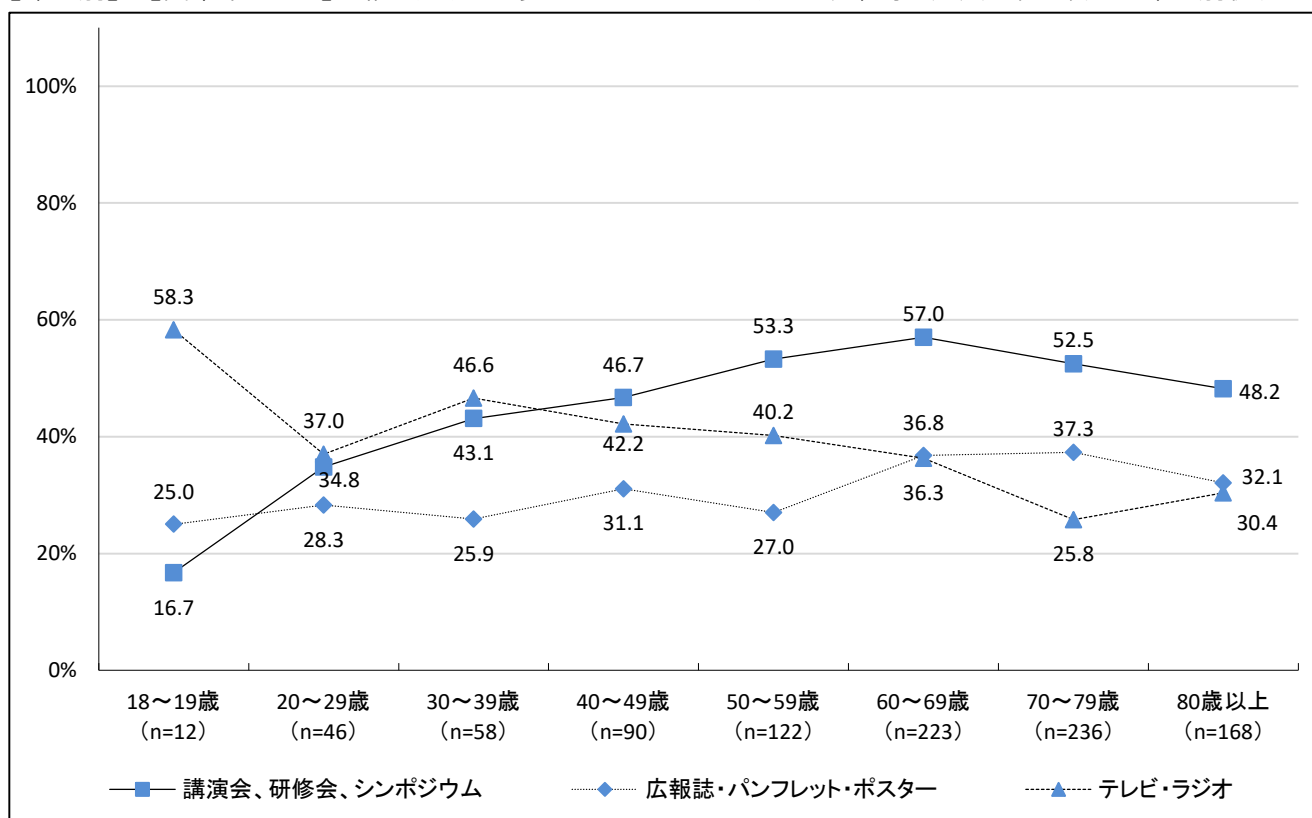


※大分県2023調査調査では「交通広告」「特にない」の項目あり。

【年代別】＜【国東市2025】人権の大切さを多くの人に知ってもらう効果的な方法上位3項目の年代別状況＞



【年代別】＜【国東市2020】人権の大切さを多くの人に知ってもらうには効果的な方法上位3項目の年代別状況＞



■市全体では、人権の大切さを多くの人に知ってもらう効果的な方法について「講演会、研修会、シンポジウム」の割合が 40.0%と最も高く、次いで「テレビ・ラジオ」(35.1%)、「広報誌・パンフレット・ポスター」(29.7%)となっています。

■2020調査と比較すると市全体では、「SNS・Eメール(メールマガジンなど)」の割合が 2.5 ㊦、「新聞・雑誌」(2.2 ㊦)が増加しています。大分県2023調査との比較では、「テレビ・ラジオ」の割合が 23.2 ㊦と最も上回っています。

◆年代別では、人権の大切さを多くの人に知ってもらう効果的な方法の上位3項目について、「講演会、研修会、シンポジウム」で最も割合が高い年代は50～59歳(46.5%)、「テレビ・ラジオ」で最も割合が高い年代は18～19歳(57.1%)、「広報誌・パンフレット・ポスター」で最も割合が高い年代は40～49歳(35.1%)となっています。

◆2020調査と比較すると、「講演会、研修会、シンポジウム」で最も割合が増加しているのは、18～19歳の 26.2 ㊦。「テレビ・ラジオ」で最も割合が増加しているのは、20～29歳の 19.4 ㊦、次いで70～79歳(7.5 ㊦)。「広報誌・パンフレット・ポスター」で最も割合が増加しているのは、40～49歳の 4.0 ㊦、次いで18～19歳(3.6 ㊦)となっています。

◎考察

人権教育・啓発に当たっては、多くの市民に効果的に理念を伝えていくことが重要です。調査では、「講演会、研修会、シンポジウム」が4割と最も高く、次いで「テレビ・ラジオ」、「広報誌・パンフレット・ポスター」となっており、対面型の学習機会とメディア活用の双方が有効と認識されています。また、SNSや新聞・雑誌の割合も増加しており、情報収集手段の多様化がうかがえます。今後は、講演会等の充実に加え、各種媒体を組み合わせることで発信していくことが重要です。

問24 あなたは、次にあげる憲法や法律などを、どの程度ご存知ですか。

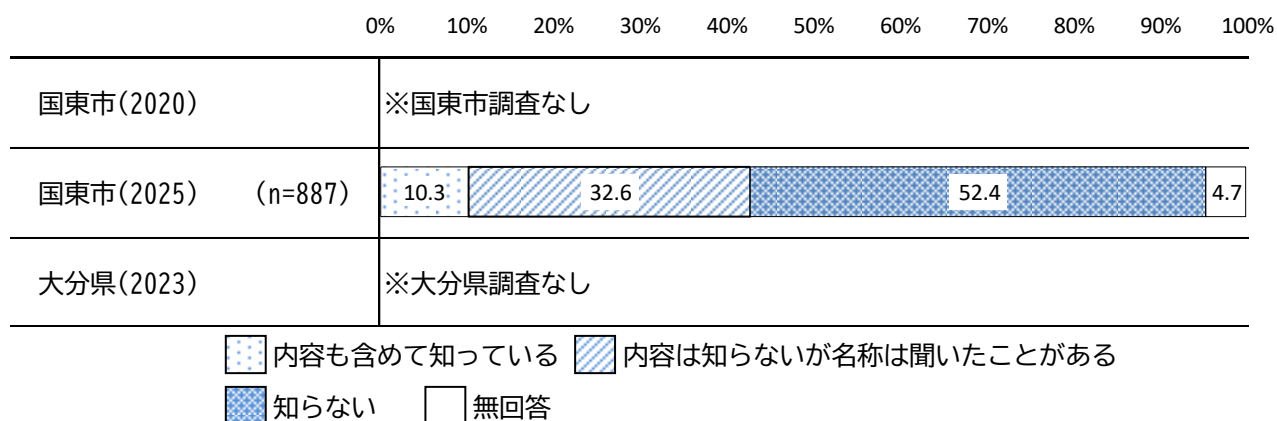
【ア. 障害者差別解消法(平成28年)】

SA

上段：構成比 下段：人数

2025 調査結果	内容も含めて 知っている	内容は知らない が名称は聞いた ことがある	知らない	無回答	合計
18～19歳	0.0 0	71.4 5	28.6 2	0.0 0	100.0 7
20～29歳	7.7 3	38.5 15	53.8 21	0.0 0	100.0 39
30～39歳	24.5 12	26.5 13	49.0 24	0.0 0	100.0 49
40～49歳	6.8 5	33.8 25	59.5 44	0.0 0	100.0 74
50～59歳	16.2 16	34.3 34	48.5 48	1.0 1	100.0 99
60～69歳	8.9 16	33.5 60	55.3 99	2.2 4	100.0 179
70～79歳	9.9 24	33.3 81	52.7 128	4.1 10	100.0 243
80歳以上	7.8 15	28.5 55	51.3 99	12.4 24	100.0 193
無回答	0.0 0	25.0 1	0.0 0	75.0 3	100.0 4
全体	10.3 91	32.6 289	52.4 465	4.7 42	100.0 887

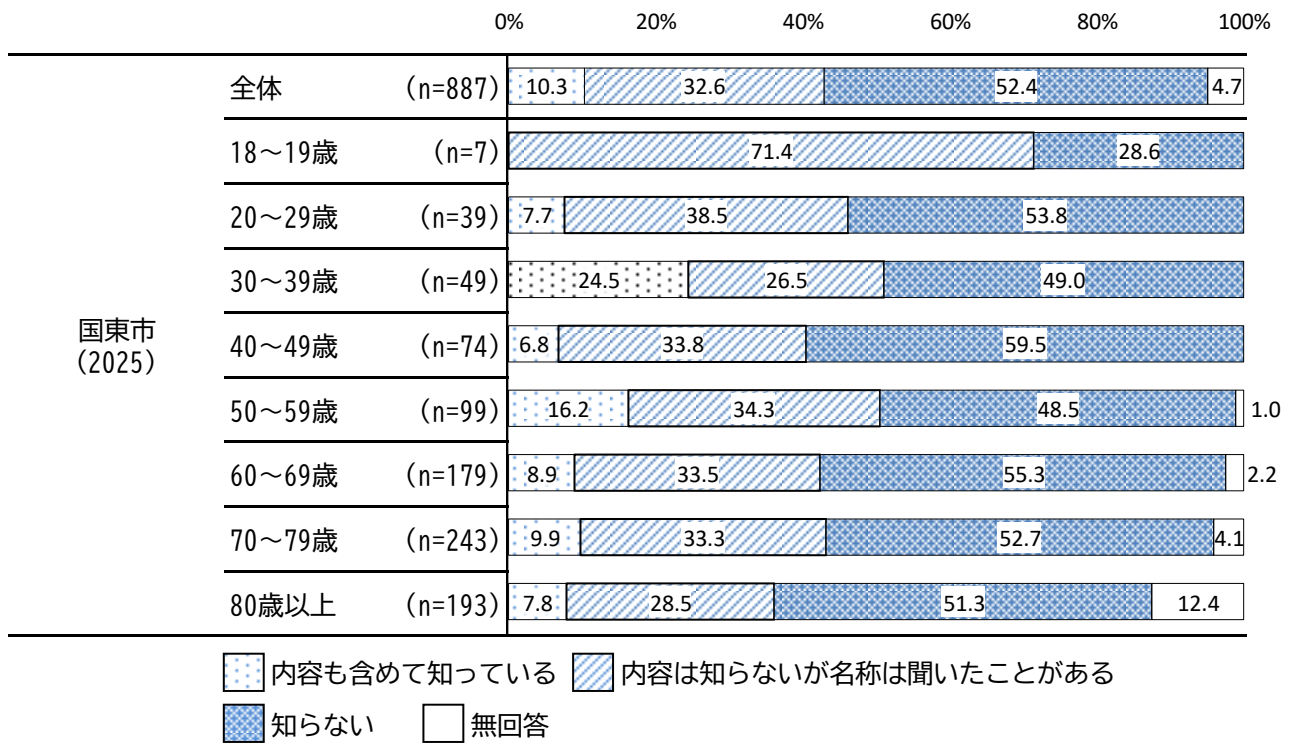
【全体】



※国東市2020調査、大分県2023調査と回答選択肢が異なるため比較不可。

■市全体では、障害者差別解消法(平成28年)について「知らない」の割合が 52.4%と最も高く、次いで「内容は知らないが名称は聞いたことがある」(32.6%)、「内容も含めて知っている」(10.3%)となっています。

【年代別】



◆年代別では、「内容も含めて知っている」の割合が最も高いのは30～39歳で 24.5%、次いで50～59歳（16.2%）、70～79歳（9.9%）となっています。

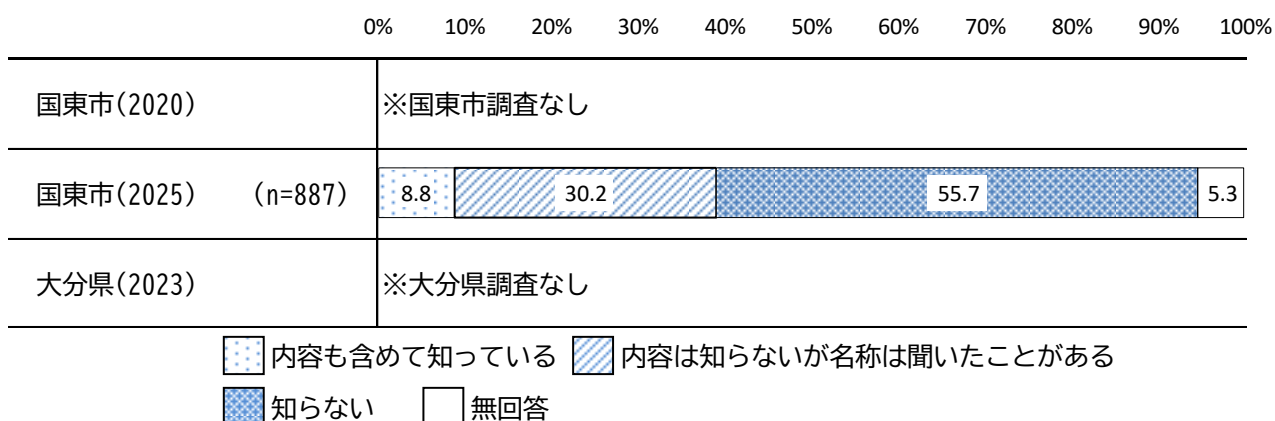
【イ. ヘイトスピーチ解消法(平成28年)】

SA

上段：構成比 下段：人数

2025 調査結果	内容も含めて 知っている	内容は知らない が名称は聞いた ことがある	知らない	無回答	合計
18～19歳	14.3 1	0.0 0	85.7 6	0.0 0	100.0 7
20～29歳	5.1 2	51.3 20	43.6 17	0.0 0	100.0 39
30～39歳	16.3 8	40.8 20	42.9 21	0.0 0	100.0 49
40～49歳	6.8 5	35.1 26	58.1 43	0.0 0	100.0 74
50～59歳	12.1 12	36.4 36	49.5 49	2.0 2	100.0 99
60～69歳	10.1 18	29.1 52	58.7 105	2.2 4	100.0 179
70～79歳	9.5 23	28.4 69	57.2 139	4.9 12	100.0 243
80歳以上	4.7 9	23.3 45	58.5 113	13.5 26	100.0 193
無回答	0.0 0	0.0 0	25.0 1	75.0 3	100.0 4
全体	8.8 78	30.2 268	55.7 494	5.3 47	100.0 887

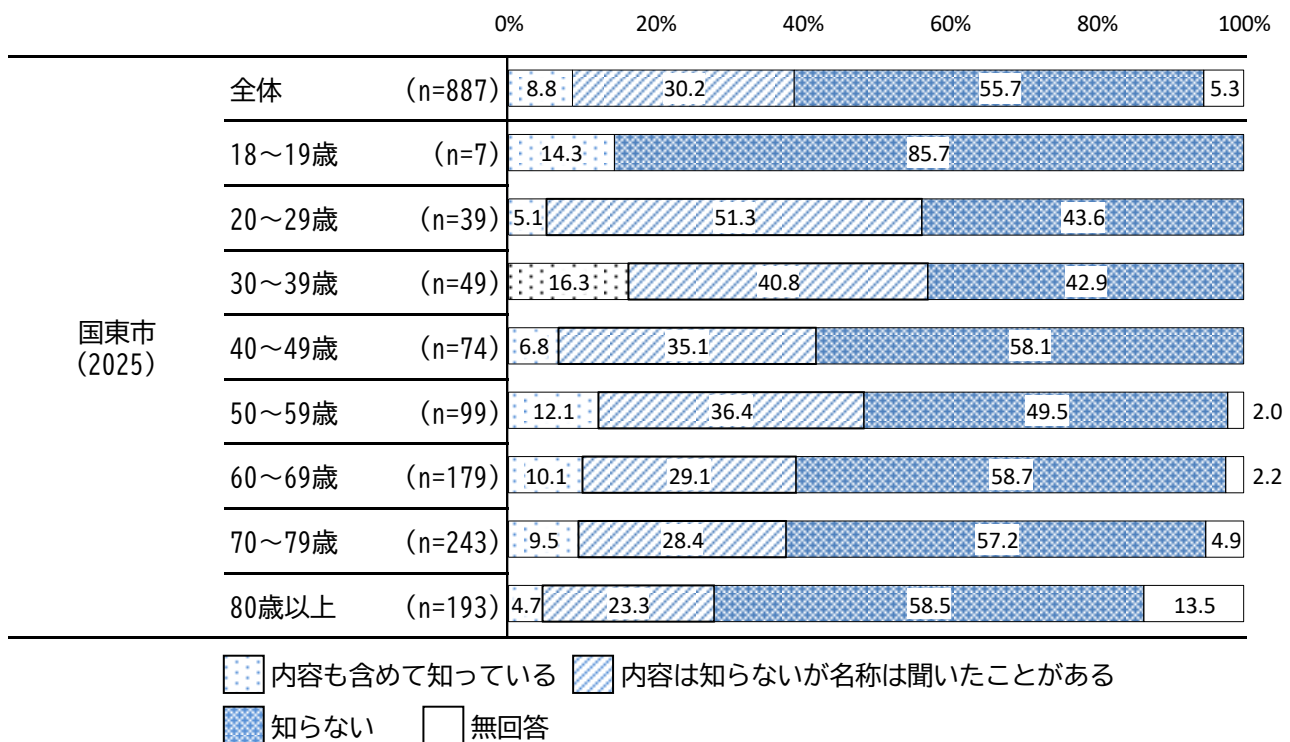
【全体】



※国東市2020調査、大分県2023調査と回答選択肢が異なるため比較不可。

■市全体では、ヘイトスピーチ解消法(平成28年)について「知らない」の割合が 55.7%と最も高く、次いで「内容は知らないが名称は聞いたことがある」(30.2%)、「内容も含めて知っている」(8.8%)となっています。

【年代別】



◆年代別では、「内容も含めて知っている」の割合が最も高いのは30～39歳で 16.3%、次いで18～19歳（14.3%）、50～59歳（12.1%）となっています。

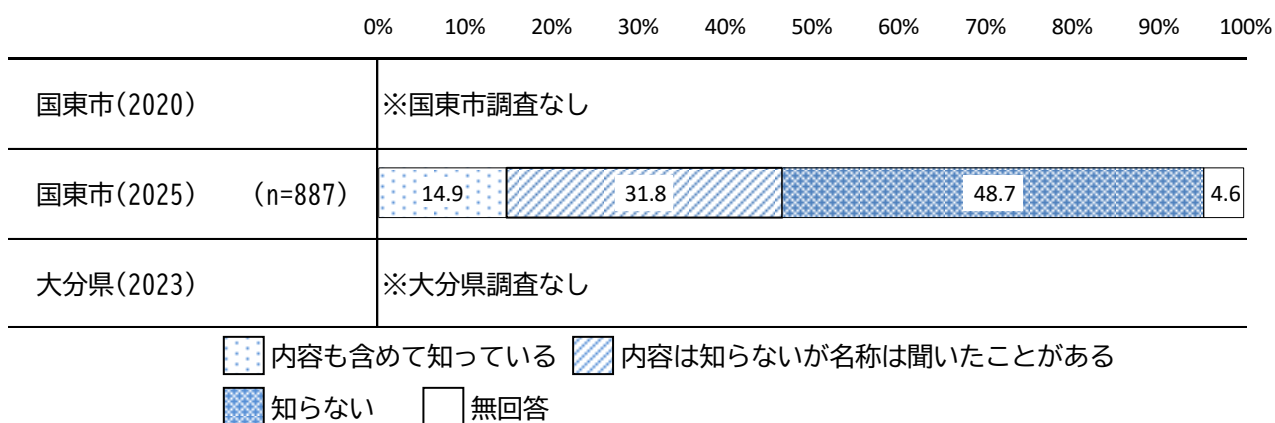
【ウ. 部落差別解消推進法(平成28年)】

SA

上段：構成比 下段：人数

2025 調査結果	内容も含めて 知っている	内容は知らない が名称は聞いた ことがある	知らない	無回答	合計
18～19歳	0.0 0	85.7 6	14.3 1	0.0 0	100.0 7
20～29歳	17.9 7	35.9 14	46.2 18	0.0 0	100.0 39
30～39歳	24.5 12	30.6 15	44.9 22	0.0 0	100.0 49
40～49歳	10.8 8	33.8 25	55.4 41	0.0 0	100.0 74
50～59歳	19.2 19	38.4 38	39.4 39	3.0 3	100.0 99
60～69歳	11.7 21	31.8 57	54.2 97	2.2 4	100.0 179
70～79歳	14.8 36	30.5 74	51.0 124	3.7 9	100.0 243
80歳以上	15.0 29	26.9 52	46.6 90	11.4 22	100.0 193
無回答	0.0 0	25.0 1	0.0 0	75.0 3	100.0 4
全体	14.9 132	31.8 282	48.7 432	4.6 41	100.0 887

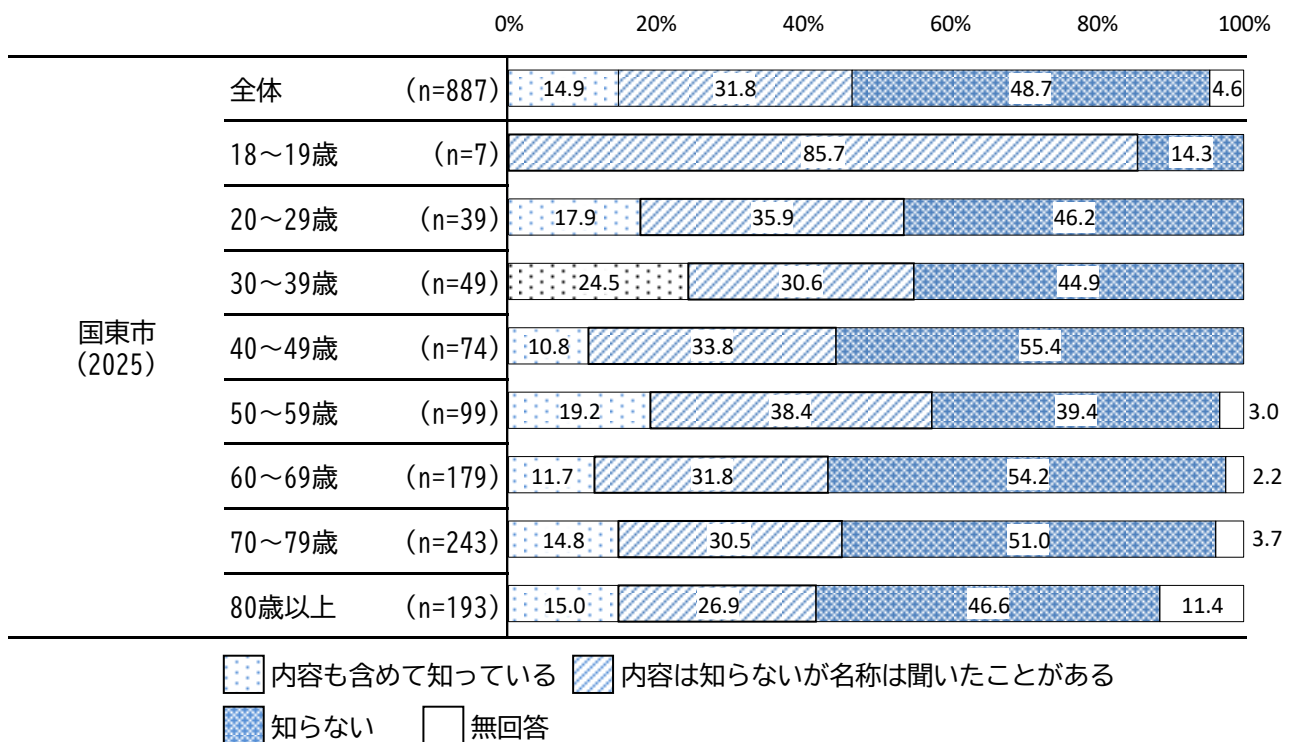
【全体】



※国東市2020調査、大分県2023調査と回答選択肢が異なるため比較不可。

■市全体では、部落差別解消推進法(平成28年)について「知らない」の割合が 48.7%と最も高く、次いで「内容は知らないが名称は聞いたことがある」(31.8%)、「内容も含めて知っている」(14.9%)となっています。

【年代別】



◆年代別では、「内容も含めて知っている」の割合が最も高いのは30～39歳で 24.5%、次いで50～59歳（19.2%）、20～29歳（17.9%）となっています。

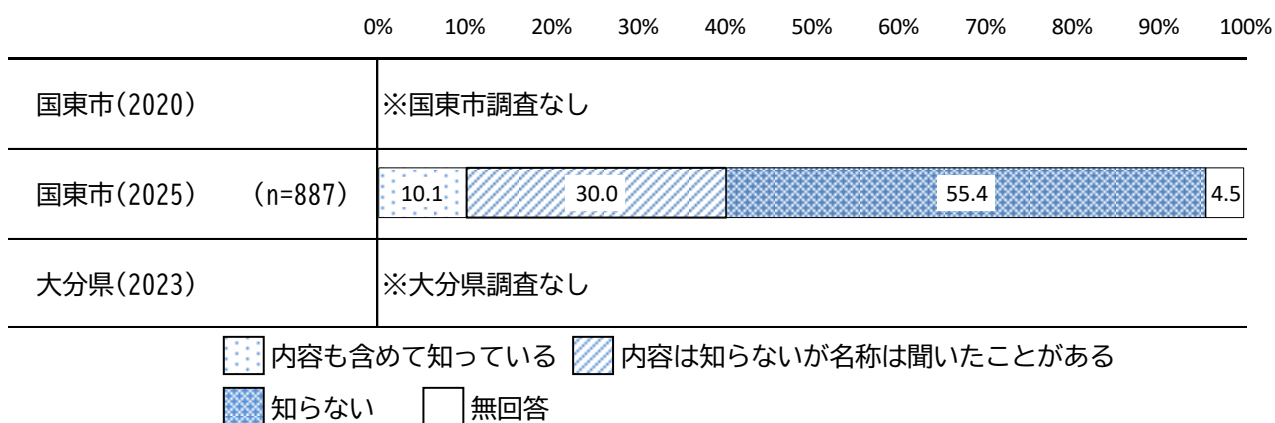
【エ. 国東市における部落差別等あらゆる差別をなくし人権を擁護する条例(平成31年)】

SA

上段：構成比 下段：人数

2025 調査結果	内容も含めて 知っている	内容は知らない が名称は聞いた ことがある	知らない	無回答	合計
18～19歳	0.0 0	28.6 2	71.4 5	0.0 0	100.0 7
20～29歳	5.1 2	15.4 6	79.5 31	0.0 0	100.0 39
30～39歳	10.2 5	34.7 17	53.1 26	2.0 1	100.0 49
40～49歳	5.4 4	28.4 21	66.2 49	0.0 0	100.0 74
50～59歳	13.1 13	33.3 33	52.5 52	1.0 1	100.0 99
60～69歳	8.9 16	25.7 46	63.1 113	2.2 4	100.0 179
70～79歳	10.7 26	34.2 83	51.4 125	3.7 9	100.0 243
80歳以上	12.4 24	29.5 57	46.6 90	11.4 22	100.0 193
無回答	0.0 0	25.0 1	0.0 0	75.0 3	100.0 4
全体	10.1 90	30.0 266	55.4 491	4.5 40	100.0 887

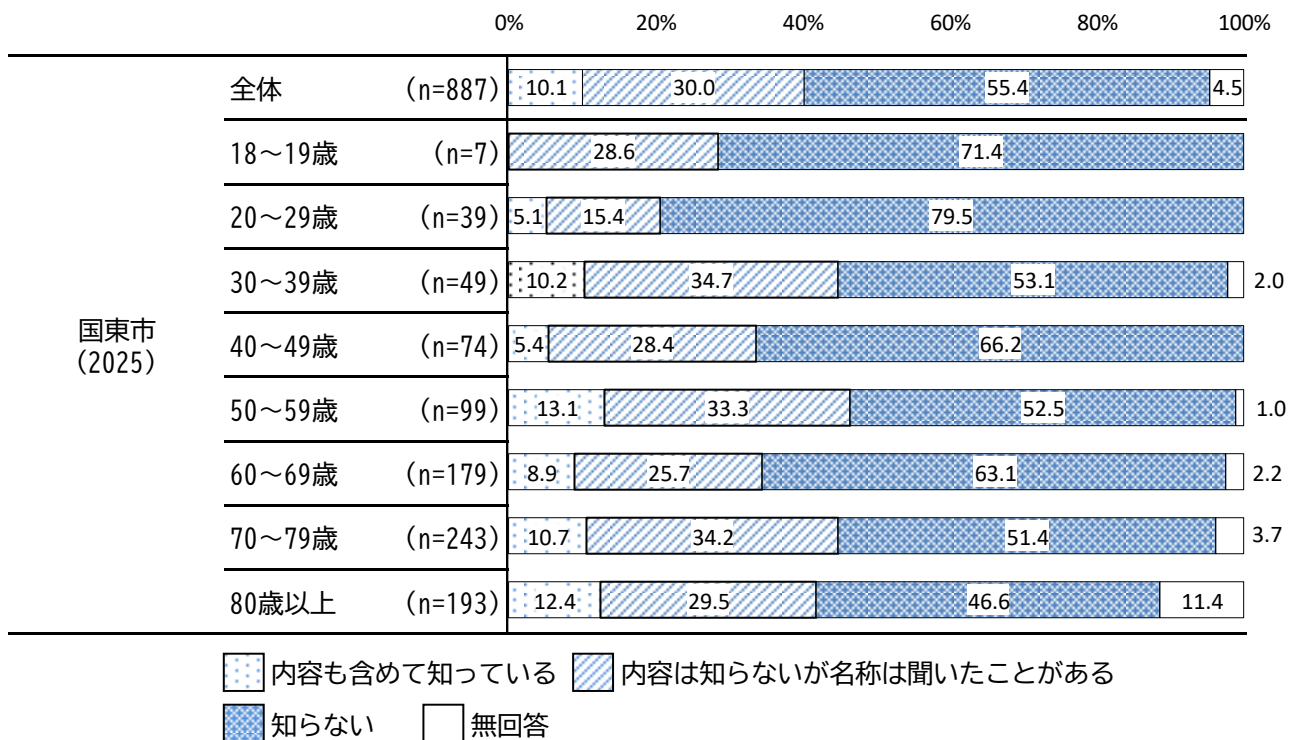
【全体】



※国東市2020調査、大分県2023調査と回答選択肢が異なるため比較不可。

■市全体では、国東市における部落差別等あらゆる差別をなくし人権を擁護する条例(平成31年)について「知らない」の割合が 55.4%と最も高く、次いで「内容は知らないが名称は聞いたことがある」(30.0%)、「内容も含めて知っている」(10.1%)となっています。

【年代別】



◆年代別では、「内容も含めて知っている」の割合が最も高いのは50～59歳で 13.1%、次いで80歳以上（12.4%）、70～79歳（10.7%）となっています。

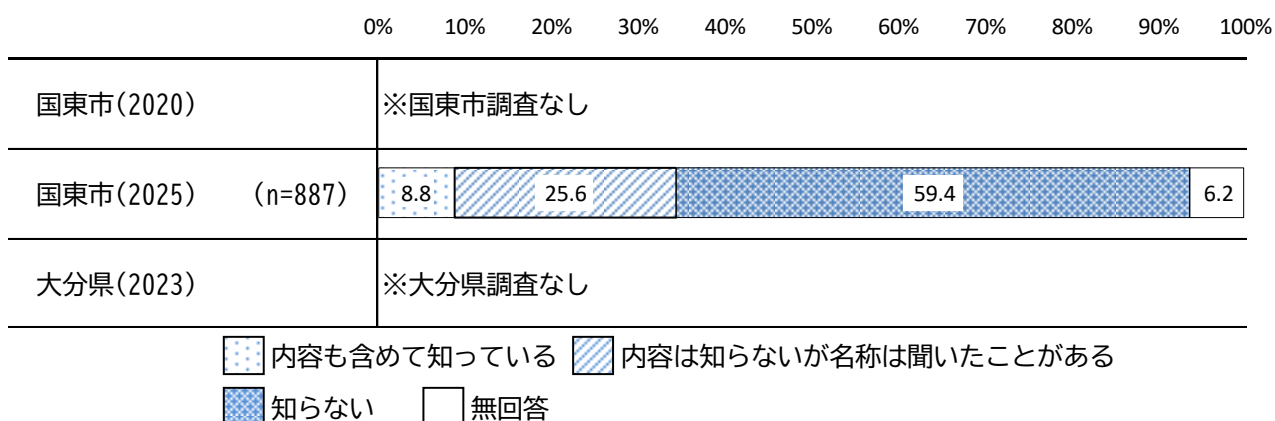
【オ. LGBT理解増進法(令和5年)】

SA

上段：構成比 下段：人数

2025 調査結果	内容も含めて 知っている	内容は知らない が名称は聞いた ことがある	知らない	無回答	合計
18～19歳	28.6 2	28.6 2	42.9 3	0.0 0	100.0 7
20～29歳	12.8 5	28.2 11	59.0 23	0.0 0	100.0 39
30～39歳	18.4 9	28.6 14	53.1 26	0.0 0	100.0 49
40～49歳	8.1 6	43.2 32	47.3 35	1.4 1	100.0 74
50～59歳	13.1 13	39.4 39	45.5 45	2.0 2	100.0 99
60～69歳	9.5 17	27.4 49	60.9 109	2.2 4	100.0 179
70～79歳	6.6 16	20.6 50	66.3 161	6.6 16	100.0 243
80歳以上	5.2 10	15.0 29	64.2 124	15.5 30	100.0 193
無回答	0.0 0	25.0 1	25.0 1	50.0 2	100.0 4
全体	8.8 78	25.6 227	59.4 527	6.2 55	100.0 887

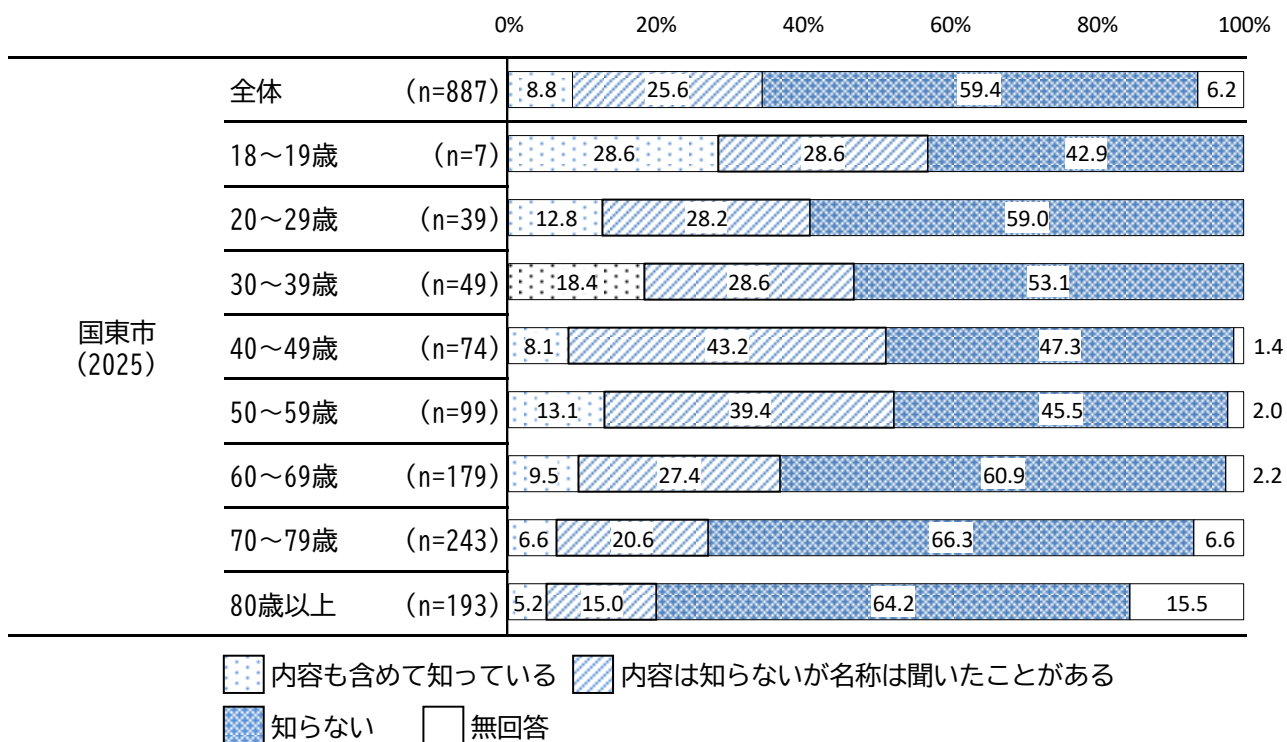
【全体】



※国東市2020調査、大分県2023調査と回答選択肢が異なるため比較不可。

■市全体では、LGBT理解増進法(令和5年)について「知らない」の割合が 59.4%と最も高く、次いで「内容は知らないが名称は聞いたことがある」(25.6%)、「内容も含めて知っている」(8.8%)となっています。

【年代別】



◆年代別では、「内容も含めて知っている」の割合が最も高いのは18～19歳で 28.6%、次いで30～39歳（18.4%）、50～59歳（13.1%）となっています。

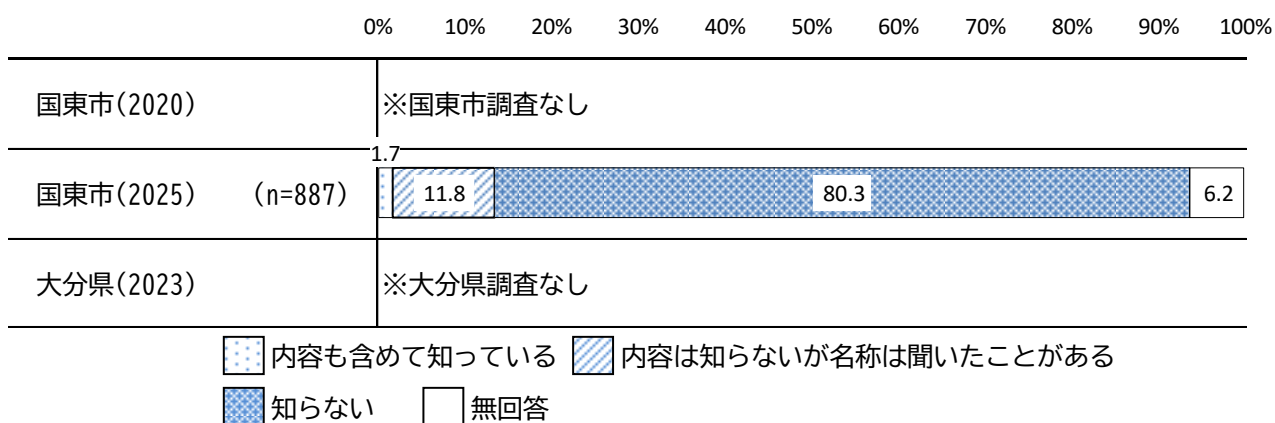
【カ. 情報流通プラットフォーム対処法(令和6年)】

SA

上段：構成比 下段：人数

2025 調査結果	内容も含めて 知っている	内容は知らない が名称は聞いた ことがある	知らない	無回答	合計
18～19歳	0.0 0	14.3 1	85.7 6	0.0 0	100.0 7
20～29歳	0.0 0	7.7 3	92.3 36	0.0 0	100.0 39
30～39歳	4.1 2	20.4 10	75.5 37	0.0 0	100.0 49
40～49歳	2.7 2	10.8 8	85.1 63	1.4 1	100.0 74
50～59歳	4.0 4	22.2 22	71.7 71	2.0 2	100.0 99
60～69歳	0.6 1	10.6 19	86.0 154	2.8 5	100.0 179
70～79歳	2.1 5	8.6 21	83.1 202	6.2 15	100.0 243
80歳以上	0.5 1	10.9 21	73.6 142	15.0 29	100.0 193
無回答	0.0 0	0.0 0	25.0 1	75.0 3	100.0 4
全体	1.7 15	11.8 105	80.3 712	6.2 55	100.0 887

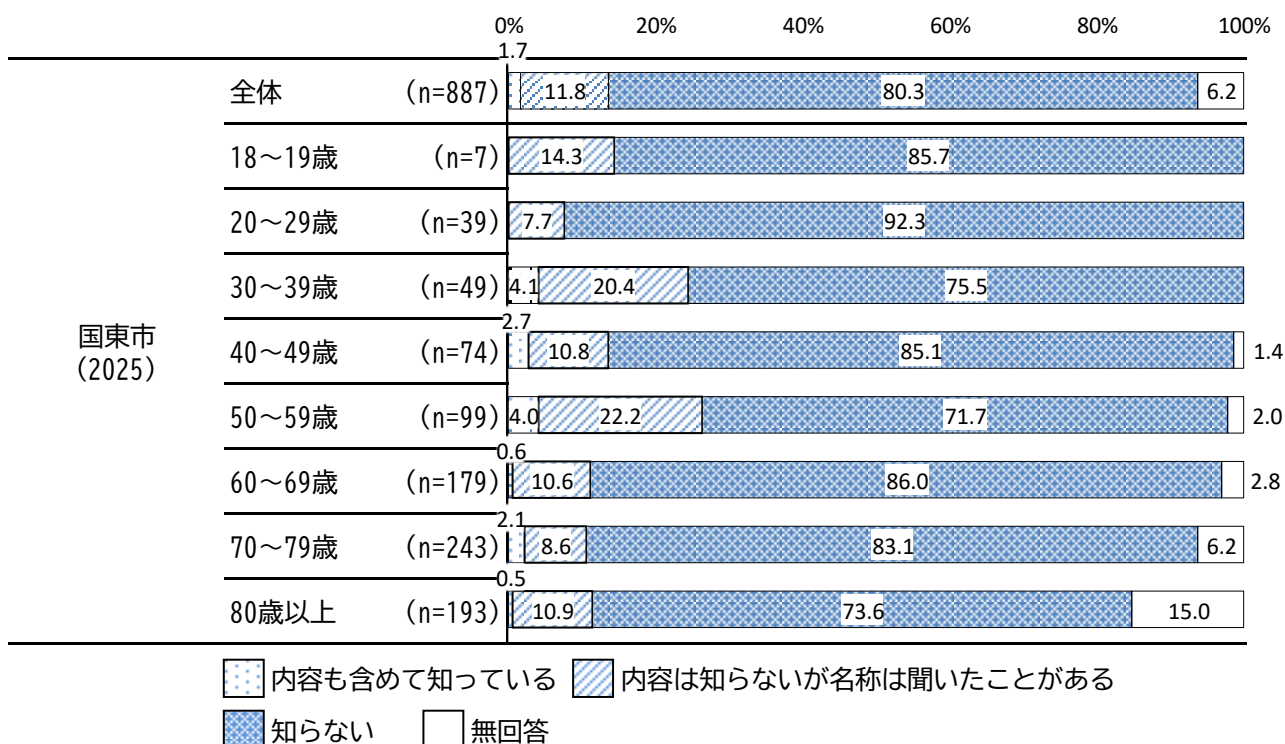
【全体】



※国東市2020調査、大分県2023調査と回答選択肢が異なるため比較不可。

■市全体では、情報流通プラットフォーム対処法(令和6年)について「知らない」の割合が 80.3%と最も高く、次いで「内容は知らないが名称は聞いたことがある」(11.8%)、「内容も含めて知っている」(1.7%)となっています。

【年代別】



◆年代別では、「内容も含めて知っている」の割合が最も高いのは30～39歳で 4.1%、次いで50～59歳 (4.0%)、40～49歳(2.7%)となっています。

◎考察

各種人権関係法令や条例については、いずれの項目においても「知らない」と回答した割合が5割前後から6割程度と最も高くなっています。「情報流通プラットフォーム対処法」については、「知らない」が8割程度にのびますが、同法は2024(令和6)年公布、2025(令和7)年施行されたばかりであり、市民への周知が浸透していない状況であると考えられます。一方で、「内容も含めて知っている」と回答した割合は、各法令において1割程度にとどまっているものの、年代別では30～39歳、50～59歳で比較的高い傾向がみられます。これは、これまで継続して実施してきた地区人権学習会や講演会などの取組の成果と考えられます。今後も、これらの取組を継続・充実させながら、法律や条例の目的や内容をより分かりやすく伝えていくことが重要です。

V. その他について(問25～問27)

[SA]

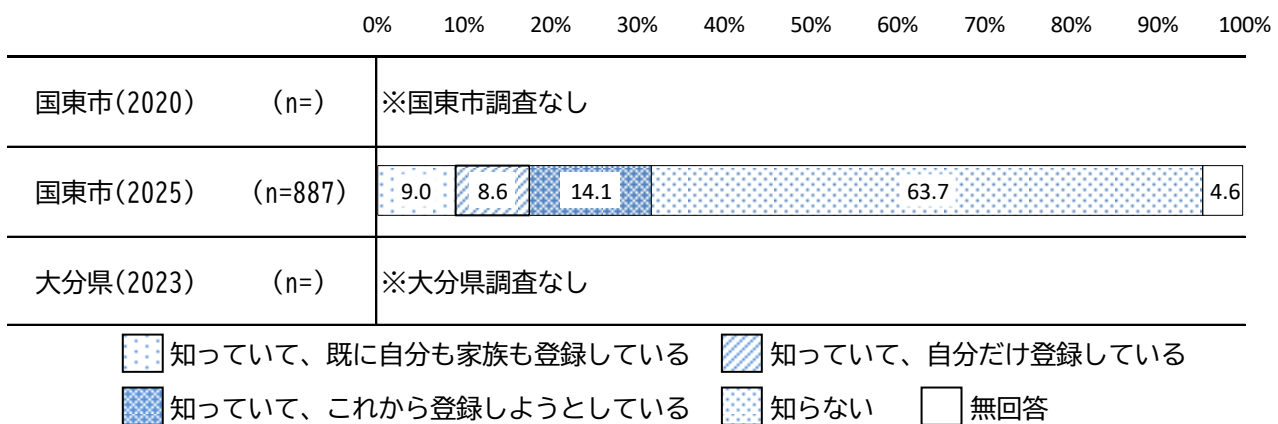
問25 あなたは、事前登録型本人通知制度を知っていますか。

SA

上段：構成比 下段：人数

2025 調査結果	知っていて、既に自分も家族も登録している	知っていて、自分だけ登録している	知っていて、これから登録しようとしている	知らない	無回答	合計
18～19歳	0.0 0	0.0 0	14.3 1	85.7 6	0.0 0	100.0 7
20～29歳	10.3 4	2.6 1	7.7 3	76.9 30	2.6 1	100.0 39
30～39歳	10.2 5	16.3 8	2.0 1	71.4 35	0.0 0	100.0 49
40～49歳	8.1 6	12.2 9	9.5 7	70.3 52	0.0 0	100.0 74
50～59歳	13.1 13	10.1 10	18.2 18	55.6 55	3.0 3	100.0 99
60～69歳	10.1 18	12.3 22	11.7 21	62.0 111	3.9 7	100.0 179
70～79歳	7.8 19	7.0 17	18.9 46	61.3 149	4.9 12	100.0 243
80歳以上	7.8 15	4.7 9	14.5 28	65.3 126	7.8 15	100.0 193
無回答	0.0 0	0.0 0	0.0 0	25.0 1	75.0 3	100.0 4
全体	9.0 80	8.6 76	14.1 125	63.7 565	4.6 41	100.0 887

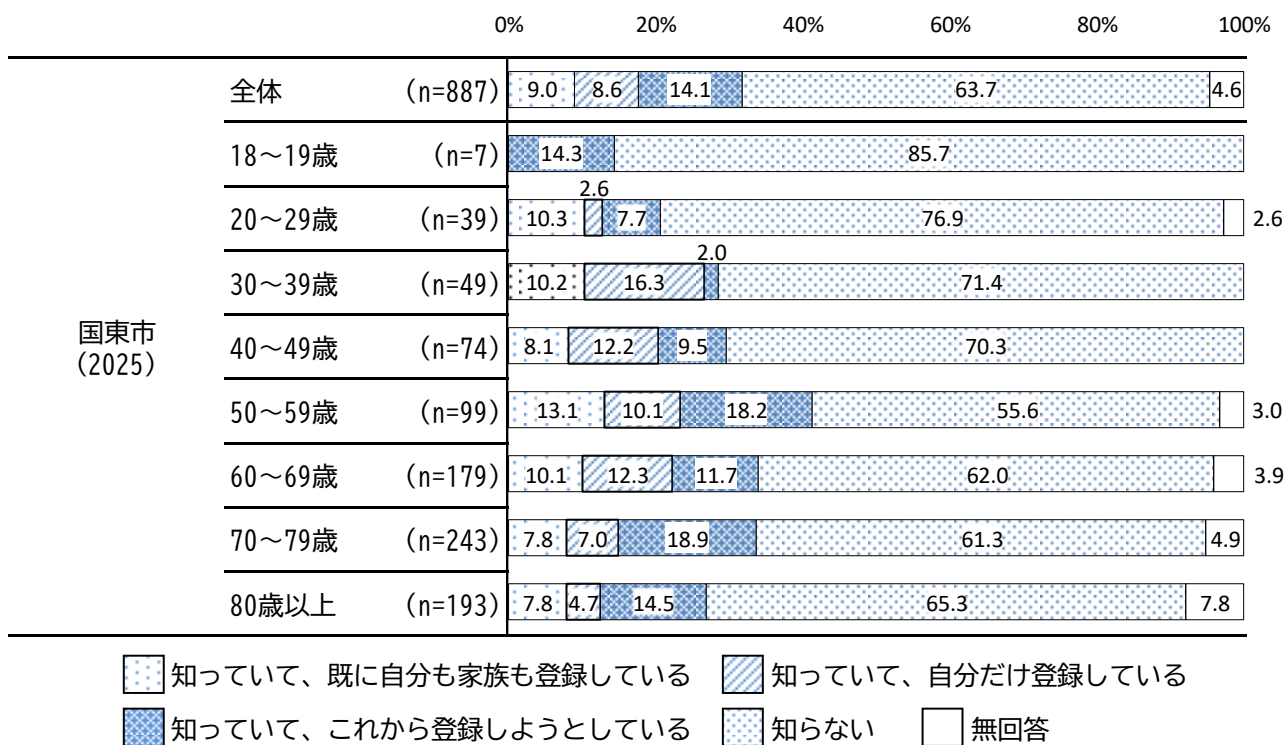
【全体】



■市全体では、事前登録型本人通知制度について「知らない」が 63.7%と最も高く、次いで「知っていて、これから登録しようとしている」(14.1%)、「知っていて、既に自分も家族も登録している」(9.0%)となっています。

■2020調査はありません。大分県2023調査との比較也没有ありません。

【年代別】



- ◆年代別では、「知っている、既に自分も家族も登録している」の割合が最も高いのは50～59歳で 13.1%、次いで20～29歳(10.3%)、30～39歳(10.2%)となっています。
- ◆年代別の2020調査はありません。

◎考察

事前登録型本人通知制度とは、住民票の写しや戸籍謄本などが代理人や第三者に交付された場合、その事実を事前に登録した本人へ通知する制度であり、住民票の写し等の不正取得の早期発見や不正請求の抑止につながります。本市における登録率は、県内市町村でも上位にありますが、本調査では6割以上の方が本制度を「知らない」と回答していることから、今後も関係課と連携し講演会等の機会を活用しながら、制度の目的や意義、登録方法について分かりやすく説明するなど、継続した取組が必要です。

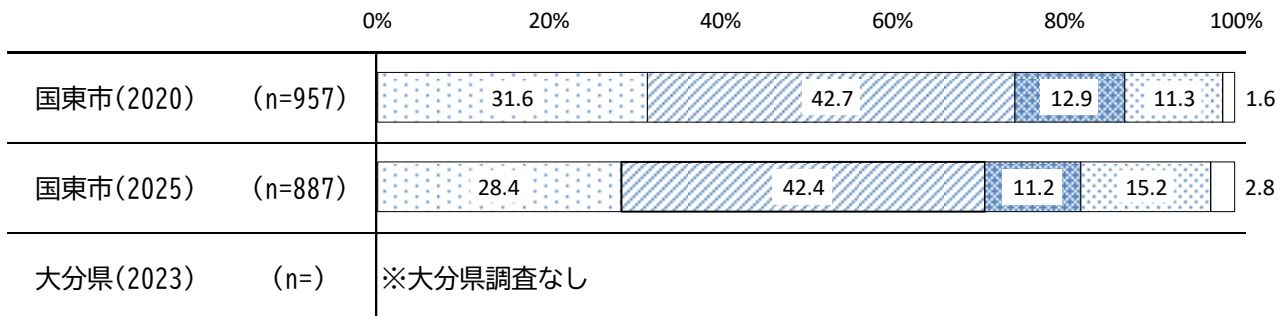
問26 結婚・就職についての身元調査をどう考えますか。

SA

上段：構成比 下段：人数

2025 調査結果	いかなる場合も そういうことを してはいけない	場合によっては した方が良いこ ともある	相手をよく知る 上で必要なこと である	わからない	無回答	合計
18～19歳	28.6 2	28.6 2	14.3 1	28.6 2	0.0 0	100.0 7
20～29歳	25.6 10	53.8 21	2.6 1	17.9 7	0.0 0	100.0 39
30～39歳	34.7 17	46.9 23	4.1 2	14.3 7	0.0 0	100.0 49
40～49歳	35.1 26	44.6 33	2.7 2	16.2 12	1.4 1	100.0 74
50～59歳	33.3 33	48.5 48	3.0 3	14.1 14	1.0 1	100.0 99
60～69歳	33.0 59	41.9 75	8.4 15	14.5 26	2.2 4	100.0 179
70～79歳	27.6 67	42.4 103	14.8 36	12.8 31	2.5 6	100.0 243
80歳以上	19.7 38	36.3 70	20.2 39	18.1 35	5.7 11	100.0 193
無回答	0.0 0	25.0 1	0.0 0	25.0 1	50.0 2	100.0 4
全体	28.4 252	42.4 376	11.2 99	15.2 135	2.8 25	100.0 887

【全体】

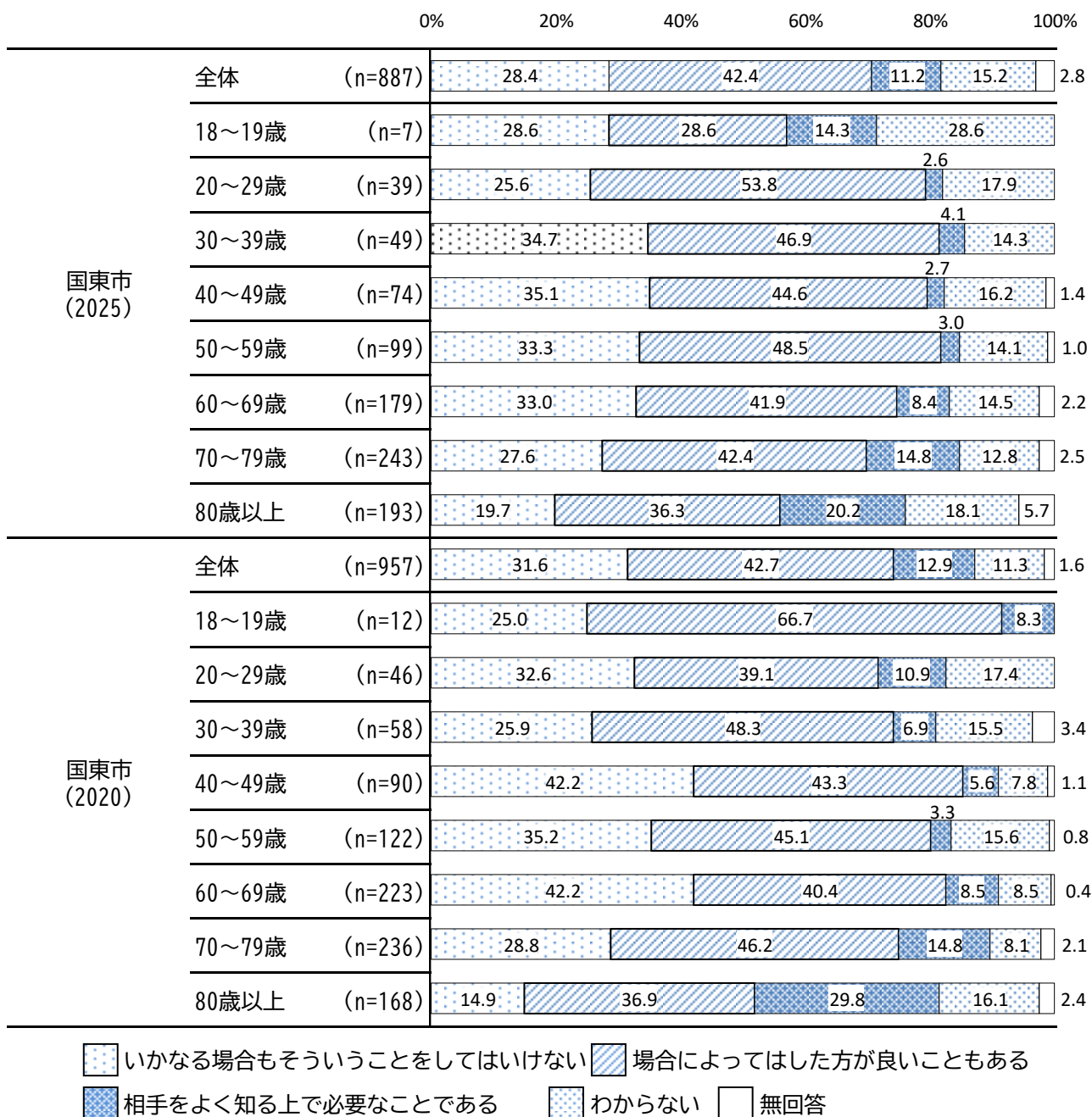


いかなる場合もそういうことをしてはいけない
 場合によってはした方が良いこともある
 相手をよく知る上で必要なことである
 わからない
 無回答

■市全体では、結婚・就職についての身元調査について「場合によってはした方が良いこともある」の割合が42.4%と最も高く、次いで「いかなる場合もそういうことをしてはいけない」(28.4%)、「相手をよく知る上で必要なことである」(11.2%)となっています。

■2020調査と比較すると市全体では、「わからない」の割合が3.9ポイント増加し、他の項目はすべて減少しています。大分県2023調査との比較はありません。

【年代別】



- ◆年代別では、「場合によってはした方が良いこともある」の割合が最も高いのは20～29歳で53.8%、次いで50～59歳(48.5%)、30～39歳(46.9%)となっています。
- ◆2020調査と比較すると年代別では、「場合によってはした方が良いこともある」の割合が最も増加したのは20～29歳で14.7ポイント、次いで50～59歳(3.4ポイント)、60～69歳(1.5ポイント)となっています。

◎考察

結婚・就職についての身元調査について、「いかなる場合もそういうことをしてはいけない」の割合が2020調査と比較して、減少しています。また、「場合によってはした方が良くある」や「相手を良く知る上で必要なことである」といった、身元調査を容認する回答は2020調査と比較して減少したものの、その割合は全体の5割を超えており、80歳以上では約2割の人が「相手を良く知る上で必要なことである」と回答しています。結婚は、当事者の自由な意思のみで成立するものであり、就職は、個人の能力や適性に基づいて公平に判断されるべきです。したがって、これらに際し身元調査を行い、本人が選択できない「生まれた場所」を調べることは重大な人権侵害であることを、身元調査の歴史的背景を含め、引き続き教育・啓発を推進することが重要です。

問27 あなたは、自分のことをどのように思っていますか。次のア～イについてあなたの考えに近いのはどれですか。

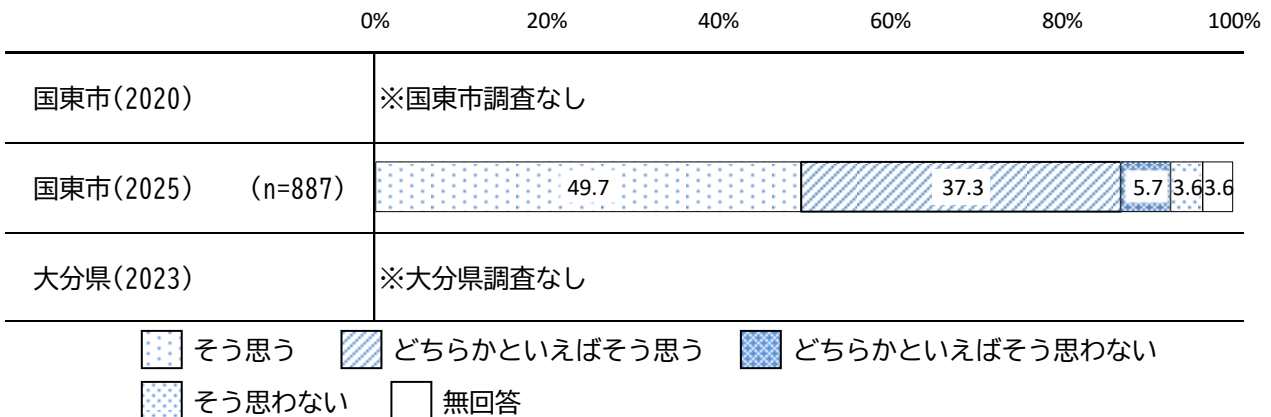
【ア. 相談したり、助け合ったりできる人がいる】

SA

上段：構成比 下段：人数

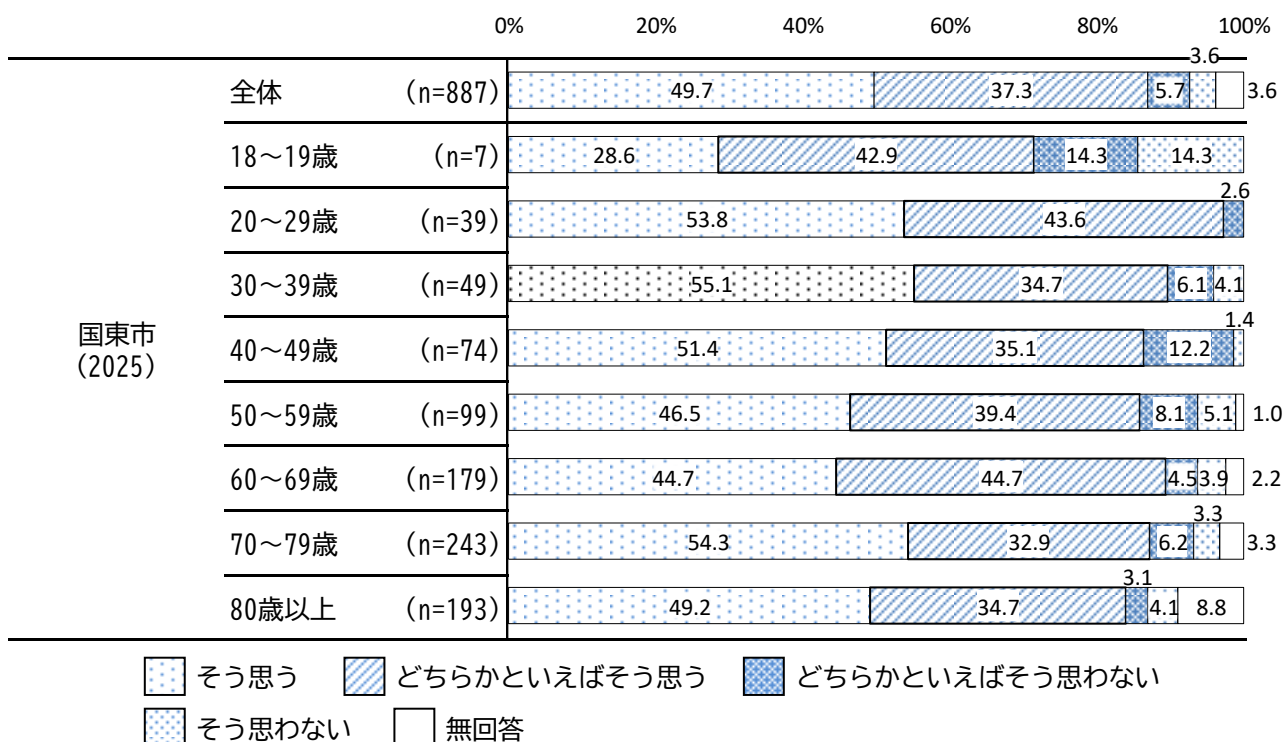
2025 調査結果	そう思う	どちらかといえ ばそう思う	どちらかといえ ばそう思わない	そう思わない	無回答	合計
18～19歳	28.6 2	42.9 3	14.3 1	14.3 1	0.0 0	100.0 7
20～29歳	53.8 21	43.6 17	2.6 1	0.0 0	0.0 0	100.0 39
30～39歳	55.1 27	34.7 17	6.1 3	4.1 2	0.0 0	100.0 49
40～49歳	51.4 38	35.1 26	12.2 9	1.4 1	0.0 0	100.0 74
50～59歳	46.5 46	39.4 39	8.1 8	5.1 5	1.0 1	100.0 99
60～69歳	44.7 80	44.7 80	4.5 8	3.9 7	2.2 4	100.0 179
70～79歳	54.3 132	32.9 80	6.2 15	3.3 8	3.3 8	100.0 243
80歳以上	49.2 95	34.7 67	3.1 6	4.1 8	8.8 17	100.0 193
無回答	0.0 0	50.0 2	0.0 0	0.0 0	50.0 2	100.0 4
全体	49.7 441	37.3 331	5.7 51	3.6 32	3.6 32	100.0 887

【全体】



■2020調査はありません。大分県2023調査との比較もありません。

【年代別】



◆年代別では、「思う(そう思う+どちらかといえばそう思う)」の割合が最も高いのは20～29歳で 97.4%、次いで30～39歳(89.8%)、60～69歳(89.4%)となっています。割合が最も低いのは18～19歳で 71.4%、次いで80歳以上(83.9%)となっています。

◆年代別の2020調査はありません。

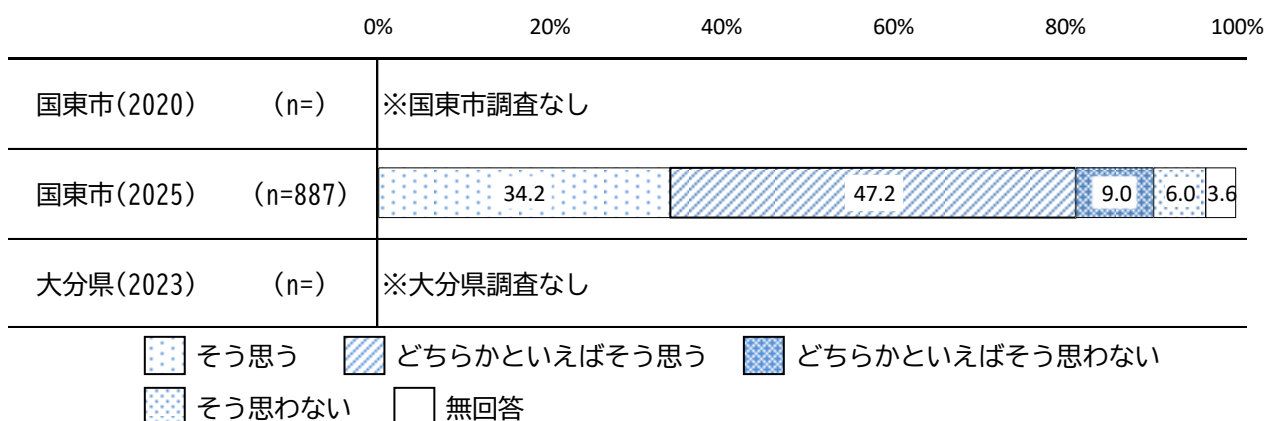
【イ. 今の生活に満足している】

SA

上段：構成比 下段：人数

2025 調査結果	そう思う	どちらかといえ ばそう思う	どちらかといえ ばそう思わない	そう思わない	無回答	合計
18～19歳	28.6 2	28.6 2	28.6 2	14.3 1	0.0 0	100.0 7
20～29歳	30.8 12	56.4 22	10.3 4	2.6 1	0.0 0	100.0 39
30～39歳	24.5 12	44.9 22	18.4 9	12.2 6	0.0 0	100.0 49
40～49歳	32.4 24	52.7 39	12.2 9	2.7 2	0.0 0	100.0 74
50～59歳	29.3 29	43.4 43	16.2 16	10.1 10	1.0 1	100.0 99
60～69歳	30.7 55	53.1 95	7.3 13	6.1 11	2.8 5	100.0 179
70～79歳	36.6 89	45.3 110	7.0 17	7.8 19	3.3 8	100.0 243
80歳以上	41.5 80	43.5 84	5.2 10	1.6 3	8.3 16	100.0 193
無回答	0.0 0	50.0 2	0.0 0	0.0 0	50.0 2	100.0 4
全体	34.2 303	47.2 419	9.0 80	6.0 53	3.6 32	100.0 887

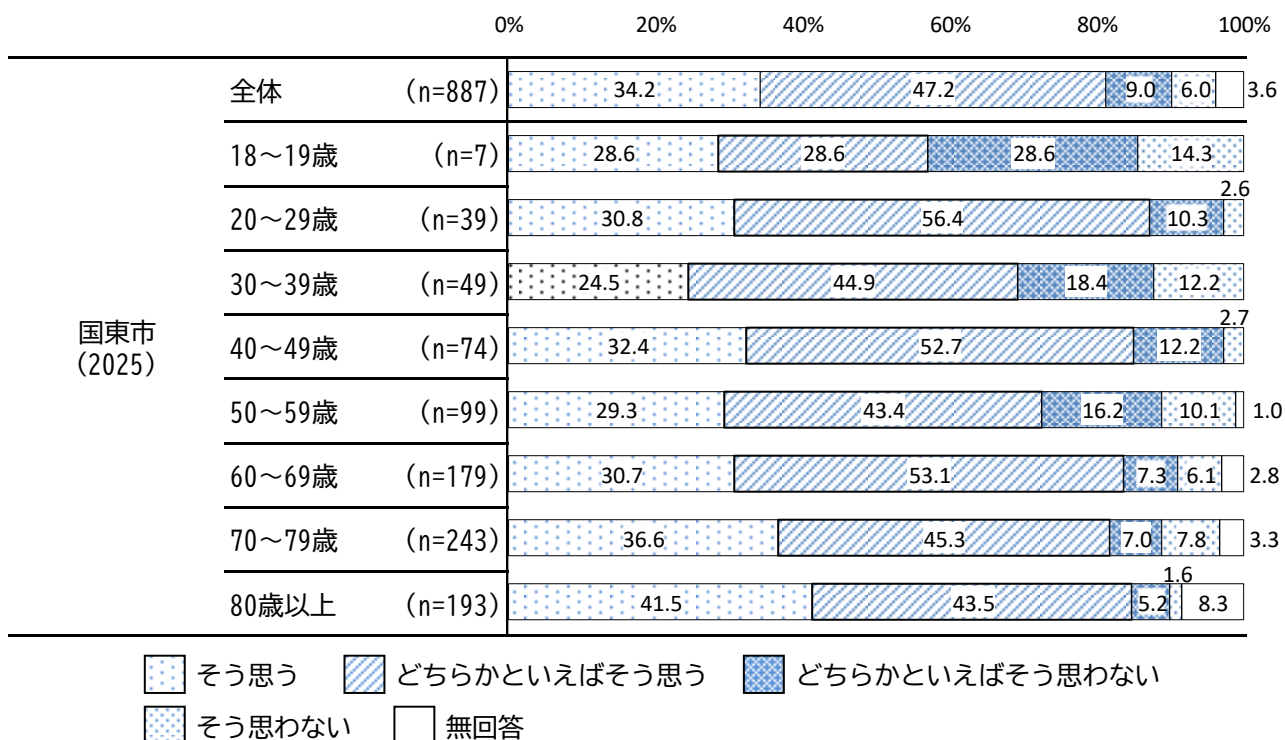
【全体】



■市全体では、今の生活に満足しているかについて「思う(そう思う+どちらかといえばそう思う)」が 81.4%となっており、約8割の人が今の生活に満足していると答えています。

■2020調査はありません。大分県2023調査との比較也没有ありません。

【年代別】



◆年代別では、「思う(そう思う+どちらかといえばそう思う)」の割合が最も高いのは20～29歳で 87.2%、次いで40～49歳(85.1%)、80歳以上(85.0%)となっています。割合が最も低いのは18～19歳で 57.2%、次いで30～39歳(69.4%)となっています。

◆年代別の2020調査はありません。

◎考察

「相談したり、助け合ったりできる人がいる」と回答した人が9割近くに達しており、多くの市民が周囲とのつながりを感じていることがうかがえます。年代別では、20～29歳でほぼ全員に近い割合となっており、30～39歳や60～69歳でも9割前後と高い水準にあります。一方で、18～19歳では7割程度にとどまり、若年層の一部においては支え合いの実感が十分でない可能性もみられます。また、「今の生活に満足している」と回答した人は8割程度を占め、全体として生活満足度は高い傾向にあります。年代別では、20～29歳で9割近くと特に高い一方、18～19歳では6割弱にとどまり、30～39歳でも7割程度となるなど、年代による差がみられます。

調査で使った調査票

令和7年度

国東市人権・部落差別問題に関する意識調査ご協力のお願い

国東市の人権行政の推進につきましては、日頃からご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

国東市では、差別のない、明るく住みやすい国東市となるよう、さまざまな施策を実施していますが、その一つとして、市の人権施策をより効果的なものとするために、5年に1度、人権に関するアンケート調査を実施しています。前回の調査から5年が経過したことから、皆様の意識がどう変化しているか、現状を把握するため、本年度改めて調査を実施し、人権施策につなげていきたいと考えています。

この調査票は、市内にお住まいの18歳以上の方の中から無作為に選んだ皆様にお届けしています。調査の内容は、皆様が日頃人権についてどのように考えているかを回答いただくものです。

また、回答は無記名で、お答えいただいた内容もそのまま公表することはなく、合計して割合を出すなど統計的に処理しますので、どうか率直なご意見・お考えをお聞かせください。

お忙しいところ誠に恐縮ですが、ご協力くださいますようお願い致します。

令和7年9月 国東市

記入上のお願い

封筒のあて名のご本人がご回答ください。(ご本人による記入が難しい場合は、ご家族の方などがご本人から聞き取って代筆してください。)

この調査についてわからないことや聞きたいことがありましたら、下記の問い合わせ先まで、お気軽にご連絡ください。

オンラインで回答する場合

1. 回答は下記URLか、二次元コードで、回答サイトに入り、入力してください。
2. 回答は、お一人様1回でお願いします。
3. 入力は9月25日までにお願ひします。

【URL】

<https://logoform.jp/form/QwW R/1117102>



郵送で回答する場合

1. 使用する筆記用具は何でも結構ですが、黒色のボールペンなど、なるべく色の濃い、はっきりと記入できるものをご使用ください。
2. 回答は、別紙の回答用紙に、各設問に応じて、選択肢のうちあてはまるものの番号に○をつけてください。○をつける数はそれぞれの設問に従ってください。
3. 選択肢の中で「その他(具体的に：____)」とあるものを選んだ場合は、それぞれ具体的な内容を記入してください。記入欄が狭い場合ははみだしても結構です。
4. もし間違えて記入したときは、はっきりと×印で消して改めて正しい番号に○をつけてください。
5. 記入が終わりましたら、回答用紙を返送用封筒に入れて封をし、切手を貼らずに9月25日までにお近くのポストまたは郵便局へお出しください。

お問い合わせ先

くにさきしじんけんけいはつ ぶらくさべつかいしょうすいしんか
国東市人権啓発・部落差別解消推進課

でんわ

電話：0978-72-0354 ファックス：0978-72-0357

Eメール：jinken@city.kunisaki.lg.jp

※はじめに、統計・分析のために、あなた自身についておたずねします。

F1. あなたの性別について、1つ選んでください。

1. 男性 2. 女性 3. 答えたくない

F2. あなたの年齢について、1つ選んでください。(令和7年4月1日現在の満年齢)

1. 18 ～ 19歳 2. 20 ～ 29歳 3. 30 ～ 39歳
4. 40 ～ 49歳 5. 50 ～ 59歳 6. 60 ～ 69歳
7. 70 ～ 79歳 8. 80歳以上

※これより、あなた自身の人権に関する考えや意見などについておたずねします。

I. 人権全般(問1～問7)

問1. あなたは、人権問題に関心を持っていますか。次の中から、1つ選んでください。

1. 非常に関心がある
2. 少しは関心がある
3. あまり関心がない
4. 関心がない

問2. あなたは、国東市では人権が尊重されていると思いますか。次の中から、1つ選んでください。

1. 尊重されている
2. まあまあ尊重されている
3. あまり尊重されていない
4. 尊重されていない

問3. あなたは、今までに自分が差別されたり、自己的人権が侵害されたと思ったことはありますか。

1. ある → 【(1)、(2)にご回答後、問4へ】 2. ない → 【問4へ】

【「ある」と答えた方にお伺いします】

(1) それはどのような性質のものですか。次の中にあてはまるものがあつたら、いくつでも選んでください。

1. 誹謗・中傷
2. 生活妨害
3. 差別待遇（人種・信条・性別や社会的身分などにより不平等または不利益な扱いをされること）
4. 暴力や強要・強制
5. 不当待遇（会社などでの、使用者による時間外労働などの不当な労働強制や賃金格差など）
6. プライバシーの侵害
7. なんとなく差別されているような感じ
8. 答えたくない
9. その他（具体的に：_____）

(2) そのときどのように対応しましたか。次の中から、いくつでも選んでください。

1. 相手に抗議など、自分で行動した
2. 友人や同僚・上司に相談した
3. 家族や親戚に相談した
4. NPOなどの民間団体に相談した
5. 人権擁護委員（または法務局）に相談した
6. 警察に相談した
7. 弁護士に相談した
8. 何もしなかった、我慢した
9. その他（具体的に：_____）

問4. あなたは、差別や人権侵害を受けた場合に相談できる機関（場所）があることを知っていますか。知っているものを、次の中から、いくつでも選んでください。

1. 人権擁護委員（または法務局）
2. 県や市町村の担当課
3. NPOなどの民間団体
4. 警察署
5. 弁護士（または弁護士会）
6. 知らない
7. その他（具体的に：_____）

問5. あなたは、これまでの生活の中で次のア～オの方と一緒に生活したり、働いたり、活動したりするなど、何らかの交流がありましたか。1～4の中から、それぞれ、1つずつ選んでください。

	よくあつた	時々あつた	ほとんどない	まったくない
ア. 障がい者の人権問題の解決に熱心に取り組んでいる人	1	2	3	4
イ. 外国人の人権問題の解決に熱心に取り組んでいる人	1	2	3	4
ウ. 性的少数者（LGBT）※の人権問題の解決に熱心に取り組んでいる人	1	2	3	4
エ. 部落差別の問題（同和問題）※の解決に熱心に取り組んでいる人	1	2	3	4
オ. ア～エ以外の人権問題の解決に熱心に取り組んでいる人	1	2	3	4

※性的少数者（L G B T）

人間の性は多様で、異性を好きになる人や、自分の性別に違和感を感じない人が多数を占める一方、女性で、性的指向が同性に向くレズビアン（Lesbian）、男性で、性的指向が同性に向くゲイ（Gay）、性的指向が男女どちらにも向くバイセクシャル（Bisexual）、生まれたときに割り当てられた性別と異なる性を生きるトランスジェンダー（Transgender）など、様々な「性のあり方」が存在します。それら少数者にあたる人を「性的少数者」と言い、その頭文字をとって「L G B T」と表します。

また、L、G、B、T以外の様々な性のあり方を含めて「L G B T Q」や「L G B T Q +」などと表すこともあります。

※部落差別の問題（同和問題）

日本には、特定の地域出身であることや、そこに住んでいることなどを理由に結婚に反対されたり、就職で不当な扱いを受けたり、インターネット上に心ない誹謗中傷が書き込まれるなどの差別を受けている人たちがいます。これが部落差別であり、これを原因とする社会問題を「部落差別の問題（同和問題）」といいます。これまでの長年の取り組みによって、生活環境や産業基盤の整備などの面で較差は大きく改善し、社会のさまざまな分野で人権尊重の意識が醸成されてきましたが、未だに解決には至っていません。

このような中、平成28年12月に「部落差別の解消の推進に関する法律」が、平成31年3月には「国東市における部落差別等あらゆる差別をなくし人権を擁護する条例」が施行され、国や県、国東市では部落差別の無い社会の実現をめざし、さまざまな取り組みを行っています。

問6. あなたは、普段の生活の中で、次のア～ケの考え方について、どう思いますか。1～4の中から、それぞれ、1つずつ選んでください。

	そう思う おも	そう思う おも	どちらかといえば おも	どちらかといえば おも	そう思わない おも
ア. 子どもが約束を守らなかった時、しつけないために少しくらいたたいてもよい	1	2	3	4	
イ. 罪を犯した少年は成人と同じように処罰すべきである	1	2	3	4	
ウ. 子育ての間は、母親は育児に専念したほうがよい	1	2	3	4	
エ. 女性は結婚したら、夫や子どもなど家庭を中心に考えて生活した方がよい	1	2	3	4	
オ. 歳をとったら、子どもの言うことに従うべきだ	1	2	3	4	
カ. 障がい者の求人が少ないのは仕方がない	1	2	3	4	
キ. 外国人や外国籍の人は、仕事をする上で、少々待遇が悪くても仕方がない	1	2	3	4	
ク. <u>ヘイトスピーチ</u> ※は、どんな理由があっても許されない	1	2	3	4	
ケ. 結婚式を行うとき、大安、仏滅などにこだわる	1	2	3	4	

※ヘイトスピーチ

日本以外の国の出身の人々を、その出身であることを理由に、その人々に対する差別的意識を助長し、または誘発する目的で公然と危害を加える旨を告知したり、著しく侮辱するなど、地域社会から排除することを煽動する不当な差別的言動を、一般に「ヘイトスピーチ」と言います。

問7. あなたが、住宅を購入したり、借りたりするなど、住まいを選ぶ際に、価格や立地条件が希望にあっても、次のア～カの条件の場合、避けることがあると思いますか。1～4の中から、それぞれ、1つずつ選んでください。	避けると思う	避けると思う	どちらかといえば避けないと思う	どちらかといえば避けると思う	全く気にしないと思う
ア. 近隣に老人ホームなどの高齢者施設がある	1	2	3	4	
イ. 近隣に障がい者施設がある	1	2	3	4	
ウ. 近隣に保育所（園）や幼稚園がある	1	2	3	4	
エ. 近隣に外国籍の住民が多く住んでいる	1	2	3	4	
オ. 被差別部落（同和地区）の地域内である	1	2	3	4	
カ. 近隣に被差別部落（同和地区）がある	1	2	3	4	

II. 部落差別の問題（同和問題）（問8～問16）

問8. あなたは、学校や職場、地域で、部落差別の問題（同和問題）について、学習したことがありますか。次の中から、いくつでも選んでください。

1. 小学校で学習した
2. 中学校で学習した
3. 高校で学習した
4. 短大、大学及び大学院もしくは各種専門学校などで学習した
5. 住民対象の講座や研修会などで学習した
6. 職場の研修で学習した
7. 上記以外のところで学習した
8. はっきり覚えていない
9. 受けたことはない

問9. 部落差別の問題（同和問題）について、あなたがはじめて知ったのはどのようなきっかけですか。次の中から、1つ選んでください。

1. 家族や親戚から聞いた
2. 近所の人から聞いた
3. 友だちや知り合いから聞いた
4. 職場の先輩や同僚から聞いた
5. 学校の授業や先生から教わった
6. テレビ・新聞・雑誌や本などで見た
7. インターネットを見た
8. 職場や地域の人権研修会への参加や啓発チラシなどで見た
9. 覚えていない
10. その他（具体的に：_____）

問10. 部落差別の問題（同和問題）に関する次のような人権問題について、あなたが見たり聞いたりしたことのあるものを、次の中から、いくつでも選んでください。

1. 恋愛や結婚に対する反対
2. 就職・職場での不利な扱い
3. 差別的な言動
4. 差別的な落書きや差別ハガキなど
5. 差別的な土地調査
6. 身元調査
7. インターネットなどを利用した差別的な情報掲載
8. 特にない
9. わからない
10. その他（具体的に：_____）

問11. 現在もお部落差別の問題（同和問題）がなくなっていないのは、なぜだと思いますか。次の中から、いくつでも選んでください。

1. 部落差別の問題（同和問題）の知識がなかったり、無関心だったりする人がいるから
2. 差別的な落書きやインターネット上などで差別意識を助長する人がいるから
3. これまでの教育や啓発が十分でなかったから
4. 行政や学校・社会などで教育や啓発を進めるから
5. 昔からある偏見や差別意識をそのまま受け入れてしまう人がいるから
6. 地域社会や家庭において話題となるから
7. 被差別部落（同和地区）の住民が行政から優遇されていると思う人がいるから
8. えせ同和行為※などにより、「部落差別の問題（同和問題）は怖い」と思うから
9. 部落差別はもはや存在しない
10. 特にない
11. わからない
12. その他（具体的に：_____）

※えせ同和行為

部落差別の問題（同和問題）を口実として、会社や個人、行政機関に不当な要求や不法行為などを行い、利益や利権を得ようとする犯罪的な行為です。

具体的には、会社などに執拗に電話をかけてきて寄付金を求めたり、勝手に高額な図書などを送りつけ、購入を強要するなどがあります。

えせ同和行為は、部落差別の問題（同和問題）の解消に悪影響を与える原因の一つとなっている、許してはならない行為です。

問12. あなたは、「被差別部落（同和地区）出身の人と関わらない方がよい」という内容
を見たり聞いたりしたことがありますか。

1. ある → 【（1）、（2）へ】 2. ない → 【（3）へ】

【「ある」と答えた方にお伺いします】

（1）それは誰から、または何によって知りましたか。次の中からいくつでも選んでくだ
さい。

- | | | |
|---------------------|-------------|----------|
| 1. 家族 | 2. 親戚 | 3. 近所の人 |
| 4. 友人 | 5. 職場の人 | 6. 学校の先生 |
| 7. 市町村職員 | 8. 知らない人 | 9. 新聞 |
| 10. 書籍・雑誌 | 11. インターネット | |
| 12. その他（具体的に：_____） | | |

（2）それを見たり聞いたりした時、どう感じましたか。次の中から1つ選んでください。

1. その通りと思った
2. そういう見方もあるのかと思った
3. 反発・疑問を感じた
4. 特に何も思わなかった

【「ない」と答えた方にお伺いします】

（3）あなたは、「被差別部落（同和地区）出身の人と関わらない方がよい」という内容
についてどう思いますか。次の中から1つ選んでください。

1. その通りと思う
2. そういう見方もあると思う
3. 反発・疑問を感じる
4. 特に何も思わない

問13. あなたの子ども、あるいは孫が被差別部落（同和地区）出身の人と恋愛をし、その人と結婚したいと言ったらあなたはどうかされますか。次の中から、1つ選んでください。

1. 被差別部落（同和地区）の人かどうかで反対はしない
2. できれば被差別部落（同和地区）の人でない方がよいが、反対はしない
3. 反対するが、本人の意思が強ければやむをえない
4. 絶対に反対する
5. わからない

問14. 学校や職場、日常生活の中で、誰かが被差別部落（同和地区）出身の人に対する差別的な発言をした時、あなたはどのような態度を取りますか。次の中から、1つ選んでください。

1. 差別的な発言であることを指摘して、差別について話し合う
2. 表向きは話を合わせるが、どうにかして差別はいけないことを伝える
3. 表向きは話を合わせ、何もしない
4. 表向きは話を合わせ、自分も差別的な言葉を口にしてしまう
5. 他の話題にかえようとする
6. 何もせず、その場は黙っている
7. その他（具体的に：_____）

問15. 被差別部落（同和地区）の人に対する差別意識は、近い将来（5～10年後位）に、なくすことができると思いますか。次の中から、1つ選んでください。

1. 完全になくすことができる
2. かなりなくすことができる
3. なくすことは難しい

問16. あなたは、部落差別の問題（同和問題）を解消するためには、今後どのようにすればよいと思いますか。次の中から、いくつでも選んでください。

1. 人権尊重の意識を一人ひとりがもっと自覚すべき
2. 行政がもっと積極的に教育・啓発、相談体制の充実などの施策を講じるべき
3. 特別なことをする必要はなく、自然になくなっていくのを待つべき
4. インターネットにおける差別的な書き込みをする人を処罰すべき
5. えせ同和行為をする人を処罰すべき
6. 差別する人や差別を助長する人を処罰すべき
7. すでに解消されている
8. 特にない
9. わからない
10. その他（具体的に：_____）

Ⅲ. 個別の人権課題（問17～問19）

問17. あなたは、男女平等が実現していると思いますか。ア～ウについて、1～7の中から、それぞれ1つずつ選んでください。

	実現していると思う	ほぼ実現していると思う	やや女性に不利だと思う	女性に不利だと思う	やや男性に不利だと思う	男性に不利だと思う	わからない
ア. 家庭では	1	2	3	4	5	6	7
イ. 職場では	1	2	3	4	5	6	7
ウ. 地域生活では	1	2	3	4	5	6	7

問18. インターネットに関する次のような人権問題について、あなたが見たり聞いたりしたことのあるものを、次の中から、いくつでも選んでください。

1. 他人を誹謗・中傷する表現を掲載されること
2. 他人に差別しようとする気持ちを起こさせたり、差別を助長するような情報が掲載されること
3. SNSによる交流が犯罪を誘発する場となっていること
4. ポルノや暴力映像などがネット上で野放しになっていること
5. 捜査の対象となっている未成年者の実名や顔写真など、プライバシーに関する情報が掲載されること
6. 特にない
7. わからない
8. その他（具体的に：_____）

問19. あなたは、友人などから LGBT などの性的少数者であると打ち明けられた場合、次のア～ウについて、あなたの気持ちに近いのはどれですか。1～4の中から、それぞれ 1つずつ選んでください。

	そう思う	そう思う	どちらかといえば	そう思わない	そう思わない
ア. 何かあれば力になりたい	1	2	3	4	
イ. 今後もいままで通り接する	1	2	3	4	
ウ. 相手と距離を置くようにする	1	2	3	4	

IV. 啓発活動（問20～問24）

問20. あなたは、この5年間で、市の広報誌（市報くにさき）に掲載されている啓発記事（「ここをつなぐまちづくり」）や、人権についてのチラシや冊子などを読んだことがありますか。次の中から、1つ選んでください。

1. いつも読んでいます
2. 時々読んでいます
3. あまり読んだことがない
4. 読んだことがない
5. 見たことがない

問21. 人権に関する研修会について、あなたがこの5年間で参加したことがあるものを次の中から、いくつでも選んでください。

1. 行政区での人権学習会（地区人権学習会）
2. 各種学級や団体の研修会
3. 職場の研修会
4. 県や市の人権フェスティバル
5. 参加したことがない
6. その他（具体的に：_____）

問22. あなたは、この5年間で人権に関する講演会や研修・学習会等に何回くらい参加しましたか。次の中から、1つ選んでください。

1. 1回もない
2. 1～4回
3. 5～10回
4. 11回以上

問23. 人権の大切さを多くの人に知ってもらうには、どのような方法が効果的だと思いますか。次の中から、いくつでも選んでください。

1. 講演会、研修会、シンポジウム
2. 展示会（資料・写真など）
3. 広報誌・パンフレット・ポスター
4. テレビ・ラジオ
5. 映画・ビデオ
6. 新聞・雑誌
7. ワークショップ（少人数での討論や参加・体験型学習）
8. 高齢者や障がい者などの疑似体験
9. 高齢者・障がい者・外国人などとの交流
10. SNS・Eメール（メールマガジンなど）
11. 自由な意見の交換ができる会合
12. わからない
13. その他（具体的に：_____）

問24. あなたは、次にあげる憲法や法律などを、どの程度ご存知ですか。ア～カについて、1～3の中から、あてはまる番号をそれぞれ1つずつ選んでください。

※法律名等は、一部略称で記載しています。

	知っている	内容も含めて聞いたことがある	名称は知らないが内容は知らない	知らない
ア. 障害者差別解消法（平成28年）	1	2	3	
イ. ヘイトスピーチ解消法（平成28年）	1	2	3	
ウ. 部落差別解消推進法（平成28年）	1	2	3	
エ. 国東市における部落差別等あらゆる差別をなくし人権を擁護する条例（平成31年）	1	2	3	
オ. エルジービーディーリカ理解増進法（令和5年）	1	2	3	
カ. 情報流通プラットフォーム対処法（令和6年）	1	2	3	

V. その他（問25～問27）

問25. あなたは、事前登録型本人通知制度※を知っていますか。次の中から、1つ選んでください。

1. 知っていて、既に自分も家族も登録している
2. 知っていて、自分だけ登録している
3. 知っていて、これから登録しようとしている
4. 知らない

※事前登録型本人通知制度

住民票の写しや戸籍謄本などを本人の代理人や第三者に交付した場合に、事前に登録した方に対して、交付した事実を通知する制度です。交付した事実を本人に通知することにより、不正請求及び不正取得の早期発見や、委任状の偽造などによる不正請求の抑止につながることが期待されます。この制度によって発見した不正取得事件では、戸籍謄本が結婚相手の身元調査などに利用されてい

問26. 結婚・就職についての身元調査をどう考えますか。次の中から、1つ選んでください。

1. いかなる場合もそういうことをしてはいけない
2. 場合によってはした方がよいこともある
3. 相手をよく知る上で必要なことである
4. わからない

問27. あなたは、自分のことをどのように思っていますか。次のア～イについてあなたの考えに近いのはどれですか。1～4の中から、それぞれ1つずつ選んでください。

	そう思う おも	そう思う おも	どちらかといえば おも	どちらかといえば おも	そう思わない おも
ア. 相談したり、助け合ったりできる人がいる	1	2	3	4	
イ. 今の生活に満足している	1	2	3	4	

■最後に、人権が守られる社会を作るためにあなたが考えられていることや、
国や大分県、国東市の人権行政に対するご意見やご要望などがありましたら、
回答用紙裏面の（自由記入欄）にご自由にお書きください。

■以上で質問は終わります。
お手数ですが、回答用紙を同封の返送用封筒に入れてご返送ください。
ご協力ありがとうございました。
あなたの貴重なご意見は、今後の人権施策に活かしてまいります。

令和7年度 国東市人権・部落差別問題に関する意識調査報告書

発行日 令和8年3月

発行者 国東市人権啓発・部落差別解消推進課

住 所 〒873-0503 大分県国東市国東町鶴川 136-1

TEL:0978-72-0354 FAX:0978-72-0357